

京大生の職業威信評定

京都大学文学部 社会学研究室

2015 年度 社会学実習 報告書

太郎丸 博 編

2016 年 2 月

はじめに

今年度の社会調査実習では、職業威信について調べてもらった。個々の職業の威信の高さを数値化したものは職業威信スコアと呼ばれており、具体的には、一般の人々に様々な職業の地位の高さについて評価してもらった結果の平均値を職業ごとに計算したものである。職業威信は時代や文化、社会情勢によって多少の変動があるものの、おおむね同じ傾向が得られることがわかっている。また、評定する人の属性はほとんど職業威信スコアに影響を及ぼさないことも知られている。すなわち、評定者が男性でも女性でも、若くても高齢でも、高学歴者でも低学歴者でも、ほぼ同じ威信スコアが得られる。

今年、職業威信スコアをとりあげたのは、評定者の属性の影響をほとんど受けないというその特徴ゆえである。毎年、社会調査実習で本格的な社会調査を行うことは困難なので、京都大学の学生を対象として調査することが多い。しかし、京大生は日本全体はもちろん日本の大学生すらうまく代表するようなサンプルとはとうてい思えない。それゆえ、勉強、練習のためとはいえ、実習の授業での調査結果は、研究としてはあまり有用とはいえないものになってしまいがちである。しかし、職業威信スコアのようにサンプルの属性に左右されないような統計量であれば、京大生限定の調査であっても、少しは意味のある結果を得られるのではないかと期待できる。

授業では、最初に職業威信について簡単に説明した後、「どんな仕事の威信が高いのか」、あるいは「どんな人がどんな仕事の威信を高く評価するのか」調査するように指示した。その後、

1. いくつか職業威信に関する論文を授業で読み、
2. 4つの班に分かれて、班ごとに仮説をたて、
3. 仮説を検証するためにどんな質問をする必要があるか考え、
4. 既存の調査の質問票の文言の検討を行い、

5. 質問票の素案を作り、
6. プリテストを他の班の人にやってもらい、
7. 調査票の最終案を作成し、

というところまでを前期の授業で行った。

後期は実査とデータ入力、クリーニング、分析、報告書執筆を行った。調査はどの班も自記式で、A4で1~2ページ程度の短い調査票を用いた。授業をいくつか選び、担当の教員に事前に協力を依頼し、許可が得られれば授業の前後に受講学生に協力を求めた。ちなみに一つの授業を除いてすべての授業で調査を行うことができた。

とうぜんだが京大で行っても威信スコアは1995年の調査結果とほぼ同じであった。受講学生が考案した仮説は、私から見ると意外なものが多く、実際、彼らの予測は外れることが多かったが、失敗も勉強のうちなので、仮説を事前に修正させることはあえて差し控えた。しかし、調査結果の一部は職業威信に関する知見を深める役に立つものになったと思っている。

2016年2月

太郎丸 博

目次

はじめに	太郎丸 博	i
目次		1
1 章 出身地と職業威信の関係		3
田舎度と職業威信の関係について	伊藤 充哉	4
公務員・教師・医療従事者の威信の地域差	足立 結郁	12
回答者の出身地の田舎度合いが職業威信スコアに与える影響	丹羽 功貴	21
田舎・都会の出身地別による職業威信の違い	池田 奈緒	32
田舎と都会における職業威信の差	渡邊 朱理	43
—公務員・教員・医療従事者の威信の分析—		
1 班 単純集計表		51
1 班 調査票		59
2 章 アルバイトの職業威信		61
アルバイトの職業威信	奥田 宗平	62
正社員とアルバイトの職業威信にはどのような差があるのか	久門 加奈	70
アルバイトの職業威信	佐藤 みのり	82
—肉体的厳しさとの相関関係—		
アルバイトの職業威信	石丸 亮	92
アルバイトと正社員の職業威信	谷口 祐那	98
2 班 単純集計表		107
2 班 調査票		121
3 章 まじめさと職業評定		127
「まじめさ」と平均的な職業評価への密集性	佐々木 海	128
職業威信と個人のまじめさとの関連性	佐々木 直	135
真面目さが職業威信のばらつきに与える影響	山本 侑子	148
大学生がつける職業威信スコア	西木 久実	159
—「真面目」集団と「不真面目」集団の比較—		
学生の真面目さと職業威信スコアの関係	浅井 飛鳥	171

3 班 単純集計表		178
3 班 調査票		183
4 章 職業評価の基準としての年収		185
京大生の職業威信評価	伊藤 早苗	186
—評価基準における年収の効果について—		
年収情報が職業威信評価に与える影響について	高濱 亮典	197
京大生の職業威信評価	成田 正也	218
—評価基準における年収効果について—		
年収が職業観に与える影響	成田 明広	227
京大生の職業威信評価	濱田 珠実	238
—評価基準における年収の効果について—		
4 班 単純集計表		249
4 班 調査票		256

1 章 出身地と職業威信の関係

田舎度と職業威信の関係について

伊藤 充哉

1 はじめに

職業に貴賤はないとよく言われるが、実際には、人々は様々な職業についてそのそれぞれの社会的な位置に関する認識を無意識に抱いている。この各職業の一般的な地位の高さを示したものが、職業威信である。

もちろん、各個人によって職業威信認識に多少のばらつきはあるものの、太郎丸（2004）によれば、「戦後の産業社会では、時代や地域をこえて、職業の威信序列には、かなりの一致が見られる」、「しかし、経済発展した社会と発展途上の社会では職業威信序列はやや異なる傾向があり」、「社会主義的なイデオロギーの強い社会と資本主義的な社会の間にも威信序列にやや違いがある」、「それでも、さまざまな社会の職業威信スコアの相関は平均で0.8程度になる」のであり、職業威信は、人々が社会参加によって後天的に獲得する社会的構築物ともいえるのではないかと考えられる⁽¹⁾。

そうであるならば、人々がその人格の形成の過程で過ごすこととなった「出身地」という要素は、その人の職業威信の付け方に影響を及ぼす一因となっているのではないかと予想される。

さらに、調査を有意義なものとするために、「田舎出身であれば、公務員や医師の職業威信が高い」という仮説を立てた。田舎は一般的に、存在する職業の幅が少ないと考えられるが、公務員や教員、医師といった職業は、田舎・都会に関わらずサービスを提供する職業である。また、田舎は都会に比べ所得が少ないと考えられるが、公務員の所得は田舎でもそこまで下がらないと思われる。つまり、田舎の人々にとっては、公務員は相対的に大きな位置を占める職業であると考えられるため、上記の仮説を立てた。この仮説を確かめることが、本稿の目的である。

以上を明らかにすることで、今後の職業威信スコアに関する研究において、出身地という属性の与える影響を加味することでより正確な分析が可能になるであろうし、出身地の違いによる、社会階層構造の認識や職業選択行動の調査研究にも寄与すると考える。

2 データと変数

2-1 データの概要

本研究の分析に用いるのは、2015 年度後期に京都大学の一般教養科目として開講されている授業のうちの 3 つで実施したアンケート調査のデータである。調査は、自然地理学（10 月 20 日）、労働と法Ⅱ（10 月 22 日）、ジャーナリズムの最前線（10 月 27 日）の授業において、授業の前後にアンケートを配布・回収することで行った。調査への参加は受講生の任意であり、得られたサンプル数は 154 であった。

2-2 使用する変数

田舎度については、3 つの指標を用いた。まず、出身地の市区町村を回答するものとし、農林水産省が公表している農業地域類型区分（都市的地域、平地農業地域、中間農業地域、山間農業地域）に当てはめて指標とした（ただし、「中間農業地域」、「山間農業地域」に該当する回答者が少なく、有効な分析ができなかった）。2 つ目として、自宅からコンビニ、スーパー、バス停、電車の駅という各施設までの距離を、「15 分圏内」、「15～30 分圏内」、「それ以上」という 3 段階で評価した。以下の分析では、それを単純に合算し、「都会」、「やや都会」、「ふつう」、「やや田舎」、「田舎」の 5 グループに分類している。3 つ目として、自らの出身地について、その田舎度を「非常に田舎」、「まあ田舎」、「やや田舎」、「やや都会」、「まあ都会」、「非常に都会」の 6 段階で自己判定するものとした。また、以下では、分析をしやすいするため、「非常に田舎」から「やや田舎」までを「田舎」として、「やや都会」から「非常に都会」までを「都会」として扱っている。

また、16 の職業について、職業威信を 5 段階で評価するようにした。職業威信に有意差が現れると想定した職業として、国会議員、市役所の課長、医師、警察官、学校の先生を、その他比較のために、大工、大会社の営業担当社員、服飾デザイナー、中小企業の機械組立工、農業、大会社の課長、公認会計士、道路工夫、パイロット、商店の店員、銀行員を入れ、質問項目とした。また、分析においては、5 段階の評価を、「0 点」、「25 点」、「50 点」、「75 点」、「100 点」に換算して使用している。

3 分析

3-1 施設までの距離と職業威信

まず、施設までの距離と職業威信の関係について分析した。

図 1 は、施設までの距離ごとの医師の職業威信平均値の 95%信頼区間を示したものである。図のように、田舎になるにつれて、職業威信は上昇している。ただし、「田舎」では下落している。「田舎」に該当する回答者の回答にかなりばらつきがあったため、エラーバーの示す範囲も広がっている。この傾向は、警察官においても見られたが、どちらの場合も有意な差とはいえなかった。また、田舎ほど職業威信が上がると予想した他の 3 つの職業や、比較のために挙げたその他の職業においては、施設までの距離による職業威信の差はあまり見られなかった。

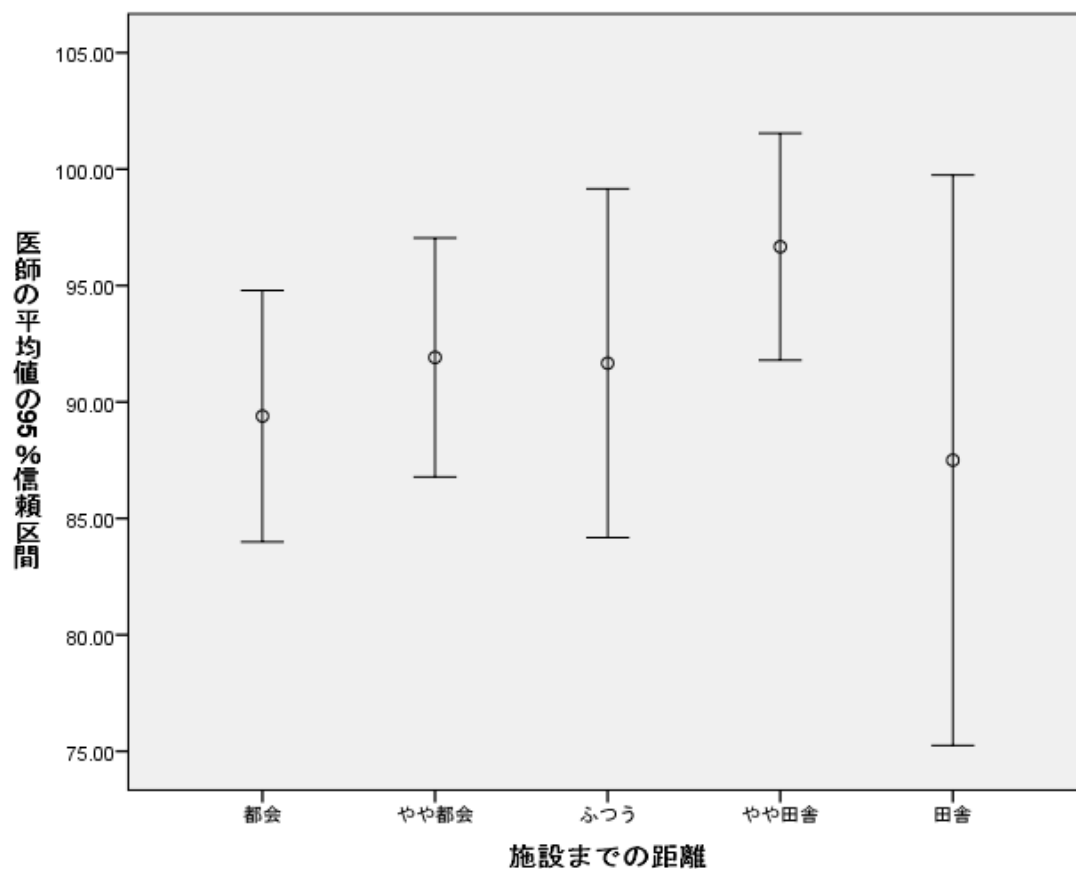


図1 施設までの距離と医師の職業威信平均値の95%信頼区間

3-2 自己評価田舎度と職業威信

さらに、自己評価の田舎度と職業威信の関係について分析した。

大工、警察官、機械組立工、道路工夫、医師においては、田舎度による職業威信の差が見られた（図2）。しかし、その他の職業については、差がほとんど見られなかった。ここでも、田舎において職業威信が上がると予想した職業のうち、医師と警察官においてのみ、仮説を支持するという結果となった。

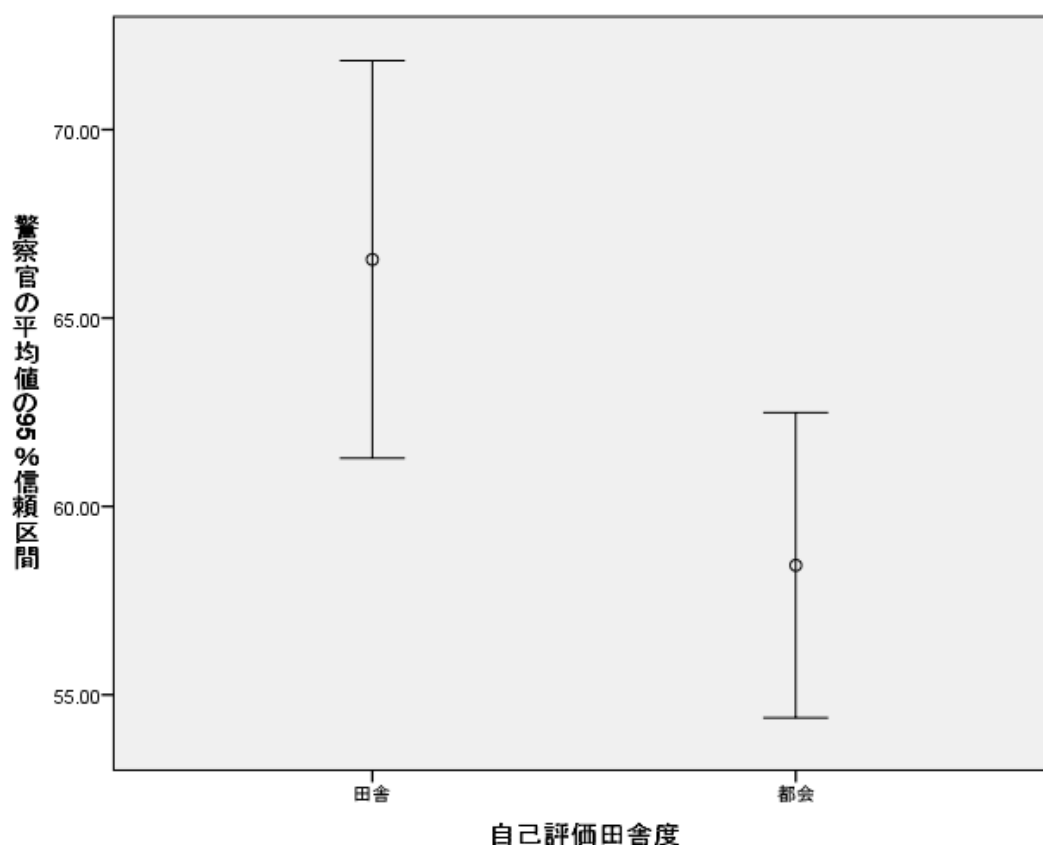


図 2 自己評価田舎度と警察官の職業威信平均値の 95%信頼区間

3-3 田舎度と職業威信の相関

最後に、各田舎度の指標と、職業威信との相関について分析した。

表 1 は、施設までの距離と自己評価田舎度という二つの田舎度の指標と 16 の職業それぞれの相関係数と有意確立を示したものである。相関係数が正の値をとっていれば、田舎になるほど職業威信が高いという相関関係を示しており、有意確率が低いほどその相関関係が有意であることを示している。

まず、施設までの距離と職業威信の相関については、田舎において職業威信が上がると予想した 5 つの職業のうち、国会議員を除いた医師、警察官、学校の先生、市役所の課長については、正の相関が見られる。しかし、その相関は強くはなく、また有意なものともいえない。

いようである。また、施設までの距離と職業威信に有意な相関が見られたのは大工のみであり、施設までの距離が職業威信に及ぼす影響はあまり大きくないと考えられる。

次に、自己評価田舎度と職業威信の関係については、すべての職業で負の相関が見られた。自分は田舎出身であると思っている人は比較的あらゆる職業の威信を低く見積もるとも考えられるが、相関はあまり強くなく、有意性を示す職業も少ないため、この考えはあまり有効ではないだろう。

表 1 田舎度指標と職業威信の相関

		大工	大企業営業 担当	医師	服飾デザイ ナー	警察官	学校の先生	機械組立工	農家
施設までの 距離	Pearson の 相関係数	.168*	.015	.027	-.056	.010	.056	.156	.050
	有意確率 (両側)	.037	.855	.739	.493	.904	.491	.053	.535
自己評価 田舎度	Pearson の 相関係数	-.226**	-.029	-.126	-.010	-.195*	-.056	-.168*	-.090
	有意確率 (両側)	.005	.723	.120	.903	.015	.493	.038	.268
		パイロット	商店の店員	銀行員	国会議員	道路工夫	市役所課長	大企業課長	公認会計士
施設までの 距離	Pearson の 相関係数	-.085	.038	.036	-.025	.115	.062	.061	.039
	有意確率 (両側)	.296	.638	.657	.754	.154	.448	.455	.632
自己評価 田舎度	Pearson の 相関係数	-.016	-.044	-.027	-.021	-.158	-.006	-.044	-.006
	有意確率 (両側)	.840	.590	.743	.792	.051	.938	.587	.944

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

*．相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

4 考察

本研究では、「田舎出身であれば、公務員や医師の職業威信が高い」という仮説を確認するために、出身地の田舎度の違いが、職業威信について及ぼす影響を、いくつかの指標を用いて分析した。その結果、以下のようなことが明らかになった。

第一に、施設までの距離による職業威信の差は、医師や警察官においてはわずかに見られ

たが、他の職業においては、施設までの距離による職業威信の差はあまり見られなかった。

第二に、自己評価田舎度によって、医師や警察官を含むいくつかの職業において、職業威信に差があることがわかった。第三に、田舎度と職業威信の相関は強くはなく、有意な相関もほとんど見られなかった。

以上の分析により、「田舎出身であれば、公務員や医師の職業威信が高い」という仮説を支持する結果は少なく、また支持するとしても有意性が低いということから、仮説が正しいとはいいにくいという結論に達した。しかし、警察官や医師においては、出身地の田舎度がわずかながら職業威信に影響する結果も見られた。

ただし、今回はサンプル数が少なかったり、田舎に該当する回答者が概して少なかったりして、有効な分析結果を得にくかったため、さらにサンプル数を増やすと、仮説を支持する結果を得ることが可能かもしれない。

また、設問にも不備があったと考えられる。対象の職業の個数や選別を変えたり、施設からの距離に「5分以内」を加えるなどして、さらに都会と田舎の区別を厳密にすれば、より有効な分析をすることが可能であろう。

出身地の田舎度や都会度によってあまり職業威信に差がないとすると、日本社会において共有されている職業威信認知は、ばらつきが少なく凝集的であると考えられる。これは、戦後高度成長期以降の、交通や水・電気などの社会インフラの整備や、テレビ、インターネットの普及によって、日本社会が均質化していることのあらわれなのではないかと考えられる。先進諸国においては均質化が進んでいると考えられるが、途上国において同様の調査を行い、比較した場合、有意義な結果が得られるのではないだろうか。

注

- (1) 実際、回答者の属性（学歴や性別）と職業威信の関連について言及している例もある（村瀬 1998）。

参考文献

- 村瀬洋一，1998，「職業威信スコアの問題点と新スコアの提案—従業員規模が職業評価に及ぼす影響を中心に—」都築一治編『1995 年 SSM 調査シリーズ 5 職業評価の構造と職業威信スコア』1995 年 SSM 調査研究会，125-151.
- 太郎丸博，2014，「『先生』の職業威信」『日本労働研究雑誌』労働政策研究・研修機構，645: 2-5.

公務員・教師・医療従事者の威信の地域差

足立 結都

京都大学文学部社会学専修

本稿では、公務員・学校教員・医療従事者という安定や社会的高位が想起されやすい職業に着目し、これらの威信スコアが回答者の出身地の都会/田舎度によって変化するかを調査した。職業威信スコアがいかなる要素に規定されるのかを知ることが目的である。

1 はじめに

1-1 背景

公務員・学校教員(使用した調査票内では「学校の先生」)・医療従事者の三職業は、日本社会において時代を問わず「人気の」職業であるが、「職業威信」(「個々の職業の一般的な望ましさや地位の高さを示すもの(太郎丸, 2014)」)という言葉を用いると、典型的に「職業威信が高い」職業である。この威信は、「高度な知識やスキル」「権力」「報酬」などに関係しており、更に「教育年数」と強く相関することが明らかとなっている(SSM 調査研究会 1995)。

当該の職業はすべて、高学歴・養成大学や高倍率の試験突破を条件にその職に就くことができる。つまり比較的長期の教育年数を必要とする。更に、公務員や教員は勤め先が自治体、国、学校といった「倒産」や人員・給与削減から比較的縁遠い機関であることから、また医療従事者は免許取得によって専門家としての地位を保障されることから、安定した高収入が期待される。これらの要素を鑑みると、公務員・教員・医療従事者は高い威信を示しやすい職業と考えられる。

公務員・学校教員・医療従事者は長らく、就くのに望ましい職業として人気を集めてきた。現在も、公務員、学校教員、医師・看護師の職に、わが子を就かせたいという親の願望は男

女差もあれど未だ根強い(クラレ 2008)。

しかし、その傾向は全国一律にみられるのか否かの検証は未だ為されていない。大都市圏のように大企業が集中し、公務員・学校教員・医療従事者と同程度かそれ以上に高度に専門化されて報酬も高い職業に親しみやすい地域では、公務員・学校教員・医療従事者の威信が相対的に低く評価されるということも考えられる。

故に、出身地の都会/田舎度が、その土地で育つ人の職業観に与える影響を及ぼすのではないかと考えた。

1-2 仮説

以上から、次のような仮説を立てる。

仮説：出身地が「田舎」であればあるほど回答者は、公務員・学校教員・医療従事者群

の職業威信スコアを相対的に高くつける。

これは大企業本社の分布が少ない「田舎」な地域では、大都市圏で人気の的となるような民間企業勤務者に馴染みが薄く、上記三職の高い威信が比較的保持されやすいと仮定したためである。

2. 方法

2-1 データ

本稿では、2015年に京都大学の全学共通科目履修者を対象に行ったアンケート調査『『職業』に関するアンケート』を用いる。アンケート調査は2015年10月22日～27日の期間に行われる計三回の授業で実施され、アンケートは授業参加者に無作為に配布、記入の後回収された。データの概要は表1を参照されたい。

表1 アンケート調査の概要

実施した授業	自然地理学	労働と法Ⅱ	ジャーナリズムの最前線
調査時期	10月22日	10月23日	10月27日
母集団	京都大学全学共通科目を2017年度後期に履修する男女個人		
有効サンプル数	33	69	52

調査票の質問は、出身地の田舎/都会度を測るものを三つ用意した。これについては後程詳細に述べる。

威信スコアを測るのは、公務員・学校教員・医療従事者群である国会議員、市役所の課長、警察官、学校の先生、医師、更にそれ以外の職業11を合わせた16の職業である。被調査者には16種の職業名が書かれたリストが提示され、それぞれの職業イメージの高低について1から5の5件法で回答してもらう。各解答はそれぞれ1=100、2=80、3=60、4=40、5=20と数値化され、全回答者について集計しその平均点を算出したものが職業威信スコアとなる。

2-2 田舎/都会度の指標の決定

調査を実施した段階では、田舎/都会度を測る指標として三種類を提案していた。

1、出身の市区町村から測る指標

2、生まれ育った家からa コンビニ b スーパー c バス停 d 電車の駅までの所要時間によってそれぞれ「15分圏内」、「15～30分圏内」、「それ以上」の3段階で測る指標

3、回答者による六段階の自己判定(主観的指標)

である。

まず1については、市区町村を田舎/都会度と最も近い指標で分類している既存の研究を探し、農林水産省が公表している農業地域類型と人口密度を基に人口集中地区を示した

DID という二つの分類法を検討した。しかし、前者はあくまで農業の実態に合わせたものであるために今回の目的に適うものではなく、後者は地図による区分けが為されており市区町村で分類が難しいことから、1の指標を主に用いることはしなかった。

次に2についてであるが、分析の過程で、バス停までの所要時間を問うcなどの評価基準において威信が他の基準での威信と反転することがあり、これも評価基準の設定ミスとして用いなかった。この点については5章で述べる。

最後、3の主観的指標を本稿では中心に用いているが、その際、二者の対比がよりわかりやすくなるよう、「6非常に都会」「5まあまあ都会」「4やや都会」を「都会」グループに、「1非常に田舎」「2まあまあ田舎」「3やや田舎」を「田舎」グループに再編成した。

故に本稿ではこの主観的指標において、①「都会」出身の回答者がつける公務員・学校教員・医療従事者群の威信スコア平均と、「田舎」出身の回答者がつける公務員・学校教員・医療従事者群職業威信スコア平均に有意な差が見られ、更に②前者の全職業中での相対的な位置が後者のそれよりも高ければ、仮説は立証されたとする。

3. 分析と結論

まず①を検証するために、「都会」出身の回答者がつける公務員・学校教員・医療従事者群の威信スコア平均と、「田舎」出身の回答者がつける公務員・学校教員・医療従事者群職業威信スコア平均の差の検定を行った。結果は表2に示す。

表2 威信スコア 都会/田舎での差の検定

田舎か都会の二択		平均値	有意確率
大工	田舎	45.9459	.005
	都会	35.3125	

大企業営業担当	田舎 都会	56.0811 55.0000	.723
医師	田舎 都会	93.2432 88.4375	.120
服飾デザイナー	田舎 都会	50.6757 50.3125	.903
警察官	田舎 都会	66.5541 58.4375	.015
学校の先生	田舎 都会	57.4324 55.3125	.493
機械組立工	田舎 都会	43.9189 36.8750	.038
農家	田舎 都会	46.9595 42.4051	.268
パイロット	田舎 都会	80.0676 79.3750	.840
商店の店員	田舎 都会	39.1892 37.3418	.590
銀行員	田舎 都会	69.9324 68.7500	.743
国会議員	田舎 都会	79.0541 77.8125	.792
道路工夫	田舎 都会	40.5405 32.5000	.051
市役所課長	田舎 都会	61.1486 60.9375	.938
大企業課長	田舎 都会	70.6081 69.0625	.587
公認会計士	田舎 都会	69.9324 69.6875	.944

(注)斜体は公務員・学校教員・医療従事者に該当する職業

(注)有意確率は等分散を仮定した場合のもの

有意確率5%以下で①の帰無仮説は棄却となるが、これに該当する職業は大工のみである。故に①は成立しない。

次に②を検証する。各職業の威信スコア平均値ランキングを、出身地の田舎/都会別に表示したものが表3である。見ると、都会出身者のスコアと田舎出身者のスコアの順位では

小さな入れ替わりこそあるものの、公務員・学校教員・医療従事者の他の職業の中での相対的な威信に変化は認められない。

表3 威信スコアランキング(田舎/都会出身ごと)

	都会	田舎
1	<i>医師</i>	<i>医師</i>
2	パイロット	パイロット
3	<i>国会議員</i>	<i>国会議員</i>
4	公認会計士	大企業課長
5	大企業課長	銀行員
6	銀行員	公認会計士
7	<i>市役所課長</i>	<i>警察官</i>
8	<i>警察官</i>	<i>市役所課長</i>
9	<i>先生</i>	<i>先生</i>
10	営業	営業
11	デザイナー	デザイナー
12	農家	農家
13	店員	大工
14	組立工	組立工
15	大工	工夫
16	工夫	店員

(注)斜体は公務員・学校教員・医療従事者に該当する職業

以上の分析から、①②はいずれも成立せず、田舎出身者において、公務員・学校教員・医療従事者がとりわけ威信が高くなるということとはなかった。よって本稿での仮説は支持

されない。

4. 議論

4-1 まとめと問題点の検討

本稿では公務員・学校教員・医療従事者と呼ばれる職業群と、その他の職業群の威信に、回答者の出身地の都会/田舎度がいかに影響を及ぼすかについて調査・分析した。結果から読み取れることは次のとおりである。(1)医師、パイロット、国会議員の威信は都会/田舎を問わず高い(2)都会と田舎で有意な威信の差を示す職業は大工のみであった。

(1)についてだが、医師、パイロット、国会議員は軒並み専門性が高かったり給与が高かったりといった、固定化された職業イメージが他の職業と一線を画していたと考えられる。

(2)について、原因をいくつか検討する。

まずは、指標の妥当性である。今回、出身地の都会/田舎度を測る際に回答者自らが主観によって選んだものを用いざるを得なかった。もともと本稿で問題としたかった都会/田舎の区別は、企業の本社の数など、その地域の就労状況に結びつきやすい客観的な指標により行われるべきであった。しかしそのような独自の指標を作成することをしなかったため、回答者によって一定しない基準による都会/田舎の判断に基づいて分析したものが本稿のデータ群である。2章で検討した、電車の駅・バス停・コンビニ・スーパーと自宅の遠さを用いた指標は一見その地域の経済状況を反映する最大限適切な指標に思われたが、バス停などいくつかの指標で結果が反転した。おそらく田舎では都会よりもバス網が発達しているため、田舎と呼ばれる地域でも都会よりバス停が身近にあるのかもしれない。また、現在コンビニが徒歩15分圏内に無い地域というのは非常に限られており、回答が15分以内はかなり偏ってしまった。5分圏内など、もう少しばらつきの出やすい区切りを設けることで、有意な結果が得られるのではないだろうか。

次に、母集団に占める都会出身者と田舎出身者の数にバラつきは無かったかを調べた。表

4に出身地の都会/田舎度を主観的に回答してもらった細かい内訳が示されている。

表4 出身地の都会/田舎度(自己評価)

		度数	有効パーセント
有効	非常に田舎	8	5.2
	まあまあ田舎	26	16.9
	やや田舎	40	26.0
	やや都会	44	28.6
	まあまあ都会	26	16.9
	非常に都会	10	6.5
	合計	154	100.0

すると自己評価にしては正規分布に近い分布をとっており、どこかの選択肢が著しくサンプル不足であるというような問題は見受けられない。しかし今回の調査対象は京都大学の学生という限られた集団の中の、更に 154 人であることから、違う場所で、更に多くのサンプルを収集した場合にどのような変化が現れるかは今後調査する余地があるだろう。

有意な結果が得られなかった理由として、都会/田舎度がその土地に住む人々の職業構成にそれほど大きな影響与えないからという可能性もある。電車の通らない離島や大層な山奥なら話は別だが、今の時代に1時間～2時間かけて首都圏部に周辺地域から通勤することは珍しくない。故に土地の都会/田舎度が住民の職業観に及ぼす影響は、それほど大きくないとも考えられる。

職業の威信にいったいどのような要素が強く作用するのか、更に客観的な指標を用いて多角的、詳細に分析することが今後の課題であろう。

参考文献

太郎丸博, 2014, 「『先生』の職業威信」『日本労働研究雑誌』 645:2-5

太郎丸博, 1998, 「職業評定値および職業威信スコアの基本的特性」, 都築一治編『職業評価
の構造と職業威信スコア』 1995 年 SSM 調査研究会編, 31-44.

「クラレ」 <http://www.kuraray.co.jp/enquete/occupation/2013/> (2015/12/20 アクセス)

回答者の出身地の田舎度合いが職業威信スコアに与える影響

丹羽 功貴

1. 導入

1.1 概要

本稿では回答者の出身地の違いによって特定の職業において職業威信スコアに差が出るのかを、実際に行ったアンケート調査の結果から検討する。

世間一般では職業には地位というものが存在すると考えられている。職業の地位がどのような要因によって決められているのかは明確に断定することはできないが、そうした地位によって、人々の認識の中には職業の序列が存在するとされる。職業威信スコアとはこうした職業の地位を数値化したものである。

1.2 先行研究の問題点

職業威信スコアは、社会階層を考察する要素の一つであり、日本社会学会が実施している「社会階層と社会移動調査（SSM 調査）」でも研究の対象として用いられている。日本では主に SSM 調査をもとに職業威信スコアに関する研究がされている。職業威信スコアの特徴として、回答者の間で評定に著しい差が出にくいことが分かっている。つまり、人々が持っている職業の地位に対する認識はおおかた一致しているということである。また太郎丸 1998 が明らかにしているように、職業威信スコアは「評定者の属性に関わらず安定したものである」ことが分かっている。

一方、回答者の属性から職業威信スコアに差が出るのかを検討した研究は多く存在する。元治・都築 1998 によると SSM 調査において、職業威信スコアにおける性差は検出されないものの、世代・年齢による影響は大きいことが明らかになっている。

回答者の居住地域から職業評定に差が出ることを検証した研究も存在するが、居住地域によるグループ分けの基準は、その地域の人口規模によるものが多く、それ以外の地域の

特性を考慮した検討は十分には行われていない。さらに、回答者がその地域に居住している期間は不確定であり、その地域に居住していることが職業観に大きな影響を与えているとは断定できない。つまり、回答者の居住地が職業評定に及ぼす影響は十分に検討されているとは言い難い。

1.3 問題設定

そこで本稿では、回答者のグループ分けとして、回答時点の居住地ではなく、回答者の「出身地」を基準として設定し、さらに、その地域が「どれだけ田舎／都会か」を基準にして職業威信スコアの差を検討する。近年、日本では地域の格差が問題となっており、地域によって産業構造にも差が生み出されている。自己が生まれ育った地域（出身地）の産業構造が異なれば、そこで培われる職業観にも差が生み出されることが考えられ、職業威信スコアにもその差が反映されることが期待される。

つまり、本稿の問題設定は（１）職業威信スコアに対して、回答者の居住に関する属性に対して「出身地」という新たな基準を提案したこと。また、（２）基準のグループ分けにおいて「田舎／都会」という指標を採用したことから職業威信スコアの研究において意義のあるものと言える。

1.4 仮説

もし回答者の出身地の田舎度合いによって職業威信に差が出るのならばどのような差が出るのか、予想される仮説は「回答者の出身地が田舎であるほど、公務員・教員に対する職業威信が高くなる」というものである。

近年、日本において問題になっている地域格差は、主要な産業が東京や大阪、愛知などのような大都市に密集していることが大きな要因となっている。過疎・過密問題が示しているように、都会で労働したほうが所得を多く得られるという期待や農業に対する負のイ

メージから若者を中心に人々が都会へと移住し、さらに産業構造に変化がもたらされると
いう悪循環が存在している状況である。

企業の本社などは中心都市に密集し、田舎の産業は衰退していると考えられる中で、田
舎においても確実に一定数の存在を要する公務員や教員といった職業が、そうした地域に
おいては相対的に地位を上昇させていることが予想される。また、田舎で生まれ育った
人々にとって、将来的に自分が就職しなければならないと考えたとき、産業が衰退してい
る田舎においては企業に勤めることは極めて不安定であり、田舎においては数少ない安定
的な職業として公務員・教員は憧れの職業であり、その点からも田舎における公務員・教
員の地位は高くなることが考えられる。

以上に述べた議論からも、回答者の出身地が田舎であれば公務員・教員において高い職
業威信が得られることが期待される。そこで本稿では、回答者を田舎／都会出身者に分類
し、それぞれの職業威信スコアを見たとき、田舎出身者が公務員・教員に対して高い職業
威信スコアを付けているかを調査することで仮説を検証する。

2. 調査の概要

2.1 調査の時期と調査対象

調査は 2015 年 10 月下旬に、京都大学において全学共通科目を履修している学生を対象
に実施した。講義の最初に調査票を配布し、講義終了後に調査票を回収する形式をとっ
た。回答方法は質問紙への自記式とした。具体的には 2015 年 10 月 20 日に「自然地理
学」で 33 人（この講義のみ、配布、回収ともに講義終了後に実施した）、2015 年 10 月 22
日に「労働と法Ⅱ」で 69 人、2015 年 10 月 27 日に「ジャーナリズムの最前線」で 52 人か
ら回答が得られ、合計で 154 人から回答が得られた。有効サンプルサイズも同様である。
全学共通科目の講義で調査を実施したため、回答者は主に学部 1，2 回生が中心となるが
調査票では学年を答える項目を設けなかったため詳細は不明である。

2.2 調査票の構成

調査票では主に（１）大学の所属、（２）出身地に関する情報、（３）職業評定の３点を質問した。（１）大学の所属では、回答者の学部と学科を自由に記入する形式をとった。

（２）出身地に関する情報は３部から構成される。１つは、回答者の出身地を都道府県市区町村まで回答するものである。２つ目は、コンビニ、スーパー、バス停、電車の駅がそれぞれ回答者の居住地からどれほど離れていたのかを回答するものである。距離を表す指標として徒歩１５分圏内、１５～３０分圏内、３０分圏外のうち一つを選択する形式を採用した。３つ目は、回答者の出身地がどれほど田舎かを６段階で回答するものである。なお、出身地の定義は「３歳から１４歳までに最も長く居住していた地域」とした。（３）職業評定では表１に挙げた職業に対して、その職業の地位が「最も高い」「やや高い」「ふつう」「やや低い」「もっとも低い」の５段階評価で回答する形式をとった。

表１ 調査対象の職業

大工	パイロット商店の店員
大会社の営業担当社員	銀行員
服飾デザイナー	国会議員○
警察官○	道路工夫
学校の先生○	市役所の課長○
中小企業の機械組立工	大会社の課長
農業	公認会計士

注) 調査票の掲載順で示している。

○は公務員・教員に該当する職業

3. 調査の結果

3.1 回答者のグループ分け

回答者の出身地の田舎度を決める基準について検討する。調査票では、出身地の市区町

村、居住地から各施設までの距離、自己評定の3つを、田舎度を測定する指標として提示した。出身地の市区町村に関しては、農林水産省から発表されている農業地域類型の一次分類に当てはめた。それぞれの指標における度数分布表が以下である。

表2 回答者の出身地の農業地域類型の度数分布

	度数	有効パーセント
都市型地域	109	72%
平地農業地域	31	21%
中間農業地域	10	7%
山間農業地域	1	1%
無回答	3	
合計	154	100%

表3 回答者の居住地から各施設までの距離

		15 分圏内	15～30 分圏内	30 分以上
コンビニ	度数	124	16	14
	有効パーセント	81%	10%	9%
スーパー	度数	124	18	12
	有効パーセント	81%	12%	7%
バス停	度数	137	10	7
	有効パーセント	89%	6%	5%
電車の駅	度数	82	36	36
	有効パーセント	53%	23%	23%

注) 回答者の居住地から各施設までの距離を徒歩による時間で換算したもの

表4 回答者の出身地の田舎具合の自己評定

	度数	有効パーセント
非常に田舎	8	5%
まあまあ田舎	26	17%
やや田舎	40	26%

やや都会	44	29%
まあまあ都会	26	17%
非常に都会	10	6%
合計	154	100%

表2から分かるように、回答者の出身地を農業地域類型一次分類に分類すると大半の回答者が都市型地域に分類され、それ以外は極端に数が少ない。表3においては、コンビニ、スーパー、バス停においては居住地から徒歩15分圏内に存在すると答えた回答者が全体の8割以上に上る。また電車の駅に関しても、5割以上が徒歩15分圏内に位置すると答えている。表4を見ると、自己評定の多くは「やや田舎」「やや都会」に偏ってはいるものの、自己評定を「田舎か都会か」で再分類すると「田舎」と答えた回答者は74人、「都会」と答えた回答者は80人であり、ほぼ半分に分類することができる。

以上の結果から、今回の分析では、回答者の出身地の田舎度合いを決める基準として自己評定の結果を採用することにする。これは、回答者を田舎出身者・都会出身者に分類した時、人数に大きな偏りが生じることを防ぎ、データの分析を容易にするためである。なお、データの分析の際には必要に応じて、調査時と同様の5段階評価のままで分析するものと、田舎か都会かの2分類に再割り当てして分析するものの2つの方式を使い分けることとする。

3.2 職業威信スコアの検討

回答者全体の職業威信スコア、自己評定において「やや田舎」「まあまあ田舎」「非常に田舎」と答えた回答者の職業威信スコア、田舎出身者全体における職業威信スコアをまとめたものが表5である。また、それぞれの属性において職業威信スコアが高かった職業から順に並べたものが表6である。

仮説において回答者全体よりも田舎出身者において高い職業威信スコアが得られると予

想した国会議員、警察官、市役所の課長、学校の先生について検討する。

国会議員は回答者全体では 78 と非常に高い職業威信スコアを得ており、「やや田舎」「非常に田舎」「田舎全体」においても同様の結果が得られているものの、出身地に関して「非常に田舎」と答えた回答者では職業威信スコアが 47 という極めて低いスコアが付けられている。職業威信ランキングに関しても「非常に田舎」と答えた回答者においては最下位に位置している。ただし、「非常に田舎」に分類された回答者は全体の 154 人中 8 人であり、一人ひとりの回答者の評価に大きく影響されている可能性がある。

警察官では、回答者全体の職業威信スコアは 62、「田舎全体」では 67 であり、仮説を支持する結果となっているが、田舎度合いを考慮してみると職業威信スコアに大きなばらつきがある。

市役所の課長では、回答者全体と「田舎全体」で職業威信スコアが一致している。「非常に田舎」では職業威信スコアが大きく下がっているが、先述のように一人ひとりの回答者の評価に大きく影響されている可能性が高い。

学校の先生に関しては、回答者全体と「田舎全体」でほぼ同じ職業威信スコアが得られている。田舎度合いを考慮するとスコアにばらつきが見られる。

表5 回答者の属性別職業威信スコア

	回答者全体	やや田舎	まあまあ田舎	非常に田舎	田舎全体
医師	91	95	91	90	93
パイロット	80	84	74	78	80
国会議員○	78	83	83	47	79
大企業の課長	70	72	74	53	71
公認会計士	70	70	72	62	70
銀行員	69	69	71	72	70
警察官○	62	71	63	56	67
市役所の課長○	61	62	63	53	61
学校の先生○	56	63	51	50	57
大企業の営業担当	56	53	61	56	56
服飾デザイナー	50	53	48	50	51

農家	45	44	47	59	47
大工	40	47	42	53	46
機械組立工	40	44	41	50	44
商店の店員	38	35	42	50	39
道路工夫	36	36	42	59	41

注)「最も高い」…100 「やや高い」…75 「ふつう」…50 「やや低い」…25 「もっとも低い」…0 と
して平均したものを職業威信スコアとする。

○は公務員・教員に該当する職業

表6 回答者の属性別職業威信ランキング

	一般平均	やや田舎	まあ田舎	非常に田舎	田舎全般
1	医師	医師	医師	医師	医師
2	パイロット	パイロット	国会議員○	パイロット	パイロット
3	国会議員○	国会議員○	パイロット	銀行員	国会議員○
4	大企業課長	大企業課長	大企業課長	公認会計士	大企業課長
5	公認会計士	警察官○	公認会計士	農家	銀行員
6	銀行員	公認会計士	銀行員	工夫	公認会計士
7	警察官○	銀行員	警察官○	営業	警察官○
8	市役所課長○	先生○	市役所課長○	警察官○	市役所課長○
9	先生○	市役所課長○	営業	大工	先生○
10	営業	営業	先生○	市役所課長○	営業
11	デザイナー	デザイナー	デザイナー	大企業課長	デザイナー
12	農家	大工	農家	デザイナー	農家
13	大工	組立工	大工	先生○	大工
14	組立工	農家	店員	組立工	組立工
15	店員	工夫	工夫	店員	工夫
16	工夫	店員	組立工	国会議員○	店員

注) ○は公務員・教員に該当する職業

3.4 データの分析

表7は回答者の出身地の田舎度合いと職業威信スコアの相関係数を示したものである。

出身地の田舎度合いを6段階評定で表したものにせよ、田舎か都会かで区別したものにせよ、1%水準で有意であるのは大工であり、5%水準で有意だったものは警察官、機械組立工であり、すべて出身地が田舎であるほど職業威信スコアが高くなるという結果となっ

た。道路工夫に関しては6段階評定でのみ5%水準で有意となり、出身地が田舎であるほど職業威信スコアが高くなるという結果となった。それ以外の職業に関しては、回答者のグループ分けのいずれによっても有意な相関は見られなかった。

4. 議論

4.1 仮説の検証結果

今回の調査から、仮説を検証するに足りる十分な結果は得られなかった。

個別の職業における職業威信スコアや職業威信ランキングを見たとき、すべての公務員や教員に関して田舎出身者のほうが高い職業威信スコアを与えているとは言えない。しかも出身地が「非常に田舎」である回答者は国会議員や市役所の課長においては著しく低い職業威信スコアを付している。ただし、先述のように「非常に田舎」に分類される回答者が少ないためこの結果には議論の余地が残る。

相関係数を見たとき、公務員・教員の中では警察官のみが仮説を支持する結果となったが、学校の先生、国会議員、市役所の課長に関しては有意な相関は見られず仮説を検証する結果は得られなかった。

また、仮説とは直接的な関係はないが「非常に田舎」と答えた回答者では、農家や道路工夫で職業威信の著しい上昇がみられる。しかし、これもまた回答者の数の問題により、議論の余地が残る。

4.2 分析結果の考察

今回の調査からは仮説は検証されず、回答者の出身地の田舎度合いが職業威信スコ

表7 回答者の属性と職業威信スコアの相関係数

		大工	営業担当	医師	デザイナー	警察官
6段階	Personの相関係数	-0.216**	-0.038	0.086	0.009	-0.187*
	有意確立(両側)	0.007	0.643	0.288	0.907	0.021
2段階	Personの相関係数	-0.226**	-0.29	-0.126	-0.01	-0.195*
	有意確立(両側)	0.005	0.723	0.12	0.903	0.015

		学校の先生	機械組立工	農家	パイロット	商店の店員
6段階	Personの相関係数	0.012	-0.172*	-0.136	0.037	-0.109
	有意確立(両側)	0.887	0.033	0.094	0.646	0.179
2段階	Personの相関係数	-0.056	-0.168*	-0.09	-0.016	-0.044
	有意確立(両側)	0.493	0.038	0.268	0.84	0.59

		銀行員	国会議員	道路工夫	市役所の課長	大企業の課長	道路工夫
6段階	Personの相関係数	-0.011	0.077	-0.201*	0.007	0.018	0.015
	有意確立(両側)	0.893	0.341	0.013	0.932	0.826	0.856
2段階	Personの相関係数	-0.027	-0.021	-0.158	-0.006	-0.044	-0.006
	有意確立(両側)	0.743	0.792	0.051	0.938	0.587	0.994

注)6段階は出身地の自己評定 2段階は自己評定の結果から田舎か都会かの2つに区別したもの

**は1%水準で有意

*は5%水準で有意

アに対して影響はないという知見が得られた。出身地の田舎度合いとは関係なく、人々は職業の地位に関してある程度一致した認識を共有していることが明らかとなった。こうした知見が得られた背景として、人々はテレビや新聞などの様々なメディアを媒介して職業を認識することで地域によって偏りのない普遍的な認識に至るのだという理由が考えられる。また、田舎出身者でも自分に就職について考える際、地元ではなく日本や地球全体で

働くことを見据えていることも今回の知見に至る要因の一つであるかもしれない。

4.3 今後の課題

本稿では仮説の分析にあたって、回答者の出身地の田舎度合いを測定する指標として自己評価のみを採用したが、他の指標を用いることで今回の検証結果とは異なる結果が得られたかもしれない。しかし調査票の質問内容では田舎度合いを正確に測定できているとはいいがたく、田舎度合いを測定する指標の精密度を高めることが今後の課題といえよう。さらに、公務員・教員といってもそれらの職業の特性は千差万別であり、田舎出身者にとってどのような公務員が、地位が高い／低いのかについても考えなければならない。

とはいえ、今回の調査では回答者の出身地の田舎度合いが職業威信スコアに与える影響に関して一定の知見を得ることができ、今後の研究の手がかりとして有意義な研究結果だったといえる。

参考文献

- 元治恵子・都築一治, 1998, 「職業評価の比較分析」 1995 年 SSM 調査シリーズ 5 『職業評価の構造と職業威信スコア』 pp. 45-68, 1995 年 SSM 調査研究会 科学研究費補助金特別推進研究(1) 研究成果報告書
- 太郎丸博, 1998, 「職業威信と社会階層」 1995 年 SSM 調査シリーズ 5 『職業評価の構造と職業威信スコア』 pp. 1-14, 1995 年 SSM 調査研究会 科学研究費補助金特別推進研究(1) 研究成果報告書
- 太郎丸博, 1998, 「職業評価値および職業威信スコアの基本的特性」 1995 年 SSM 調査シリーズ 5 『職業評価の構造と職業威信スコア』 pp. 31-44, 1995 年 SSM 調査研究会 科学研究費補助金特別推進研究(1) 研究成果報告書

田舎・都会の出身地別による職業威信の違い

池田 奈緒

1. 研究の背景

1.1. はじめに

一般的に田舎と都会の両者は対比的に述べられることは多い。その比較対象は、生活様式だけでなく、昔からの家制度などの人々の価値観にまで及ぶ。ここから、本稿では田舎と都会では職業への意識においても差があるのかということを解明したい。職業に対するイメージを考察する際には「職業威信スコア」を運用することが可能である。脇田（2012）はこのスコアについて、「社会階層と社会移動（SSM）調査威信票などで測定され...階層研究において、職業的地位、さらには職業に就いている個人の社会的地位を一元的に測定する指標として利用されてきた。職業威信スコアは、調査回答者全員の各職業への評価の平均によって測定される...職業威信スコアは男女共通の、一元的な社会的地位の測度である。」と述べており、職業そのもの、そしてその職業に従事する個人両方の社会的な地位を、評定者の属性にほぼ関係なく測定することができる指標である。

1.2. 出身地に基づく職業に関する先行研究

出身都市と職業の関係性についての先行研究はいくつかあり、大都市の出身者は、規模の小さい地域の出身者よりも、高学歴で、頭脳的職業に従事することへの相関があることを報告している（山本 1984, 林 1997, 塚原・小林 1979）。塚原・小林（1979）のように、SSM 調査の分析では、出身地は学歴だけに強い影響力を持つことを主張するものもあるが、学歴と職業の関連に関しては、近藤（1987）が「学歴は職業的地位配分の有力な基準」と述べられ、同様に山本（1984）も相関関係があることを主張している。

このようにこれまでの研究で、出身地と学歴や職業選択との相関に着目したものはあ

るが、田舎・都会と職業威信の関係性については直接調査したものは見られなかった。

職業威信を決定するものとして、高田（2002）は3つの基準を挙げている。1つ目は高収入で学歴や責任が求められる「高地位性」、2つ目は単純作業ではなく、自分で仕事のやり方を決定することができる、または決定をしなければいけない「自立性」、そして3つ目は技能や労働を必要とするマニュアル労働であるか、それらを必要としないノンマニュアル労働か、という「技術性」である。この「技術性」には、専門知識の必要性の有無も含まれる。さらに、塩谷（2010）は個人が持つ職業的地位の構成イメージは小分類レベルの個別の職業ではなく複数の職業の束を単位として形成されている、と指摘している。ここから、職業威信スコアの高さは、高スコアと低スコアである程度の職業のグループ分けが可能である、と推測できる。

このような先行研究がある中、本調査では「出身地が田舎¹の人は、公務員や教員、医療従事者に対職業威信が高い。」という仮定を立てた。

2. 調査方法

調査の対象として、京都大学の2015年度後期一般教養の授業を3つ選択し、そこから154人のサンプルを得た。一般教養科目の授業を選んだ理由は、各学部の専門の授業と比べると受講者数が多いので、多くのサンプルを集めることができると推測したからである²。選択した授業はそれぞれ、「自然地理学」（10月20日）、「労働と法Ⅱ」（10月22日）、「ジャーナリ

¹ 「田舎」の他に類似した用語として村落や農村などがあるが、「都会」に対して地理的状況だけでなく主観的要素も含めて調査対象範囲とするために、本稿ではこの語を採用。

² 一方、一般教養科目の授業は主に1、2回生が受講している。また、京都大学的女子学生は学部生全体で約22%（京都大学男女共同参画推進センター, online: RatioOfWomenInUndergraduate16-25.pdf）である。つまり、18~21歳が主な調査対象の年齢層であることや、性別は男性のサンプル数の方に偏りがある可能性があるが、冒頭で述べたとおり、職業威信スコアにおいては調査対象者の基本属性は結果に大きな影響を及ぼすものである可能性は低いと言えるので本稿では考慮しない。

ズムの最前線」(10月27日)である³。アンケートの配布方法は、それぞれの授業担当公使に事前に調査実施の許可を得た上で行われた。各授業前、もしくは授業内に時間をいただき、受講生にアンケート紙を配布し、授業後に調査者がその用紙の回収を行った。

調査対象の職業は、全部で16設定し、それらをマニュアル／ノンマニュアル労働、学歴の必要性の有無、ある程度の権力を持つという点から分析では2つの職業群に分けた。第一職業群は「国会議員、市役所の課長、医師、警察官、学校の先生」でノンマニュアル労働かつ一定の権力を持ち、公務員や専門職として学歴が必要である職業を設定した。もう一方の第二職業群は「大工、大会社の営業担当社員、服飾デザイナー、中小企業の機械組立工、農家、大会社の課長、公認会計士、道路工夫、パイロット、銀行員」であり、前者の条件の比較対象となると想定した職業を設定した。質問紙上ではこれらの職業を無作為の順で用意し、回答者に5段階で職業威信の高さを評価してもらった。集計の時には、結果を威信スコアの高い順に100、75、50、25、0と数値を割り当てて計算した。

3. 調査結果

3.1. 田舎・都会を分ける3種の指標の検討

評定者の出身地が田舎と都会のどちらであるかを決定するうえで、3種類の指標を検討した。1つ目は出身地の市町村を基に既に公表されている基準を用いることであり、農水省の公表する農業地域類型、または人口密度を基にした総務省統計局が公表するDID（人口集中地区）の運用を考えた。しかし、前者は農業を営んでいるか否かという地理的要因のみを重視したものであり、これを適用すると評定者の田舎の割合が全体の約8%の11名と極端に少なくなってしまった。後者の方法は、特定の市町村ではなく地図上で評価しているものであったので、適用が不可能であった。そこで1つ目の方法は両者とも用いなかった。2つ目は自宅からコンビニ、スーパーマーケット、バス停、電車の駅という4つの施設への所要時間から

³ 授業名の後の（）内はアンケート実施日である。

求めるものである。実家から各施設まで3段階（15分圏内、15～30分圏内、それ以上）で回答してもらい、それぞれ近い順から1～3のポイントを付与して全ての施設のポイントを合算した値から都市と田舎の分類を行った。3つ目は主観的に出身地が田舎であるかということの評価してもらう方法である。調査紙で6段階の選択肢（1.非常に田舎、2. まあまあ田舎、3. やや田舎、4. やや都会、5. まあまあ都会、6. 非常に都会）の中から回答してもらった。6段階中、1または2と選択した回答を田舎グループ、3または4と回答したものを中間グループ、そして5または6と回答したグループを都会グループと合算して集計を行った。

2つ目と3つ目の手法を両方用いて結果を比較したところ、t検定以外の部分では大きな差は見られなかった。したがって、以下では主に3の手法で調査結果を述べ、t検定の項目のみ、2の手法での結果を補足している。

3.2. 職業威信スコアの平均値と出身地別の相関

まず、全体平均の職業威信スコアと1995年のSSM調査結果を比較した場合（表1）、どちらも「医者」、「国会議員」、「パイロット」が上位にある。一方で、「道路工夫」、「中小企業の機械組立工」、「商店の店員」「大工」はどちらの調査結果においても低い順位となっている。

表1 職業威信スコアの全体平均値

職業名 (1995年SSM調査での項目名)	平均値	標準偏差	(参考)1995年SSM調査 職業威信スコア
医師	90.75	19.164	82.7
パイロット(航空操縦士)	79.71	21.153	74.9
国会議員	78.41	29.018	81.1
公認会計士	69.81	21.328	73
大企業の課長(会社役員)	69.81	17.544	73.3
銀行員(会計事務員)	69.32	22.237	49.4
警察官	62.34	20.857	54.2

市役所の課長（管理的公務員）	61.04	16.663	70.5
学校の先生 （小中学校教員）	56.33	19.081	62.9
大企業の営業社員（外交員）	55.52	18.797	42.3
服飾デザイナー （デザイナー）	50.49	18.407	56.3
農家（農耕作業員）	44.61	25.317	39.9
大工	40.42	23.605	45.3
中小企業の機械組立工 （一般機械組立工）	40.26	21.065	40.2
商店の店員（販売店員）	38.24	21.085	35.5
道路工夫	36.36	25.580	26.7

全体の職業威信スコアの平均値（図 1）としては、田舎では高い職業威信であると仮定した第一職業群（図 1 中：下線付き職業名）である職業の医師が 1 位（90.75 ポイント）、国会議員が 3 位（87.41 ポイント）と全体の中で比較的上位に位置している。出身地別で各職業のスコアの差を比較すると、上位 4 つの職業はどのグループでも同じであった。また、「公認会計士」、「市役所の課長」、「大企業の課長」において全て 1 ポイント以下という非常に小さい差であることが分かった。これに対して、田舎と都会のグループで大きく差が見られた職業もある。まず、都会のほうが田舎よりも威信スコアが大きかった職業の上位は「パイロット（-4.38）⁴」、「学校の先生（-4.58）」であるが、4 ポイント以上の差があったのはこの二つの項目のみであった。次に、田舎のほうが都会よりも威信スコアが大きかった職業は「道路工夫（+13.83）」「大工（+9.54）」「農家（+7.59）」「商店の店員（+6.78）」「中小企業の機械組立工（+6.51）」「大企業の営業社員（+4.56）」であった。

⁴ 職業名の後ろの 0 内は、都会グループを基準としたときの田舎グループのポイント差を示す。

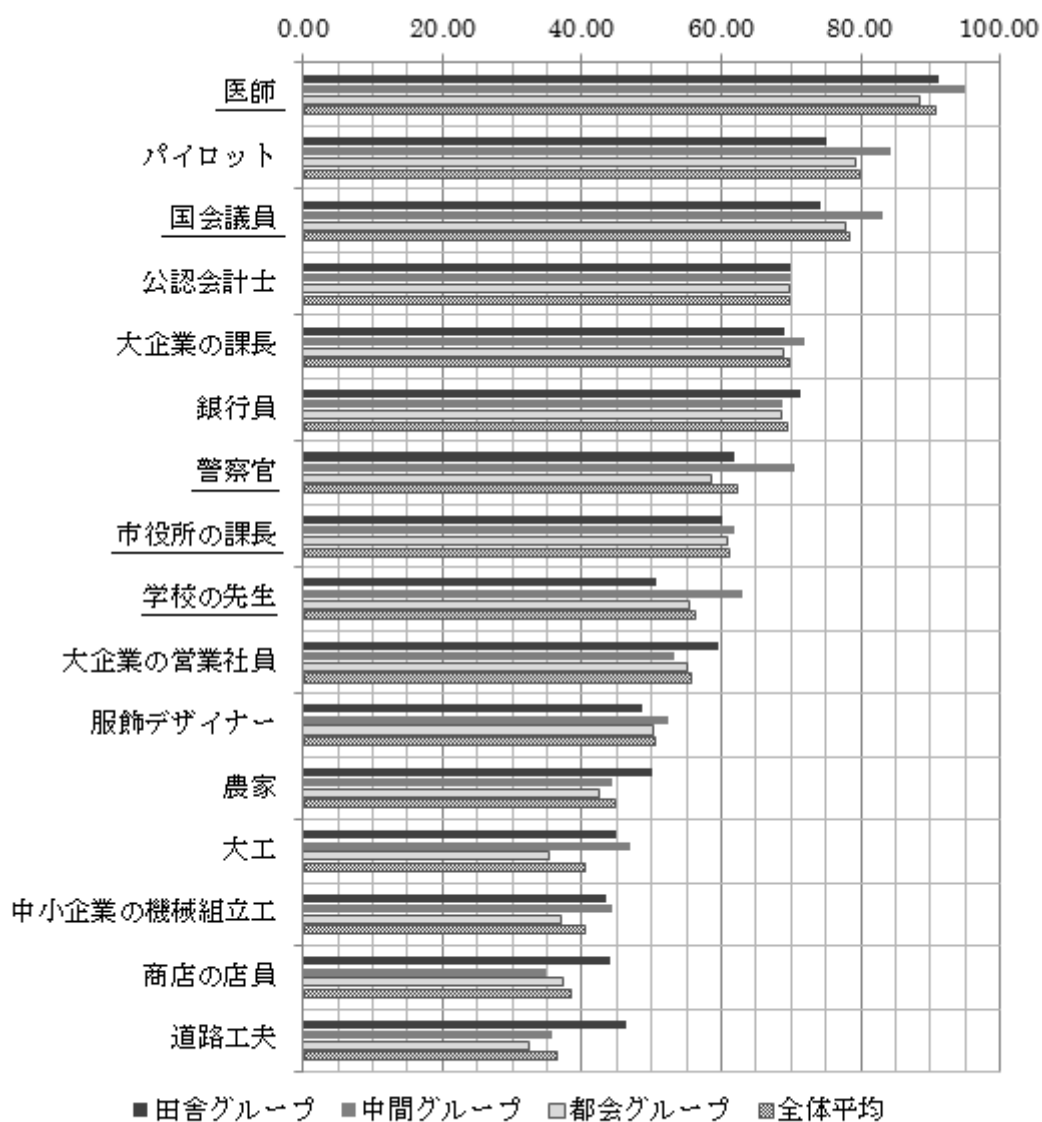


図1 職業威信スコアの平均値

次に、田舎グループと都市グループの両者においてt検定を行った（表2）。

表2 田舎・都市のグループにおけるt検定

	都会と田舎の2 平均の差の検定						
	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間	
						下限	上限

医師	-.315	68	.753	1.593	5.050	-8.484	11.670
パイロット	1.144	68	.256	-6.250	5.462	-17.149	4.649
国会議員	.880	68	.382	-6.291	7.148	-20.554	7.972
公認会計士	.200	54.709	.842	-.980	4.902	-10.805	8.844
大企業の課長	.218	68	.828	-1.021	4.685	-10.370	8.327
銀行員	.036	68	.971	-.204	5.643	-11.464	11.055
警察官	-1.587	57.103	.118	8.292	5.224	-2.168	18.753
市役所の課長	.027	68	.978	-.123	4.527	-9.156	8.911
学校の先生	.967	68	.337	-4.126	4.265	-12.637	4.385
大企業の営業担当社員	-.733	68	.466	3.309	4.515	-5.700	12.318
服飾デザイナー	.315	47.174	.754	-1.471	4.661	-10.847	7.906
農家	-1.576	67	.120	9.286	5.891	-2.474	21.045
大工	-2.171	68	.033	11.520	5.306	.932	22.107
中小企業の機械組立工	-1.631	68	.107	7.966	4.883	-1.779	17.710
商店の店員	-1.833	68	.071	8.701	4.747	-.771	18.173
道路工夫	-2.169	68	.034	12.990	5.990	1.037	24.943

※表内斜線部は、有意差がみられることを示す。

上表より、信頼区間 95% で有意差があると判断することができる職業は表内斜線部にあるように「大工」と「道路工夫」のみであった。だがこれは大きな有意差であるとは言いがたい。その例として、以下の図 2 では「大工」と「医師」の 2 つの職業における地域別職業威信スコアの平均値と信頼区間を示した。以下の 2 つのグラフを比較すると、「大工」のグラフのほうが確かに田舎のグループが都市のグループよりも高いスコアの平均値であるように見える。だが、エラーバーに着目すると大工の田舎と都会のグループでは重なる部分が非常に多いことが分かり、表 1 で確認した有意差が大きいということは難しい。なお、田舎と都市のサンプルの分類を、冒頭で述べた手法 2 「実家から各施設までの距離」を用いると、この t 検定においてどの職業も有意差を示すことはなかった。

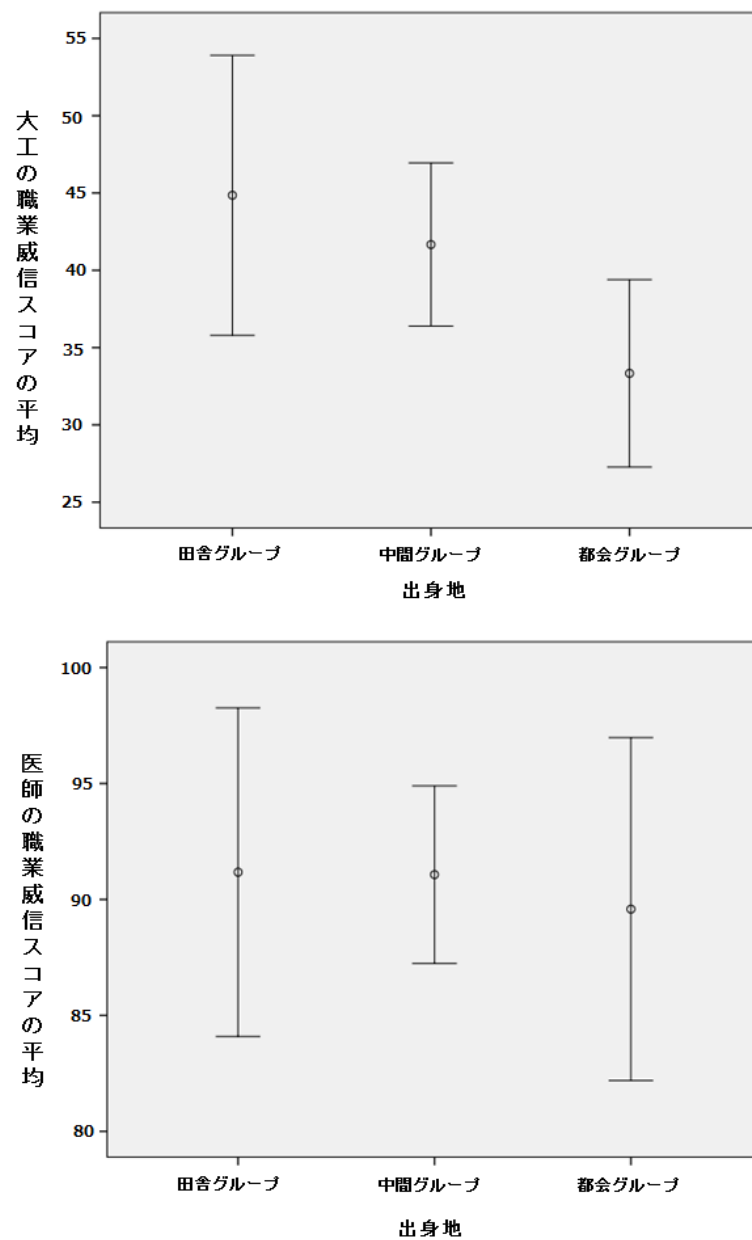


図2 大工・医師の出身地別職業威信スコアの平均
(信頼区間95%)

4. 考察

調査結果より、全体の職業威信スコアから、ある程度田舎出身者において、公務員や医

療従事者の威信が高くなる傾向は見受けられず、仮説を実証することはできなかった。むしろ、公務員や医療従事者のみに着目した場合、各グループの平均値の順位は、都市では田舎よりも「学校の先生」の威信が高く、田舎では都市よりも高い威信となる職業はなかった。また、田舎では「道路工夫」、「大工」、「農家」の職業威信が平均威信スコアでは都市よりも高いことが分かった。これは、田舎では比較的にマニュアル労働が多く、たとえ評定者本人はそのような肉体的労働をやっていないとしても、近親者などの様子から実感を持ってその困難さを知っているために、職業威信も平均スコアに比べて高く評価する可能性があると考えられる。

t 検定からは都会と田舎のそれぞれの出身者における職業威信の差が見られたが、それが必ずしも大きい差であるかどうかは断言できないことが分かった。これにより、考えられる可能性が2つある。1つ目はいわゆる「職業に貴賤なし」という意識の広がりである。間淵（1998）が過去のSSM調査で1975年と1995年のデータを比較した際に、「職業に貴賤なし」の意識が拡大していることを報告している。この傾向が1995年以降拡大して、職業威信が全体的に高まったかもしれない。2つ目は、調査対象者が京都大学生という全体で見れば高学歴の学生であることだ。平成21年度の文部科学白書（online: 1296547.htm）によれば、両親の収入が高いほど4年制大学への進学率も高いことが指摘されている。さらに、平成25年度京都大学学生生活白書（online: report.html）によると学部生（サンプル数679）のうち、約半数の家庭が600万円～1200万円未満の年収があることが報告されている。つまり、評定者は比較的高年収の家庭である場合が多く、その両親も一般的に職業威信の高い職業についている可能性が高い。そのため、たとえ田舎の地域出身であるとしても両親の影響を受けて、どちらかという都市出身者に近い価値観を持って回答がなされたとも考えられる。

以上、この調査では仮定である「出身地が田舎の人は、公務員や教員、医療従事者に対職業威信が高い。」を実証することはできなかった。しかし、学歴の影響を考慮した調

査を行うことで、異なる結果が現れるかもしれない。また、田舎と都会の明確な境界はなく、設定した基準で結果も変化するので、どのような基準が適切か検討する余地がある。

5. 参考文献

- 1995 年 SSM 全国調査・職業威信班、森山和夫、原純輔, 1998, 「1995 年版職業威信スコア表」都築一治編『1995 年 SSM 調査シリーズ 5 職業評価の構造と職業威信スコア』1995 年 SSM 調査研究会, 231-236.
- 京都大学男女共同参画推進センター, 「学部学生の女性比 (平成 16 年度～平成 25 年度)」, <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/office_pge/pdf/RatioOfWomenInUndergraduate16-25.pdf>, (アクセス日 2015/12/16) .
- 京都大学平成 25 年度学生生活実態調査委員会, 2014, 「H. 家庭状況」『京都大学学生生活白書 平成 25 年度《学生生活実態調査》のまとめ』, <<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/campus/report.html>>, 12 (アクセス日 2015/12/17) .
- 近藤博之, 1987, 「高学歴化と職業的地位の配分」『教育社会学研究』42, 137-149.
- 塩谷芳也, 2010, 「職業的地位の構成イメージと地位指向—職業の社会的地位の全体像に関する個人の認知に着目して—」『理論と方法』25 (1) , 65-80.
- 高田洋, 2002, 「職業イメージによる職業威信評定基準の分析」『社会福祉学』18, 56-78.
- 塚原修一・小林淳一, 1979, 「社会階層と移動における地域の役割—出身地と居住地—」富永健一編『日本の階層構造』, 東京大学出版会, 232-271.
- 林拓也, 1997, 「地位達成における地域間格差と地域移動—学歴・初職に対する影響の計量分析—」『社会学評論』48, 334-349.
- 間淵領吾, 1998, 「職業カテゴリーによる日本人の職業の序列付け—「職業に貴賤なし」意識の現在」都築一治編『1995 年 SSM 調査シリーズ 5 職業評価の構造と職業威信スコア』1995 年 SSM 調査研究会, 153-180.

文部科学省, 「平成 21 年度文部科学白書 第 1 章 家計負担の現状と教育投資の水準」, <
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200901/detail/1296547.htm>, (ア
クセス日 2015/12/17) .

山本登, 1984, 『大都市社会の階層構成と社会移動』, 明石書店.

脇田彩, 2012, 「職業威信スコアのジェンダー中立性—男女別職業評価調査に基づく一考察」
『ソシオロジ』 57 (2) , 3-18.

田舎と都会における職業威信の差

—公務員・教員・医療従事者の威信の分析—

渡邊 朱理

京都大学文学部社会学専修 3 回生

本稿では、田舎と都会とで特定の職業に対して、威信の差が生じるかどうかを検討する。具体的には、公務員・教員・医療従事者のように、知的教養があり、かつ田舎での認知度が高いと予想される職業が、田舎において威信が高まるかどうかに焦点をあてて調査を行った。その結果、そのような条件の職業威信が一概に田舎で高くなるという結果を得ることはできず、より一層の調査の必要があることがわかった。

1. 問題設定

近年、「地域おこし」という言葉をよく耳にする。その背景として 1960 年代以降、日本では経済の活性化に伴い、都市部での人口増加や企業進出が顕著になった一方で、地方の人口は減少し過疎化が進んだことが挙げられる。その結果、地方出身の若者が職を求めて都市部に流出するようになり、地方での就職の選択肢はより狭まることとなった。

我々の職業に対する評価というものは、自身の経験や知見によるものと考えられるが、このような状況では地方出身の若者と都市部出身の若者とでは社会に出るまでに目にしたり触れたりする職業が異なることは明確である。地方は都市部に比べて圧倒的に企業進出が遅れており、若者がビジネス関連の職業に就く大人に接する機会は少ない。そのうえ、大学に進学する若者は都市部へ流出するため、地方において専門的で知的な教養が必要とされる職業は希少価値が高いと考えられる。したがって、地方においてより身近で、また資格を有するなど教養が必要な職業は、地方出身者によって高い威信を持たれるのではないだろうか。本稿では、田舎（＝地方）出身者と、都会（＝都市部）出身者において、特に公務員・

教員・医療従事者の威信の違いが見られるのかを検討する。そのなかで、環境が個人の価値観に及ぼす影響の重要性に言及したい。

2. 分析方法

本稿の分析に用いるデータは、京都大学で開講された3つの講義で調査を行ったものである。授業の前に質問用紙を配布し、授業終了後に任意で提出してもらうという回収方法をとったところ、「自然地理学(2015年10月20日(火))」では33、「労働と法Ⅱ(2015年10月22日(木))」では67、「ジャーナリズムの最前線(2015年10月27日(火))」では54のサンプルを得ることができ、有効サンプル数は総計154であった。

質問では、出身地の田舎度を測るため、3つの質問を準備した。1つ目の質問では、回答者の実際の出身地を尋ねた。2つ目では「コンビニ」、「スーパーマーケット」、「バス停」、「電車の駅」の4つの場所が自宅の近くにあるかどうかを質問し、「15分以内」を1ポイント、「16～30分」を2ポイント、「30分以上」を3ポイントとして合算した。合算した結果が4ポイントで「都会」、5ポイントで「やや都会」、6ポイントで「ふつう」、7ポイントで「やや田舎」、8ポイント以上で「田舎」と定義した。3つ目の質問では、出身地の田舎度・都会度の主観による評価を求めた。1～6までの数字を提示し、田舎だと思う場合はより小さい数字を、都会だと思う場合はより大きい数字を選んでもらった。

威信を調査する職業については、「国会議員」「市役所の課長」「医師」「警察官」「学校の先生」「大工」「大企業の営業担当社員」「服飾デザイナー」「中小企業の機械組立工」「農家」「大企業の課長」「公認会計士」「道路工夫」「パイロット」「商店の店員」「銀行員」の計16個を挙げ、1=最も高い、2=やや高い、3=ふつう、4=やや低い、5=最も低い、という5つの基準で評価してもらった。分析の際には得点を100点換算した。そのうち公務員・教員・医療従事者の職業として「国会議員」「市役所の課長」「医師」「警察官」「学校の先生」の5つが田舎における威信が高くなると予想した。

3. 分析結果

3.1 出身地に基づいた分類法

はじめに、実際の出身地に基づいて田舎度・都会度を分類しようと試みた。しかし、農林水産省が公表する「農業地域類型」を参考に行ったところ、農業を軸にした分類法のため、大多数が都会に分類されるなど、意図するような田舎・都会の分類が叶わなかった。また、国勢調査に用いられる人口密度に基づいた DID (Densely Inhabited District) を適用する方法は、地図上で分類されており自治体ごとの分類をすることができなかった。

表 1 農業地域類型に基づいた分類

	都市型地域	平地型地域	中間農業地域	山間農業地域
サンプル数(%)	109(72%)	31(21%)	10(7%)	1(1%)

3.2 特定の場所までの距離に基づいた分類法

次に、自宅から「コンビニ」「スーパーマーケット」「バス停」「電車の駅」までの距離に基づいて田舎と都会との分類を行い、職業威信の分析を行った。下記がカテゴリごとの平均値をグラフにしたものである。威信に差が出ると予測した、「国会議員」「市役所の課長」「医師」「警察官」「学校の先生」いずれの職業においても有意差は見受けられなかった。また、他の職業においても同じく有意差は見られなかった。

表 2 特定の場所までの距離に基づいた田舎度・都会度別の職業威信の平均値

	平均値					
	都会 (66)	やや都会 (34)	ふつう (21)	やや田舎 (15)	田舎 (18)	合計 (154)

大工	37.9	34.6	44.0	58.3	41.7	40.4
大企業営業担当	54.5	58.1	53.6	56.7	55.6	55.5
医師	89.4	91.9	91.7	96.7	87.5	90.7
服飾デザイナー	50.4	54.4	46.4	51.7	47.2	50.5
警察官	60.2	63.2	67.9	75.0	51.4	62.3
学校の先生	55.3	58.1	48.8	68.3	55.6	56.3
中小企業の機械組立工	37.1	37.5	47.6	46.7	43.1	40.3
農家	44.7	41.9	42.9	48.3	48.5	44.6
パイロット	81.1	80.1	79.8	78.3	75.0	79.7
商店の店員	37.9	38.2	33.8	45.0	38.9	38.2
銀行員	67.8	69.9	72.6	71.7	68.1	69.3
国会議員	77.3	82.4	79.8	78.3	73.6	78.4
道路工夫	35.6	32.4	32.1	46.7	43.1	36.4
市役所課長	61.0	59.6	58.3	65.0	63.9	61.0
大企業課長	68.9	69.1	69.0	76.7	69.4	69.8
公認会計士	69.3	72.8	60.7	71.7	75.0	69.8

さらに極端なデータとして、「都会」と「やや都会」の2グループを合わせて「都会群」とし、「ふつう」「やや田舎」「田舎」の3グループを合わせて「田舎群」として分析を行ったが、有意差の見られるデータを得るには及ばなかった。

3.3 主観に基づいた分類法

最後に、主観に基づく職業威信の分析を行ったが、施設までの距離に基づいて田舎度・都会度を分類した時と同様に、いずれの職業においても有意差は見られないという結果が得られた。

表 3 主観に基づいた田舎度・都会度別の職業威信の平均値

	平均値						
	非常に都会(10)	まあまあ都会(26)	やや都会(44)	やや田舎(40)	まあまあ田舎(26)	非常に田舎(8)	合計(154)
大工	32.5	33.7	36.9	46.9	42.3	53.1	40.4
大企業営業担当	57.5	55.8	54.0	53.1	60.6	56.3	55.5
医師	82.5	92.3	87.5	95.0	91.3	90.6	90.7
服飾デザイナー	50.0	50.0	50.6	52.5	48.1	50.0	50.5
警察官	42.5	57.7	62.5	70.6	63.5	56.3	62.3
学校の先生	50.0	56.7	55.7	63.1	51.0	50.0	56.3
中小企業の機械組立工	32.5	36.5	38.1	44.4	41.3	50.0	40.3
農家	38.9	41.3	43.8	44.4	47.1	59.4	44.6
パイロット	75.0	83.7	77.8	84.4	74.0	78.1	79.7
商店の店員	40.0	33.7	39.0	35.0	42.3	50.0	38.2
銀行員	70.0	72.1	66.5	68.8	71.2	71.9	69.3
国会議員	80.0	80.8	75.6	83.1	82.7	46.9	78.4
道路工夫	30.0	34.6	31.8	35.6	42.3	59.4	36.4
市役所課長	57.5	61.5	61.4	61.9	62.5	53.1	61.0
大企業課長	65.0	72.1	68.2	71.9	74.0	53.1	69.8
公認会計士	67.5	72.1	68.8	70.0	72.1	62.5	69.8

ここで、「非常に田舎」「まあまあ田舎」「やや都会」を合わせて「田舎群」、「非常に都会」「まあまあ都会」「やや都会」を合わせて「都会群」と二分化して分析を行ったところ、「大工」と「警察官」そして「中小企業の機械組立工」の3つの職業において95パーセント水準で有意な差が見られた。

表 4 主観に基づいた田舎群・都会群別の職業威信の平均値

	田舎	都会
大工	45.9	35.3
大企業営業担当	56.1	55.0
医師	93.2	88.4
服飾デザイナー	50.7	50.3
警察官	66.6	58.4
学校の先生	57.4	55.3
機械組立工	43.9	36.9
農家	47.0	42.4
パイロット	80.1	79.4
商店の店員	39.2	37.3
銀行員	69.9	68.8
国会議員	79.1	77.8
道路工夫	40.5	32.5
市役所課長	61.1	60.9
大企業課長	70.6	69.1
公認会計士	69.9	69.7

表 5 有意な差が見られた職業

主観による田舎群と都会群		平均値	有意確率
大工	田舎	45.9	0.05
	都会	35.3	
警察官	田舎	66.5	0.02
	都会	58.4	
中小企業の機械組立工	田舎	43.9	0.04
	都会	36.8	

4. 考察

本稿では、田舎と都会とで特定の職業に対して、威信の差が生じるかどうかを検討した。具体的には、公務員・教員・医療従事者など、身近にあるうえに知的な教養を持つ職業が、田舎において希少価値があるという点で威信が高まるのではないかという仮説を検証するため分析を行った。その結果、そのような条件の職業威信が一概に田舎で高くなるという結果を得ることはできなかった。

原因としては、田舎と都会の定義の曖昧さが挙げられる。例えば、特定の場所までの距離に基づいた分類では「コンビニ」「スーパーマーケット」「バス停」「電車の駅」という4つの指標を用いたが、より都会を表すものとして「百貨店」、より田舎を表すものとして「川」や「田んぼ」という指標を用いることも可能である。また、それぞれの場所に田舎度・都会度の差を設けず合算する手法を取ったが、果たして「バス停」と「コンビニ」とが同じ程度の田舎度や都会度を表しているかは疑問である。このような調査において、田舎と都会の定義やその基準は人によって様々であり、また、分析の結果も多様な分類のなかでどの手法を用いるかに大きく依存している。その不確定性が、本稿の調査で仮説通りの結果を得られなかった一因ではないだろうか。

しかし、同時に興味深いデータを得ることができた。主観によって出身地を「田舎群」と「都会群」の2つに分けた場合、「大工」「警察官」「中小企業の機械組立工」において田舎の方が威信が高くなるという結果である。仮説と沿うものは、「警察官」だけである。3つの職業の特徴として、専門的な訓練や鍛錬が必要であり田舎において目にする機会が多いという点や、体力が必要であるという点が挙げられるが、「農家」などの他の職業に同様の差が見受けられないため正しいとは言えない。さらに踏み込んだ調査が必要である。

これらの調査結果を踏まえた今後の課題は、「田舎」と「都会」の境界をより明らかにし、適切な指標を用いることが必要だということである。また、仮説を裏付けるものとして挙げた「身近である」「知的な教養が必要」という特徴以外にも、関連するキーワードがありそうである。

仮説通りの結果を得ることは叶わず、有意差が見られた職業と他の職業との違いを明確にするまでには及ばなかったが、環境の違いと人の価値観の関係に着目して調査が行えたことは有意義であった。「どのような」環境の違いが「どのような」価値観に影響しうるのか、さらに進んだ分析に期待する。

参考文献

農林水産省,2013,「旧市区町村別農業地域類型一覧表(平成25年3月28日改正)」

(www.maff.go.jp/j/tokei/chiiki_ruikei/other/chiiki_ruikei_20130328.xls) (2015/12/20
アクセス)

総務省統計局,2000,「平成22年国勢調査人口集中地区境界図」

(<http://www.stat.go.jp/data/chiri/gis/did.htm>)(2015/12/20 アクセス)

1 班 単純集計表

授業名				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	自然地理学	33	21.4	21.4
	労働と法Ⅱ	69	44.8	44.8
	ジャーナリズムの最前線	52	33.8	33.8
	合計	154	100.0	100.0
学部学科				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	総合人間学部	12	7.8	7.9
	文学部	15	9.7	9.9
	教育学部	7	4.5	4.6
	法学部	14	9.1	9.2
	経済学部	22	14.3	14.5
	理学部	10	6.5	6.6
	医学部医学科	2	1.3	1.3
	医学部人間健康科学科	7	4.5	4.6
	薬学部	3	1.9	2.0
	工学部地球工学科	6	3.9	3.9
	工学部建築学科	1	.6	.7
	工学部物理工学科	14	9.1	9.2

	工学部電気電子工学科	4	2.6	2.6
	工学部情報学科	12	7.8	7.9
	工学部工業化学科	5	3.2	3.3
	農学部資源生物科学科	6	3.9	3.9
	農学部応用生命科学科	1	.6	.7
	農学部地域環境工学科	4	2.6	2.6
	農学部食料・環境経済学科	3	1.9	2.0
	農学部森林学科	1	.6	.7
	農学部食品生物科学科	3	1.9	2.0
	合計	152	98.7	100.0
欠損値	システム欠損値	2	1.3	
合計		154	100.0	
都道府県市区群				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	北海道札幌市	1	.6	.7
	北海道苫小牧	2	1.3	1.3

市			
山形県 山形市	1	.6	.7
茨城県 つくば市	2	1.3	1.3
群馬県 館林市	1	.6	.7
埼玉県 さいたま市	1	.6	.7
埼玉県 深谷市	1	.6	.7
千葉県 千葉市	1	.6	.7
千葉県 船橋市	1	.6	.7
千葉県 柏市	1	.6	.7
千葉県 君津市	1	.6	.7
東京都 港区	1	.6	.7
東京都 世田谷区	1	.6	.7
東京都 杉並区	1	.6	.7
東京都 板橋区	1	.6	.7
東京都 練馬区	1	.6	.7
東京都 江戸川区	1	.6	.7
東京都 八王子市	1	.6	.7
東京都 調布市	1	.6	.7
東京都 町田市	1	.6	.7
神奈川県 横浜市	1	.6	.7
長野県	1	.6	.7

安曇野市			
岐阜県 岐阜市	2	1.3	1.3
岐阜県 美濃市	1	.6	.7
静岡県 浜松市	3	1.9	2.0
愛知県 名古屋市	7	4.5	4.6
愛知県 岡崎市	1	.6	.7
愛知県 一宮市	1	.6	.7
愛知県 春日井市	1	.6	.7
愛知県 知多市	1	.6	.7
愛知県 豊明市	1	.6	.7
愛知県 田原市	1	.6	.7
三重県 津市	2	1.3	1.3
三重県 四日市市	2	1.3	1.3
三重県 鈴鹿市	1	.6	.7
三重県 員弁群	1	.6	.7
滋賀県 大津市	1	.6	.7
滋賀県 守山市	1	.6	.7
滋賀県 甲賀市	1	.6	.7
京都府 京都市	5	3.2	3.3
京都府 長岡京市	1	.6	.7
京都府 南丹市	1	.6	.7

	大阪府 大阪市	6	3.9	4.0
	大阪府 堺市	1	.6	.7
	大阪府 豊中市	3	1.9	2.0
	大阪府 吹田市	3	1.9	2.0
	大阪府 泉大津 市	1	.6	.7
	大阪府 貝塚市	2	1.3	1.3
	大阪府 守口市	1	.6	.7
	大阪府 枚方市	1	.6	.7
	大阪府 茨木市	2	1.3	1.3
	大阪府 泉佐野 市	1	.6	.7
	大阪府 寝屋川 市	1	.6	.7
	大阪府 河内長 野市	1	.6	.7
	大阪府 和泉市	1	.6	.7
	大阪府 箕面市	2	1.3	1.3
	大阪府 羽曳野 市	2	1.3	1.3
	大阪府 東大阪 市	4	2.6	2.6
	大阪府 泉南市	1	.6	.7
	大阪府 交野市	1	.6	.7
	大阪府 豊能郡	1	.6	.7
	兵庫県 神戸市	13	8.4	8.6

	兵庫県 尼崎市	2	1.3	1.3
	兵庫県 西宮市	3	1.9	2.0
	兵庫県 芦屋市	1	.6	.7
	兵庫県 伊丹市	2	1.3	1.3
	兵庫県 宝塚市	1	.6	.7
	兵庫県 河辺郡	1	.6	.7
	奈良県 奈良市	6	3.9	4.0
	奈良県 桜井市	1	.6	.7
	奈良県 五條市	1	.6	.7
	奈良県 宇陀市	1	.6	.7
	和歌山 県和歌 山市	1	.6	.7
	和歌山 県橋本 市	2	1.3	1.3
	島根県 松江市	1	.6	.7
	岡山県 岡山市	2	1.3	1.3
	岡山県 倉敷市	2	1.3	1.3
	岡山県 津山市	1	.6	.7
	広島県 広島市	3	1.9	2.0
	広島県 呉市	1	.6	.7
	山口県 下関市	1	.6	.7
	山口県 山口市	1	.6	.7
	愛媛県 松山市	1	.6	.7
	愛媛県 新居浜 市	1	.6	.7

	高知県 高知市	2	1.3	1.3
	福岡県 北九州市	1	.6	.7
	熊本県 熊本市	1	.6	.7
	熊本県 菊池郡	1	.6	.7
	宮崎県 宮崎市	1	.6	.7
	宮崎県 小林市	1	.6	.7
	鹿児島 県鹿児島 市	1	.6	.7
	合計	151	98.1	100.0
欠損 値	システム欠損 値	3	1.9	
合計		154	100.0	
a.出身地での自宅からコンビニまでの距離				
		度数	パーセ ント	有効パ ーセン ト
有効	徒歩 15 分以内	124	80.5	80.5
	徒歩 16 ～30 分 以内	16	10.4	10.4
	30 分以 内のと ころに はない	14	9.1	9.1
	合計	154	100.0	100.0
b.出身地での自宅からスーパーマーケットまでの距離				
		度数	パーセ ント	有効パ ーセン ト
有効	徒歩 15 分以内	124	80.5	80.5
	徒歩 16 ～30 分 以内	18	11.7	11.7

	30 分以 内のと ころに はない	12	7.8	7.8
	合計	154	100.0	100.0
c.出身地での自宅からバス停までの距離				
		度数	パーセ ント	有効パ ーセン ト
有効	徒歩 15 分以内	137	89.0	89.0
	徒歩 16 ～30 分 以内	10	6.5	6.5
	30 分以 内のと ころに はない	7	4.5	4.5
	合計	154	100.0	100.0
d.出身地での自宅から電車の駅までの距離				
		度数	パーセ ント	有効パ ーセン ト
有効	徒歩 15 分以内	82	53.2	53.2
	徒歩 16 ～30 分 以内	36	23.4	23.4
	30 分以 内のと ころに はない	36	23.4	23.4
	合計	154	100.0	100.0
コンビニが近い/遠い				
		度数	パーセ ント	有効パ ーセン ト
有効	近い	124	80.5	80.5
	遠い	30	19.5	19.5
	合計	154	100.0	100.0
スーパーが近い/遠い				

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	近い	124	80.5	80.5
	遠い	30	19.5	19.5
	合計	154	100.0	100.0
バス停が近い/遠い				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	近い	137	89.0	89.0
	遠い	17	11.0	11.0
	合計	154	100.0	100.0
電車の駅が近い/遠い				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	近い	82	53.2	53.2
	遠い	72	46.8	46.8
	合計	154	100.0	100.0
上記 abc 合算再割り当て				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	都会	66	42.9	42.9
	やや都会	34	22.1	22.1
	ふつう	21	13.6	13.6
	やや田舎	15	9.7	9.7
	田舎	18	11.7	11.7
	合計	154	100.0	100.0
出身地は田舎/都会?				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	非常に田舎	8	5.2	5.2
	まあまあ田舎	26	16.9	16.9
	やや田舎	40	26.0	26.0

	やや都会	44	28.6	28.6
	まあまあ都会	26	16.9	16.9
	非常に都会	10	6.5	6.5
	合計	154	100.0	100.0
田舎か都会の二択				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	田舎	74	48.1	48.1
	都会	80	51.9	51.9
	合計	154	100.0	100.0
極端に田舎か都会か				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	極端に田舎	34	22.1	48.6
	極端に都会	36	23.4	51.4
	合計	70	45.5	100.0
欠損値	システム欠損値	84	54.5	
合計		154	100.0	
大工の職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	9	5.8	5.8
	やや高い	12	7.8	7.8
	ふつう	55	35.7	35.7
	やや低い	67	43.5	43.5
	最も低い	11	7.1	7.1
	合計	154	100.0	100.0
大企業の営業担当社員の職業の地位の高さ				

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	5	3.2	3.2
	やや高い	47	30.5	30.5
	ふつう	81	52.6	52.6
	やや低い	19	12.3	12.3
	最も低い	2	1.3	1.3
	合計	154	100.0	100.0
大企業の営業担当社員の職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	5	3.2	3.2
	やや高い	47	30.5	30.5
	ふつう	81	52.6	52.6
	やや低い	19	12.3	12.3
	最も低い	2	1.3	1.3
	合計	154	100.0	100.0
医師の職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	115	74.7	74.7
	やや高い	27	17.5	17.5
	ふつう	9	5.8	5.8
	最も低い	3	1.9	1.9
	合計	154	100.0	100.0
服飾デザイナーの職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント

有効	最も高い	6	3.9	3.9
	やや高い	21	13.6	13.6
	ふつう	101	65.6	65.6
	やや低い	22	14.3	14.3
	最も低い	4	2.6	2.6
	合計	154	100.0	100.0
警察官の職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	15	9.7	9.7
	やや高い	61	39.6	39.6
	ふつう	67	43.5	43.5
	やや低い	7	4.5	4.5
	最も低い	4	2.6	2.6
	合計	154	100.0	100.0
学校の先生の職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	11	7.1	7.1
	やや高い	32	20.8	20.8
	ふつう	100	64.9	64.9
	やや低い	7	4.5	4.5
	最も低い	4	2.6	2.6
	合計	154	100.0	100.0
中小企業の機械組立工の職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高	7	4.5	4.5

	い			
	やや高い	9	5.8	5.8
	ふつう	61	39.6	39.6
	やや低い	71	46.1	46.1
	最も低い	6	3.9	3.9
	合計	154	100.0	100.0
農家の職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	12	7.8	7.8
	やや高い	16	10.4	10.5
	ふつう	65	42.2	42.5
	やや低い	47	30.5	30.7
	最も低い	13	8.4	8.5
	合計	153	99.4	100.0
欠損値	システム欠損値	1	.6	
合計		154	100.0	
パイロットの職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	65	42.2	42.2
	やや高い	58	37.7	37.7
	ふつう	28	18.2	18.2
	やや低い	1	.6	.6
	最も低い	2	1.3	1.3
	合計	154	100.0	100.0
商店の店員の職業の地位の高さ				

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	3	1.9	2.0
	やや高い	7	4.5	4.6
	ふつう	77	50.0	50.3
	やや低い	47	30.5	30.7
	最も低い	19	12.3	12.4
	合計	153	99.4	100.0
欠損値	システム欠損値	1	.6	
合計		154	100.0	
銀行員の職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	30	19.5	19.5
	やや高い	72	46.8	46.8
	ふつう	43	27.9	27.9
	やや低い	5	3.2	3.2
	最も低い	4	2.6	2.6
	合計	154	100.0	100.0
国会議員の職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	82	53.2	53.2
	やや高い	35	22.7	22.7
	ふつう	22	14.3	14.3
	やや低い	6	3.9	3.9
	最も低い	9	5.8	5.8

	合計	154	100.0	100.0
道路工場の職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	10	6.5	6.5
	やや高い	6	3.9	3.9
	ふつう	53	34.4	34.4
	やや低い	60	39.0	39.0
	最も低い	25	16.2	16.2
	合計	154	100.0	100.0
市役所の課長の職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	7	4.5	4.5
	やや高い	62	40.3	40.3
	ふつう	77	50.0	50.0
	やや低い	8	5.2	5.2
	合計	154	100.0	100.0
大企業の課長の職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	最も高い	20	13.0	13.0
	やや高い	87	56.5	56.5
	ふつう	42	27.3	27.3
	やや低い	5	3.2	3.2
	合計	154	100.0	100.0
公認会計士の職業の地位の高さ				
		度数	パーセント	有効パーセント

				ト
有効	最も高い	31	20.1	20.1
	やや高い	70	45.5	45.5
	ふつう	45	29.2	29.2
	やや低い	6	3.9	3.9
	最も低い	2	1.3	1.3
	合計	154	100.0	100.0

「職業」に関するアンケート

※このアンケートは文学部社会学専修の実習調査(担当：太郎丸博先生)に使用します。

ご記入いただいた情報は厳重に管理し、調査以外の目的には使用いたしません。

Q1 あなたの所属する学部・学科を教えてください。（ 学部 学科/専修）

Q2 あなたの出身地を市区郡まで教えてください。（ 都道府県 市区郡）

※3歳～14歳までの間にもっとも長く住んでいた場所を出身地とします。

Q3 あなたが出身地に住んでいたとき、以下のようなものが自宅の近くにありましたか？ 今も住んでいる人などは14歳ごろのことを思い出してお答えください。

	自宅から徒歩で15分以内の場所にあった	自宅から徒歩で16～30分のところにあった	30分以内のところにはなかった
A. コンビニ	1	2	3
B. スーパーマーケット	1	2	3
C. バス停	1	2	3
D. 電車の駅	1	2	3

Q4 あなたの出身地は、次のうちどこに分類されると思いますか？ 1～6から選んでください。

田舎←

→都会

1

2

3

4

5

6

Q5 職業の地位を高いものから低いものへと順に5段階に分けるとしたら、どのように分類しますか？それぞれについて、「最も高い」～「最も低い」のどれか1つを選んでください。

※深く考えず直感でお答えください

	最も高い	やや高い	ふつう	やや低い	最も低い
(1)大工	1	2	3	4	5
(2)大会社の 営業担当社員	1	2	3	4	5

(3)医師	1	2	3	4	5
(4)服飾デザイナー	1	2	3	4	5
(5)警察官	1	2	3	4	5
(6)学校の先生	1	2	3	4	5
(7)中小企業の 機械組立工	1	2	3	4	5
(8)農業	1	2	3	4	5
(9)パイロット	1	2	3	4	5
(10)商店の店員	1	2	3	4	5
(11)銀行員	1	2	3	4	5
(12)国会議員	1	2	3	4	5
(13)道路工夫	1	2	3	4	5
(14)市役所の課長	1	2	3	4	5
(15)大会社の課長	1	2	3	4	5
(16)公認会計士	1	2	3	4	5

質問は以上です。
ご協力ありがとうございました。

2 章 アルバイトの職業威信

アルバイトの職業威信

奥田 宗平

京都大学文学部 3 回 0100257910

本稿の目的は、学生にとっての、アルバイトの職業威信と肉体酷使度における相関性を発見し、正社員におけるそれらの相関性と比較することにある。先行研究から、職業全体（フルタイム、パートタイム全てを含める）では職業威信と肉体酷使度の関係は負の相関、すなわち肉体酷使度が高まれば職業威信が下がることが知られている（最近のデータでは 1995 年 SSM 調査による職業威信スコアよりその相関は見受けられる）。しかし、職業全体を正社員とアルバイトに分類しそれぞれにおいて当該事項の相関性について調査をすることはほとんどなされてこなかった。そこで本稿では、正社員とアルバイトそれぞれにおいて職業威信と肉体酷使度を調査し、その調査結果の比較検討を行った。その結果、正社員においては職業威信と肉体酷使度には相関が見られず、アルバイトにおいては負の相関を示すという結果が得られた。

1. はじめに

職業威信スコアの調査は性質上アンケートによる主観的な回答に頼る手法が一般に求められるが、回答者自身が比較および判断可能な材料を持っていなければ結局は一般的判断に落ち着くことになる。すなわち、何も知らない学生が正社員についての職業威信の判断を下す場合は、なんらかの一般的情報によることは免れ得ず、具体的には「個人的に職業 A がえらいと思う」ではなく「一般的に職業 A はえらいと評価されていたはずだ」といった評価となることは避けられないと予想される。そこで、学生が経験可能であるため判断材料を獲得することができるアルバイトにおいて職業威信を調査することは、学生に対して職業威信調査するにあたって妥当な方法であるとい

える。よってアルバイトにおける職業威信を本稿の調査対象とした。

本調査の目的は正社員とアルバイトのそれぞれにおける相関性の比較であるが、私たちは両者の相関性には一定の違いが現れると考えた。その根拠は、第1に、そもそも正社員とアルバイトでは被雇用者の志向が全く異なるからである。すなわち、生活の中心をなす正社員と生活における2次的活動であるアルバイトでは、被雇用者がそれ自体に求めているものが大きく異なると考えられる。例えば、正社員では生活の必要性から給料が大きな魅力となることもあるだろう。しかし、アルバイトの場合は交際費や単なる好奇心などの様々な理由からなされている場合が多く、また職種によって給料に大きな差がないことから、正社員ほど給料に重心を置いて威信を判断することは考えにくい。また第2の根拠として、正社員では雇用に選抜を課す一方でアルバイトではどの職種にもほとんど選抜がなく自由になれる。そこでは、正社員では、待遇のよい職種は高倍率を勝ち残らなければならないものとして高く評価されるが、アルバイトでは、待遇の低い職種は誰もが避けるものとして高く評価される可能性がある。と推測することも可能である。

以上から私は以下のような仮説を設定する。すなわち、正社員とアルバイトでは肉体酷使度と職業威信の相関性が異なり正の相関を示す、である。

2. 調査方法

調査はアンケートにより行った。形式は選択回答の単一回答である。質問内容は、Q1で性別、Q2で年齢、Q3で職業威信、Q4で職業の肉体酷使度である。Q3では、職業威信は、「最も高い」「やや高い」「ふつう」「やや低い」「最も低い」の5段階で行い、Q4では「最もきつい」「ややきつい」「ふつう」「やや楽」「最も楽」の5段階で行った。

対象となる職業は正社員、アルバイトそれぞれ18個である。正社員は、医師、パイ

ロット、公認会計士、大会社の課長、警察官、大会社の営業担当社員、塾講師・家庭教師、農業、商店の店員、中小企業の機械組立工、レストランのキッチン、レストランのホール、道路工夫、大工、引越し業者、イベントスタッフ、牛丼店の店員、派遣社員である。アルバイトはそれぞれこれに対応させたものである。以下正社員と同順で、有資格薬局スタッフ、人力車、会計事務所の事務員、大手チェーン店のバイトリーダー、警備員、大型家電量販店の店頭販売員、塾講師・家庭教師、農業、商店の店員、工場の軽作業員、レストランのキッチン、レストランのホール、道路工夫、大工見習い、引越し業者、イベントスタッフ、牛丼店の店員、派遣アルバイトである。

Q3、Q4 に関しては、正社員とバイトを織り交ぜ、A 票、B 票の 2 種類のアンケート用紙を作成した（例えば、Q3 では A 票には 9 つの正社員と 9 つのアルバイト、B 票には残りの 9 つの正社員と 9 つのアルバイト、という形式。Q4 も同様）。

アンケートを回収した授業は、月曜 3 時間目の人文地理学、火曜日 2 時間目の人文地理学、金曜日 2 時間目の日本国憲法、月曜日 2 時間目のみんなの物理Ⅱである。A 票が 71、B 票が 75 で合計 146 票のサンプルを回収でき、有効サンプルは 144 票であった。

3. 調査結果

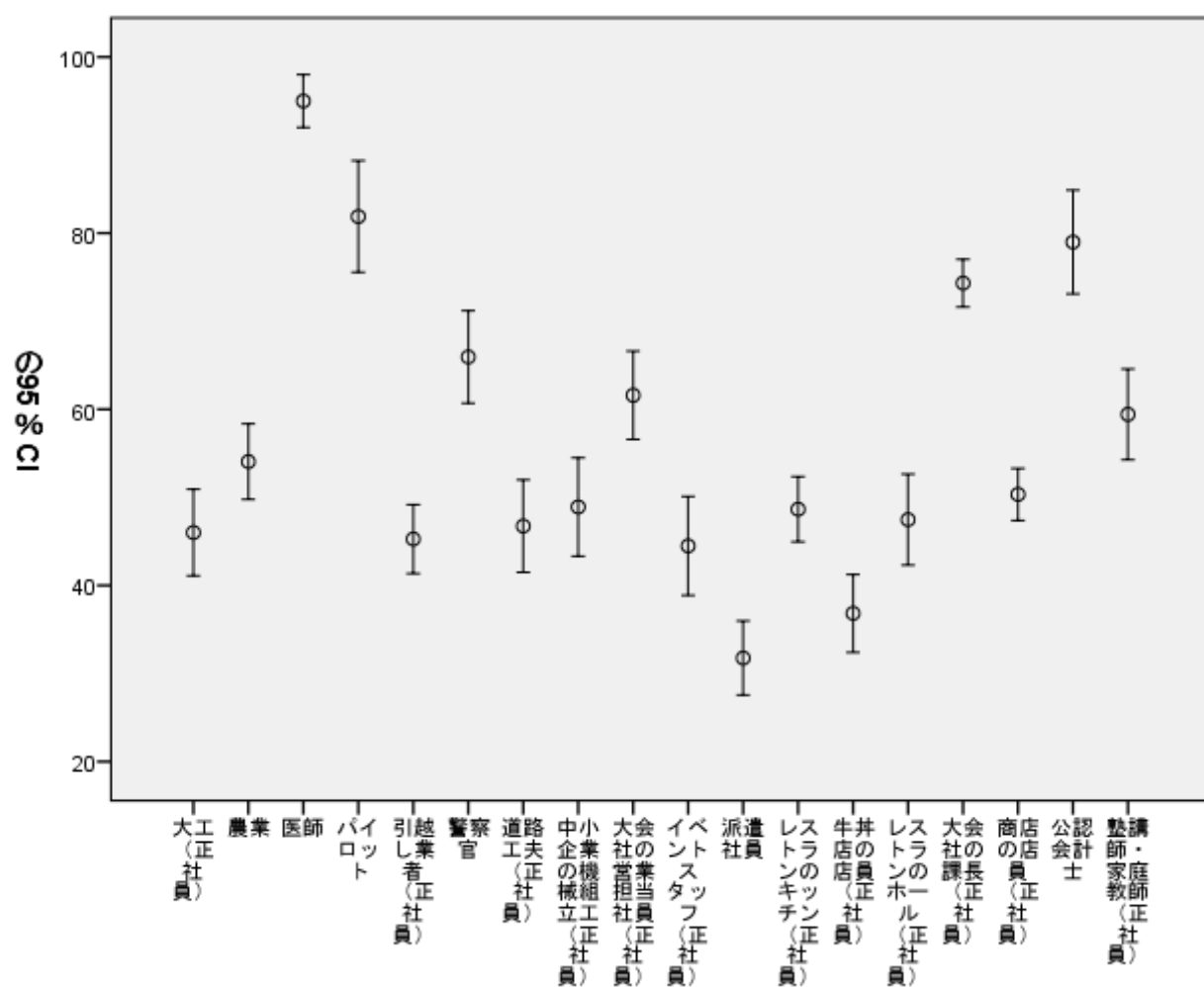


図 1

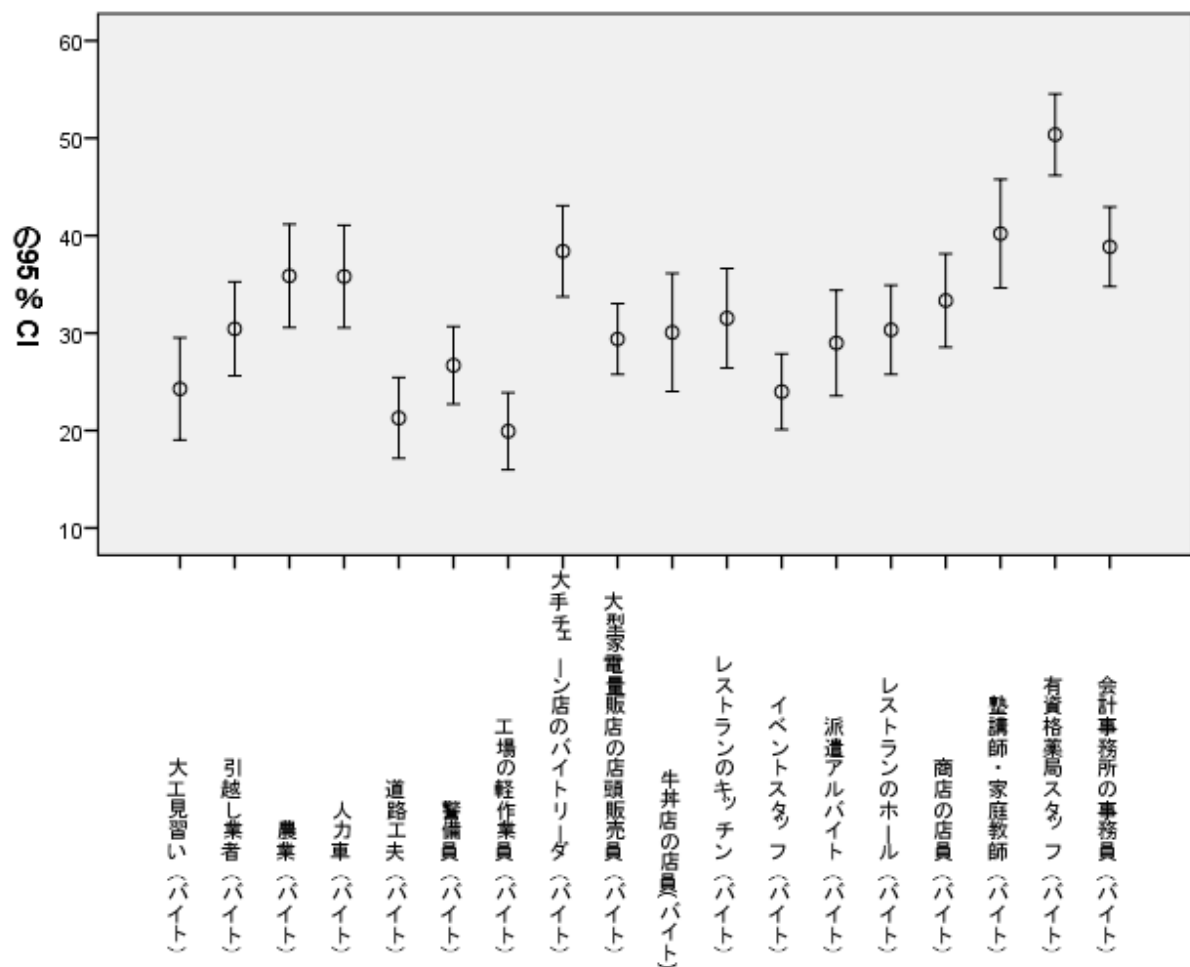


図 2

なお、両グラフの縦軸は職業威信であり、横軸は肉体酷使度を示す。縦軸は数値が大きくなれば威信が高まるとする。横軸は、左から右にいくにつれて肉体酷使度が低まるとする。

図 1 の正社員では、職業威信と肉体酷使度には相関関係が見られない。すなわち、仮説とは異なる結果が得られた。

図 2 のアルバイトでは、職業威信と肉体酷使度には負の相関が見られた。すなわち、仮説とは逆の結果が得られた。

4. 考察

本稿では、アルバイトにおいて仮説と異なる結果を得た一方で、結果として実際に私たちが調査を始める前提である、正社員では肉体酷使度と職業威信は負の相関を示す、という調査結果すら得られずに終わった。従来の調査で私たちが立てた前提が示されている以上、今回の調査方法に何らかの問題があったことは推測される。そこで、本考察では、本調査が従来の調査結果と異なる結果を示したことを、正社員の調査結果に沿って述べたい。アルバイトの調査結果に沿って調査結果の誤りについての言及を行うのを避けるのは、調査に当たっての前提および調査結果のいずれも調査者の予想であり、また当該事項については先行研究で行われてこなかった点から調査上の問題点を当該事項の観点から述べるのが困難だからである。

本調査の主な特徴は、調査対象が京都大学学部生に限定され、年齢が 19 歳から 20 歳に集中していること、である。本来正社員においては、肉体酷使度および職業威信において負の相関を示すと考えられていたが、本調査結果では相関が見られなかった。では、当該特徴がどのような影響を与えうるのか。

最も基本的なこととして、大学生でかつ 19 歳から 20 歳に集中しているという点は、回答者の多くが就職について意識が極めて低い段階である。よって何ら職業について情報がない中で職業威信や肉体酷使度について回答することは困難であり、結果として以上の結果が得られたと予想できる。従来の「社会階層と社会移動」全国調査のアンケート対象も 20 代からである点からも、調査では基本的に社会人が中心となるものであり、従来の調査ではある程度職業の肉体酷使度等について判断の基準となる情報を得ていたと考えられる。よって当該調査を学生にした点が当該調査結果の原因であったと考えられる。

また調査票自体の問題として 2 点あげられる。1 点目は、肉体酷使度について定義

を行わずに「きつい」等の選択を要求した点である。調査者側の意図としては、肉体酷使度とはいわゆるブルーカラー的な肉体労働を指していたわけであるが、実際には労働時間の不安定さなどに由来する「きつさ」もありそれは十分に肉体を酷使しているといえる。また単純に相関性を図る目的の調査であったため、そもそも調査票でアルバイトと正社員を混在させる必要はなかったともいえる。この混在も回答者側に何らかの影響を与えてしまった可能性は考えられる。2点目は、正社員とアルバイトとで対応させた職業があまりにもかけ離れていて不適切と思われるものがあった点である。パイロットに対して人力車を対応させたこと等である。このため回答者に一定の混乱を与えたほか、そもそも無関係のこの対応関係では調査結果に意味を見いだせない等の問題が発生することとなった。この点に関しては当該調査は京都大学社会学実習の講義内で行ったものであるが、他班と調査内容に一定の共通点を持たせる意味合い等から必要な措置ではあったが、本調査においては妨げになったことを言及せざるを得ない。

以上、本調査において、問題であったと思われる点について述べた。さて、従来のものとは異なる調査となったことは以上で説明したが、本調査の条件のもとでアルバイトの調査結果について言及することは可能であろう。アルバイトについては負の相関が見られた。威信で上位となったのは（図2より明らかだがこれらは同時に肉体酷使度で下位である）、会計事務所の事務員、薬局スタッフ、塾講師等であった。これらは明白に知識を要するものであることがわかる。また大工見習い、道路工夫等は職業威信が低く肉体酷使度が高い。これ以外については、肉体酷使度に差はあるものの、職業威信に大きな差異はないといえる。以上から、学生にとって当該2要素が負の相関を示した要因は、基本的に、会計事務所の事務員等および大工見習い等の存在が大きいといえる。さて、以上から回答者にとっては明らかに知識を要する職とわかるものに高い威信を与え、明らかに肉体労働色に強いものに低い威信を与えることは容易

であったが、その他の者については判断が難しかった可能性が考えられる。人力車、農業の2つについてのアルバイトは肉体酷使度が高い割にある程度高い職業威信を得られのち、両職業が稀なものであるため同様に判断が難しかった可能性が考えられる。

5. 終わりに

本調査では、アルバイトと正社員の肉体酷使度と職業威信の相関性を調査したが、前提となるはずの情報が調査上で正確に表れなかったので、調査方法自体の問題点を言及することを主にした報告書となった。本調査は従来の調査に特徴的な要素を加えて変化を予想する試みであったのだから、そもそも前提を従来の調査結果に置くこと事態が誤りであったことが理解される。

参考

「1995年版職業威信スコア表」『「社会階層と社会移動」全国調査(SSM95・A票)』

正社員とアルバイトの職業威信にはどのような差があるのか

久門 加奈

1. 研究背景

1.1 職業威信スコアと雇用形態

本稿は、正社員とアルバイトという雇用形態の違いが職業威信に影響を与えるのか、与えるとすればそれはなぜか、ということを考察する。

近年、「ブラックバイト」と言われる過酷な労働環境・労働条件のアルバイトが問題となっている。正規雇用者の労働環境・労働条件の改善は以前から取り組まれていたが、長時間労働や一方的なシフト勤務の割り当て、サービス残業、商品の強制買い取りなど、アルバイトにおいてもその必要性が叫ばれる。厚生労働省が 2015 年 11 月 9 日に発表した「大学生等に対するアルバイトに関する意識等調査結果」によると、学生の約 6 割がブラックバイトを経験していることが分かった。アルバイト等の非正規雇用者が増加している現代において、正規雇用者に比べ非正規雇用者の労働環境・労働条件は安定せず、その改善が遅れている。上述のように、非正規雇用に対する関心は高まっているが、これまで行われてきた職業威信研究は、正規雇用者であることを前提とする場合が多い。そこで本稿では、現代日本における職業に対する人々の評価の、評価対象の雇用形態（正社員・アルバイト）による違いを検証する。本稿の検証は、雇用形態による人々の評価の違いという新たなテーマを職業威信研究に与え、非正規雇用に対する世間の関心に応える可能性がある。

1.2 仮説の設定

もし正社員とアルバイトという雇用形態が人々の職業に対する評価に差をもたらす

とすれば、職業威信スコアにはどのような影響が見られるだろうか。ここでは2つの仮説をたてる。

第一の仮説は、同職業に就いていても、アルバイトの評定対象の方が正社員の評定対象よりも全体的に職業威信スコアが低くなる、というものである。通常、アルバイトの賃金や職場での地位は、正社員のそれよりも低い。そのためアルバイトの評定対象の方が全体的に低く評価されるのではないか。

第二の仮説は、正社員とアルバイトの職業威信の違いは肉体的な厳しさによる、というものである。一般的に職業威信の先行研究においては、ノンマニュアルの職業威信が高く、マニュアルの職業威信が低くなる傾向が認められてきた。つまり正社員の場合、体力的に厳しい職業ほど威信が低くなると考えられる。しかし、アルバイトにおいては逆に、体力的に厳しい職業ほど威信が高くなるのではないかと推測する。なぜならアルバイトは複数の職種を経験することが容易で、大学生であれば他の職業のアルバイト経験を周りから聞く機会も多い。そのためアルバイトは正社員に比べ個々の職業内容に共感しやすい。つまりアルバイトの場合、体力的な厳しさは尊敬を得ることにつながり、威信が高くなると考えられる。

2. 方法

2.1 調査対象

この調査は2015年10月、京都大学において、以下の全学共通科目を受講した学生を対象に、質問紙を用いて行われた。

- ・人文地理学各論Ⅰ(都市) 10月19日(月)3限
- ・人文地理学 10月20日(火)2限
- ・日本国憲法 10月23日(金)3限

上右記の実施日において、当日の授業内で簡単な趣旨説明を行い、その場で調査票を配布・回収した¹。学部共通科目での配布は、一度に大人数の回答を得るため、また学部・学年に囚われない多様な回答者を得るためである。

2.2 調査票

調査票は、B4用紙片面に以下の質問項目を記載したものを配布した。

Q1.性別

Q2.年齢

Q3.「正社員・アルバイトの職業の地位」の高低

Q4.「正社員・アルバイトの職業について肉体的な厳しさ」の高低

調査対象職業は、まずSSM調査を元に、職業威信が均等に分散することが見込める18の職種を抽出した。そしてそれぞれに、例えば「大工（正社員）」・「大工見習い（バイト）」のように正社員とアルバイトを対応させ、計36の職業について調査を行った。また、A票とB票という2種類の調査票を作成し、回答者にはいずれか一方を無作為割り当てに近くなるよう配布した。²

回収数はA票が71、B票が75であり、そのうち有効サンプル数はA票が69、B票が75の計146である。

¹ 授業履修者全員ではなく、各実施日に受講していた学生にのみ配布した。

² A票において正社員の地位を訪ねた職業は、B票ではアルバイトの地位を訪ねるようにした。またAB票とも、正社員の評価対象とアルバイトの評価対象が互い違いに並ぶように配置した。この設計により、1人の回答者が同職業についている正社員とアルバイトを直接比較することを避けた。直接比較を可能にすると、回答者が直観的な評価をせず、意図して正社員とアルバイトに差をつけたり、なくしたりする可能性があるためだ。

3. 分析結果

アンケートでは、職業威信・肉体的な厳しさ共に、5段階で尋ねている。

職業威信（肉体的な厳しさ）スコアは、「最も高い（最も厳しい）」を100点、「やや高い（やや厳しい）」を75点、「ふつう」を50点、「やや低い（やや厳しくない）」を25点、「最も低い（最も厳しくない）」を0点として、分析対象者全員の平均値によって求めた。

表1 正社員の職業威信と肉体的な厳しさ		
	職業 威信	肉体的な 厳しさ
医師	95.00	80.88
パイロット	81.88	79.73
公認会計士	78.99	48.65
大会社の課長	74.32	51.10
警察官	65.94	76.01
大会社の営業担当社員	61.59	62.16
塾講師・家庭教師	59.42	45.61
農業	54.05	81.62
商店の店員	50.34	49.26
中小企業の機械組立工	48.91	65.88
レストランのキッチン	48.65	53.68
レストランのホール	47.46	51.69
道路工夫	46.74	74.66
大工	46.00	87.87
引越し業者	45.27	77.94
イベントスタッフ	44.49	55.41
牛丼店の店員	36.82	52.57
派遣社員	31.76	55.15
平均	56.54	63.88

表2 アルバイトの職業威信と肉体的な厳しさ		
	職業 威信	肉体的な 厳しさ
有資格薬局スタッフ	50.36	40.54
塾講師・家庭教師	40.20	41.91
会計事務所の事務員	38.85	38.97
大手チェーン店のバイトリーダー	38.41	57.53
農業	35.87	78.72
人力車	35.81	78.68
商店の店員	33.33	44.26
レストランのキッチン	31.52	53.38
引越し業者	30.43	79.39
レストランのホール	30.33	48.90
牛丼店の店員	30.07	53.72
大型家電量販店の店頭販売員	29.39	54.41
派遣アルバイト	28.99	51.35
警備員	26.69	63.60
大工見習い	24.28	86.49
イベントスタッフ	23.99	52.94
道路工夫	21.28	75.37
工場の軽作業員	19.93	59.56
平均	31.65	58.87

表1は正社員の職業威信・肉体的な厳しさスコアの平均値、表2はアルバイトの職業威信・肉体的な厳しさスコアの平均値を、それぞれ職業威信の降順で示している³。正社員の職業威信では、SSM調査など多くの先行研究から予想された通り、医師が最も高い。最も低いのは派遣社員で、これは近年劣悪な労働条件が注目されたためであると推測する。アルバイトの職業威信では、医師の同職種と仮定した有資格薬局スタッフが最も高い。最も低いのは工場の軽作業員である。職業威信・肉体的な厳しさの平均スコアは共に、アルバイトが正社員を下回っている。

3.1 仮説1の検証

表3 正社員とアルバイトの職業対応

	正社員	アルバイト
①	医師	有資格薬局スタッフ(バイト)
②	パイロット	人力車(バイト)
③	公認会計士	会計事務所の事務員(バイト)
④	大会社の課長	大手チェーン店のバイトリーダー
⑤	警察官	警備員(バイト)
⑥	大会社の営業担当社員	大型家電量販店の店頭販売員(バイト)
⑦	塾講師・家庭教師(正社員)	塾講師・家庭教師(バイト)
⑧	農業	農業(バイト)
⑨	商店の店員(正社員)	商店の店員(バイト)
⑩	中小企業の機械組立工(正社員)	工場の軽作業員(バイト)
⑪	レストランのキッチン(正社員)	レストランのキッチン(バイト)
⑫	レストランのホール(正社員)	レストランのホール(バイト)
⑬	道路工夫(正社員)	道路工夫(バイト)
⑭	大工(正社員)	大工見習い(バイト)
⑮	引越し業者(正社員)	引っ越し業者(バイト)
⑯	イベントスタッフ(正社員)	イベントスタッフ(バイト)

³ 質問票では、職業名の後ろに括弧で雇用形態情報(正社員・アルバイト)を付している。

⑪	牛井店の店員(正社員)	牛井店の店員(バイト)
⑫	派遣社員	派遣アルバイト

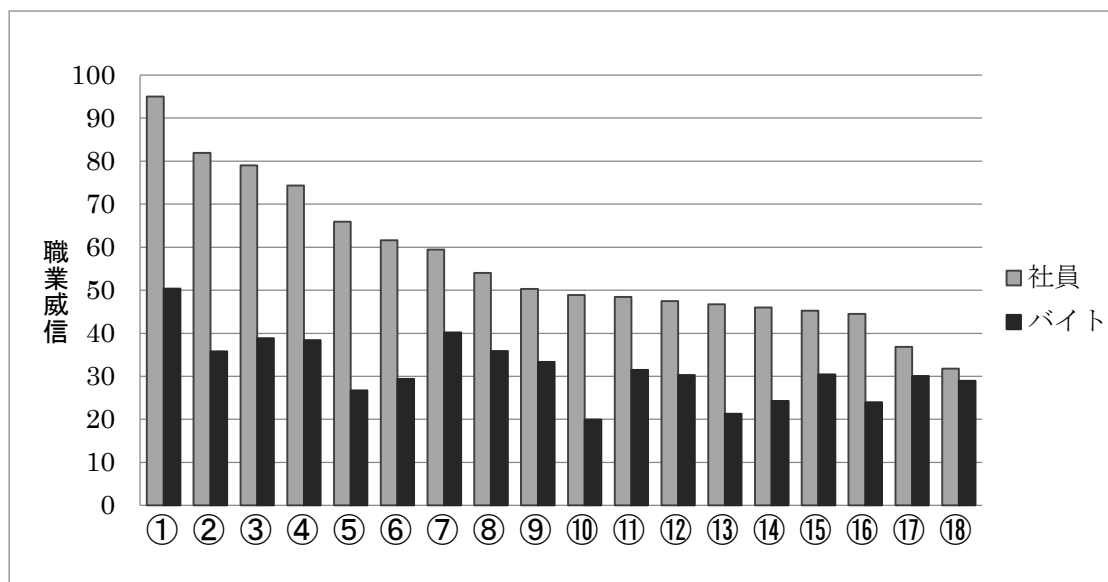


図1 正社員とアルバイトの職業威信比較

表3は、仕事内容を考慮し、正社員の職業に対応させたアルバイトの職業を示している。図1より、すべての職種において正社員がアルバイトを上回っていることが分かる。また、正社員の職業威信スコアとアルバイトの職業威信スコアの差をt検定した結果、全18種のうち16の職種において10%水準で有意な差が認められた。よって同職種に就いていてもアルバイトの評定対象の方が正社員の評定対象よりも全体的に職業威信が低くなることが検証された。

3.2 仮説2の検証

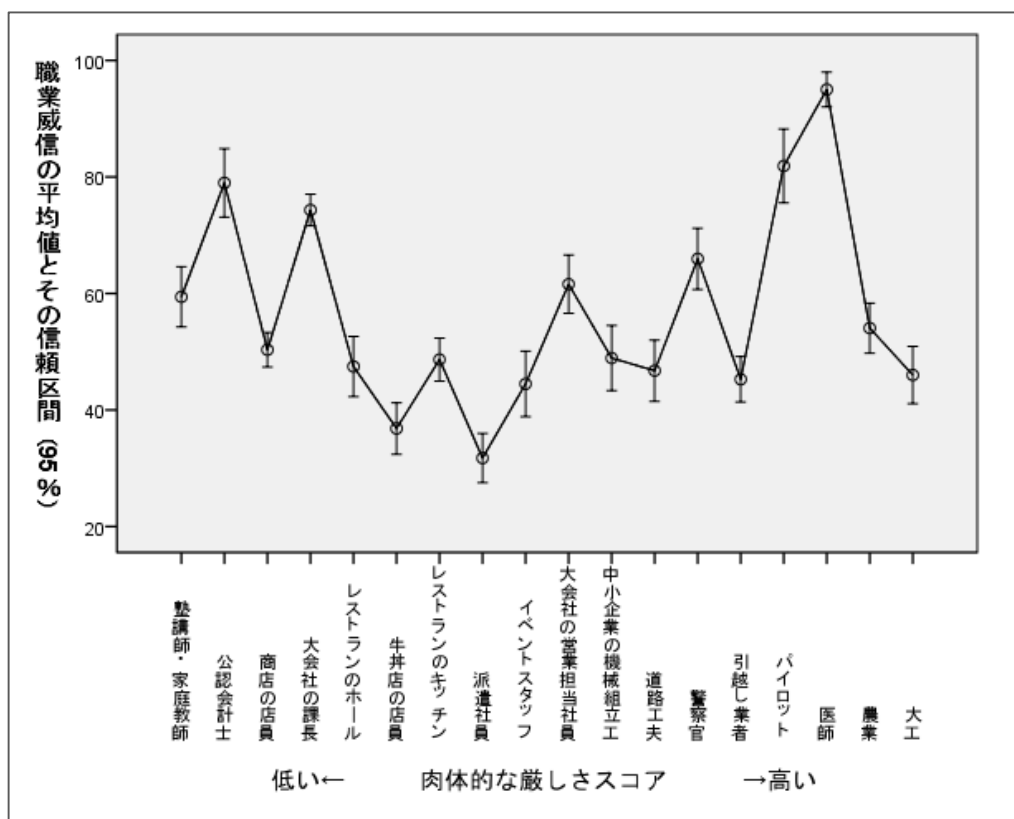


図2 正社員の職業威信の平均

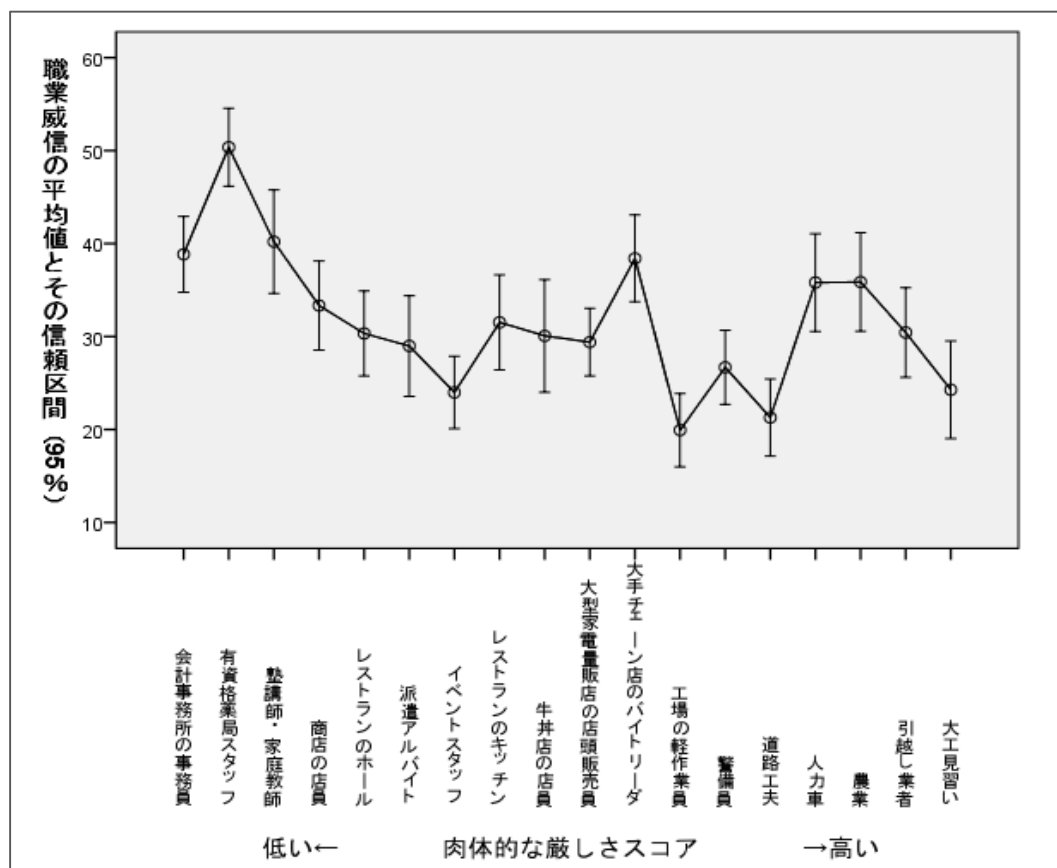


図3 アルバイトの職業威信の平均値

図2と図3は、横軸によって職業の肉体的な厳しさスコアの順を、縦軸によって職業威信スコアの平均値と95%信頼区間⁴を示す。

仮説が正しければ正社員は肉体的な厳しさスコアが高いほど威信が低くなるため、グラフは右肩下がりになるはずだが、図2にそのような傾向は見られず、規則性も無い。特に職業威信の最も高い医師は、予想に反して肉体的な厳しさスコアが高いことも見て取れる。また、アルバイトは肉体的な厳しさが高いほど威信も高くなると仮定

⁴ 母集団の平均値が95%の確率でバーの範囲内にあることを示している。

し、グラフは右肩上がりになると予想していたが、図3の通り、むしろグラフは右肩下がりと言える。大工見習いや引っ越し業者のような、肉体的厳しさスコアの高い職業の威信が低くなっている。

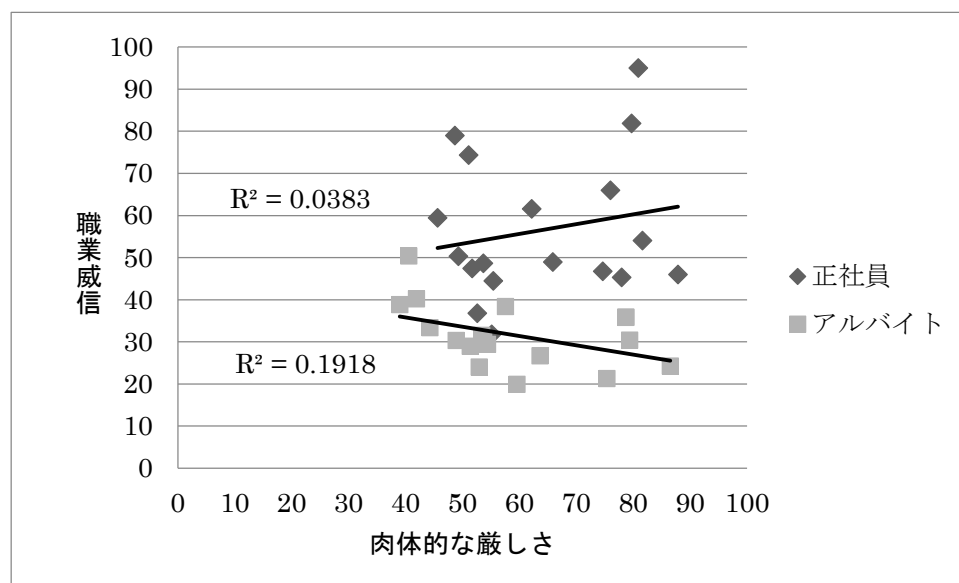


図4 職業威信と肉体的な厳しさの相関関係

図4は、肉体的な厳しさを独立変数、職業威信を従属変数とした時の2つの関係の散布図である。正社員、アルバイト共に相関係数⁵は小さく、職業威信と肉体的な厳しさの間に相関があるとはいえない。正社員はばらつきが大きいことも見て取れる。また、回帰直線の傾きは、先行研究より正社員が負、仮説よりアルバイトが正となることを予想していたが、それぞれ逆の傾きとなっており、仮説2は否定された。

⁵ 相関係数は-1から1までの値をとり、-1は負の相関、1は正の相関、0は相関がないことを表わす。正社員における相関係数は0.1956、アルバイトにおける相関係数は-0.4379であった。図4には相関係数Rを二乗した決定係数R²を表示している。(0 ≤ R² ≤ 1)

3.3 その他の分析結果

表4 正社員とアルバイトの職業威信のギャップ				
正社員		アルバイト		
	偏差値		偏差値	差
警察官	55.60	警備員	43.40	12.20
派遣社員	35.24	派遣アルバイト	46.46	-11.22
中小企業の機械組立工	45.46	工場の軽作業員	34.40	11.06
塾講師・家庭教師	51.72	塾講師・家庭教師	61.38	-9.67
牛丼店の店員	38.26	牛丼店の店員	47.90	-9.64
パイロット	65.09	人力車	55.54	9.55
道路工夫	44.16	道路工夫	36.19	7.97
農業	48.52	農業	55.62	-7.10
大会社の営業担当社員	53.01	大型家電量販店の店頭販売員	46.99	6.02
商店の店員	46.31	商店の店員	52.24	-5.93
引越し業者	43.29	引越し業者	48.38	-5.09
レストランのキッチン	45.30	レストランのキッチン	49.83	-4.53
公認会計士	63.37	会計事務所の事務員	59.59	3.78
レストランのホール	44.59	レストランのホール	48.24	-3.65
大工	43.72	大工見習い	40.19	3.54
イベントスタッフ	42.82	イベントスタッフ	39.80	3.02
医師	72.90	有資格薬局スタッフ	74.91	-2.01
大会社の課長	60.59	大手チェーン店のバイトリーダー	59.00	1.59
平均	50.00	平均	50.00	0.00

表4は、正社員とアルバイトの職業威信の平均がそれぞれ50となるときの偏差値スコアと、対応する職業の正社員とアルバイトのスコア差を示し、差の絶対値の降順に並んでいる。偏差値を求めたことにより、正社員群とアルバイト群の分散・平均の差が無くなり、各職業の威信スコアを比較することができる。同職業に就く正社員とアルバイトの差（絶対値）が大きければ大きいほど、正社員群とアルバイト群でその職業の占める地位にギャップがある。正社員群における警察官ほど、アルバイト群において警備員は評価されておらず、正社員群における派遣社員に比べ、アルバイト群において派遣アルバイトは高く評価されていることが分かる。

4. 考察

4.1 分析結果の解釈

同職業に就いていてもアルバイトの評定対象の方が正社員の評定対象よりも全体的に低く評価されるという仮説は検証された。やはり雇用形態は人々の職業に対する評定に差をもたらすことが分かった。

一方、アルバイトの職業威信と肉体的な厳しさスコアには正の相関があるという仮説は検証されなかった。そのうえ、先行研究では肉体的に厳しい職業は職業威信が低いとされてきたが、本調査では正社員においても職業威信と肉体的な厳しさスコアに負の相関は見られなかった。したがって、マニュアルの職業は威信が低く、ノンマニュアルの職業は威信が高いという定説はもはや現代日本には通用しないと言える。というのも、現代は機械化が進み、マニュアルとノンマニュアルの境界線が薄くなっている。また、サービス業のようなどちらにも含まれない職業が増加しているため、マニュアル・ノンマニュアルという括りは現代日本の実情に適していないと考えられる。さらに、肉体的に厳しいイメージを受ける職業の変化も重要である。医師は、これまで肉体的には厳しくないと言われるノンマニュアルの分類だったが、本調査においては肉体的な厳しさスコアが3番目に高い。勤務時間の長さや不規則さのために、体力的に厳しいというイメージが一般に広まったと推測される。つまり、職業威信研究が開始された時代とは、世間の職業に対する肉体的な厳しさのイメージや労働の実情が変化していることが分かる。

4.2 今後の課題

本稿では各職業で正社員とアルバイトを対応させて比較を行ったが、正社員の職業に対応させたアルバイトの職業は、必ずしも適しているとは言えない。例えば、パイ

ロットと人力車のバイトなど、正社員とアルバイトで業務内容に大きく隔たりがある職業があった。また、正社員とアルバイトで偏差値の差が最も大きかった警察官／警備員は、対応関係として不適切であった可能性が高く、このデータによる分析は信憑性が薄い。派遣社員と派遣アルバイトなど、業務内容に大きな違いがないにも関わらず、偏差値の差が大きかった職業などについては、今後同職業として対応させる正社員とアルバイトをより綿密に設定・再調査したうえで、分析を行いたいと考える。

参考文献・資料

厚生労働省 HP, 報道・広報 「大学生等に対するアルバイトに関する意識等調査結果について」 www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000103577.html

太郎丸博, 2014, 「「先生」の職業威信 【特集】「先生」の働き方：はじめに」『日本労働研究雑誌』 No. 645 : 2-5.

脇田彩, 2012, 「職業威信スコアのジェンダー中立性—男女別職業評価調査に基づく一考察—」『ソシオロジ』 57(2) : 3-18.

アルバイトの職業威信—肉体的厳しさとの相関関係—

佐藤 みのり

文学部 4 回生社会学専修

1. はじめに

社会階層と社会移動というのは、長きにわたって社会学の関心の対象となってきた。社会階層の調査法は様々に存在するが、中でもかなり信頼性が高いと言われているのが、「職業威信」という概念である。この論文は、大学生の通念として、アルバイトの職業威信は正規雇用の職業威信とどのように異なるか、そしてその差異が肉体的な厳しさによって左右されているのかどうかを検証したものである。

今回我々が上記の調査を行った理由として、主に、現代の日本社会において、アルバイトの職業威信を調査することへの必要性が高まっていることが挙げられる。太郎丸（2014）によると、そもそも「職業威信」というのは、個々の職業の一般的な望ましさや地位の高さを示すものである。この定義に従えば、正規雇用の職業威信だけではなく、当然アルバイトといったパートタイムの職に対しても職業威信というものは存在するはずである。現代の日本に置いて、労働者に占める非正規雇用の割合は年々増えており、2014 年では 37%を上回る。¹したがって、これから日本の社会階層を研究するにあたって、非正規雇用の職に対する職業威信はますます研究価値を帯びてくるものであり、職業威信スコアを検討してみる必要があるのではないかと考えた。

今回、我々は調査を実施するに当たって次のような 2 つの仮説を立てた。1 つ目は、学生にとって、社員とアルバイトでは、同じ職業であっても職業威信が異なるのではないか、というものだ。2 つ目は、社員とアルバイトの同職業観における職業威信の差異は、肉体的な厳しさに左右される。すなわち、アルバイトに関しては、肉体的に厳しいほど

¹ 厚生労働省『「非正規雇用」の現状と課題』

職業威信が高くなるのではないかと、というものである。これは、学生にとって、アルバイトの職業威信は身近な人から見聞きした情報によって形成されるものであり、学生は、様々な選択肢の中から肉体的に厳しいアルバイトをこなす人に対して敬意を持っているのではないかと仮定したためである。本論文ではまず調査方法について述べたのちに調査結果を説明し、仮説の検証を進めていく。

2. 調査方法

今回は京都大学の学生を対象にアンケートを実施した。アンケートの対象となったのは、「人文地理学（月曜 3 限・火曜 2 限それぞれ別授業）」「日本国憲法（金曜 2 限）」「みんなの物理（月曜 2 限）」の 4 つの授業の受講生である。この授業は全て 1・2 回生向けの全学共通科目であるため、平均年齢は京大生全体で見た時よりも若めの 19.3 歳である。サンプル数は計 146 だった。そのうち有効サンプル数は 144 だった。

調査票における調査項目は 2 つである。1 つ目は設問に挙げられた職業に対する職業威信を問うものであり、2 つ目は肉体的厳しさを問うものである。それに対応するよう設けた設問は年齢・性別のほか 2 つある。1 つ目は 18 の職業について、職業威信スコアを「最も高い」を 1 として、「最も低い」を 5 とする 5 段階評価でつけてもらうものである。2 つ目の質問は、18 の職業について、肉体的な厳しさを「最もきつい」を 1 として、「最も楽」を 5 とする 5 段階評価でつけてもらうものである。今回取り上げた職業一覧は表 1 の通りである。社員に対応するアルバイトの職業は、適宜考えた上で、表 1 のように対応させた。また、本調査では調査票を A 票、B 票の 2 種類用意しており、これは、同じ質問を社員とアルバイトの両方で行う必要があるためである。たとえば、A 票で大工（社員）の職業威信を聞いた場合は B 票で大工見習い（バイト）の職業威信を尋ねている。A 票で社員のみ、B 票でバイトのみに関して質問するのではなく、AB 票共に社員とバイトの項目が半分ずつ混ざっている。これを交互に混ぜて配り、A 票と

B票のサンプル数に差が出ないように配慮した。(A票71枚、B票75枚)

表1：職業一覧

社員	アルバイト
医師	有資格薬局スタッフ
パイロット	人力車
公認会計士	会計事務所事務員
大会社の課長	大手チェーン店のバイトリーダー
警察官	警備員
大会社の営業担当	大型家電量販店の店頭販売員
塾講師・家庭教師	塾講師・家庭教師
農業	農業
商店の店員	商店の店員
中小企業の機会組立工	工場の軽作業員
レストランのキッチン	レストランのキッチン
レストランのホール	レストランのホール
道路工夫	道路工夫
大工	大工見習い
引っ越し業者	引っ越しバイト
イベントスタッフ	イベントスタッフ
牛丼屋の店員	牛丼屋の店員
派遣社員	派遣アルバイト

3. 結果

まず、単純集計表の結果から見ていく。図1・2は社員・アルバイトについての職業威信スコアを高いものから順に並べたものである。これを見ると、社員において威信スコアの最も高いものは医師であり、最も低いものは派遣社員であることが分かる。アルバイトにおいては、最も威信スコアが高いのは有資格薬局スタッフで、最も低いのは工場の軽作業員という結果になった。

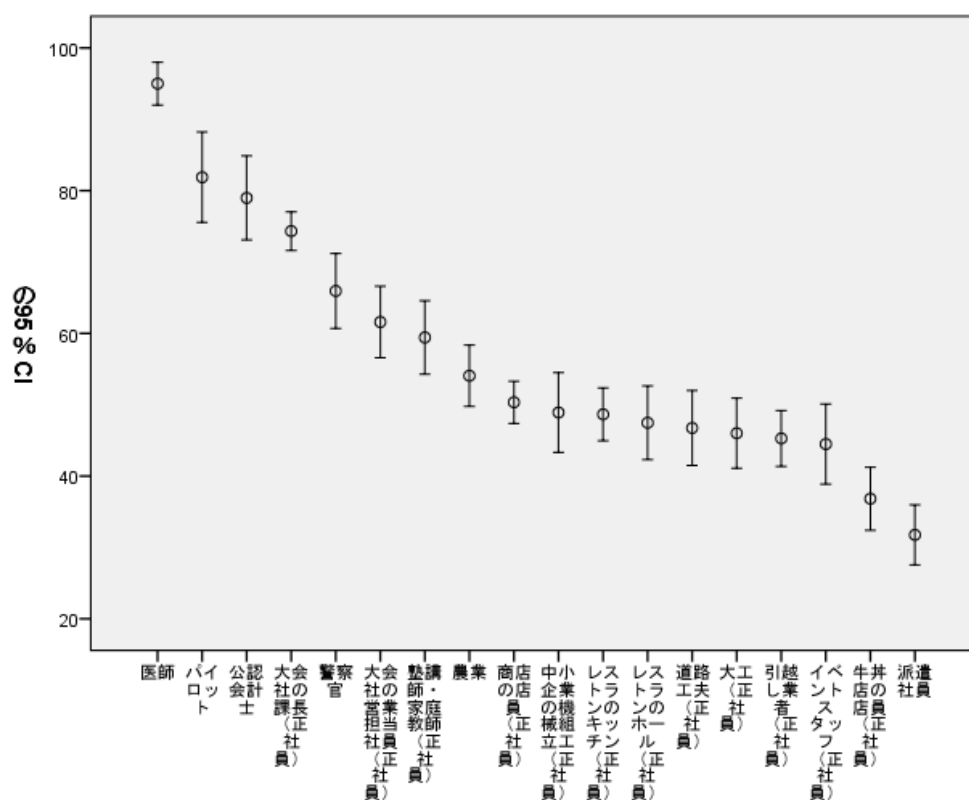


図1 職業威信スコア（正社員）

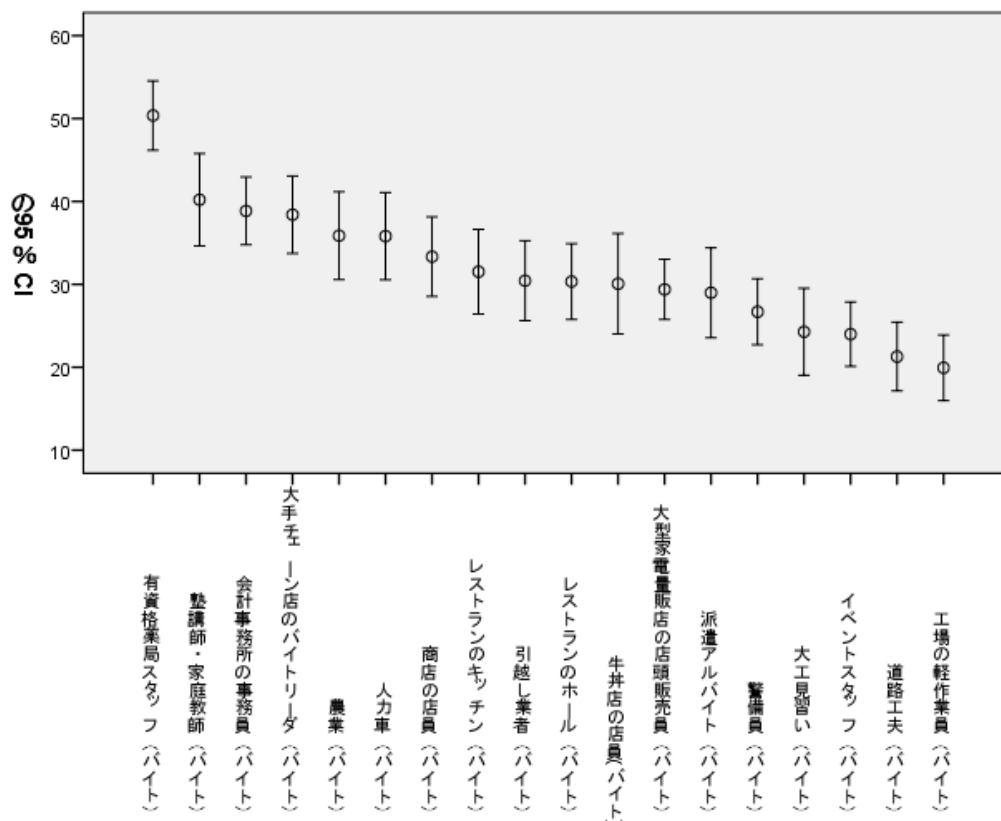


図2 職業威信スコア (パート)

図3・4は肉体的厳しさについての社員・アルバイトの肉体的な厳しさのスコアを高いものから順に並べたものである。これを見ると、社員において最も肉体的にきつと考えられたのは大工で、最も楽だと考えられたのは塾講師・家庭教師であった。アルバイトにおいて最も肉体的にきつと考えられたのは大工見習いであり、最も楽だと考えられたのは会計事務所の事務員という結果となった。

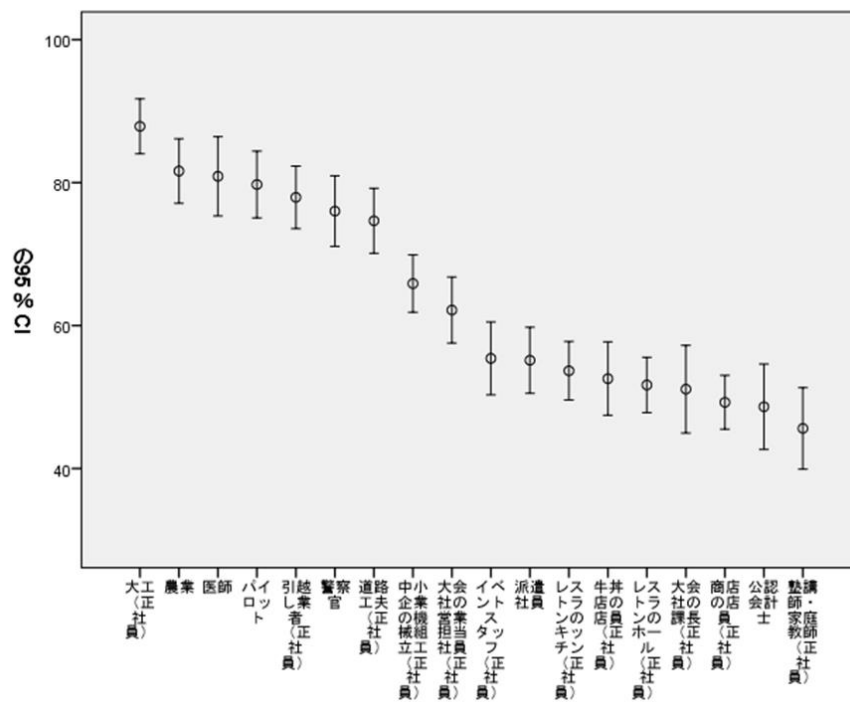


図3 肉体的厳しさ (社員)

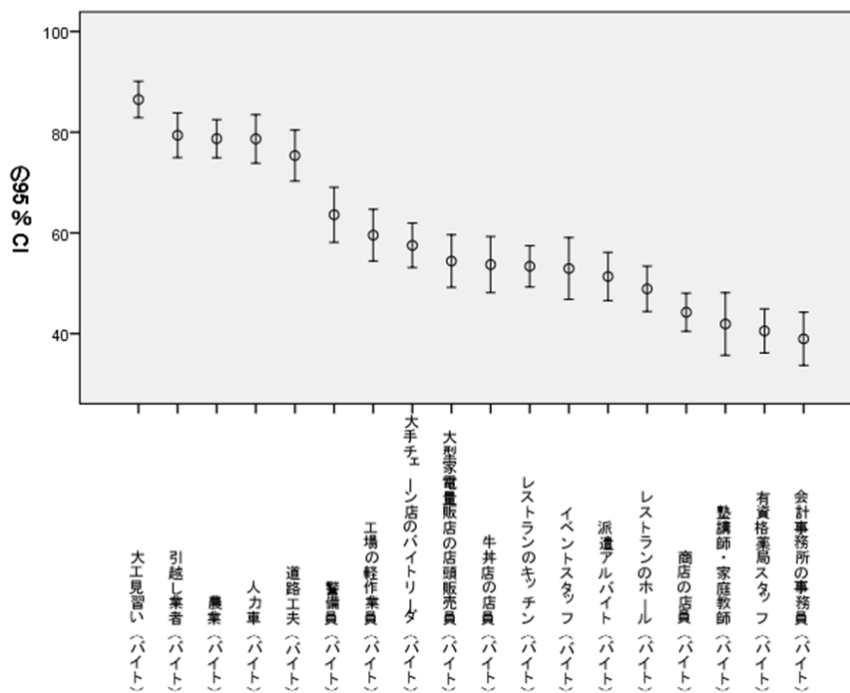


図4 肉体的厳しさ (バイト)

次に仮説の検証に移る。1つ目の仮説は、同じ職業であっても社員とアルバイトでは職業威信は異なるのではないか、というものだった。結果は図5が示す通りで、社員の職業威信スコアの順位と、同職業のアルバイトの職業威信スコアの順位は全く一致していないことが分かる。ここから、「社員とアルバイトの職業威信は異なる」という仮説は正しいと言える。

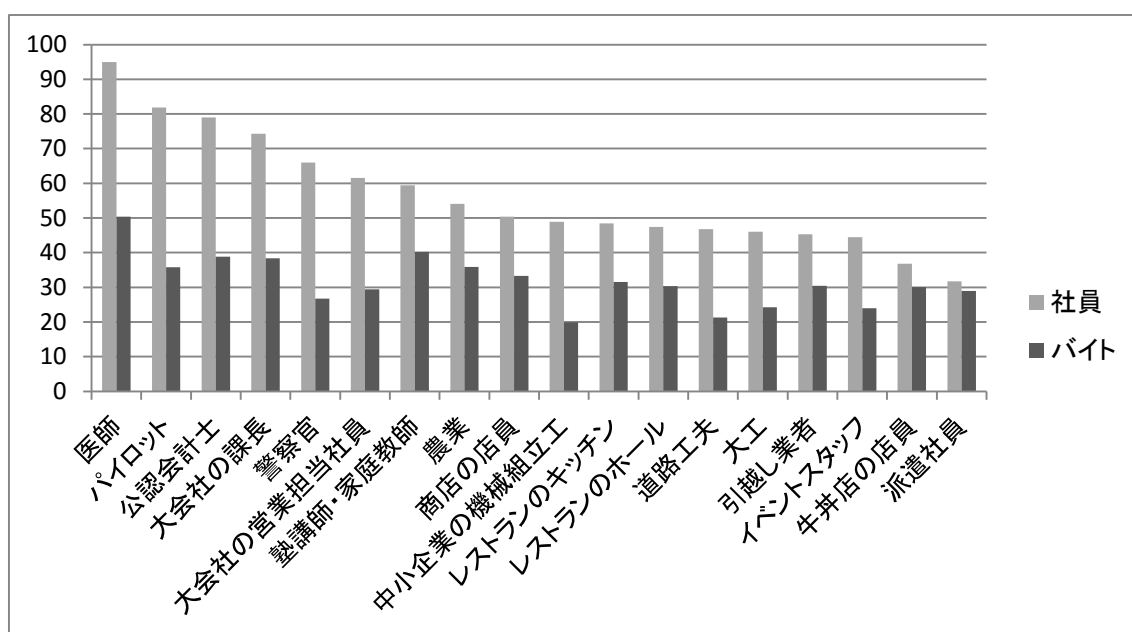


図5 職業威信の比較

次に、2つ目の仮説は、社員とアルバイトの同職業観における職業威信の差異は、肉体的な厳しさに左右される。すなわち、アルバイトに関しては、肉体的に厳しいほど職業威信が高くなるのではないか、というものであった。図6の下段はアルバイト

における肉体的厳しさのスコアを高かったものから、左から順に並べたものである。

上段はその職業の職業威信を示したものである。この図によると、肉体的厳しさと職業威信の高低は比例することなく、M字型に変化している。言い換えると、肉体的に厳しければ厳しいほど職業威信が高い、ということはこの図からは読み取ることはできない。よって、2つ目の仮説は正しいとは言えない。

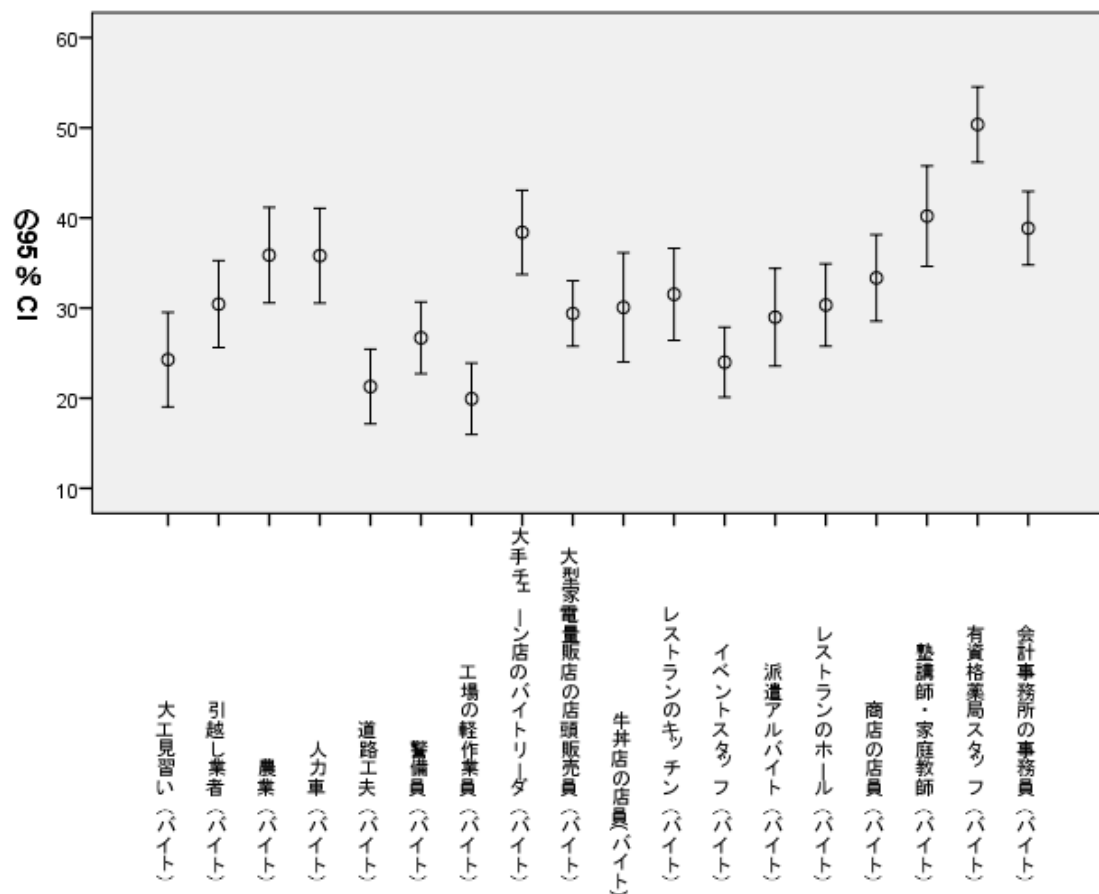


図6 肉体的厳しさと職業威信の関係

4. 考察

アルバイトの職業威信というテーマの下、大学生を対象とした今回の調査をするにあたって、我々が立てた仮説は次の2つであった。1つ目は、学生にとって、社員とアルバイトでは、同じ職業であっても職業威信が異なるのではないか、というものだ。2つ目は、社員とアルバイトの同職業観における職業威信の差異は、肉体的な厳しさに左右される。すなわち、アルバイトに関しては、肉体的に厳しいほど職業威信が高くなるのではないか、というものだった。調査の結果、前者はその通りとなり、後者は全く異なるもの、つまり、アルバイトの職業威信は肉体的厳しさと必ずしも比例しない、ということが分かった。

今回の調査においては、結果を制限してしまうような要素があった。それは、調査対象者が京都大学の学生だけであったということである。そもそも仮説の前提として、我々は、アルバイトの職業威信は身近な人から見聞きした情報によって構成されると考えていた。しかし、アルバイトの選択は学歴によって偏りが見られる。例えば、高学歴な大学の学生は塾講師や家庭教師をアルバイトとして選択する割合が高くなり、逆に肉体的にきつい居酒屋や工事現場などのアルバイトを選択する割合は低くなる。考えられるのは、そもそもサンプルとなった学生たちの周りに、肉体的に厳しいアルバイトとして上位に挙げたアルバイトをしている人が少ない、あるいは全くいないという可能性である。この場合は、学生たちが肉体的厳しさと職業威信を関連付けて考えるためのそもそもの根拠となる知識や情報が入っていないということである。従って、もし京都大学の枠を超え、あらゆるランクの大学を横断的に網羅したサンプルを確保し同様の調査をすることができれば、そこから得られる結果は、より仮説に近いものになるのではないだろうか。

今回の調査では上記のような制限から、仮説は示されなかった。しかし、アルバイトの職業威信を肉体的厳しさの観点から分析すること自体に意義が無いとは必ずしも言えない。今後、たとえば京大とは異なるアルバイト選択傾向を持つ大学群の学生に

同様の調査をし、その結果を今回の結果と比較することで、新たな発見等があるのではないだろうか。その意味でも、仮説は実証されなかったものの、調査自体の価値自体は十分にあるものだったと言える。

参考文献・資料

厚生労働省『「非正規雇用」の現状と課題』

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11650000->

[Shokugyouanteikyokuhakenyukiroudoutaisakubu/0000103648.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11650000-Shokugyouanteikyokuhakenyukiroudoutaisakubu/0000103648.pdf)

(閲覧日：2015年12月21日)

太郎丸博, 2014.4, 「「先生」の職業威信」『日本労働研究雑誌』 No.645 (4月号), pp. 2-5

アルバイトの職業威信

石丸 亮

文学部 3 回生

Introduction

本稿の目的は、京都大学の学生におけるアルバイトの職業威信が、社員の職業威信と比較した場合、どのような差違を示すかを比較することである。大学生にとってアルバイトとは、生活にゆとりをもたらす小遣い稼ぎの手段である他、学外での交流を深め、また、社会へ出る前に「職」を体験する場として機能している。アルバイトは、日本の学生にとって、学業と同等、時として、それ以上の重要性を持つものである。しかしながら、従来の職業威信の研究では、フルタイムワークの職業ばかりに焦点が当てられ、学生のアルバイトに関する研究は軽んじられてきたように思われる。また、社会から隔絶された、ある種の閉鎖空間にいる学生が職業威信を判断するプロセスは社会人のそれとは異なると予想すると、興味深い結果が得られるのではないだろうか。具体的には、社員の職業威信は肉体労働の度合いが下がるほど高くなり、逆に、アルバイトの職業威信は肉体労働の度合いが上がるほど低くなる、という 2 つの仮説を立てた。一般的には、肉体酷使度が低く頭脳労働である職業(医者、パイロット、公認会計士等)は希少価値が高く、就業も難しいため職業威信が高くなると予想されるが、学生、特に一般的に学力が高いとされる京都大学の学生の間では、塾講師と言った頭脳労働は就業難易度が高くなく、希少性も低いので、頭脳という点において威信が評価されるのではなく、肉体酷使度が評価基準になるという反転した結果が出るのではないかと、というのが、この仮説を立てるに至った理由である。

アンケート調査の結果、仮説の正当性は認められなかった。社員の間では、職業威信と肉体酷使度の度合いに、相関関係は認められず、アルバイトの間では、むしろ肉体酷使度が低いほど威信が高くなるという結果が出た。

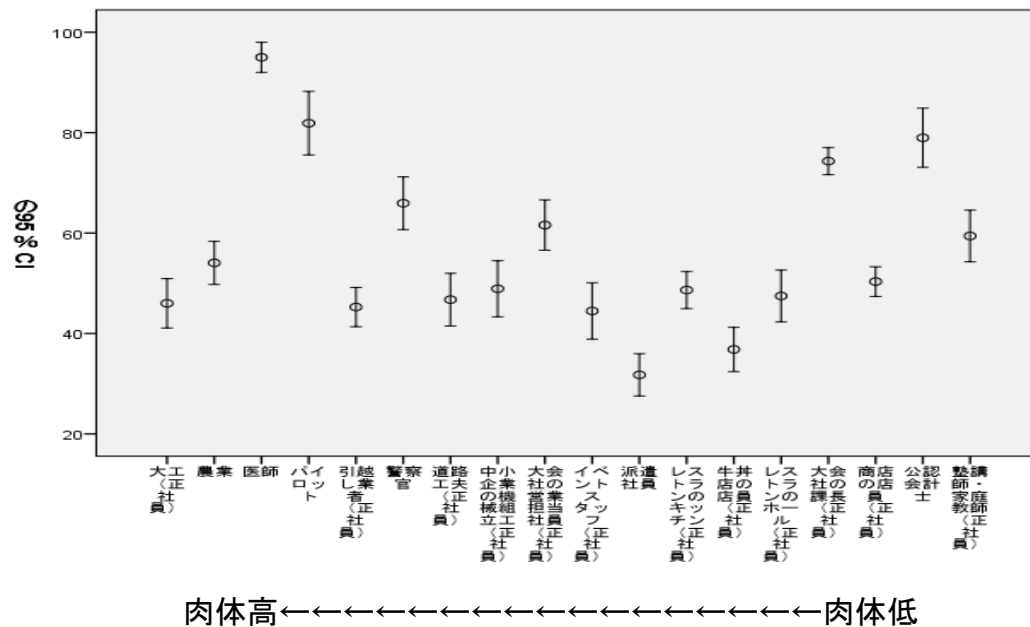
Method

データのサンプルは、例年人気で受講者数が比較的多いと思われる講義の授業後に、アンケートを配り、回答してもらうという形で収集した。威信を測る対象となった職業は、社員は、医者、公認会計士、パイロット、大会社の課長、警察官、大会社の営業担当社員、塾講師・家庭教師、農業、商店の店員、中小企業の機械組立工、レストランのキッチン、レストランのホール、道路工事従事者、大工、引越業者、イベントスタッフ、牛井店の店員、派遣社員である。それら正社員に対応するアルバイトは、大型家電量販店の店頭販売員、警備員、レストランのホール、道路工夫、会計事務所の事務員、塾講師、イベントスタッフ、工場の軽作業員、人力車、大工見習い、有資格薬局スタッフ、農業、商店の店員、大手チェーン店のバイトリーダー、牛井店の店員、派遣アルバイト、引越し業者、レストランのキッチンである。アンケートは結果に偏りが出ないように A 票と B 票に分けたものを 1 つの講義で無作為に配り、問 1 で性別、問 2 で年齢、そして、問 3 で社員とバイトの職業威信をそれぞれ「最も高い」「やや高い」「ふつう」「やや低い」「低い」の中から選んでもらった。講義名は、「人文地理学(月曜日 3 限と火曜日 2 限)」「日本国憲法」「みんなの物理」の計 4 つで、合計 146 個(A 票 71、B 票 75)のサンプルを回収した。そのうち、紛失 2 枚、Q4 を一切答えていない票 1 枚、最初の 3 問しか答えていない票 1 枚、性別年齢だけ空欄で他は答えている票 1 枚である。

Results

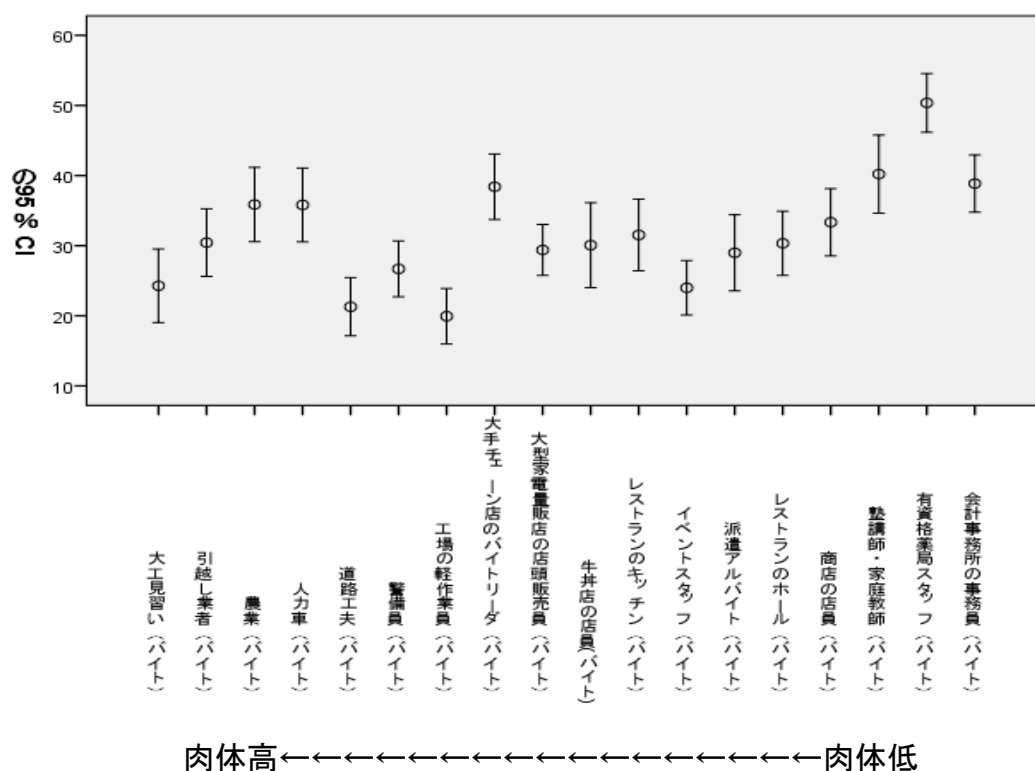
仮説とは大幅に異なる結果が出た。

まず、社員に関するデータでは、〈図 1〉に見られるように、職業威信と肉体酷使度の相関性は見られなかった。これは、肉体酷使度が下がるほど職業威信が高くなるという仮説と異なる。



〈図 1〉(縦軸は威信度)

また、アルバイトに関するデータでは、〈図 2〉に見られるように、相関関係があまり見られないどころか、肉体酷使度が上がるほど、職業威信が低くなる負の相関が見られ、これも正の相関が見られるという仮説と異なる。



〈図 2〉(縦軸は威信度)

よって、社員の場合には、肉体酷使度は職業威信と関係がなく、アルバイトの場合は肉体酷使度が職業威信に反比例するであろうことがわかる。

Discussion

今回の調査で最も予想外だったのは、社員の職業威信と肉体酷使度の間に相関性が見られなかったことだ。社員の職業威信は肉体酷使度と比例関係にあることを前提として、その上で、バイトと肉体酷使度の相関を調べるという手順で調査を進める予定だったので、両方の結果が仮説と異なったのは番狂わせであった。以下では、その理由についての考察を行う。

まず、社員についてであるが、これは被調査者が職業威信において、肉体酷使度を重視してなかったことの現れであるか、もしくは被調査者それぞれの肉体酷使度に対する認識に

まとまりがなかったかのどちらかである。私個人は後者の方であると予想している。例えば肉体的な厳しさに基づいて威信を判断していたとしても、それぞれの職業がどれほどの酷使度を持つかということに関して、被調査者全員がバラバラの意見を持っていれば、〈図 1〉のように相関性のないグラフができてもおかしくはない。「肉体酷使度」とはあくまでも絶対的なものではなく、個人の相対的判断に他ならない。どの職業がどれほど肉体的に厳しいかを示す情報が、メディアなりを通して社会的なコンセンサスになっていないために、個人の認識にバラつきがあるのではないだろうか。まして、まだ社会に出ていない大学生は様々な職業に関する知識が社会人以上に欠落しているはずなので、認識に更なるバラつきがあるかもしれない。

一方で、バイトであるが、これはバイトの肉体酷使度についてある程度まとまった認識が京大生の間で共有されており、なおかつ肉体的に厳しい職業ほど威信は低いと考えられていることの証左であるといえないだろうか。

大学生同士の交流範囲を決定づけるのは、所属するサークルや専攻科目であり、アルバイトの職種ではない。つまり、同じコミュニティの中で様々なバイトの情報を得ることができ、なおかつバイトは社員の職業より専門性が低くなるので、1人の学生が様々な職を体験できる。よって、それぞれの職の肉体酷使度に関してもまとまった認識が生まれやすいのではないだろうか。今回の調査で得たデータだけでは断言できないが、学生達が肉体酷使度とは無関係に職業威信を回答したと考えづらい。

また、調査設定にも問題があったといえる。本調査では、社員の職業威信の調査と、社員に対応するバイトの仕事の職業威信の調査を行なっている。例えば、正社員の塾講師にはバイトの塾講師が対応している。しかしながら、パイロットをバイトに置き換えたものが人力車であったり、医者に対応するバイトが有資格薬局スタッフであったりして、そもそも調査を行うための前提に多少無理があったといえる。これが調査結果にどれほどの影響を与え

たかは把握できないが、調査の精巧性を著しく欠く理由となった可能性はある。

最後にもう一度まとめると、社員の職業威信は肉体酷使度に反比例し、バイトの職業威信は比例するという仮説を立てたが、両方の仮説とも誤りで、前者は相関性がなく、後者は反比例するという結果が出た。これらは、肉体酷使度に関する学生間の認識のバラつき、またはまとまりが理由ではないかと予想される。

アルバイトと正社員の職業威信

谷口 祐那

1. 問題設定

1.1 研究背景

本稿では、アルバイトと正社員における職業威信にどのような差が生まれるのか、またその差は何に起因しているのかを考察する。

職業威信についてはすでに多くの研究が蓄積されている。しかし、ほとんどの調査において、対象とされる職業は正規雇用であることを前提としている。そのため、非正規雇用の職業威信については十分な考察がされていない。近年、非正規雇用労働者は増加傾向にあり、全体に占める非正規雇用の割合は約4割にものぼる。また、最近ではアルバイトの労働条件、労働環境の悪化が社会問題になり、いわゆる「ブラックバイト」は研究の対象となり始めた。そこで、本稿では非正規雇用の中でも特にアルバイトに焦点を当て、正社員とアルバイトで職業威信スコアにどのような差が現れるのかを検討する。本稿の意義は、非正規雇用の割合が増加している現代において、正規雇用と非正規雇用に対する評価の違いを考えるための材料を提供すること、そして職業威信の研究に新たな視点を加えることにある。

1.2 仮説

まず、正社員の職業威信よりアルバイトの職業威信の方が全体として低くなると考えられる。責任の重さや収入の違いから、一般に非正規雇用は正規雇用より社会的地位が低いと認識される傾向がある。それゆえ、たとえ実際には同じような業務内容であっても、アルバイトは正社員より職業威信が低くなると思われる。

次に、個々の職業の威信を検討するにあたって、本稿では仕事内容の肉体的な厳しさという点に着目した。先行研究によれば、ブルーカラーの職種は威信が低く、ホワイトカラーの職種

は威信が高いという傾向がある。すなわち、正社員の職業威信では肉体的に厳しい職業ほど威信が低くなると考えられる。しかし、アルバイトの職業威信においてはこれと逆の傾向がみられるのではないだろうか。アルバイトは多くの人に経験があるため、より身近に感じられるであろう。それゆえ、アルバイトにおける肉体的な厳しさは、「きつい仕事にもかかわらず励んでいる」というプラスの評価につながると思われる。まとめると、本分析における仮説は以下の2つとなる。

- ・ 仮説1：アルバイトの職業威信は正社員の職業威信より低い。
- ・ 仮説2：アルバイトでは肉体的に厳しい職業ほど威信が高くなる。

2. 分析手法

2.1 データの概要

2015年10月に、京都大学の授業に参加している男女を対象にアンケート調査を実施した。正社員とアルバイトの職業威信、肉体的な厳しさを質問する内容のアンケートを授業の時間内に配り、その場で回収した。回収数は146、そのうち有効サンプル数は144であった。多様な回答者を得るため、京都大学の授業の中でも対象学年、対象学部が限定されていない一般教養科目を選択した。対象となった授業は以下の通りである。

- ・ みんなの物理Ⅱ（月曜日2限）
- ・ 人文地理学（月曜日3限）
- ・ 人文地理学（火曜日2限）
- ・ 日本国憲法（金曜日2限）

2.2 分析方法

個々の職業について正社員とアルバイトの比較をするために、例えば大工（正社員）と大工見習い（バイト）のように、同じ職種に正社員とアルバイトを1つずつ対応させ、18組、36つ

の職業を用意した。アンケートは職業威信、肉体的な厳しさスコア共に 5 段階評価⁽¹⁾とした。

そして、それぞれに 100 点、75 点、50 点、25 点、0 点を割り振り、職業ごとの平均値を求め、

正社員とアルバイトの差、職業威信と肉体的な厳しさの関係を分析した。

3. 分析結果

3.1 結果

表 1 正社員の職業威信と肉体的な厳しさ

	職業威信	肉体的な 厳しさ
医師	95.00	80.88
パイロット	81.88	79.73
公認会計士	78.99	48.65
大会社の課長	74.32	51.10
警察官	65.94	76.01
大会社の営業担当社員	61.59	62.16
塾講師・家庭教師	59.42	45.61
農業	54.05	81.62
商店の店員	50.34	49.26
中小企業の機械組立工	48.91	65.88
レストランのキッチン	48.65	53.68
レストランのホール	47.46	51.69
道路工夫	46.74	74.66
大工	46.00	87.87
引越し業者	45.27	77.94
イベントスタッフ	44.49	55.41
牛井店の店員	36.82	52.57
派遣社員	31.76	55.15
平均	56.54	63.88

表 2 アルバイトの職業威信と肉体的な厳しさ

	職業威信	肉体的な 厳しさ
有資格薬局スタッフ	50.36	40.54
塾講師・家庭教師	40.20	41.91
会計事務所の事務員	38.85	38.97
大手チェーン店のバイ トリーダ	38.41	57.53
農業	35.87	78.72
人力車	35.81	78.68
商店の店員	33.33	44.26
レストランのキッチン	31.52	53.38
引越し業者	30.43	79.39
レストランのホール	30.33	48.90
牛井店の店員	30.07	53.72
大型家電量販店の店頭 販売員	29.39	54.41
派遣アルバイト	28.99	51.35
警備員	26.69	63.60
大工見習い	24.28	86.49
イベントスタッフ	23.99	52.94
道路工夫	21.28	75.37

工場の軽作業員	19.93	59.56	平均	31.65	58.87
---------	-------	-------	----	-------	-------

表 1 は正社員の職業威信と肉体的な厳しさスコア、表 2 はアルバイトの職業威信と肉体的な厳しさスコアを、それぞれ職業威信の降順で示している。正社員の職業威信では、多くの先行研究の結果と同じように医師が最も高い。そしてアルバイトでも医師に対応する有資格薬局スタッフの威信が最も高くなった。また、全体の平均値は職業威信、肉体的な厳しさ共にアルバイトが正社員を下回る結果となった。

3.2 仮説 1 アルバイトと正社員の職業威信比較

表 3 正社員とアルバイトの対応表

正社員職業名		アルバイト職業名
①	医師	有資格薬局スタッフ（バイト）
②	パイロット	人力車（バイト）
③	公認会計士	会計事務所の事務員（バイト）
④	大会社の課長（正社員）	大手チェーン店のバイトリーダー（バイト）
⑤	警察官	警備員（バイト）
⑥	大会社の営業担当社員（正社員）	大型家電量販店の店頭販売員（バイト）
⑦	塾講師・家庭教師（正社員）	塾講師・家庭教師（バイト）
⑧	農業	農業（バイト）
⑨	商店の店員（正社員）	商店の店員（バイト）
⑩	中小企業の機械組立工（正社員）	工場の軽作業員（バイト）
⑪	レストランのキッチン（正社員）	レストランのキッチン（バイト）
⑫	レストランのホール（正社員）	レストランのホール（バイト）
⑬	道路工夫（正社員）	道路工夫（バイト）
⑭	大工（正社員）	大工見習い（バイト）
⑮	引越し業者（正社員）	引越し業者（バイト）
⑯	イベントスタッフ（正社員）	イベントスタッフ（バイト）

⑰ 牛井店の店員（正社員）

牛井店の店員（バイト）

⑱ 派遣社員

派遣アルバイト（バイト）

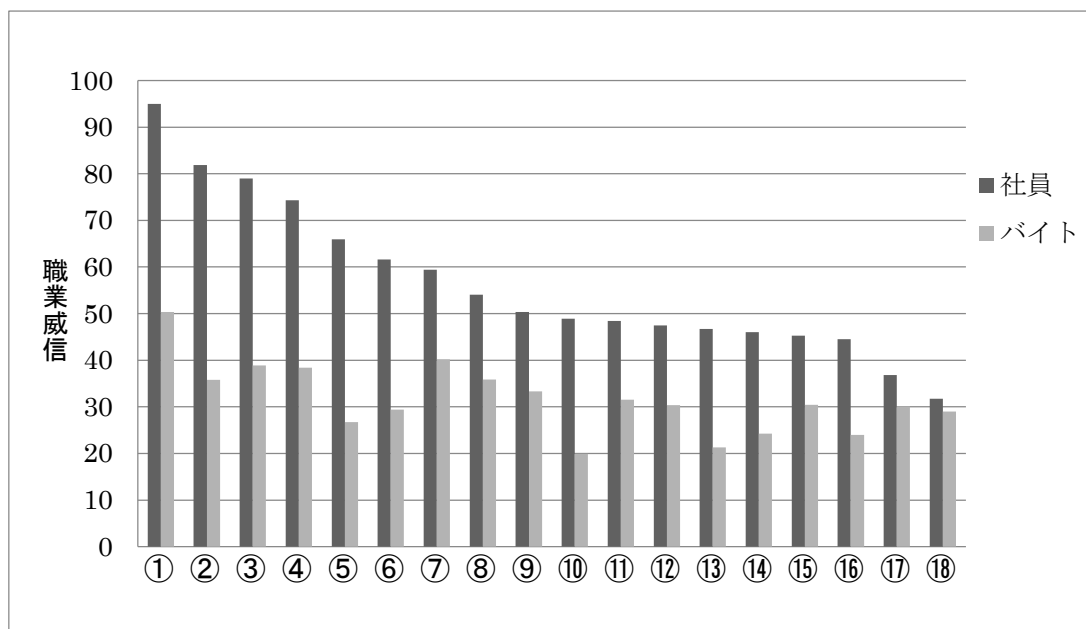


図 1 から、全ての職業の組について正社員の職業威信がアルバイトの職業威信を上回っていることが見てとれる。したがって仮説通り、同じ職種でもアルバイトの職業威信は正社員の職業威信より低いということが検証された。また、その差は職業威信が高い職業で特に大きい。職業威信が最も高い医師と有資格薬局スタッフの差が最大で、正社員における職業威信が最も低い派遣社員と派遣アルバイトの差は最小である。

3.3 仮説 2 職業威信と肉体的な厳しさの関係

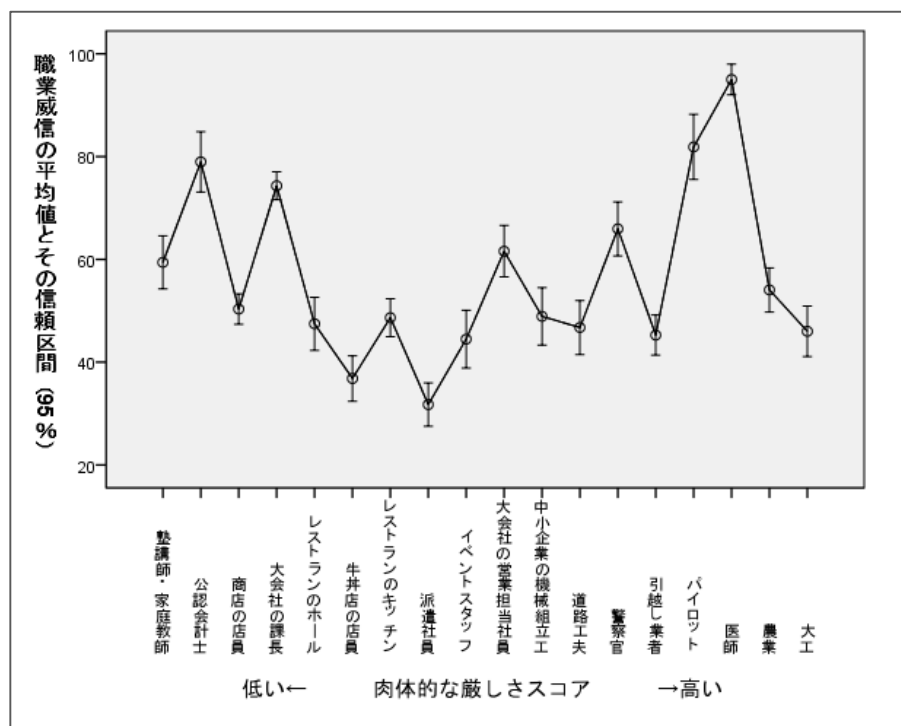


図2 正社員の職業威信の平均値

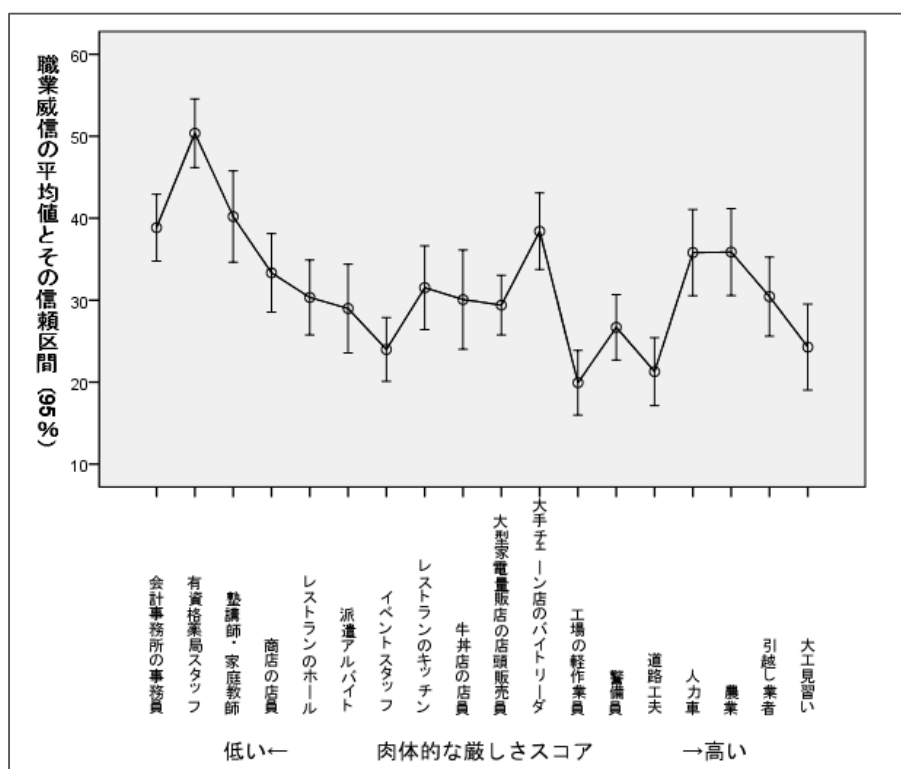
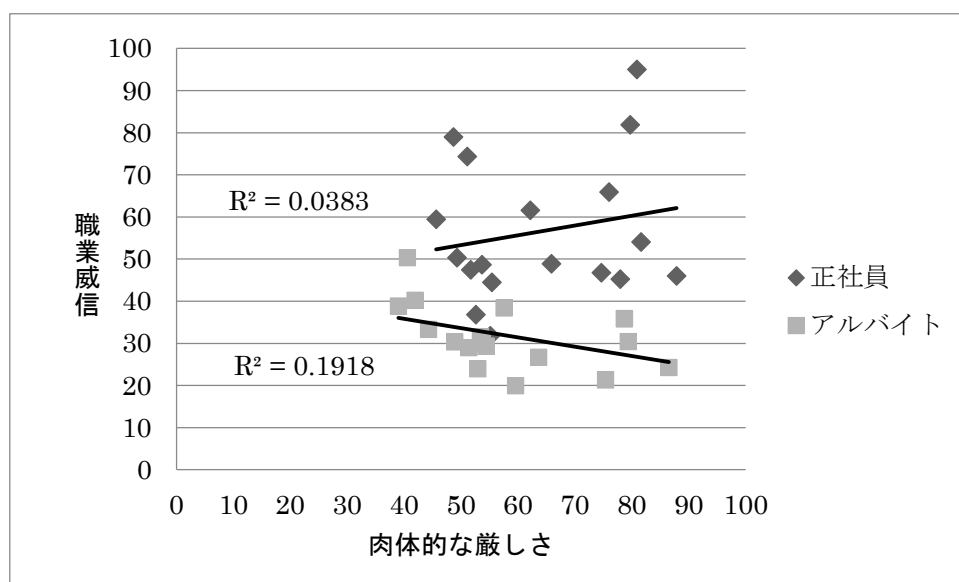


図3 アルバイトの職業威信の平均値

職業を肉体的な厳しさスコアの順に並べ、縦軸で職業威信スコアの平均値と 95%信頼区間⁽²⁾を示したのが、図 2 と図 3 のグラフである。本稿では、正社員においては肉体的に厳しい職業ほど威信が低い、アルバイトにおいては肉体的に厳しい職業ほど威信が高いという仮説を立てた。この仮説が正しければ、正社員のグラフでは平均値を結んだ線が右下がりになり、アルバイトでは右上がりになるはずである。しかし、正社員の職業威信と肉体的な厳しさの関係を表わした図 2 において、職業威信と肉体的な厳しさの間に規則性は見いだせない。アルバイトの職業威信と肉体的な厳しさの関係を表わした図 3 においては、むしろ肉体的な厳しさスコアが高い「大工見習い」や「道路工夫」といった職業に低い威信が見られる。

図 4 職業威信と肉体的な厳しさの相関関係



肉体的な厳しさを独立変数、職業威信を従属変数として、2つの関係を散布図に表わした。正社員、アルバイト共に相関係数⁽³⁾が小さく、職業威信と肉体的な厳しさの間に相関があるとはいえない。特に正社員では近似直線から離れた分布が目立つ。また、回帰直線の傾きは正社員で正、アルバイトで負であり、先行研究と仮説とは真逆の傾向を示している。したがって仮説 2 は検証されなかった。

4. 考察

4.1 分析結果についての考察

アルバイトにおいて職業威信と肉体的な厳しさに予想したような正の相関はなかった。さらに、これまで正社員において肉体労働は職業威信が低いとされてきたが、本調査では正社員においても職業威信と肉体的な厳しさに相関はなかった。このことから、ブルーカラーは威信が低く、ホワイトカラーは威信が高いという価値観はもはや古くなったと結論付けることもできる。しかし、より大きな要因として考えられるのは、職業に対する肉体的な厳しさのイメージの違いである。例えば、医師は一般的に非肉体労働に分類されるが、本調査では肉体的な厳しさスコアが大工、農業に次いで 3 番目に高い。勤務時間の長さや不規則さが、肉体的な厳しさスコアの高さにつながったのだと考えられる。このように、ホワイトカラーに分類されるにもかかわらず、肉体的に厳しいと評価された職業が外れ値となったため、職業威信と肉体的な厳しさに相関が現れなかったのではないだろうか。すなわち、正社員において、ブルーカラー、ホワイトカラーという枠組みと、肉体的に厳しい職業か否かという実際の認識との間には大きな隔たりがあると考えられる。

一方、アルバイトでは正社員と比べると近似直線から大きく外れた値はなかった。アルバイトは身近で仕事内容が想像しやすいため、肉体労働、非肉体労働の分類と肉体的な厳しさの実際の評価に開きがなかったのだろう。すなわち、アルバイトは経験があるからこそ、より客観的な評価が可能であり、肉体的な厳しさスコアが低い職業の威信が高くなりやすいと考えられる。

4.2 今後の課題

本稿では、個々の職業レベルで正社員とアルバイトの比較を可能にするため、正社員とアルバイトで同じ職種のを 1 つの組として設定した。しかし、対応させる適当なアルバイトがない正社員の職業も多く、パイロットと人力車（バイト）といった、正社員とアルバイトで業務内容がかけ離れている例があった。今後は、商店の店員（正社員）と商店の店員（バイト）のように直接的な比較が可能な職種に絞るなど、正社員とアルバイトによる差を厳密に測るための工夫が必要である。また、本分析では独立変数、従属変数を共に人々の主観的なイメージに依存したため、分析が困難となった。独立変数に固定された指標を用いれば、分析がより容易になる可能性があると思われる。

本稿では、職業の肉体的な厳しさに対する評価の隔たりについて一定の示唆を与えた

ものの、アルバイトと正社員に対する職業威信スコアの付け方における差を明らかにすることはできなかった。しかし、職業威信の研究において非正規雇用に注目するという新たな視点を持ち出したことに、本稿の意義がある。非正規雇用の重要性が増していくに伴い、今後とも非正規雇用に注目した職業威信研究の充実が求められるであろう。

注

- (1) 職業威信は「1 最も高い、2 やや高い、3 ふつう、4 やや低い、5 最も低い」の5段階、肉体的な厳しさは「1 最もきつい、2 ややきつい、3 ふつう、4 やや楽、5 最も楽」の5段階とした。分析にあたっては、1を100点、2を75点、3を50点、4を25点、5を0点として計算した。
- (2) 母集団の平均値が95%の確率でバーの範囲内にあることを示している。
- (3) 相関係数は-1から1までの値をとり、-1は負の相関、1は正の相関、0は相関がないことを表わす。正社員における相関係数は0.1956、アルバイトにおける相関係数は-0.4379であった。図4には相関係数Rを二乗した決定係数 R^2 を表示している。
($0 \leq R^2 \leq 1$)

参考文献

- 大内裕和, 2015, 「ブラックバイト問題について」『大原社会問題研究所雑誌』681: 35-44.
- 太郎丸博, 2014, 「「先生」の職業威信 【特集】「先生」の働き方: はじめに」『日本労働研究雑誌』No. 645: 2-5.
- 太郎丸博, 2012, 『人文・社会科学のためのカテゴリーカル・データ解析入門』ナカニシヤ出版.
- 脇田彩, 2012, 「職業威信スコアのジェンダー中立性—男女別職業評価調査に基づく一考察—」『ソシオロジ』57(2): 3-18.

2 班 単純集計表

票の種類			
		度数	パーセント
有効	0	69	47.3
	1	75	51.4
	合計	144	98.6
欠損値	システム欠損値	2	1.4
合計		146	100.0
性別			
		度数	パーセント
有効	男性	98	67.1
	女性	44	30.1
	合計	142	97.3
欠損値	システム欠損値	4	2.7
合計		146	100.0
年齢			
		度数	パーセント
有効	18	36	24.7
	19	62	42.5
	20	27	18.5
	21	8	5.5
	22	6	4.1
	23	2	1.4
	24	1	.7
	合計	142	97.3
欠損値	システム欠損値	4	2.7
合計		146	100.0

以下、職業威信

大工見習い（バイト）		
	度数	パーセント

有効	最も高い	2	1.4
	やや高い	2	1.4
	ふつう	7	4.8
	やや低い	39	26.7
	最も低い	19	13.0
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
大会社の営業担当社員（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最も高い	9	6.2
	やや高い	20	13.7
	ふつう	34	23.3
	やや低い	6	4.1
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
有資格薬局スタッフ（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最も高い	1	.7
	やや高い	13	8.9
	ふつう	42	28.8
	やや低い	12	8.2
	最も低い	1	.7
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7

	値		
合計		146	100.0
警察官			
		度数	パーセント
有効	最も高い	10	6.8
	やや高い	31	21.2
	ふつう	22	15.1
	やや低い	5	3.4
	最も低い	1	.7
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
農業（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最も高い	2	1.4
	やや高い	5	3.4
	ふつう	21	14.4
	やや低い	34	23.3
	最も低い	7	4.8
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
レストランのホール（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最も高い	2	1.4
	やや高い	13	8.9

	ふつう	33	22.6
	やや低い	18	12.3
	最も低い	3	2.1
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
商店の店員（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最も高い	1	.7
	やや高い	1	.7
	ふつう	28	19.2
	やや低い	29	19.9
	最も低い	10	6.8
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
道路工夫（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最も高い	2	1.4
	やや高い	11	7.5
	ふつう	37	25.3
	やや低い	14	9.6
	最も低い	5	3.4
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0

大手チェーン店のバイトリーダー（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最も高い	1	.7
	やや高い	4	2.7
	ふつう	31	21.2
	やや低い	28	19.2
	最も低い	5	3.4
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
公認会計士			
		度数	パーセント
有効	最も高い	30	20.5
	やや高い	27	18.5
	ふつう	7	4.8
	やや低い	3	2.1
	最も低い	2	1.4
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
牛井店の店員			
		度数	パーセント
有効	最も高い	3	2.1
	やや高い	1	.7
	ふつう	22	15.1
	やや低い	24	16.4

	い		
	最も低い	19	13.0
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
塾講師・家庭教師（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最も高い	6	4.1
	やや高い	23	15.8
	ふつう	33	22.6
	やや低い	5	3.4
	最も低い	2	1.4
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
派遣アルバイト（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最も高い	1	.7
	やや高い	3	2.1
	ふつう	19	13.0
	やや低い	29	19.9
	最も低い	17	11.6
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
イベントスタッフ（正社員）			

		度数	パーセント
有効	最も高い	2	1.4
	やや高い	10	6.8
	ふつう	34	23.3
	やや低い	15	10.3
	最も低い	7	4.8
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
引越し業者 (バイト)			
		度数	パーセント
有効	最も高い	1	.7
	やや高い	1	.7
	ふつう	22	15.1
	やや低い	33	22.6
	最も低い	12	8.2
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
中小企業の機械組立工 (正社員)			
		度数	パーセント
有効	最も高い	4	2.7
	やや高い	11	7.5
	ふつう	37	25.3
	やや低い	12	8.2
	最も低い	5	3.4

	い		
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
レストランのキッチン (バイト)			
		度数	パーセント
有効	最も高い	1	.7
	やや高い	2	1.4
	ふつう	24	16.4
	やや低い	29	19.9
	最も低い	13	8.9
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
パイロット			
		度数	パーセント
有効	最も高い	38	26.0
	やや高い	20	13.7
	ふつう	7	4.8
	最も低い	4	2.7
	合計	69	47.3
欠損値	システム欠損値	77	52.7
合計		146	100.0
大工 (正社員)			
		度数	パーセント
有効	最も高い	2	1.4

	やや高い	14	9.6
	ふつう	31	21.2
	やや低い	26	17.8
	最も低い	2	1.4
	合計	75	51.4
欠損値	システム欠損値	71	48.6
合計		146	100.0
大型家電量販店の店頭販売員（バイト）			
		度数	パーセント
有効	やや高い	1	.7
	ふつう	19	13.0
	やや低い	46	31.5
	最も低い	8	5.5
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
医師			
		度数	パーセント
有効	最も高い	63	43.2
	やや高い	10	6.8
	ふつう	1	.7
	やや低い	1	.7
	合計	75	51.4
欠損値	システム欠損値	71	48.6
合計		146	100.0
警備員（バイト）			

		度数	パーセント
有効	やや高い	1	.7
	ふつう	17	11.6
	やや低い	42	28.8
	最も低い	14	9.6
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
農業			
		度数	パーセント
有効	最も高い	5	3.4
	やや高い	12	8.2
	ふつう	47	32.2
	やや低い	10	6.8
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
レストランのホール（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最も高い	1	.7
	やや高い	1	.7
	ふつう	24	16.4
	やや低い	36	24.7
	最も低い	13	8.9
	合計	75	51.4
欠損値	システム欠損	71	48.6

	値		
合計		146	100.0
商店の店員（正社員）			
		度数	パーセント
有効	やや高い	10	6.8
	ふつう	55	37.7
	やや低い	9	6.2
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
道路工夫（バイト）			
		度数	パーセント
有効	やや高い	2	1.4
	ふつう	8	5.5
	やや低い	41	28.1
	最も低い	23	15.8
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
大会社の課長（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最も高い	7	4.8
	やや高い	58	39.7
	ふつう	9	6.2
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0

会計事務所の事務員（バイト）			
		度数	パーセント
有効	やや高い	4	2.7
	ふつう	38	26.0
	やや低い	27	18.5
	最も低い	5	3.4
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
牛井店の店員（正社員）			
		度数	パーセント
有効	やや高い	5	3.4
	ふつう	32	21.9
	やや低い	30	20.5
	最も低い	7	4.8
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
塾講師・家庭教師（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最も高い	1	.7
	やや高い	13	8.9
	ふつう	25	17.1
	やや低い	26	17.8
	最も低い	9	6.2
	合計	74	50.7

欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
派遣社員			
		度数	パーセント
有効	やや高い	1	.7
	ふつう	29	19.9
	やや低い	33	22.6
	最も低い	11	7.5
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
イベントスタッフ（バイト）			
		度数	パーセント
有効	ふつう	15	10.3
	やや低い	41	28.1
	最も低い	18	12.3
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
引越し業者（正社員）			
		度数	パーセント
有効	やや高い	9	6.2
	ふつう	44	30.1
	やや低い	19	13.0
	最も低い	2	1.4
	合計	74	50.7

欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
工場の軽作業員（バイト）			
		度数	パーセント
有効	ふつう	11	7.5
	やや低い	37	25.3
	最も低い	26	17.8
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
レストランのキッチン（正社員）			
		度数	パーセント
有効	やや高い	13	8.9
	ふつう	44	30.1
	やや低い	17	11.6
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
人力車（バイト）			
		度数	パーセント
有効	やや高い	6	4.1
	ふつう	35	24.0
	やや低い	18	12.3
	最も低い	15	10.3
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3

	値		
合計		146	100.0

以下、肉体酷使度

大工（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	39	26.7
	ややきつい	26	17.8
	ふつう	2	1.4
	やや楽	1	.7
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
大型家電量販店の店頭販売員（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	1	.7
	ややきつい	27	18.5
	ふつう	25	17.1
	やや楽	13	8.9
	最も楽	2	1.4
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
医師			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	33	22.6
	ややきつい	23	15.8
	ふつう	7	4.8
	やや楽	5	3.4
	合計	68	46.6

欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
警備員（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	6	4.1
	ややきつい	36	24.7
	ふつう	17	11.6
	やや楽	7	4.8
	最も楽	2	1.4
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
農業			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	29	19.9
	ややきつい	29	19.9
	ふつう	9	6.2
	やや楽	1	.7
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
レストランのホール（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	2	1.4
	ややきつい	9	6.2
	ふつう	43	29.5
	やや楽	12	8.2
	最も楽	2	1.4

	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
商店の店員（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	1	.7
	ややきつい	8	5.5
	ふつう	48	32.9
	やや楽	10	6.8
	最も楽	1	.7
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
道路工夫（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	19	13.0
	ややきつい	35	24.0
	ふつう	11	7.5
	やや楽	2	1.4
	最も楽	1	.7
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
大会社の課長（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	2	1.4
	ややきつい	24	16.4
	ふつう	23	15.8

	やや楽	13	8.9
	最も楽	6	4.1
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
会計事務所の事務員（バイト）			
		度数	パーセント
有効	ややきつい	8	5.5
	ふつう	31	21.2
	やや楽	20	13.7
	最も楽	9	6.2
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
牛井店の店員（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	4	2.7
	ややきつい	15	10.3
	ふつう	34	23.3
	やや楽	14	9.6
	最も楽	1	.7
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
塾講師・家庭教師（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	4	2.7
	ややきつい	10	6.8
	ふつう	20	13.7

	やや楽	28	19.2
	最も楽	6	4.1
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
派遣社員			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	3	2.1
	ややきつい	17	11.6
	ふつう	41	28.1
	やや楽	5	3.4
	最も楽	2	1.4
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
イベントスタッフ（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	6	4.1
	ややきつい	18	12.3
	ふつう	25	17.1
	やや楽	16	11.0
	最も楽	3	2.1
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
引越し業者（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	22	15.1
	ややき	32	21.9

	つい		
	ふつう	14	9.6
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
工場の軽作業員（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	2	1.4
	ややきつい	33	22.6
	ふつう	25	17.1
	やや楽	5	3.4
	最も楽	3	2.1
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
レストランのキッチン（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	2	1.4
	ややきつい	14	9.6
	ふつう	45	30.8
	やや楽	6	4.1
	最も楽	1	.7
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
人力車（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	24	16.4
	ややき	33	22.6

	つい		
	ふつう	8	5.5
	やや楽	3	2.1
	合計	68	46.6
欠損値	システム欠損値	78	53.4
合計		146	100.0
大工見習い（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	38	26.0
	ややきつい	33	22.6
	ふつう	2	1.4
	やや楽	1	.7
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
大会社の営業担当社員（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	6	4.1
	ややきつい	32	21.9
	ふつう	28	19.2
	やや楽	8	5.5
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
有資格薬局スタッフ（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	1	.7
	ややきつい	6	4.1

	ふつう	34	23.3
	やや楽	30	20.5
	最も楽	3	2.1
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
警察官			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	23	15.8
	ややきつい	35	24.0
	ふつう	13	8.9
	やや楽	2	1.4
	最も楽	1	.7
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
農業（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	22	15.1
	ややきつい	41	28.1
	ふつう	11	7.5
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
レストランのホール（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	1	.7
	ややきつい	16	11.0

	ふつう	44	30.1
	やや楽	13	8.9
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
商店の店員（バイト）			
		度数	パーセント
有効	ややきつい	7	4.8
	ふつう	45	30.8
	やや楽	20	13.7
	最も楽	2	1.4
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
道路工夫（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	20	13.7
	ややきつい	35	24.0
	ふつう	17	11.6
	やや楽	2	1.4
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
大手チェーン店のバイトリーダー（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	1	.7
	ややきつい	31	21.2
	ふつう	31	21.2
	やや楽	9	6.2

	最も楽	1	.7
	合計	73	50.0
欠損値	システム欠損値	73	50.0
合計		146	100.0
公認会計士			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	4	2.7
	ややきつい	19	13.0
	ふつう	26	17.8
	やや楽	19	13.0
	最も楽	6	4.1
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
牛井店の店員			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	4	2.7
	ややきつい	25	17.1
	ふつう	26	17.8
	やや楽	16	11.0
	最も楽	3	2.1
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
塾講師・家庭教師（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	3	2.1
	ややきつい	16	11.0

	ふつう	25	17.1
	やや楽	25	17.1
	最も楽	5	3.4
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
派遣アルバイト（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	3	2.1
	ややきつい	15	10.3
	ふつう	42	28.8
	やや楽	11	7.5
	最も楽	3	2.1
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
イベントスタッフ（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	2	1.4
	ややきつい	28	19.2
	ふつう	32	21.9
	やや楽	8	5.5
	最も楽	4	2.7
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
引越し業者（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	27	18.5

	ややきつい	35	24.0
	ふつう	10	6.8
	やや楽	2	1.4
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
中小企業の機械組立工（正社員）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	7	4.8
	ややきつい	35	24.0
	ふつう	30	20.5
	やや楽	2	1.4
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
レストランのキッチン（バイト）			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	2	1.4
	ややきつい	18	12.3
	ふつう	42	28.8
	やや楽	12	8.2
	合計	74	50.7
欠損値	システム欠損値	72	49.3
合計		146	100.0
パイロット			
		度数	パーセント
有効	最もきつい	29	19.9
	ややき	33	22.6

	つい		
	ふつう	9	6.2
	やや楽	3	2.1
	合計	74	50.7
欠損値	シ ス テ ム 欠 損 値	72	49.3
合計		146	100.0

職業に関するアンケート

わたしたちは、文学部の社会学実習という授業の一環として、職業の地位についての調査を行っています。お手数ですがご回答いただければ幸いです。なお、ご回答いただいた内容は授業のためだけに使用し、外部に漏えいするようなことはありません。ご協力よろしくお願いいたします。

あなたについてうかがいます。

Q1 あなたの性別を右から選んでください。

男・女・その他

Q2 あなたの年齢を記入してください。

歳

人びとの職業についてうかがいます。

Q3 以下に、さまざまな職業につく正社員とアルバイトを挙げます。いまかりに、これらの職業につく正社員とアルバイトの地位を高いものから低いものへの順に5段階にわけるとしたら、どのように分類されるでしょうか。それぞれについて「最も高い」～「最も低い」のどれか1つを選んでください。

※深く考えず、直感でお答えください

	最も高い	やや高い	ふつう	やや低い	最も低い
(1) 大工（正社員）	1	2	3	4	5
(2) 大型家電量販店の店頭販売員（バイト）	1	2	3	4	5
(3) 医師	1	2	3	4	5
(4) 警備員（バイト）	1	2	3	4	5
(5) 農業	1	2	3	4	5
(6) レストランのホール（バイト）	1	2	3	4	5
(7) 商店の店員（正社員）	1	2	3	4	5
(8) 道路工夫（バイト）	1	2	3	4	5

(9) 大会社の課長（正社員）	1	2	3	4	5
(10) 会計事務所の事務員（バイト）	1	2	3	4	5
(11) 牛丼店の店員（正社員）	1	2	3	4	5
(12) 塾講師・家庭教師（バイト）	1	2	3	4	5
(13) 派遣社員	1	2	3	4	5
(14) イベントスタッフ（バイト）	1	2	3	4	5
(15) 引越し業者（正社員）	1	2	3	4	5
(16) 工場の軽作業員（バイト）	1	2	3	4	5
(17) レストランのキッチン（正社員）	1	2	3	4	5
(18) 人力車（バイト）	1	2	3	4	5

Q4 以下に、さまざまな職業につく正社員とアルバイトを挙げます。これらの職業につく正社員とアルバイトの肉体的な厳しさを高いものから低いものへの順に5段階にわけるとしたら、どのように分類されるでしょうか。それぞれについて「最もきつい」～「最も楽」のどれか1つを選んでください。

※深く考えず、直感でお答えください

	最もきつい	ややきつい	ふつう	やや楽	最も楽
(1) 大工見習い（バイト）	1	2	3	4	5
(2) 大会社の営業担当社員（正社員）	1	2	3	4	5
(3) 有資格薬局スタッフ（バイト）	1	2	3	4	5

(4) 警察官	1	2	3	4	5
(5) 農業（バイト）	1	2	3	4	5
(6) レストランのホール（正社員）	1	2	3	4	5
(7) 商店の店員（バイト）	1	2	3	4	5
(8) 道路工夫（正社員）	1	2	3	4	5
(9) 大手チェーン店のバイトリーダー（バイト）	1	2	3	4	5
(10) 公認会計士	1	2	3	4	5
(11) 牛丼店の店員（バイト）	1	2	3	4	5
(12) 塾講師・家庭教師（正社員）	1	2	3	4	5
(13) 派遣アルバイト（バイト）	1	2	3	4	5
(14) イベントスタッフ（正社員）	1	2	3	4	5
(15) 引越し業者（バイト）	1	2	3	4	5
(16) 中小企業の機械組立工（正社員）	1	2	3	4	5
(17) レストランのキッチン（バイト）	1	2	3	4	5
(18) パイロット	1	2	3	4	5

質問は以上です。記入漏れがないかご確認ください。
ご協力ありがとうございました。

職業に関するアンケート

わたしたちは、文学部の社会学実習という授業の一環として、職業の地位についての調査を行っています。お手数ですがご回答いただければ幸いです。なお、ご回答いただいた内容は授業のためだけに使用し、外部に漏えいするようなことはありません。ご協力よろしくお願いいたします。

あなたについてうかがいます。

Q1 あなたの性別を右から選んでください。

男・女・その他

Q2 あなたの年齢を記入してください。

歳

人びとの職業についてうかがいます。

Q3 以下に、さまざまな職業につく正社員とアルバイトを挙げます。いまかりに、これらの職業につく正社員とアルバイトの地位を高いものから低いものへの順に 5 段階にわけるとしたら、どのように分類されるでしょうか。それぞれについて「最も高い」～「最も低い」のどれか 1 つを選んでください。

※深く考えず、直感でお答えください

	最も高い	やや高い	ふつう	やや低い	最も低い
(1) 大工見習い (バイト)	1	2	3	4	5
(2) 大会社の営業担当社員 (正社員)	1	2	3	4	5
(3) 有資格薬局スタッフ (バイト)	1	2	3	4	5
(4) 警察官	1	2	3	4	5
(5) 農業 (バイト)	1	2	3	4	5
(6) レストランのホール (正社員)	1	2	3	4	5
(7) 商店の店員 (バイト)	1	2	3	4	5
(8) 道路工夫 (正社員)	1	2	3	4	5

(9) 大手チェーン店のバイトリーダー (バイト)	1	2	3	4	5
(10) 公認会計士	1	2	3	4	5
(11) 牛丼店の店員 (バイト)	1	2	3	4	5
(12) 塾講師・家庭教師 (正社員)	1	2	3	4	5
(13) 派遣アルバイト (バイト)	1	2	3	4	5
(14) イベントスタッフ (正社員)	1	2	3	4	5
(15) 引越し業者 (バイト)	1	2	3	4	5
(16) 中小企業の機械組立工 (正社員)	1	2	3	4	5
(17) レストランのキッチン (バイト)	1	2	3	4	5
(18) パイロット	1	2	3	4	5

Q4 以下に、さまざまな職業につき正社員とアルバイトを挙げます。これらの職業につき正社員とアルバイトの肉体的な厳しさを高いものから低いものへの順に 5 段階にわけるとしたら、どのように分類されるでしょうか。それぞれについて「最もきつい」～「最も楽」のどれか 1 つを選んでください。

※深く考えず、直感でお答えください

	最もきつい	ややきつい	ふつう	やや楽	最も楽
(1) 大工 (正社員)	1	2	3	4	5
(2) 大型家電量販店の店頭販売員 (バイト)	1	2	3	4	5
(3) 医師	1	2	3	4	5

(4) 警備員 (バイト)	1	2	3	4	5
---------------	---	---	---	---	---

(5) 農業	1	2	3	4	5
--------	---	---	---	---	---

(6) レストランのホール (バイト)	1	2	3	4	5
---------------------	---	---	---	---	---

(7) 商店の店員 (正社員)	1	2	3	4	5
-----------------	---	---	---	---	---

(8) 道路工夫 (バイト)	1	2	3	4	5
----------------	---	---	---	---	---

(9) 大会社の課長 (正社員)	1	2	3	4	5
------------------	---	---	---	---	---

(10) 会計事務所の事務員 (バイト)	1	2	3	4	5
----------------------	---	---	---	---	---

(11) 牛丼店の店員 (正社員)	1	2	3	4	5
-------------------	---	---	---	---	---

(12) 塾講師・家庭教師 (バイト)	1	2	3	4	5
---------------------	---	---	---	---	---

(13) 派遣社員	1	2	3	4	5
-----------	---	---	---	---	---

(14) イベントスタッフ (バイト)	1	2	3	4	5
---------------------	---	---	---	---	---

(15) 引越し業者 (正社員)	1	2	3	4	5
------------------	---	---	---	---	---

(16) 工場の軽作業員 (バイト)	1	2	3	4	5
--------------------	---	---	---	---	---

(17) レストランのキッチン (正社員)	1	2	3	4	5
-----------------------	---	---	---	---	---

(18) 人力車 (バイト)	1	2	3	4	5
----------------	---	---	---	---	---

質問は以上です。記入漏れがないかご確認ください。
ご協力ありがとうございました。

3 章 まじめさと職業評定

「まじめさ」と平均的な職業評価への密集性

佐々木 海

京都大学文学部 3 回

本研究の目的は、人々の性格、とりわけ「まじめさ」が、平均的な職業の評価に対する個人の評価との近似性にどのような影響を及ぼしうるかについて、明らかにすることである。

I 個人の性格特性と職業評価

ある職業の評価について、個人が一定の判断を下すということは難しい。なぜなら職業という言葉自体が曖昧なものであるからだ。個々の職業の一般的な望ましさや地位の高さを示すものとして職業威信というものがある。これは一般の人々に職業の序列の高さを 5 段階で評価してもらい、その平均を取ったものであるが、日本社会では福利厚生・余暇時間の多さ等に企業が深く関係しており、企業の規模が人々の生活に深く関係しているため、このような職業威信に代わる、従業先規模を考慮した新しい基準を導入すべきであるといった指摘も見られる。(村瀬：1998)

一方で、職業威信は産業社会に共通する基本構造を反映していると考えられており、その序列は評定者の年齢、性別、学歴、職業のような属性からはほとんど影響を受けないとされる説が優勢である。このような考え方の下では、職業威信を規定する要因として、個人が暮らす社会・環境がいかに経済的に発展しているのか、またはどのようなイデオロギーを志向しているかなどといった、社会的なものが真っ先に挙げられるであろう。これはすなわち、社会・環境の特色によって個人の職業に対するイメージは変わるという考え方である。

しかしながら、職業威信を規定する要因には個人的なものも含まれているだろう。

先ほど挙げた年齢、性別、学歴、職業のほか、出身地や現在住んでいる場所、そして性格として扱われるような個人の性質である。出身地や住んでいる場所などは環境が与える影響が大きいので、ある意味社会的な要素が多いと言えるかもしれない。その点、個人の性格は、考えられる要因として最も社会的な要素が少ないと言えよう。

社会的な要素が少ないということは、必然的に社会学的な分析が行われにくいということの意味している。焦点の当たりにくい角度から職業威信・職業評価について分析するということは、価値があると言えるのではないだろうか。

Ⅱ 仮説

以上の議論を踏まえ、私たちの研究グループは以下のような仮説を立てた。性格が「まじめ」な大学生ほど、同じような職業評価をしやすい。なぜなら、「まじめ」な大学生ほど、自分の将来のキャリアについて真剣に考える・考えている可能性が高く、社会が持っている、職業に対する一般的な意識に触れる機会も増え、それと自分の職業評価が同化していくのではないかと考えたためである。またこの場合、「同じような職業評価をすることで、「まじめ」になる」という様に、因果関係が逆転する可能性は極めて考えにくい。

ここで注意していただきたいのは、例えば「まじめ」な人はある職業についての評価が高くなり、「まじめ」でない人は評価が低くなる、というように、個人の性格特性と職業評価（職業威信）の絶対値そのものについて注目するつもりは、今回に限っては無いということである。あくまで注目しているのは、個人の性格特性によって、平均的な職業評価と個人の職業評価の開き具合が変わるかどうか、という点である。

Ⅲ 方法

今回私たちの研究グループは、2015年10月19日（月）に京都大学で行われた全

学共通科目の講義、「宇宙科学入門」（4限：14:45-16:15、5限：16:30-18:00）で調査を行った。授業の開始前にアンケート用紙を配布し、終了後に回収するという手順の下行い、有効サンプル数は4限・5限ともに68、合計136であった。

質問では「自分のことがまじめだと思うか？」という問いに対し4段階で評価してもらい、「ややまじめ」「まじめ」と71名をまじめ群A、「ややふまじめ」「ふまじめ」と答えた62名をふまじめ群Aとして定義した。

さらに、ある程度客観性を持った性格の判断として、「単位取得数が他人と比べて多いか？」という質問も用意し、こちらは5段階で評価してもらい、「多い」「やや多い」とした29名をまじめ群B、「人並みである」と答えた58名をふつう群B、「やや少ない」「少ない」と答えた47名をふまじめ群Bとして定義した。

また、『心理測定尺度集』に掲載されている尺度「几帳面な性格である」「自分に厳しい」「責任感が強い」を用いてこちらも5段階で評価してもらい、合計得点を計算し比較的「まじめ」と判断される72名をまじめ群C、比較的「ふまじめ」と判断される62名をふまじめ群Cとして定義した。

職業については「大工」「大会社の営業担当社員」「医師」「建築士」「大学教授」「郵便配達人」「警察官」「プロスポーツ選手」「中小企業の機械組立工」「農業」「パイロット」「商店の店員」「寺の住職」「国会議員」「道路工夫」「大会社の課長」「電車運転士」「公認会計士」「銀行の窓口係」「音楽家」の20の職業について5段階で評価してもらい、1＝最も高い、2＝やや高い、3＝ふつう、4＝やや低い、5＝最も低い、とした。

それぞれのまじめ群・ふまじめ群の標準偏差を比較することで、平均的な評価をしやすいかどうかを測る。それぞれの差の有意性の分析についてはF検定を用いる。

IV 分析結果

A. 自己評価と平均的な職業評価への密集性

まず、上記で定義したまじめ群Aとふまじめ群AについてF検定を行ったところ、標準偏差に95%水準で有意な差が見られたのは、調査した20の職業のうち「大会社の営業担当社員」と「道路工夫」の2つで、いずれもまじめ群よりもふまじめ群の標準偏差が高く、仮説を支持する形となった。

表A 自己評価と職業評価

	自己評価	度数	平均値	標準偏差	有意確率
大会社の営業担当社員	まじめ	71	3.00	.697	.014
	ふまじめ	62	2.94	.956	
道路工夫	まじめ	71	3.96	.745	.016
	ふまじめ	62	3.84	.961	

B. 単位取得数と平均的な職業評価への密集性

単位取得数との相関については、興味深い結果が得られた。まず、単位取得数の多いまじめ群Bと、多くも少なくもないふつう群Bについて、有意差が見られたのは「大会社の営業担当社員」「大学教授」「警察官」「農業」「寺の住職」「大会社の課長」「電車運転士」「銀行の窓口係」の8つの職業で、いずれもまじめ群Bの方がふつう群Bよりも標準偏差が高く、仮説に反する形となった。(表B 1、次ページ)

表B 1 単位取得数と職業評価

	単位取得数	度数	平均値	標準偏差	有意確率
大会社の営業担当社員	多い	29	2.86	.915	.006

	ふつう	58	2.97	.591	
大学教授	多い	29	1.93	.998	.011
	ふつう	58	1.98	.688	
警察官	多い	29	2.72	1.032	.007
	ふつう	58	2.66	.664	
農業	多い	29	3.45	1.298	.003
	ふつう	58	3.36	.873	
寺の住職	多い	29	3.17	.928	.048
	ふつう	58	2.81	.661	
大会社の課長	多い	29	2.38	.942	.009
	ふつう	58	2.47	.569	
電車運転士	多い	29	3.21	.774	.013
	ふつう	58	3.02	.546	
銀行の窓口係	多い	29	3.17	.805	.023
	ふつう	58	3.14	.544	

一方、ふつう群Bと単位取得数の少ないふまじめ群Bについては、有意差の見られた「大会社の営業担当社員」「大学教授」「大会社の課長」「電車運転士」「公認会計士」「銀行の窓口係」「音楽家」の7つの職業で、いずれもふまじめ群Bの方が標準偏差は高くなり、仮説を支持する形となった。(表B 2、次ページ)

また、まじめ群Bとふまじめ群Bについては、95%水準において有意な差異が認められなかった。

表B 2 単位取得数と職業評価

	単位取得数	度数	平均値	標準偏差	有意確率
大会社の営業担当社員	ふつう	58	2.97	.591	.002
	少ない	47	3.02	1.011	
大学教授	ふつう	58	1.98	.688	.008
	少ない	46	2.02	1.064	
大会社の課長	ふつう	58	2.47	.569	.019
	少ない	47	2.68	.887	
電車運転士	ふつう	58	3.02	.546	.027
	少ない	47	2.89	.814	
公認会計士	ふつう	58	2.47	.731	.008
	少ない	47	2.34	1.109	

銀行の窓口係	ふつう	58	3.14	.544	.000
	少ない	47	3.32	.911	
音楽家	ふつう	58	2.45	.799	.004
	少ない	47	2.66	1.238	

C. 心理測定尺度に基づく性格と職業評価

心理測定尺度による分類では、有意差の見られた職業は「医師」「大学教授」の2つであったが、いずれもまじめ群Cの方がふまじめ群Cよりも標準偏差が高く、仮説に反する形となった。

表C 心理測定尺度と職業評価

	心理測定尺度	度数	平均値	標準偏差	有意確率
医師	まじめ	72	1.46	.978	.031
	ふまじめ	62	1.29	.710	
大学教授	まじめ	72	1.93	.983	.005
	ふまじめ	61	2.05	.784	

V 議論

以上の分析結果を踏まえると、「性格がまじめな大学生ほど、同じような職業評価をしやすい」という仮説は必ずしも正しくはなかったという結論に至るだろう。

しかし、特に単位取得数の項目ではB1・B2のいずれも20の職業のうち7つ以上の職業で有意な違いが見られ、意味のあるデータが集まったと言える。単位取得数に関しては、「多くも少なくもない」と回答したふつう群が、最も平均的な職業評価に密集する傾向にあった。これは、「自分が周りと比べて平均的な学生である」と考える学生が、職業評価において平均的な評価をしやすい傾向を表していると言えるのではな

いだろうか。すなわち、平均的な職業評価への密集性の本質は、「まじめ」か「ふまじめ」という2項対立ではなく、「自分が平均的な学生であるか」という点にあったようである。

ただ、今回使用した心理測定尺度の基準は膨大な数の内ごく一部のものであり、これだけで「まじめ」と定義づけるには十分とはとても言い難い。また、単位取得数それ自体が果たして「まじめ」という性格を体現する数字なのかという疑問も残る。

その点では、回答者の絶対的な自己評価として、「まじめかふまじめ」か、という基準のもと集まったデータが仮説を支持していた事実を考えれば、ある程度、仮説が成立した傾向にあったと言ってもよいかもしれない。

このように課題は多くあったが、個人の内面的要素が与える影響のように、少数派の視点から職業威信や職業評価について考える可能性を示唆することができたと思えば幸いである。

参考文献

- 村瀬洋一 (1998) 「職業威信スコアの問題点と新スコアの提案 ― 従業先規模が職業評価に及ぼす影響を中心に―」 都築一治編『職業評価の構造と職業威信スコア(1995年SSM調査シリーズ5)』125-151. 1995年SSM調査研究会.
- 太郎丸博 (2014) 「「先生」の職業威信」『日本労働研究雑誌』No.645, 2-5.

職業威信と個人のまじめさとの関連性

佐々木 直

京都大学文学部社会学専修所属

1. はじめに

大学生という期間は、モラトリアム期として、自分の将来を決定しなくてはならない時期である。端的にいうとどのような職業に就き、どのような人生を送っていくかを決めていかなくてはならない。しかし、もちろんのこと、真剣に自分の将来について考えを深める者もいれば、享乐的・刹那的に大学生活を楽しむ者もいる。一般的に前者は「真面目」、後者は「不真面目」と形容されるであろう。

では、「真面目」な人と「不真面目」な人とでは、職業に就いての価値観にどのような差が出るのだろうか。この問いを明らかにすることで、大学生のよりリアルな職業観を見ることが出来る。ここでの二者の違いは将来のことをしっかりと考えているか否かである。よって、この分析では、職業威信スコアを用いたアンケートを行った。「真面目」な集団は考察に基づいて同じような回答をし、「不真面目」な集団はイメージ、先入観に基づいてバラバラの回答をするとの仮説を立てた。

2. 分析方法

2.1 使用データ

この分析で用いるデータは十月十九日の「宇宙科学入門」という講義で、授業前に質問票を配布し、終了時に回収するという方法で得た。講義は二回あり、回収数はそれぞれ68、合計で136であった。以下に学部と学年の内訳を示す。

表 1. 学部と学年の内訳

		学年				合計
		1	2	3	4	
学部・学科	総合人間学部	9	0	0	0	9
	文学部	22	0	0	0	22
	教育学部	4	2	0	0	6
	法学部	13	0	1	3	17
	経済学部	17	2	0	0	19
	理学部	11	6	1	0	18
	医学部医学科	1	0	0	0	1
	医学部人間健康科学科	16	0	0	0	16
	薬学部薬化学科	1	0	0	0	1
	薬学部薬学科	3	0	0	0	3
	工学部物理工学科	1	0	1	0	2
	工学部電気電子工学科	3	3	2	0	8
	工学部工業化学科	1	0	0	0	1
	農学部資源生物科学科	6	0	0	0	6
	農学部応用生命科学科	1	0	0	0	1
	農学部森林科学科	2	0	0	0	2
	農学部食品生物科学科	2	0	0	0	2
合計		113	13	5	3	134

(無回答が 2 ケースあった)

2.2 評価方法

この調査で用いる「まじめさ」の評価について説明する。この調査では 1、自己評価、2、取得単位数、3、心理尺度の三種類の質問で回答者のまじめさを測定した。自己評価の項目では、「自分のことをまじめだと思うか」という質問に対して回答者に四段階で答えさせた。

表 2 自己評価の単純集計表

回答	度数	パーセント
まじめ	16	11.8
ややまじめ	56	41.2
ややふまじめ	47	34.6
ふまじめ	16	11.8
無回答	1	.7
合計	136	100.0

取得単位数の項目では、周りの人と比較した自分の取得単位数の評価を五段階で答えさせた。

表 3 取得単位数の単純集計表

回答	度数	パーセント
多い	9	6.6
やや多い	20	14.7
人並みである	58	42.6
やや少ない	29	21.3
少ない	20	14.7
合計	136	100.0

心理尺度の項目では、心理測定尺度集 1（サイエンス社）に掲載されているまじめさを測定する心理尺度を使用し、自身のことを（１）几帳面な性格である、（２）自分に厳しい、（３）責任感が強いと思うかについてそれぞれ五段階で答えさせ、それぞれ

の回答を点数として合計して一つの尺度（真面目さ尺度）を作成した。

表 4 真面目さ尺度の単純集計表

点数	度数	パーセント
3	4	2.9
4	2	1.5
5	6	4.4
6	9	6.6
7	14	10.3
8	16	11.8
9	22	16.2
10	27	19.9
11	12	8.8
12	9	6.6
13	5	3.7
14	3	2.2
15	7	5.1
合計	136	100.0

真面目さ尺度は数字が小さいほど真面目であることを示す。

2.3 分類方法

次にまじめな集団とふまじめな集団の分類の方法について説明する。上記三つの質問それぞれで母集団を複数の集団に分類した。自己評価の項目では、「まじめ」「ややまじめ」と回答した集団を真面目群、「ややふまじめ」「ふまじめ」と回答した集団を不真面目群に分類した。取得単位数の項目では、「多い」「やや多い」を真面目群、「人並みである」を普通群、「やや少ない」「少ない」を不真面目群として分類した。心理尺度の項目では、度数がおおよそ半分になるような点で分類したため、点数が3～9点の集団を真面目群、10～15の集団を不真面目群に分類した。

2.4 職業威信スコア

こちらで用意した二十の職業名に対して、地位を高いものから低いものまで五段階に分けるとしたらどのように分類されるかを答えさせた。二十の職業は以下に挙げる

- 1、大工 2、大会社の営業担当社員 3、医師 4、建築士 5、大学教授
- 6、郵便配達人 7、警察官 8、プロスポーツ選手 9、中小企業の機械組立工
- 10、農業 11、パイロット 12、商店の店員 13、寺の住職
- 14、国会議員 15、道路工夫 16、大会社の課長 17、電車運転手
- 18、公認会計士 19、銀行の窓口係 20、音楽家

そしてその回答をスコア化したものが職業威信スコアである。

この分析では以上のように分類した集団の職業威信スコアの標準偏差を比較することによって、仮説が支持されるかどうかを検定する。つまり、ある職業に対する真面目群の威信スコアの標準偏差と不真面目群の威信スコアの標準偏差に有意な差があり、真面目群の標準偏差の方が小さかったら仮説は支持される。

3. 結果

いずれの分類においても仮説が支持されるとは言い難い。仮説を支持する結果も少数見られたが、仮説を支持しない結果の方が多く見られた。以下の表でオレンジ色に着色した部分は仮説通りの有意差が出たケース、青色に着色した部分は仮説と逆の有意差が出たケース、白色は有意差が出なかったケースである。

3.1 自己評価

表 5 自己評価基準の真面目群と不真面目群の比較

自己評価		標準偏差	有意確率
大工	まじめ	.858	.272
	ふまじめ	.961	
大会社の営業担当社員	まじめ	.697	.014
	ふまじめ	.956	
医師	まじめ	.935	.510
	ふまじめ	.791	
建築士	まじめ	.876	.260
	ふまじめ	.793	
大学教授	まじめ	.901	.611
	ふまじめ	.894	
郵便配達人	まじめ	.737	.117
	ふまじめ	.876	
警察官	まじめ	.885	.268
	ふまじめ	.716	
プロスポーツ選手	まじめ	.985	.475
	ふまじめ	.913	
中小企業の機械組立工	まじめ	.795	.524
	ふまじめ	.882	
農業	まじめ	.969	.932
	ふまじめ	1.084	
パイロット	まじめ	.961	.383
	ふまじめ	.844	
商店の店員	まじめ	.721	.081
	ふまじめ	.919	
寺の住職	まじめ	.853	.610
	ふまじめ	.820	
国会議員	まじめ	1.004	.396
	ふまじめ	1.106	
道路工夫	まじめ	.745	.016
	ふまじめ	.961	
大会社の課長	まじめ	.789	.917
	ふまじめ	.776	
電車運転士	まじめ	.743	.410
	ふまじめ	.664	
公認会計士	まじめ	.953	.516
	ふまじめ	.858	
銀行の窓口係	まじめ	.723	.419
	ふまじめ	.783	
音楽家	まじめ	.907	.181
	ふまじめ	1.067	

自己評価の分類法を使用した分析では、仮説通りの有意差がでたのは大会社の営業担当社員と道路工夫の二種類であった。その他の結果は二集団の標準偏差に有意差は見られなかった。

3.2 取得単位

取得単位数を基準とした分類方法では、真面目群（多い）・普通群（ふつう）・不真面目群（少ない）の三つに分類したので、それぞれ真面目群と普通群、普通群と不真面目群、真面目群と不真面目群の三つの分析を行なった。結果は以下の通りである。

表 6 取得単位基準の真面目群と普通群の比較

単位数		標準偏差	有意確率
大工	多い	.960	.697
	ふつう	.960	
大会社の営業担当社員	多い	.915	.006
	ふつう	.591	
医師	多い	.786	.225
	ふつう	.718	
建築士	多い	.911	.090
	ふつう	.664	
大学教授	多い	.998	.011
	ふつう	.688	
郵便配達人	多い	.680	.223
	ふつう	.718	
警察官	多い	1.032	.007
	ふつう	.664	
プロスポーツ選手	多い	.789	.187
	ふつう	.907	
中小企業の機械組立工	多い	.862	.254
	ふつう	.731	
農業	多い	1.298	.003
	ふつう	.873	
パイロット	多い	1.085	.245
	ふつう	.783	
商店の店員	多い	.724	.453
	ふつう	.715	
寺の住職	多い	.928	.048

	ふつう	.661	
国会議員	多い	1.071	.915
	ふつう	.926	
道路工夫	多い	.799	.141
	ふつう	.847	
大会社の課長	多い	.942	.009
	ふつう	.569	
電車運転士	多い	.774	.013
	ふつう	.546	
公認会計士	多い	.910	.316
	ふつう	.731	
銀行の窓口係	多い	.805	.023
	ふつう	.544	
音楽家	多い	.870	.481
	ふつう	.799	

真面目群と普通群との比較では、仮説と逆の結果、つまり、普通群の標準偏差の方が小さいという結果が8ケース見受けられた。

表 7 取得単位基準の普通群と不真面目群の比較

単位数		標準偏差	有意確率
大工	ふつう	.960	.659
	少ない	.874	
大会社の営業担当社員	ふつう	.591	.002
	少ない	1.011	
医師	ふつう	.718	.163
	少ない	1.061	
建築士	ふつう	.664	.170
	少ない	.999	
大学教授	ふつう	.688	.008
	少ない	1.064	
郵便配達人	ふつう	.718	.266
	少ない	.940	
警察官	ふつう	.664	.116
	少ない	.829	
プロスポーツ選手	ふつう	.907	.354
	少ない	1.127	
	ふつう	.731	.101

中小企業の機械組立工	少ない	.945	
農業	ふつう	.873	.250
	少ない	1.047	
パイロット	ふつう	.783	.669
	少ない	.967	
商店の店員	ふつう	.715	.070
	少ない	.965	
寺の住職	ふつう	.661	.082
	少ない	.940	
国会議員	ふつう	.926	.356
	少ない	1.180	
道路工夫	ふつう	.847	.386
	少ない	.895	
大会社の課長	ふつう	.569	.019
	少ない	.887	
電車運転士	ふつう	.546	.027
	少ない	.814	
公認会計士	ふつう	.731	.008
	少ない	1.109	
銀行の窓口係	ふつう	.544	.000
	少ない	.911	
音楽家	ふつう	.799	.004
	少ない	1.238	

普通群と不真面目群との比較では仮説を支持する結果が7ケース見受けられた。

表 8 取得単位基準の普通群と不真面目群の比較

単位数		標準偏差	有意確率
大工	多い	.960	.960
	少ない	.874	
大会社の営業担当社員	多い	.915	.799
	少ない	1.011	
医師	多い	.786	.072
	少ない	1.061	
建築士	多い	.911	.930
	少ない	.999	
大学教授	多い	.998	.996
	少ない	1.064	

郵便配達人	多い	. 680	. 088
	少ない	. 940	
警察官	多い	1. 032	. 215
	少ない	. 829	
プロスポーツ選手	多い	. 789	. 082
	少ない	1. 127	
中小企業の機械組立工	多い	. 862	. 708
	少ない	. 945	
農業	多い	1. 298	. 083
	少ない	1. 047	
パイロット	多い	1. 085	. 525
	少ない	. 967	
商店の店員	多い	. 724	. 067
	少ない	. 965	
寺の住職	多い	. 928	. 808
	少ない	. 940	
国会議員	多い	1. 071	. 560
	少ない	1. 180	
道路工夫	多い	. 799	. 626
	少ない	. 895	
大会社の課長	多い	. 942	. 766
	少ない	. 887	
電車運転士	多い	. 774	. 775
	少ない	. 814	
公認会計士	多い	. 910	. 230
	少ない	1. 109	
銀行の窓口係	多い	. 805	. 296
	少ない	. 911	
音楽家	多い	. 870	. 081
	少ない	1. 238	

真面目群と不真面目群の比較では、有意差が出たケースは見受けられなかった。

取得単位数を用いた比較の結果をまとめると、ばらつきは真面目群＞普通群、普通群＜不真面目群になるといえ、真面目群と不真面目群間では有意差がなかった。

3.3 心理尺度

表 9 心理尺度基準の真面目群と不真面目群の比較

心理尺度		標準偏差	有意確率
大工	まじめ	.993	.250
	ふまじめ	.863	
大会社の営業 担当社員	まじめ	.759	.067
	ふまじめ	.896	
医師	まじめ	.978	.031
	ふまじめ	.710	
建築士	まじめ	.914	.144
	ふまじめ	.761	
大学教授	まじめ	.983	.005
	ふまじめ	.784	
郵便配達人	まじめ	.876	.114
	ふまじめ	.711	
警察官	まじめ	.898	.156
	ふまじめ	.692	
プロスポーツ 選手	まじめ	.969	.435
	ふまじめ	.956	
中小企業の機 械組立工	まじめ	.888	.228
	ふまじめ	.763	
農業	まじめ	1.034	.351
	ふまじめ	1.022	
パイロット	まじめ	.948	.584
	ふまじめ	.878	
商店の店員	まじめ	.864	.354
	ふまじめ	.752	
寺の住職	まじめ	.856	.987
	ふまじめ	.798	
国会議員	まじめ	1.054	.432
	ふまじめ	1.042	
道路工夫	まじめ	.893	.357
	ふまじめ	.809	
大会社の課長	まじめ	.767	.793
	ふまじめ	.805	
電車運転士	まじめ	.778	.235
	ふまじめ	.614	
公認会計士	まじめ	.903	.566
	ふまじめ	.927	
銀行の窓口係	まじめ	.818	.182
	ふまじめ	.658	
音楽家	まじめ	.949	.535
	ふまじめ	1.035	

心理尺度を用いた分析では、仮説と逆の結果が出たケースが2ケース見受けられ、それ以外に有意差は見受けられなかった。

4. 考察

この分析では、真面目な人達には将来のことを十分に考えている人が多いという考えから、真面目な集団と不真面目な集団の職業威信スコアを比較すると、真面目な集団の威信スコアはばらつきが少ないのではないかという仮説に従って行なった。結果としては、そもそも有意差が出たケースが少数であり、仮説が支持されるとは言いがたい。

取得単位数を用いた分析では、ばらつきの大小が真面目群>普通群、普通群<不真面目群、真面目群と不真面目群の間に有意な差は無いという結果が出たが、「人並み」と答えた人が同じような回答をし、真面目群と不真面目群は似たような回答をしたという意味である。このような結果には回答者の性質が反映されている可能性がある。つまり、「人並み」と答える人は他の選択肢も他人の回答を予想して自分の回答を選び、「多い」や「少ない」を答える人は自分の考えるように回答したという傾向があれば、結果を説明しうる。

今後の課題として、真面目さ測定の問題とサンプル回収の問題がある。

今回の分析では真面目さを三つの基準を用いて測定したが、この基準では「現時点での真面目さ」は測定できても、「将来を十分に考えているか」という属性とは異なる。仮説が成立するかを調べるには真面目さの種類も考慮すべきだった。

今回、サンプル回収は講義で行なったが、そもそも不真面目な生徒が講義に出席していない可能性もあった。また、同じ講義を受講している生徒は似通った属性を持つ

ているという可能性も多いにあり得る。このような仮説ではよりランダム性の高いサンプルを使用すべきであった。

この分析では、仮説を支持する結果も出なければ、なんらかの結論を出しうる結果も出すことができなかった。上に挙げた課題をクリアすることによってなにかしらの結論を出すことができるのではないかと思う。

5. 参考資料

山本眞理子編（2001）『心理測定尺度集Ⅰ 人間の内面を探る＜自己・個人内過程＞』サイエンス社.

真面目さが職業威信のばらつきに与える影響

山本 侑子

京都大学文学部社会学専攻 3 回

1. 研究背景と仮説

(1) 研究背景

職業威信とは、個々の職業に対する人々の評価を表すものであり、この指標として職業威信スコアが広く用いられている。職業威信スコアは、各職業について回答者にその地位の高さを 5 段階で回答してもらい、それを数値化し平均したものであるが、調査時点や回答者の属性(年齢、性別、学歴、職業など)による差異がほとんどないことが示されている(元治・都築 1998、直井・鈴木 1977)。

しかし、回答者の属性が職業威信スコアのばらつきに与える影響についてはどうだろうか。つまり、回答者の属性によって威信スコアそのもの(すなわち平均値)が大きく変化することはなくとも、そのばらつきには差が発生しうるのではないかと考えられるのである。この威信スコアのばらつきに影響を与える回答者の属性として、今回は回答者の性格、特に真面目さという指標に着目することとした。

職業威信スコアそのものではなく、そのばらつきに着目して調査を行うことで、真面目さと職業評価のばらつきとの間に関連性が見られれば、今回調査する真面目さのような性格以外にも、年齢や学歴なども職業評価のばらつきと何らかの関係性がある可能性が示唆され、さらなる研究につなげることができると考えられる。また、本調査の調査対象となる大学生にとって職業は直近のライフステージといえ、それに対する評価に本人の真面目さがいかなる影響を与えるかを調査することで、大学生のキャリア観の形成やそのためのキャリア教育にも活用することができるのではないだろうか。

(2) 仮説

分析において検証する仮説は、真面目な人ほど同じような職業評価をする、すなわち、真面目な人の集団の威信スコアの標準偏差は、不真面目な人の集団のものに比べて小さくなる、というものである。

調査対象が京都大学生に限定されている今回の調査では、回答者は一般の人々に比べある程度の真面目さを兼ね備えていると思われるが、その中でも真面目な人は進路についての考察や就職活動などを通して各職業についての知識(年収、労働時間、人気度など)を獲得しており、そうした知識に基づいて職業評価を行う一方で、不真面目な人は進路や将来についての関心が薄くあくまで自分のイメージに従って職業評価を行うために、真面目な人よりも威信スコアにばらつきが生じやすいと考えられる。

2. 調査の概要

本調査は、2015年10月19日(月)4・5限「宇宙科学入門」において、各授業の開始時に調査票を配布し、授業出席者個人に匿名式で回答してもらい、終了時に回収する方法で行った。

真面目さを測る質問としては、以下の3つを用意した。1つ目は、「自分のことを真面目だと思いますか」というもので、4段階で回答してもらった。これは、自分の真面目さに対する自己評価を測ることを目的としたものである。2つ目は、「周囲と比べて自分の取得単位数は多いと思いますか」というもので、5段階で回答してもらった。これは、取得単位数をたずねることで、ある種の学力的な真面目さを測ることを目的としたものである。3つ目は、心理尺度「自己認知の諸側面測定尺度」(山本・松井・山成, 1982) から「まじめさ」の項目を抜粋したもので、3題の質問にそれぞれ5段階で答えてもらい、その合計スコアをその回答者の真面目さスコアとした。これは、上記2つの指標がいささか主観的なものであることから、客観的な真面目さを測

ることを目的としたものである。

さらに、20 の職業について職業威信スコアを尋ねた。

4・5 限ともに回収数は 68 であり、有効サンプル数は 136 であった。

3. 分析とその結果

(1) 自己評価

4 段階の回答のうち、「まじめ」「ややまじめ」を真面目群(71 人)、「ややふまじめ」「ふまじめ」を不真面目群(62 人)とし、各職業について 2 群の職業威信スコアの標準偏差を比較した。結果は表 1 のとおりである。

2 群の職業威信スコアの標準偏差に有意差が見られたのは、「大会社の営業担当社員」と「道路工夫」の 2 職業であった。その 2 職業については、いずれもその標準偏差は真面目群のほうが不真面目群よりも小さくなっており、仮説を満たす結果であった。

(2) 取得単位数

5 段階の回答のうち、「多い」「やや多い」を真面目群(29 人)、「人並みである」を普通群(58 人)、「ややふまじめ」「ふまじめ」を不真面目群(47 人)とし、各職業について 3 群の職業威信スコアの標準偏差を 2 群ずつ比較した。結果は表 2,3,4 のとおりである。

真面目群と普通群(表 2)では、2 群の職業威信スコアの標準偏差に有意差が見られたのは、「大会社の営業担当社員」「大学教授」「警察官」「農業」「寺の住職」「大会社の課長」「電車運転士」「銀行の窓口係」の 8 職業であった。その 8 職業については、いずれもその標準偏差は真面目群のほうが普通群よりも大きくなっており、仮説に反する結果となった。

普通群と不真面目群(表 3)では、2 群の職業威信スコアの標準偏差に有意差が見られたのは、「大会社の営業担当社員」「大学教授」「大会社の課長」「電車運転士」「公認会計士」「銀行の窓口係」「音楽家」の 7 職業であった。その 7 職業については、いずれもその標準偏差は普通群のほうが不真面目群よりも大きくなっており、仮説を満たす結果となった。

真面目群と不真面目群(表 4)では、どの職業においても 2 群の職業威信スコアの標準偏差に有意差は見られなかった。

標準偏差の大きさは、真面目群>普通群、普通群<不真面目群となった。

(3) 心理尺度

真面目さスコアの平均値 9.19 を基準として、スコア 3～9 を真面目群(72 人)、スコア 10～15 を不真面目群(62 人)とし、各職業について 2 群の職業威信スコアの標準偏差を比較した。結果は表 5 のとおりである。

2 群の職業威信スコアの標準偏差に有意差が見られたのは、「医師」と「大学教授」の 2 職業であった。その 2 職業については、いずれもその標準偏差は真面目群のほうが不真面目群よりも大きくなっており、仮説に反する結果であった。

表1 自己評価による真面目さと威信スコアの標準偏差				
	自己評価	威信スコアの平均値	標準偏差	F検定による有意確率
大工	真面目	3.68	0.858	0.272
	不真面目	3.27	0.961	
大会社の営業担当社員	真面目	3	0.697	0.014
	不真面目	2.94	0.956	
医師	真面目	1.41	0.935	0.51
	不真面目	1.35	0.791	
建築士	真面目	2.46	0.876	0.26
	不真面目	2.16	0.793	
大学教授	真面目	1.96	0.901	0.611
	不真面目	2	0.894	
郵便配達人	真面目	3.83	0.737	0.117
	不真面目	3.71	0.876	
警察官	真面目	2.7	0.885	0.268
	不真面目	2.56	0.716	
プロスポーツ選手	真面目	2.13	0.985	0.475
	不真面目	1.77	0.913	
中小企業の機械組立工	真面目	3.65	0.795	0.524
	不真面目	3.5	0.882	
農業	真面目	3.51	0.969	0.932
	不真面目	3.15	1.084	
パイロット	真面目	2.14	0.961	0.383
	不真面目	1.9	0.844	
商店の店員	真面目	3.72	0.721	0.081
	不真面目	3.68	0.919	
寺の住職	真面目	2.96	0.853	0.61
	不真面目	2.82	0.82	
国会議員	真面目	1.86	1.004	0.396
	不真面目	1.92	1.106	
道路工夫	真面目	3.96	0.745	0.016
	不真面目	3.84	0.961	
大会社の課長	真面目	2.45	0.789	0.917
	不真面目	2.61	0.776	
電車運転士	真面目	3.07	0.743	0.41
	不真面目	2.95	0.664	
公認会計士	真面目	2.45	0.953	0.516
	不真面目	2.4	0.858	
銀行の窓口係	真面目	3.18	0.723	0.419
	不真面目	3.24	0.783	
音楽家	真面目	2.55	0.907	0.181
	不真面目	2.47	1.067	

表2 取得単位数による真面目さと威信スコアの標準偏差(真面目群と普通群)				
	単位数	威信スコアの平均値	標準偏差	F検定による有意確率
大工	真面目	3.72	0.96	0.697
	普通	3.48	0.96	
大会社の営業担当社員	真面目	2.86	0.915	0.006
	普通	2.97	0.591	
医師	真面目	1.24	0.786	0.225
	普通	1.36	0.718	
建築士	真面目	2.48	0.911	0.09
	普通	2.34	0.664	
大学教授	真面目	1.93	0.998	0.011
	普通	1.98	0.688	
郵便配達人	真面目	3.97	0.68	0.223
	普通	3.64	0.718	
警察官	真面目	2.72	1.032	0.007
	普通	2.66	0.664	
プロスポーツ選手	真面目	2.14	0.789	0.187
	普通	1.95	0.907	
中小企業の機械組立工	真面目	3.62	0.862	0.254
	普通	3.53	0.731	
農業	真面目	3.45	1.298	0.003
	普通	3.36	0.873	
パイロット	真面目	2.03	1.085	0.245
	普通	2.02	0.783	
商店の店員	真面目	3.9	0.724	0.453
	普通	3.66	0.715	
寺の住職	真面目	3.17	0.928	0.048
	普通	2.81	0.661	
国会議員	真面目	1.83	1.071	0.915
	普通	1.81	0.926	
道路工夫	真面目	4.07	0.799	0.141
	普通	3.81	0.847	
大会社の課長	真面目	2.38	0.942	0.009
	普通	2.47	0.569	
電車運転士	真面目	3.21	0.774	0.013
	普通	3.02	0.546	
公認会計士	真面目	2.45	0.91	0.316
	普通	2.47	0.731	
銀行の窓口係	真面目	3.17	0.805	0.023
	普通	3.14	0.544	
音楽家	真面目	2.45	0.87	0.481
	普通	2.45	0.799	

表3 取得単位数による真面目さと威信スコアの標準偏差(普通群と不真面目群)				
	単位数	威信スコアの平均値	標準偏差	F検定による有意確率
大工	普通	3.48	0.96	0.659
	不真面目	3.38	0.874	
大会社の営業担当社員	普通	2.97	0.591	0.002
	不真面目	3.02	1.011	
医師	普通	1.36	0.718	0.163
	不真面目	1.49	1.061	
建築士	普通	2.34	0.664	0.17
	不真面目	2.21	0.999	
大学教授	普通	1.98	0.688	0.008
	不真面目	2.02	1.064	
郵便配達人	普通	3.64	0.718	0.266
	不真面目	3.83	0.94	
警察官	普通	2.66	0.664	0.116
	不真面目	2.55	0.829	
プロスポーツ選手	普通	1.95	0.907	0.354
	不真面目	1.89	1.127	
中小企業の機械組立工	普通	3.53	0.731	0.101
	不真面目	3.62	0.945	
農業	普通	3.36	0.873	0.25
	不真面目	3.23	1.047	
パイロット	普通	2.02	0.783	0.669
	不真面目	2.02	0.967	
商店の店員	普通	3.66	0.715	0.07
	不真面目	3.64	0.965	
寺の住職	普通	2.81	0.661	0.082
	不真面目	2.83	0.94	
国会議員	普通	1.81	0.926	0.356
	不真面目	2	1.18	
道路工夫	普通	3.81	0.847	0.386
	不真面目	3.94	0.895	
大会社の課長	普通	2.47	0.569	0.019
	不真面目	2.68	0.887	
電車運転士	普通	3.02	0.546	0.027
	不真面目	2.89	0.814	
公認会計士	普通	2.47	0.731	0.008
	不真面目	2.34	1.109	
銀行の窓口係	普通	3.14	0.544	0
	不真面目	3.32	0.911	
音楽家	普通	2.45	0.799	0.004
	不真面目	2.66	1.238	

表4 取得単位数による真面目さと威信スコアの標準偏差(真面目群と不真面目群)				
	単位数	威信スコアの平均値	標準偏差	F検定による有意確率
大工	真面目	3.72	0.96	0.96
	不真面目	3.38	0.874	
大会社の営業担当社員	真面目	2.86	0.915	0.799
	不真面目	3.02	1.011	
医師	真面目	1.24	0.786	0.072
	不真面目	1.49	1.061	
建築士	真面目	2.48	0.911	0.93
	不真面目	2.21	0.999	
大学教授	真面目	1.93	0.998	0.996
	不真面目	2.02	1.064	
郵便配達人	真面目	3.97	0.68	0.088
	不真面目	3.83	0.94	
警察官	真面目	2.72	1.032	0.215
	不真面目	2.55	0.829	
プロスポーツ選手	真面目	2.14	0.789	0.082
	不真面目	1.89	1.127	
中小企業の機械組立工	真面目	3.62	0.862	0.708
	不真面目	3.62	0.945	
農業	真面目	3.45	1.298	0.083
	不真面目	3.23	1.047	
パイロット	真面目	2.03	1.085	0.525
	不真面目	2.02	0.967	
商店の店員	真面目	3.9	0.724	0.067
	不真面目	3.64	0.965	
寺の住職	真面目	3.17	0.928	0.808
	不真面目	2.83	0.94	
国会議員	真面目	1.83	1.071	0.56
	不真面目	2	1.18	
道路工夫	真面目	4.07	0.799	0.626
	不真面目	3.94	0.895	
大会社の課長	真面目	2.38	0.942	0.766
	不真面目	2.68	0.887	
電車運転士	真面目	3.21	0.774	0.775
	不真面目	2.89	0.814	
公認会計士	真面目	2.45	0.91	0.23
	不真面目	2.34	1.109	
銀行の窓口係	真面目	3.17	0.805	0.296
	不真面目	3.32	0.911	
音楽家	真面目	2.45	0.87	0.081
	不真面目	2.66	1.238	

表5 心理尺度による真面目さと威信スコアの標準偏差				
	心理尺度	威信スコアの平均値	標準偏差	F検定による有意確率
大工	真面目	3.53	0.993	0.25
	不真面目	3.47	0.863	
大会社の営業担当社員	真面目	3.04	0.759	0.067
	不真面目	2.87	0.896	
医師	真面目	1.46	0.978	0.031
	不真面目	1.29	0.71	
建築士	真面目	2.4	0.914	0.144
	不真面目	2.24	0.761	
大学教授	真面目	1.93	0.983	0.005
	不真面目	2.05	0.784	
郵便配達人	真面目	3.78	0.876	0.114
	不真面目	3.77	0.711	
警察官	真面目	2.69	0.898	0.156
	不真面目	2.56	0.692	
プロスポーツ選手	真面目	2.07	0.969	0.435
	不真面目	1.85	0.956	
中小企業の機械組立工	真面目	3.67	0.888	0.228
	不真面目	3.48	0.763	
農業	真面目	3.46	1.034	0.351
	不真面目	3.19	1.022	
パイロット	真面目	2.06	0.948	0.584
	不真面目	1.98	0.878	
商店の店員	真面目	3.76	0.864	0.354
	不真面目	3.63	0.752	
寺の住職	真面目	3	0.856	0.987
	不真面目	2.77	0.798	
国会議員	真面目	1.96	1.054	0.432
	不真面目	1.79	1.042	
道路工夫	真面目	3.86	0.893	0.357
	不真面目	3.97	0.809	
大会社の課長	真面目	2.56	0.767	0.793
	不真面目	2.48	0.805	
電車運転士	真面目	3.01	0.778	0.235
	不真面目	3.02	0.614	
公認会計士	真面目	2.46	0.903	0.566
	不真面目	2.37	0.927	
銀行の窓口係	真面目	3.25	0.818	0.182
	不真面目	3.16	0.658	
音楽家	真面目	2.5	0.949	0.535
	不真面目	2.55	1.035	

4. 考察と課題

分析の結果、自己評価による真面目さにおいては仮説が検証されたが、取得単位数、心理尺度による真面目さにおいては仮説が検証されなかった。また、自己評価に

よる真面目さにおける検証についても、有意差が見られたのは 20 職業中 2 職業にすぎず、職業全般に仮説のような傾向があるとは言えない。以上のように、今回の調査では、真面目さと職業評価のばらつきとの間に一貫した関係性を見出すことは出来なかった。

研究背景でも触れたように、そもそも調査対象が京都大学生であるということである程度真面目さの高い回答者となってしまったことや、加えて、授業で調査紙を配布したために、その中でもさらに真面目な人が回答者となってしまったこと(本当に不真面目な非とはそもそも授業に出席していない可能性がある)などが調査結果に影響を与えている可能性がある。例えば、寮などでの調査を行えば、異なる結果が得られるかもしれない。

また、取得単位数による検定の結果に着目してみると、その標準偏差は、真面目群 > 普通群、普通群 < 不真面目群となるという結果が得られた。このことから、真面目か不真面目かによって職業評価のばらつきが変化するのではなく、自分のことを極端に真面目あるいは不真面目と評価する人の集団は職業評価がばらつきやすく、自分のことを普通の評価する人の集団は職業評価がばらつきにくいという可能性が考えられる。今回の調査では、他 2 つの真面目さの指標(自己評価と心理尺度)については回答の選択肢数などの関係から中間群を設けずに「真面目群」「不真面目群」の 2 つで検定を行ったため、これらにも「普通群」を設けて検定すれば同様の結果が得られた可能性があり、この点はさらなる検証の余地がある。

真面目さという指標以外の回答者の性格的属性が職業評価のばらつきに影響を与えるかどうかは不明であるが、今回の結果からすれば、どのような性格的属性にしる中間層の集団は職業評価のばらつきが小さいという可能性は否定できない。性格的属性以外の属性(年齢や学歴など)が職業評価のばらつきにどのような影響を与えるかについては、中間層というものが明示しにくいいため異なる結果が得られるのではないかと

考えられ、今後の調査課題としたい。

5. 参考文献

元治恵子・都築一治，1998，「職業評定の比較分析——威信スコアの性差と調査時点

間の差異」都築一治編『1995 年 SSM 調査シリーズ 5——職業評価の構造と職業

威信スコア』1995 年 SSM 調査研究会，pp45-68

堀洋道（監修）・山本真理子（編集），2001，「心理測定尺度集〈1〉一人間の内面を探る

“自己・個人内過程”」，サイエンス社

稲田雅也，2005，「職業威信スコアの評価基準構造の関連要因に関する研究」『拓殖大

学論集. 人文・自然・人間科学研究 14』，pp1-14

直井優・鈴木達三，1977，「職業の社会的評価の分析：職業威信スコアの検討」『現代

社会学 4(2)』，pp115-116

脇田彩，2012，「職業威信スコアのジェンダー中立性——男女別職業評価調査に基づ

く一考察——」『ソシオロジ vol.57(2)』ソシオロジ編集委員会・社会学 研究会，

pp3-18

大学生がつける職業威信スコア

－「真面目」集団と「不真面目」集団の比較－

西木 久実

京都大学文学部社会学専修 3 回生

1. 問題と仮説設定

身の周りにある職業に対して大学生の持つ印象が、「真面目」「不真面目」という性格の違いによってどのように変わりうるのか。職業威信スコアの分析を通し、このことについて考察するのが本稿の目的である。

現代日本の大学生は、「就活」という言葉が頻繁に飛び交う環境の中、生活を送っている。私をはじめとするそのような学生にとって、職業は主要な関心事の一つであるといえる。就職活動の初期段階に行うことが推奨される「業界研究」等を通して、各職業に自分なりの評価を下している学生も多いだろう。その職業に関する評価を表す指針の一つに、職業威信スコアというものがある。職業威信スコアとは、「個々の職業の一般的な望ましさや地位の高さを示す」（太郎丸 2014）スコアである。

職業威信に関する先行研究において、特筆すべきことは「職業威信スコアによる各職業の序列に、（…）調査時点や回答者の属性による差異が少ない」ということである。また、「回答者の性別による職業評価の違いも、労働市場との関わりが男女で異なるにもかかわらず、ほとんどない」（脇田 2012）という分析結果が出ている。

これを踏まえて、本稿においては以下のように問題と仮説を設定する。

問題：大学生の下す職業評価に性格の違いが及ぼす影響はあるのかどうか

仮説：「真面目」な大学生ほど、同じような職業評価を下す

この問題に取り組む意義は、これまであまり対象とされてこなかった回答者の心理的な属性に焦点を当てることができる点である。先述したように、先行研究では、性別や生きる年代など、外的・表面的な属性が着目されてきた。性格という内的・心理的特質を加えることによって、研究の幅がより広がることが期待できる。

「真面目」「不真面目」という性格に着目する背景には、調査対象が大学生である、という前提がある。「教員から高度の知識や技術を習得しつつ、同時に周囲の多くの人々とともに研鑽を積みながら、主体的に学問を深める」学生が望ましいと述べる京都大学学士課程のアドミッション・ポリシーからも推測されるように、大学生の望ましい姿を説明する際には「真面目」や「勤勉」といった形容詞が使われるだろう。なお、広辞苑や広辞林を参考にすると、本調査における「真面目」は「真剣、誠実、本気であるさま」と定義されうる。また、英語の側面から見ると、「真面目」の英訳の代表例として「serious」が挙げられるが、本調査における「真面目」には「勤勉な」を意味する「diligent」も含まれているといえるだろう。

なお、本稿の構成について簡単に述べると、第2節で仮説に関してより詳しく記述した上で、第3節において調査の概要を説明する。第4節では分析方法を、第5節では調査結果を提示し、最後に第6節と7節で結果の検証と今後の課題について述べる。

2. 仮説の設定理由

仮説「『真面目』な大学生ほど、同じような職業評価を下す」の設定理由を説明する。先ほども述べたが、大学とは「知識や技術を習得しつつ（…）主体的に学問を深める」場である。また、京都大学のカリキュラムポリシーを見ると、一つ目に「豊かな知性と人間性を育む教養教育を実施し、新たな知の創造につながる専門教育を積み上げ、社会の各方面で指導的な役割を果たしうる人材を育成する。」という方針が掲

げられている。つまり、簡単に言うと、京都大学とは、将来社会において自らの役割を果たすことを目指して勉強する場であるといえるだろう。

このような大学という場において、日々勉強し学業を修めている「真面目」な大学生とは、程度の差こそあれ、大学や社会の方針にある程度従っている人であるといえるだろう。また逆に、日々学問を修めていない人は、それぞれ理由は異なると思うが、大学の方針からすると「不真面目」な人であるといえる。そして、大学・社会の方針に従う前者に当てはまる学生は、後者に当てはまる学生よりも社会について一貫した認識を抱いていると推測できる。ゆえに、「真面目」な学生は職業について似通った評価を持っている、という仮説を立てることができる。

3. 調査の概要

3.1 実施要項

設定した仮説を検証するための調査は、2015年10月19日に、京都大学の全学共通科目として開講されている「宇宙科学入門」を受講する学生対象に実施された。4限、5限、共に同じ内容で実施されている講義であり、両方でアンケートの配布・回収を行ったところ、回収数は共に68人、合計136人となった。有効サンプル数のうちの回生内訳は、1回生113人、2回生13人、3回生5人、4回生3人、未記入2人である。学部に関しては、工学部（情報学科、建築学科、地球工学科）、農学部（地球環境工学科、食料・環境経済学科）以外の学部生から回答があった。回答方法は質問紙へ学生本人に記入してもらう方式をとった。

3.2 質問紙について

調査票の質問項目は回答者の学部・回生、真面目さ、そして20の職業に関する職業評価を問う構成になっている。「真面目」というのは非常に曖昧かつ主観的な概念であることを踏まえて、真面目さを問う際には自己評価、取得単位数、心理尺度、とい

う3つの尺度を用意した。自己評価とは回答者が自身のことを真面目だと思うかどうかであり、「1:まじめ」「2:ややまじめ」「3:ややふまじめ」「4:ふまじめ」の4段階のうち選択してもらった。取得単位数は「1:多い」「2:やや多い」「3:人並みである」「4:やや少ない」「5:少ない」の5つから選択してもらった。客観的な指標として用いた心理尺度に関しては『自己・個人内過程』（山本 2001）を参照し、3つの回答の数字を足したものを回答者の「真面目さスコア」（3：最も真面目、15：最も不真面目）とした。

評価対象の職業は、1995年SSM調査で扱われた56の職業のうち、マニュアル・事務・管理・専門・販売等のバランスを考慮して、20の職業を選択した。回答者には、各職業に関して、その威信を1から5の数字（1が最も高く5が最も低い）のうち選んで記入してもらった。なお、選択した職業のうち、1995年時点で最も威信が高かったのは「医師」（スコア：90.12、標準偏差：14.85）であった。最も低かったのは「道路工夫」（スコア：38.99、標準偏差：17.60）であった。

4. 分析方法

仮説「『真面目』な大学生ほど、同じような職業評価を下す」を検証する為に、「真面目」集団と「不真面目」集団を恣意的に設定し、二つの集団がつける威信スコアの標準偏差を比較する。標準偏差が大きければ、その集団内の威信スコアのばらつきが大きいことになり、逆も然りである。結果が仮説通りになれば、『真面目』集団の標準偏差は『不真面目』集団の標準偏差よりも小さい」ということになるはずだ。標準偏差を比較するためには、F検定（等分散の検定）を行う。

5. 調査結果

5.1 真面目さに関する3つの尺度について

はじめに、回答者の真面目さを測るために用意した3つの尺度の相関を確認する。3つの尺度の関係すべてに対して、ピアソンの相関係数を求めたところ、表1から分かるように、すべて1%水準で有意（両側）な正の相関関係を示した。なお、「自己評価」を問う質問には未記入の回答が一つあったため、一部「合計サンプル数」が136ではなく135になっている所がある。よって、用意した3つの尺度はそれぞれ回答者の真面目さを表すのに適している、ということにする。

表 1 真面目さに関する3つの尺度の相関				
		自己評価	取得単位数	心理尺度
自己評価	相関係数	—	0.49	0.54
	有意確率		0	0
	合計サンプル数		135	135
取得単位数	相関係数	0.49	—	0.34
	有意確率	0		0
	合計サンプル数	135		136
心理尺度	相関係数	0.54	0.34	—
	有意確率	0	0	
	合計サンプル数	135	136	

5.2 「真面目」集団と「不真面目」集団の分け方

① 自己評価について

「まじめ」「ややまじめ」と答えた人を「真面目」集団に、「ややふまじめ」「ふまじめ」と答えた人を「不真面目」集団に分類した。有効サンプル数のうち、前者が72人、後者が63人であった。

② 取得単位数について

「多い」「やや多い」と答えた人を「真面目」集団に、「人並みである」と答

えた人を「普通」集団に、「やや少ない」「少ない」と答えた人を「不真面目」集団に分類した。「真面目」集団が29人、「普通」集団が58人、「不真面目」集団が49人であった。

③ 心理尺度について

「真面目さスコア」の平均値を計算したところ、9.19となった。それを基準にして、1から9までのスコアを付けた人を「真面目」集団に、10から15までのスコアをつけた人を「不真面目」集団に分類した。有効サンプル数のうち、前者が73人、後者が63人であった。

5.3 職業威信スコアの平均値

回答者の職業威信スコアの平均値は以下のグラフのようにになっている。医師が一番高く、道路工夫が一番低い結果となった。

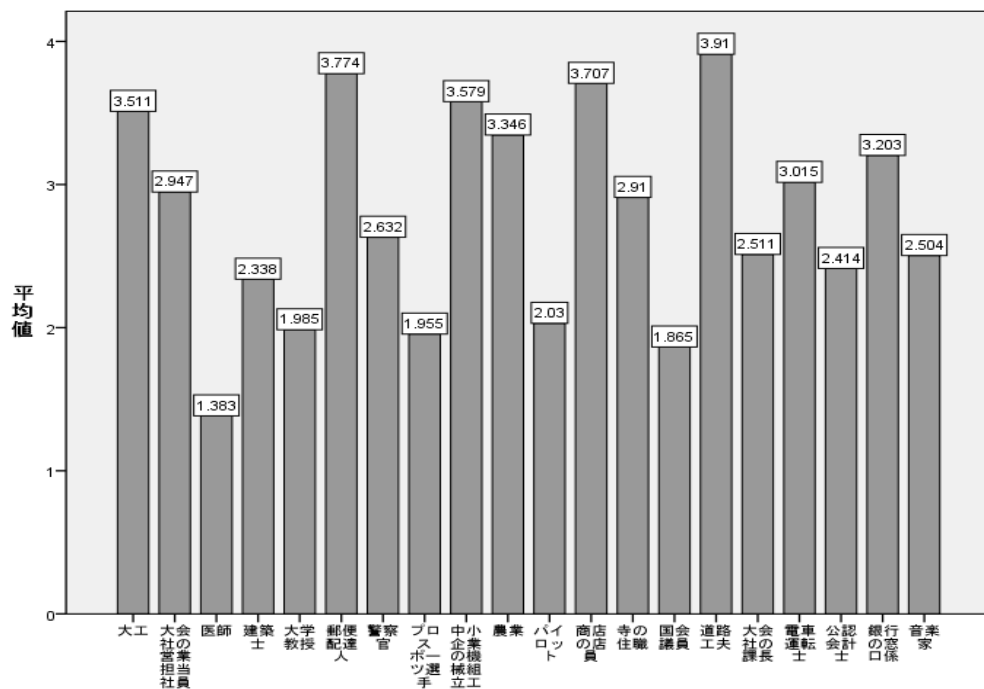


図1 職業威信スコアの平均値

5.4 標準偏差の比較

以上を踏まえて、三つの尺度について「真面目」集団と「不真面目」集団の標準偏差を比較したのが、下の5つの表である。取得単位数の項目に関しては、「普通」集団との比較も行った。先述したように、2集団の標準偏差の差が有意であるかどうかは、F検定を行うことで確認し、この際の有意水準は両側5%（有意確率 <0.05 ）とした。職業は威信スコアの平均値が高い順に並んでおり、有意な差が見られた職業に関しては暗く塗りつぶしている。

①自己評価について

表から分かるように、標準偏差値に有意な差が見られたのは「大会社の営業担当社員」と「道路工夫」のみであった。10%の割合である。これら2つの職業については、共に「不真面目」集団の標準偏差値の方が大きく、仮説通りになっているといえる。

②取得単位数について

自己評価に比べて、有意な差はより顕著であるといえる。「真面目」集団と「普通」集団の比較においては、計8つの職業の標準偏差値に有意な差が見られた。40%の割合である。これらについては、「真面目」集団の標準偏差値の方が大きく、仮説と逆の結果になっている。言い換えると、真面目な人ほど威信スコアのつけ方にばらつきがある。「普通」集団と「不真面目」集団の比較においては、計7つの職業の標準偏差値に有意な差が見られた。35%の割合である。これらについては、「不真面目」集団の標準偏差値の方が大きく、仮説通りになっている。「真面目」集団と「不真面目」集団の比較において、有意な差を示した職業はなかった。

③心理尺度

標準偏差に有意な差が見られたのは、「医師」と「大学教授」の二つであっ

た。10%の割合である。これらについて、共に「真面目」集団の標準偏差値の方が大きく、仮説と逆の結果になっている。

表2 「自己評価」/標準偏差比較					表3 「単位数(真面目対普通)」/標準偏差比較				
		平均値	標準偏差	有意確率			平均値	標準偏差	有意確率
医師	真面目	1.41	.93	.51	医師	真面目	1.24	.79	.23
	不真面目	1.35	.79			普通	1.36	.72	
国会議員	真面目	1.86	1.00	.40	国会議員	真面目	1.83	1.07	.92
	不真面目	1.92	1.11			普通	1.81	.93	
プロスポーツ選手	真面目	2.13	.98	.48	プロスポーツ選手	真面目	2.14	.79	.19
	不真面目	1.77	.91			普通	1.95	.91	
大学教授	真面目	1.96	.90	.61	大学教授	真面目	1.93	1.00	.01
	不真面目	2.00	.89			普通	1.98	.69	
パイロット	真面目	2.14	.96	.38	パイロット	真面目	2.03	1.09	.24
	不真面目	1.90	.84			普通	2.02	.78	
建築士	真面目	2.46	.88	.26	建築士	真面目	2.48	.91	.09
	不真面目	2.16	.79			普通	2.34	.66	
公認会計士	真面目	2.45	.95	.52	公認会計士	真面目	2.45	.91	.32
	不真面目	2.40	.86			普通	2.47	.73	
音楽家	真面目	2.55	.91	.18	音楽家	真面目	2.45	.87	.48
	不真面目	2.47	1.07			普通	2.45	.80	
大会社の課長	真面目	2.45	.79	.92	大会社の課長	真面目	2.38	.94	.01
	不真面目	2.61	.78			普通	2.47	.57	
警察官	真面目	2.70	.88	.27	警察官	真面目	2.72	1.03	.01
	不真面目	2.56	.72			普通	2.66	.66	
寺の住職	真面目	2.96	.85	.61	寺の住職	真面目	3.17	.93	.05
	不真面目	2.82	.82			普通	2.81	.66	
大会社の営業担当社員	真面目	3.00	.70	.01	大会社の営業担当社員	真面目	2.86	.92	.01
	不真面目	2.94	.96			普通	2.97	.59	
電車運転士	真面目	3.07	.74	.41	電車運転士	真面目	3.21	.77	.01
	不真面目	2.95	.66			普通	3.02	.55	
銀行の窓口係	真面目	3.18	.72	.42	銀行の窓口係	真面目	3.17	.80	.02
	不真面目	3.24	.78			普通	3.14	.54	
農業	真面目	3.51	.97	.93	農業	真面目	3.45	1.30	.00
	不真面目	3.15	1.08			普通	3.36	.87	
大工	真面目	3.68	.86	.27	大工	真面目	3.72	.96	.70
	不真面目	3.27	.96			普通	3.48	.96	
中小企業の機械組立工	真面目	3.65	.79	.52	中小企業の機械組立工	真面目	3.62	.86	.25
	不真面目	3.50	.88			普通	3.53	.73	
商店の店員	真面目	3.72	.72	.08	商店の店員	真面目	3.90	.72	.45
	不真面目	3.68	.92			普通	3.66	.71	
郵便配達人	真面目	3.83	.74	.12	郵便配達人	真面目	3.97	.68	.22
	不真面目	3.71	.88			普通	3.64	.72	
道路工夫	真面目	3.96	.75	.02	道路工夫	真面目	4.07	.80	.14
	不真面目	3.84	.96			普通	3.81	.85	

表4 「単位数(普通対不真面目)」/標準偏差比較

		平均値	標準偏差	有意確率
医師	普通	1.36	.72	.16
	不真面目	1.49	1.06	
国会議員	普通	1.81	.93	.36
	不真面目	2.00	1.18	
プロスポーツ選手	普通	1.95	.91	.35
	不真面目	1.89	1.13	
大学教授	普通	1.98	.69	.01
	不真面目	2.02	1.06	
パイロット	普通	2.02	.78	.67
	不真面目	2.02	.97	
建築士	普通	2.34	.66	.17
	不真面目	2.21	1.00	
公認会計士	普通	2.47	.73	.01
	不真面目	2.34	1.11	
音楽家	普通	2.45	.80	.00
	不真面目	2.66	1.24	
大会社の課長	普通	2.47	.57	.02
	不真面目	2.68	.89	
警察官	普通	2.66	.66	.12
	不真面目	2.55	.83	
寺の住職	普通	2.81	.66	.08
	不真面目	2.83	.94	
大会社の営業担当社員	普通	2.97	.59	.00
	不真面目	3.02	1.01	
電車運転士	普通	3.02	.55	.03
	不真面目	2.89	.81	
銀行の窓口係	普通	3.14	.54	.00
	不真面目	3.32	.91	
農業	普通	3.36	.87	.25
	不真面目	3.23	1.05	
大工	普通	3.48	.96	.66
	不真面目	3.38	.87	
中小企業の機械組立工	普通	3.53	.73	.10
	不真面目	3.62	.95	
商店の店員	普通	3.66	.71	.07
	不真面目	3.64	.97	
郵便配達人	普通	3.64	.72	.27
	不真面目	3.83	.94	
道路工夫	普通	3.81	.85	.39
	不真面目	3.94	.89	

表5 「単位数(真面目対不真面目)」/標準偏差比較

		平均値	標準偏差	有意確率
医師	真面目	1.24	.79	.07
	不真面目	1.49	1.06	
国会議員	真面目	1.83	1.07	.56
	不真面目	2.00	1.18	
プロスポーツ選手	真面目	2.14	.79	.08
	不真面目	1.89	1.13	
大学教授	真面目	1.93	1.00	1.00
	不真面目	2.02	1.06	
パイロット	真面目	2.03	1.09	.53
	不真面目	2.02	.97	
建築士	真面目	2.48	.91	.93
	不真面目	2.21	1.00	
公認会計士	真面目	2.45	.91	.23
	不真面目	2.34	1.11	
音楽家	真面目	2.45	.87	.08
	不真面目	2.66	1.24	
大会社の課長	真面目	2.38	.94	.77
	不真面目	2.68	.89	
警察官	真面目	2.72	1.03	.21
	不真面目	2.55	.83	
寺の住職	真面目	3.17	.93	.81
	不真面目	2.83	.94	
大会社の営業担当社員	真面目	2.86	.92	.80
	不真面目	3.02	1.01	
電車運転士	真面目	3.21	.77	.78
	不真面目	2.89	.81	
銀行の窓口係	真面目	3.17	.80	.30
	不真面目	3.32	.91	
農業	真面目	3.45	1.30	.08
	不真面目	3.23	1.05	
大工	真面目	3.72	.96	.96
	不真面目	3.38	.87	
中小企業の機械組立工	真面目	3.62	.86	.71
	不真面目	3.62	.95	
商店の店員	真面目	3.90	.72	.07
	不真面目	3.64	.97	
郵便配達人	真面目	3.97	.68	.09
	不真面目	3.83	.94	
道路工夫	真面目	4.07	.80	.63
	不真面目	3.94	.89	

表6 「心理尺度」/標準偏差比較				
		平均値	標準偏差	有意確率
医師	真面目	1.46	.98	.03
	不真面目	1.29	.71	
国会議員	真面目	1.96	1.05	.43
	不真面目	1.79	1.04	
プロスポーツ選手	真面目	2.07	.97	.44
	不真面目	1.85	.96	
大学教授	真面目	1.93	.98	.01
	不真面目	2.05	.78	
パイロット	真面目	2.06	.95	.58
	不真面目	1.98	.88	
建築士	真面目	2.40	.91	.14
	不真面目	2.24	.76	
公認会計士	真面目	2.46	.90	.57
	不真面目	2.37	.93	
音楽家	真面目	2.50	.95	.53
	不真面目	2.55	1.04	
大会社の課長	真面目	2.56	.77	.79
	不真面目	2.48	.80	
警察官	真面目	2.69	.90	.16
	不真面目	2.56	.69	
寺の住職	真面目	3.00	.86	.99
	不真面目	2.77	.80	
大会社の営業担当社員	真面目	3.04	.76	.07
	不真面目	2.87	.90	
電車運転士	真面目	3.01	.78	.23
	不真面目	3.02	.61	
銀行の窓口係	真面目	3.25	.82	.18
	不真面目	3.16	.66	
農業	真面目	3.46	1.03	.35
	不真面目	3.19	1.02	
大工	真面目	3.53	.99	.25
	不真面目	3.47	.86	
中小企業の機械組立工	真面目	3.67	.89	.23
	不真面目	3.48	.76	
商店の店員	真面目	3.76	.86	.35
	不真面目	3.63	.75	
郵便配達人	真面目	3.78	.88	.11
	不真面目	3.77	.71	
道路工夫	真面目	3.86	.89	.36
	不真面目	3.97	.81	

6. 全体の検証

以上を踏まえると、得られたデータに一貫性を見出すのは難しい。第一に、割合からも分かるように、有意な差が見られた職業数自体が少ない。第二に、そのうち仮説

通りになっている場合と、仮説と逆の結果になっている場合がある。よって、全体的に見ると、仮説「『真面目』な大学生ほど、同じような職業評価を下す」を立証することができなかった、といえる。

続いて、有意な差が比較的多く現れた取得単位数の前二つに着目してみる。こちらにおいては、「普通」集団と比較した時、「真面目」集団と「不真面目」集団はより標準偏差の値が大きい。つまり、「普通」集団より、「真面目」・「不真面目」集団の方が威信スコアのつけ方にばらつきがある。自身の取得単位数について多い、または少ない、とはっきり認識する学生は威信スコアをつける際にもはっきりと意思表示をするため、各自のスコアのつけ方にばらつきが出る、と分析できるかもしれない。それに対して、自身の取得単位数が人並みであると回答する学生は、威信スコアをつける際にも「人並み」な回答をするため、ばらつきが出ない、という推測が可能である。この分析だと、取得単位数が「真面目」な集団と「不真面目」な集団の比較において、全く有意な差が現れなかったことも説明できる。

7. 今後の課題

冒頭で述べたように、今回の調査の意義は回答者の内面的特質に注目したことである。しかし、自明なことであるが、性格という内面的特質は性別や年齢といった外面的特質より曖昧なものであるので、非常に定義しづらい。今回の調査で一貫した結果が現れなかった原因の一つには、適切に「真面目」という概念を定義できていなかった点が挙げられるかもしれない。今後内面的特質を取り上げる場合は、より慎重に調査を行う必要があると思われる。とはいえ、今まであまり取り上げられていなかった回答者の性格を考慮した職業威信の研究としては、意義のあるものであったと結論付けることができるだろう。

参考文献

- 京都大学, 2015, 京都大学入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー), 京都大学ホームページ, (2015年12月21日取得, http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/policy/ad_policy/policy.html)
- 京都大学, 2015, 京都大学 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー), 京都大学ホームページ, (2015年12月21日取得, http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/policy/cu_policy/policy.html)
- 南出康世・中邑光男, 2011, 『ジーニアス和英辞典第3版』, 大収館書店
- 新村, 2008, 『広辞苑第六版』, 岩波書店
- 三省堂編修所, 1984, 『広辞林第六版 <机上版>』, 三省堂
- 太郎丸博, 2014, 「『先生』の職業威信 (特集『先生』の働き方) -- (はじめに)」『日本労働研究雑誌』 56-4 : 2-5
- 脇田彩, 2012, 「職業威信スコアのジェンダー中立性:一男女別職業評価調査に基づく一考察」『ソシオロジ』 57-2 : 3-18
- 山本真理子, 2001, 『自己・個人内過程』, サイエンス社

学生の真面目さと職業威信スコアの関係

浅井 飛鳥

京都大学文学部社会学専攻

1. 真面目さは職業威信スコアに影響を与えるのか

大学は、高校の時と比べて自由であるが、なにかを達成するためには主体性を必要とする世界である。それまで、高校までは教師が勉強、部活動、進路、課外活動などすべての面で情報をくれ、道を示してくれた。大学では、そのようなことは全くなくなるのである。勉強、部活動、サークル、将来の進路、などすべて自分で主体的に情報を集め、行動に移さなければならない。

しかも、大学は世間とは隔たりのある閉鎖的なコミュニティであるとしばしば言われる。そのようなコミュニティにおいては、自ら社会の情報を集めないと、常識とは逸脱した感覚が養われていくことも可能性として考えられるだろう。

そのようなコミュニティにおいて、真面目に将来のことを考え、勉強している学生と、そうでない学生との間の職業評価には差が生まれるのではないか。真面目な学生ほど世間一般の職業評価に近づき、そうでない学生はそこから逸脱した職業評価をする傾向にあるのではないだろうか。なぜなら、真面目な学生は不真面目な学生よりも、ニュースや新聞から、世間一般の職業に対するイメージに触れる機会が増えると考えられるからだ。真面目か真面目でないかの性格の違いが、職業評価に影響を与えられられるのである。

このような背景から、真面目な学生ほど世間一般の職業評価に近づき、ばらつきも少なくなる。対して、不真面目な学生は、世間一般の職業評価からは逸脱した回答が増え、さらに各職業に対する評価のばらつきが大きくなるのではないかという仮説を立てた。

2. 調査方法

本調査は京都大学の一般教養の講義「宇宙科学入門」の受講生を対象に行ったものである。調査方法は、授業の開始前に調査票を配布し、授業後に回収するというものであった。日時は、2015年10月15日の四限目（14：45～16：15）、五限目（16：30～18：00）である。有効サンプルサイズは四限目が68、五限目が68で合計136である。

この講義は文系から理系まで幅広い生徒が受講する講義であるので、バランスの良いデータが集められると考え、選択した。なお、この講義は一年生から四年生まで受講しているが、割合としては一年生が圧倒的に多いので、その点に関しては偏ったデータと言わざるを得ない。

2. 1 調査票について

調査票では、まず学部・学科、学年の基礎データを聞いた。次に、「あなたは自分のまじめさについてどう思いますか」という問いに四段階で答えてもらい、「取得単位数は、周囲の人と比べてどうですか」という問いに五段階で答えてもらった。そして、心理測定尺度集の第一巻『人間の内面を探る 自己・個人内過程』から真面目さを図るための質問三つ、つまり「あなたは几帳面な性格ですか」、「自分に厳しいですか」、「責任感が強いですか」に対して五段階で回答してもらった。最後にこちらで指定した20の職業に対して、威信を五段階で回答してもらった。

3. 分析結果

3. 1 取得単位数と職業威信評価の関連について

取得単位数は「多い」「やや多い」「ふつう」「やや少ない」「少ない」の五段階で回答を求めた。各グループ単体で分析するとサンプル数が少ないので「多い」、「やや多い」を真面目群、「ふつう」を普通群、「やや少ない」、「少ない」を不真面目群と設定し分析を行った。

まず真面目群と普通群の関係についてだが、8つの職業で相関がみられた。しかし、いずれも仮説とは逆、つまり真面目群のほうが普通群よりも標準偏差が大きく、ばらつきが大きいという結果になった。(図1)しかし、一概に仮説が支持されなかったと結論付けることはできない。なぜなら、真面目群のサンプル数が不足しており、それが結果に影響を与えたと考えられるからである。

職業	取得単位	度数	平均値	標準偏差
大会社の 営業担当 社員	多い	29	2.86	.915
	ふつう	58	2.97	.591
大学教授	多い	29	1.93	.998
	ふつう	58	1.98	.688
警察官	多い	29	2.72	1.032
	ふつう	58	2.66	.664
農業	多い	29	3.45	1.298
	ふつう	58	3.36	.873
寺の住職	多い	29	3.17	.928
	ふつう	58	2.81	.661
大会社の 課長	多い	29	2.38	.942
	ふつう	58	2.47	.569
電車運転 士	多い	29	3.21	.774
	ふつう	58	3.02	.546
銀行の窓 口係	多い	29	3.17	.805
	ふつう	58	3.14	.544

(図1)取得単位と職業威信スコアのばらつき

つぎに真面目群と不真面目群の関係について考える。ここでは、いずれの職業評価にも有意な差は見られなかった。しかし、上と同様の理由から仮説が支持されなかったと

断定することはできない。

普通群と不真面目群を見てみると、6つの職業において有意な相関がみられた。いずれも普通群のほうが不真面目群よりも標準偏差が小さく、ばらつきが少ないという結果を示した。(図2) 両群ともサンプル数は十分だと考えられるので、真面目な群のほうが職業威信スコアのばらつきが小さいという仮説が、一定の支持を得たと考えることができる。

職業	取得単位	度数	平均値	標準偏差
大会社の 営業担当 社員	ふつう	58	2.97	.591
	少ない	47	3.02	1.011
大学教授	ふつう	58	1.98	.688
	少ない	46	2.02	1.064
大会社の 課長	ふつう	58	2.47	.569
	少ない	47	2.68	.887
電車運転 士	ふつう	58	3.02	.546
	少ない	47	2.89	.814
公認会計 士	ふつう	58	2.47	.731
	少ない	47	2.34	1.109
銀行の窓 口係	ふつう	58	3.14	.544
	少ない	47	3.32	.911

(図2) 取得単位と職業威信スコアのばらつき

上の三パターンの分析のうち、取得単位数と職業威信評価の関連性が支持されたのは一パターンのみであった。取得単位数と職業威信評価の間に有意な関連があるとは結論付けがたい。もし真面目群のサンプル数がもっと集まり、真面目群と普通群、真面目群

と不真面目群の両方の分析において仮説通りの結果が導き出せていたら、職業評価と取得単位数の間の関連性は強く支持されただろう。

3. 2 心理測定尺度と職業威信評価の関連について

まず「あなたは几帳面な性格ですか」、「自分に厳しいですか」、「責任感が強いですか」についての回答「1. あてはまる」「2. ややあてはまる」「3. どちらでもない」「4. ややあてはまらない」「5. あてはまらない」の数字部分を足し合わせて、8点以下を真面目群、9点より上を不真面目群とした。分析の結果二つの職業で有意な相関がみられた。しかし、真面目群のほうが不真面目群よりも標準偏差が大きく、仮説と逆の結果がでた。(図3)

職業	心理尺度	度数	平均値	標準偏差
医師	まじめ	72	1.46	.978
	ふまじめ	62	1.29	.710
大学教授	まじめ	72	1.93	.983
	ふまじめ	61	2.05	.784

(図3)心理測定尺度による評価と職業威信スコアのばらつき

3. 3 真面目さの自己評価と職業威信評価の関連について

「自分のまじめさについてどう思いますか」という質問に対して「まじめ」「ややまじめ」と回答した群を真面目群、「やや不真面目」「不真面目」と回答した群を不真面目群とし分析を行った。結果二つの職業で相関が見られ、真面目群のほうが不真面目群よりも標準偏差が小さく、仮説を支持する結果になった。(図4)

職業	自己評価	度数	平均値	標準偏差
大会社の 営業担当 社員	まじめ	71	3.00	.697
	ふまじめ	62	2.94	.956
道路工夫	まじめ	71	3.96	.745
	ふまじめ	62	3.84	.961

(図 4) 自己評価と職業威信スコアのばらつき

4. 考察

上でも述べたが、取得単位数における真面目群のサンプル数がもっと集まっていたら、何らかの関係性が導き出せたかもしれない。しかし、真面目群のサンプル数を狙って増やす（真面目な生徒が多そうな授業を選ぶ）ことは難しいことだと思う。

真面目さの自己評価と職業威信スコアの分析結果は、仮説をある程度支持するものであった。しかし、心理測定尺度と職業威信スコアにおける分析結果は、仮説を支持しないものであった。一貫した結論が得られたとは言いがたい。

性格が職業威信スコアに影響を与えるのではないかと、という考えのもと今回の調査を行った。仮説を支持するような結果は得られなかったが、この原因は真面目さの中に、様々な要素、つまり几帳面、正義感などが含まれているからなのではないだろうか。それらの要素一つ一つに対して分析を行うことによって、例えば正義感の強い人は、警察官を高く評価する傾向にあるといったことが分かるのではないだろうか。そのような研究が今後なされると大変興味深いものになると考える。

参考文献

山本真理子編、2001、『人間の内面を探る「自己・個人内過程」』サイエンス社

3 班 単純集計表

学生の真面目さと職業威信スコアについて

時限

	度数	パーセント
4 限	68	50.0
5 限	68	50.0
合計	136	100.0

学部・学科

	度数	パーセント
総合人間学部	10	7.4
文学部	22	16.2
教育学部	6	4.4
法学部	17	12.5
経済学部	19	14.0
理学部	18	13.2
医学部医学科	1	.7
医学部人間健康科学科	16	11.8
薬学部薬化学科	1	.7
薬学部薬学科	3	2.2
工学部物理工学科	2	1.5
工学部電気電子工学科	8	5.9
工学部工業化学科	1	.7
農学部資源生物科学科	6	4.4
農学部応用生命科学科	1	.7
農学部森林科学科	2	1.5
農学部食品生物科学科	2	1.5
システム欠損値	1	.7
合計	136	100.0

取得単位数

	度数	パーセント
多い	9	6.6
やや多い	20	14.7

学年

	度数	パーセント
1	113	83.1
2	13	9.6

人並みで ある	58	42.6
やや少な い	29	21.3
少ない	20	14.7
合計	136	100.0

3	5	3.7
4	3	2.2
システム 欠損値	2	1.5
合計	136	100.0

几帳面な性格である

	度数	パーセン ト
あてはま る	18	13.2
ややあて はまる	43	31.6
どちらと もいえな い	24	17.6
ややあて はまらない	36	26.5
あてはま らない	15	11.0
合計	136	100.0

まじめだと思いますか

	度数	パーセン ト
まじめ	16	11.8
ややまじ め	56	41.2
ややふま じめ	47	34.6
ふまじめ	16	11.8
システム 欠損値	1	.7
合計	136	100.0

自分に厳しい

	度数	パーセン ト
あてはま る	7	5.1
ややあて はまる	17	12.5
どちらと もいえな い	39	28.7
ややあて はまらない	49	36.0
あてはま らない	24	17.6
合計	136	100.0

責任感が強い

	度数	パーセン ト
あてはま る	14	10.3
ややあて はまる	53	39.0
どちらと もいえな い	32	23.5

ややあてはまらない	20	14.7
あてはまらない	17	12.5
合計	136	100.0

大工

	度数	パーセント
最も高い	5	3.7
やや高い	11	8.1
ふつう	45	33.1
やや低い	58	42.6
最も低い	15	11.0
システム	2	1.5
欠損値		
合計	136	100.0

パイロット

	度数	パーセント
最も高い	40	29.4
やや高い	61	44.9
ふつう	27	19.9
やや低い	2	1.5
最も低い	4	2.9
システム	2	1.5
欠損値		
合計	136	100.0

大会社の営業担当社員

	度数	パーセント
最も高い	3	2.2
やや高い	31	22.8
ふつう	76	55.9
やや低い	16	11.8
最も低い	8	5.9
システム	2	1.5
欠損値		
合計	136	100.0

商店の店員

	度数	パーセント
最も高い	2	1.5
やや高い	2	1.5
ふつう	52	38.2
やや低い	56	41.2
最も低い	22	16.2
システム	2	1.5
欠損値		
合計	136	100.0

医師

	度数	パーセント
最も高い	105	77.2
やや高い	15	11.0
ふつう	10	7.4
やや低い	0	0.0
最も低い	4	2.9
システム	2	1.5
欠損値		
合計	136	100.0

寺の住職

	度数	パーセント
最も高い	2	1.5
やや高い	40	29.4
ふつう	70	51.5
やや低い	14	10.3
最も低い	8	5.9
システム	2	1.5
欠損値		
合計	136	100.0

建築士

	度数	パーセント
最も高い	18	13.2
やや高い	65	47.8
ふつう	44	32.4

国会議員

	度数	パーセント
最も高い	59	43.4
やや高い	49	36.0
ふつう	15	11.0

やや低い	3	2.2
最も低い	4	2.9
システム	2	1.5
欠損値		
合計	136	100.0

やや低い	5	3.7
最も低い	6	4.4
システム	2	1.5
欠損値		
合計	136	100.0

大学教授

	度数	パーセント
最も高い	42	30.9
やや高い	60	44.1
ふつう	25	18.4
やや低い	3	2.2
最も低い	3	2.2
システム	3	2.2
欠損値		
合計	136	100.0

道路工夫

	度数	パーセント
最も高い	1	.7
やや高い	3	2.2
ふつう	40	29.4
やや低い	53	39.0
最も低い	37	27.2
システム	2	1.5
欠損値		
合計	136	100.0

郵便配達人

	度数	パーセント
最も高い	3	2.2
やや高い	1	.7
ふつう	40	29.4
やや低い	69	50.7
最も低い	21	15.4
システム	2	1.5
欠損値		
合計	136	100.0

大会社の課長

	度数	パーセント
最も高い	6	4.4
やや高い	66	48.5
ふつう	52	38.2
やや低い	6	4.4
最も低い	4	2.9
システム	2	1.5
欠損値		
合計	136	100.0

警察官

	度数	パーセント
最も高い	8	5.9
やや高い	50	36.8
ふつう	62	45.6
やや低い	11	8.1
最も低い	3	2.2
システム	2	1.5
欠損値		
合計	136	100.0

電車運転士

	度数	パーセント
最も高い	1	.7
やや高い	24	17.6
ふつう	86	63.2
やや低い	18	13.2
最も低い	5	3.7
システム	2	1.5
欠損値		
合計	136	100.0

プロスポーツ選手

	度数	パーセント
最も高い	49	36.0
やや高い	53	39.0
ふつう	21	15.4
やや低い	9	6.6
最も低い	2	1.5

公認会計士

	度数	パーセント
最も高い	20	14.7
やや高い	53	39.0
ふつう	50	36.8
やや低い	7	5.1
最も低い	4	2.9

システム 欠損値	2	1.5
合計	136	100.0

システム 欠損値	2	1.5
合計	136	100.0

中小企業の機械組立工

	度数	パーセン ト
最も高い	1	.7
やや高い	8	5.9
ふつう	56	41.2
やや低い	50	36.8
最も低い	19	14.0
システム 欠損値	2	1.5
合計	136	100.0

銀行の窓口係

	度数	パーセン ト
最も高い	2	1.5
やや高い	11	8.1
ふつう	87	64.0
やや低い	25	18.4
最も低い	9	6.6
システム 欠損値	2	1.5
合計	136	100.0

農業

	度数	パーセン ト
最も高い	9	6.6
やや高い	12	8.8
ふつう	55	40.4
やや低い	41	30.1
最も低い	17	12.5
システム 欠損値	2	1.5
合計	136	100.0

音楽家

	度数	パーセン ト
最も高い	19	14.0
やや高い	48	35.3
ふつう	52	38.2
やや低い	8	5.9
最も低い	7	5.1
システム 欠損値	2	1.5
合計	136	100.0

職業に関するアンケート調査

文学部専門科目「社会学実習(担当:太郎丸博)」の一環で、職業についてのアンケート調査を行っています。なお、回答結果は授業以外の目的には使用いたしません。

質問は全部で 5 問あります。ご協力お願いいたします。

【1】 あなたの学部・学科と学年を教えてください。

学部()
学科()
学年()

【2】 あなたは、自分のまじめさについてどう思いますか。以下から最もあてはまるものを選び、数字に○をつけてください。

1.まじめ 2.ややまじめ 3.ややふまじめ 4.ふまじめ

【3】 現時点でのあなたの取得単位数は、周囲の人々(特に同じ学部の人)と比べて、多いと思いますか、少ないと思いますか。以下から最もあてはまるものを選び、数字に○をつけてください。

1.多い 2.やや多い 3.人並みである 4.やや少ない 5. 少ない

【4】 次の特徴の各々について、あなた自身にどの程度当てはまっていると思いますか。以下から最もあてはまるものを選び、○をつけてください。他からどう見られているかではなく、あなたが、あなた自身をどのように思っているかをありのままにお答えください。

	あてはまる 1.	ややあてはまる 2.	どちらともいえない 3.	ややあてはまらない 4.	あてはまらない 5.
(1)几帳面な性格である	_____	_____	_____	_____	
(2)自分に厳しい	_____	_____	_____	_____	
(3)責任感が強い	_____	_____	_____	_____	

【5】 人々の職業について伺います。以下に、様々な職業を挙げます。いま仮に、これらの職業の地位を

高いものから低いものへ順に 5 段階に分けるとしたら、どのように分類されるでしょうか。それぞれについて、「最も高い」～「最も低い」のどれか 1 つを選び、○をつけてください。

	最も高い 1.	やや高い 2.	ふつう 3.	やや低い 4.	最も低い 5.
(1)大工	_____	_____	_____	_____	_____
(2)大会社の営業担当社員	_____	_____	_____	_____	_____
(3)医師	_____	_____	_____	_____	_____
(4)建築士	_____	_____	_____	_____	_____
(5)大学教授	_____	_____	_____	_____	_____
(6)郵便配達人	_____	_____	_____	_____	_____
(7)警察官	_____	_____	_____	_____	_____
(8)プロスポーツ選手	_____	_____	_____	_____	_____
(9)中小企業の機械組立工	_____	_____	_____	_____	_____
(10)農業	_____	_____	_____	_____	_____
(11)パイロット	_____	_____	_____	_____	_____
(12)商店の店員	_____	_____	_____	_____	_____
(13)寺の住職	_____	_____	_____	_____	_____
(14)国会議員	_____	_____	_____	_____	_____
(15)道路工夫	_____	_____	_____	_____	_____
(16)大会社の課長	_____	_____	_____	_____	_____
(17)電車運転士	_____	_____	_____	_____	_____
(18)公認会計士	_____	_____	_____	_____	_____
(19)銀行の窓口係	_____	_____	_____	_____	_____
(20)音楽家	_____	_____	_____	_____	_____

質問は以上です。記入漏れがないかご確認ください。

ご協力ありがとうございました。

4 章 職業評価の基準としての年収

京大生の職業威信評価

—評価基準における年収の効果について—

伊藤 早苗

京都大学文学部社会学専修 3 回生

1 問題設定

世の中には様々な職業がある中で、私たちはその職業を無意識に分類している。ある職業について「立派だ」「すごい」と思う一方で、別の職業については地位が低いと思うこともある。そういった職業威信評価はいったい何を基準に評価されているのか。私たちは、年収を知っているかどうかで職業威信評価に影響を与えるのではないかと考えた。実際の仕事内容を具体的に知らない職業であっても、年収を知っていればその職業の社会貢献度や価値にひとつの尺度を与えると思うからである。また、医師や道路工夫といった、年収が両方とも極端に高かったり低かったりする職業に比べて、年収が中くらいな職業のほうが、年収という情報によって評価に差が出るのではないかと考えた。以下、この仮説を検証していく。

2 先行研究

職業威信評価をする上での評価基準について、高田（2002）では、「学歴が高い」「収入が高い」「技能を必要とする」「仕事のやり方を自分で決められる」「肉体的にきつい」「精神的なストレスが大きい」「人を動かす力が強い」「文化的教養が必要とされる」の 8 項目の評定基準を使って調査がされている。これらは〈高地位性〉〈技術性〉〈自立性〉という 3 つの特性に集約でき、この 3 つの特性をどうあわせもつかで人々は職業を無意識にグループ分けしているということを示し、職業評価をする上でそもそもの尺度が違うということを明らかにした。また、都築（1998）によると、個人が職業評価をする

際の特性尺度は、〈社会的価値・社会に対する効果〉〈自由さ・気楽さ〉〈技能水準〉〈収入の高さ〉〈気楽さ〉の 5 特性があるとし、特に〈社会的価値・社会に対する効果〉と〈技能水準〉と〈収入の高さ〉との相関が高いことが示されている。〈権力の強さ〉という尺度も加えた稲田（2005）からもこの〈社会的価値・社会に対する効果〉と〈技能水準〉と〈収入の高さ〉という 3 つの特性が職業評価に大きな関連があることが示されている。これらの先行研究をふまえて、職業評価をする上での尺度がそもそも違うなら、一つの尺度となる情報をアンケート時に与えた場合に人々はそれを根拠に評価するのか確かめたいと思った。また、その尺度としては収入という、これらの 3 つの特性の一つとしてあげられているものを選ぶことで、調査時に年収の情報を与えるか与えないかの差が大きく出るだろうと考えた。

3 調査方法

年収の情報を記載した調査票 A と、記載していない調査票 B の 2 種類を用意し、全学共通科目を中心に、授業の受講者に対しこの 2 種類の調査票で調査を行った。一般教養の社会学（吉田先生）、文学部開講の社会学講義（伊藤先生）、運動科学、政治学、社会統計学の 5 つの講義で調査を行った。2015 年 10 月 7 日～28 日の間の各授業時に行った。その結果、年収を記載した A 票は 123 枚、B 票は 125 枚集めることができた。

4 分析結果

4-1 職業を年収順に並べて A 票と B 票を別々に比較

単純集計に関しては別のページを参照してもらいたいですが、ここでは、年収表記のある A 票と年収表記のない B 票で分け、年収の高い順に左から並べてグラフにすると、以下のようなになった(図 3, 4)。

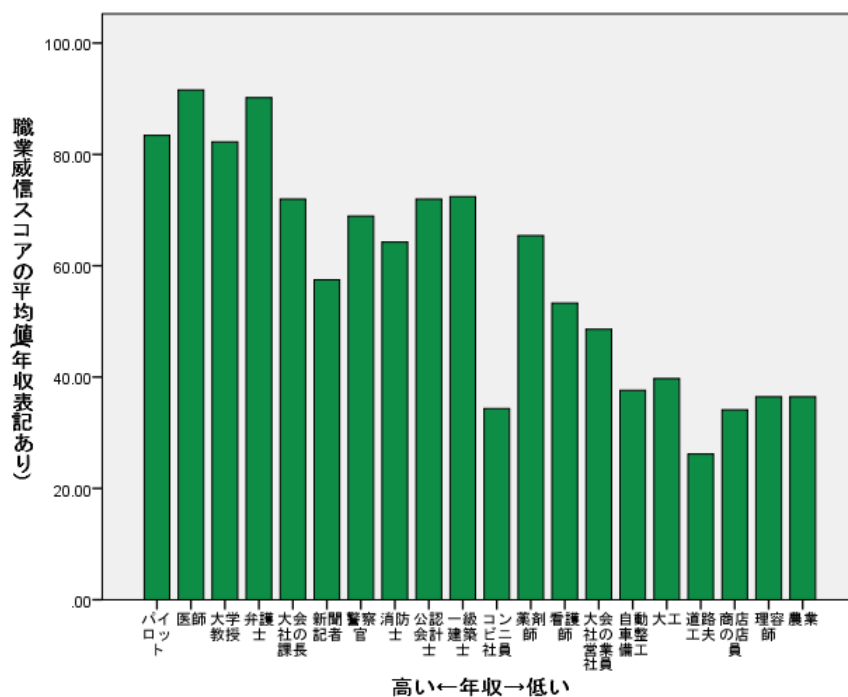


図3 年収表記あり（A票）の職業威信スコアの平均値

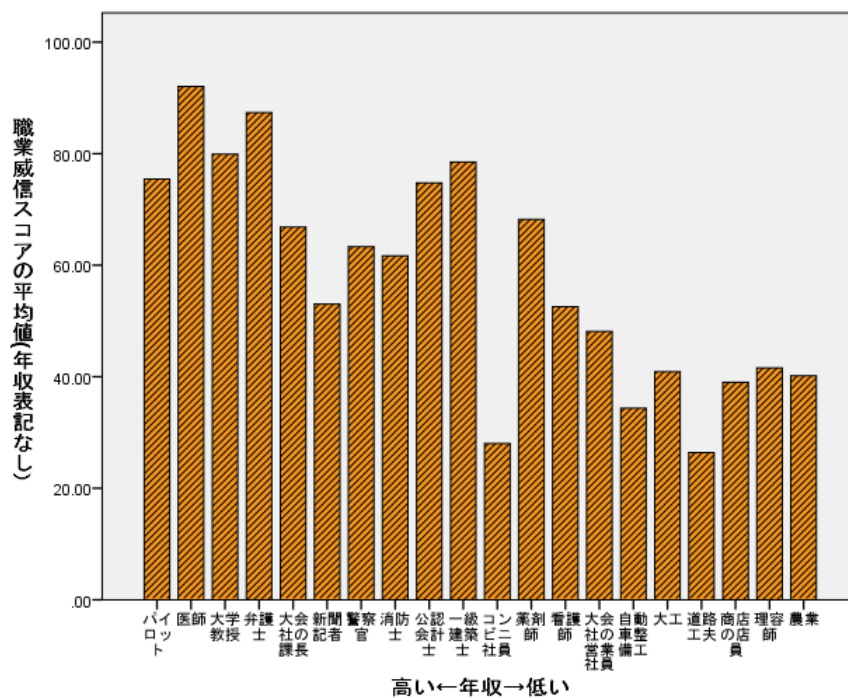
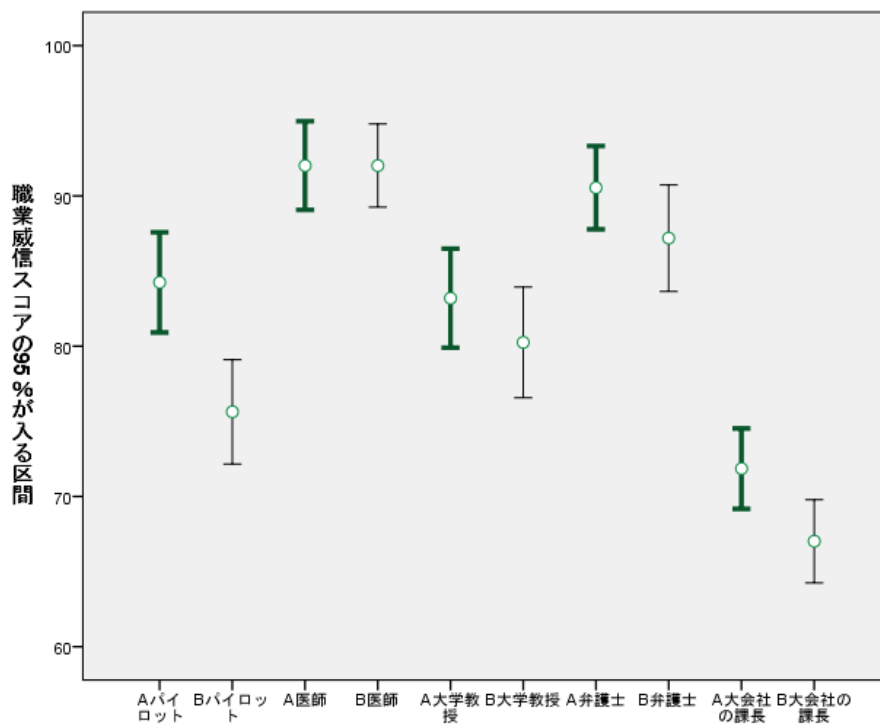


図4 年収表記なし（B票）の職業威信スコアの平均値

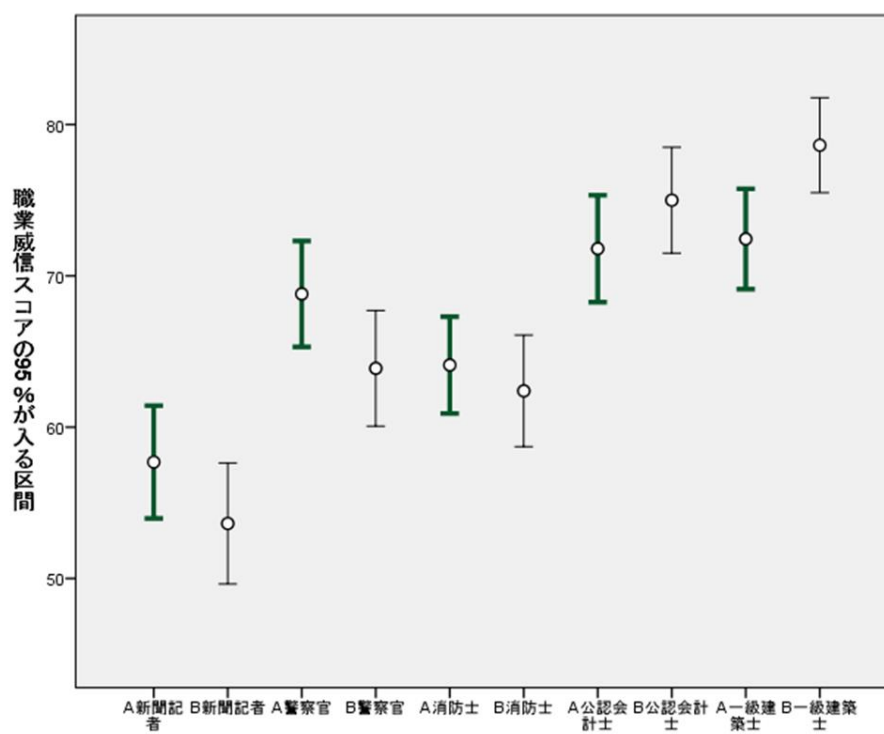
回答者が職業威信をつけるときに年収情報を第一に考えたならば年収表記ありの A 票では威信スコアも年収の高い順にでこぼこせずになだらかに傾斜がかかるはずであるが、図 3 と図 4 を比べてわかるように、回答者はすべての職業について一律に年収情報だけを判断材料としているわけではないということがいえる。

4-2 それぞれの職業ごと分析

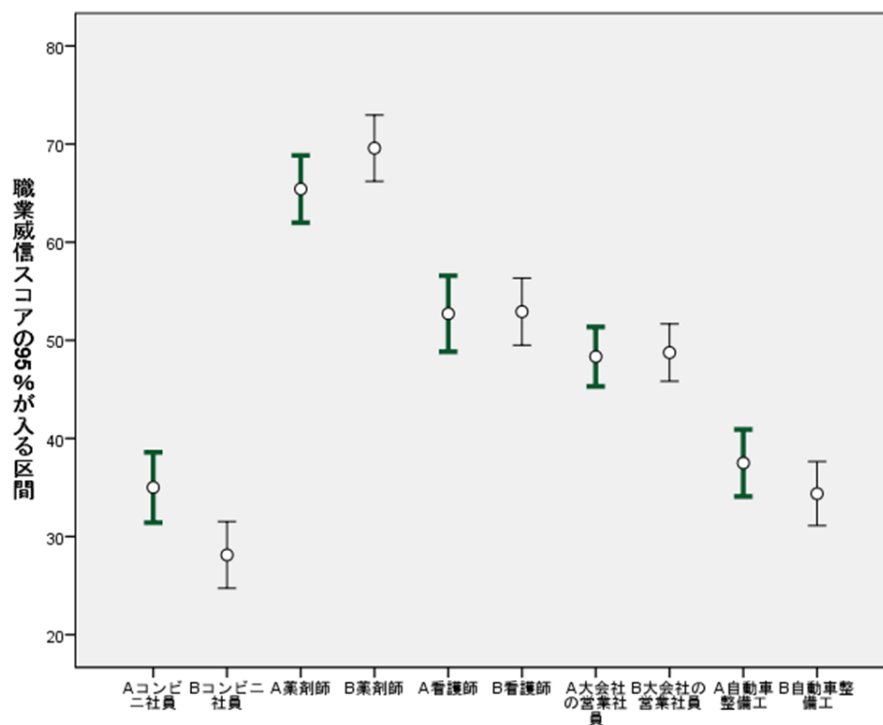
そこで、それぞれの職業ごとに年収を記載した時としていない時で職業威信スコアの平均値に変化がでないか調べた。以下の 4 つのグラフ（図 5,6,7,8）に表れている。平均値は丸で表されており、回答の 95%が入る職業威信スコアの区間を直線で示してある。この区間を示すエラーバーが重複していると、威信スコアは年収表記の有無に影響されずにつけられたということになり、一方このエラーバーが重複していないと年収を記載することの影響が出たということになる。グラフにおいて、各職業の A と書いてある左側の方が年収表記をした場合、B と書いてある右側が年収表記をしなかった調査の結果である。



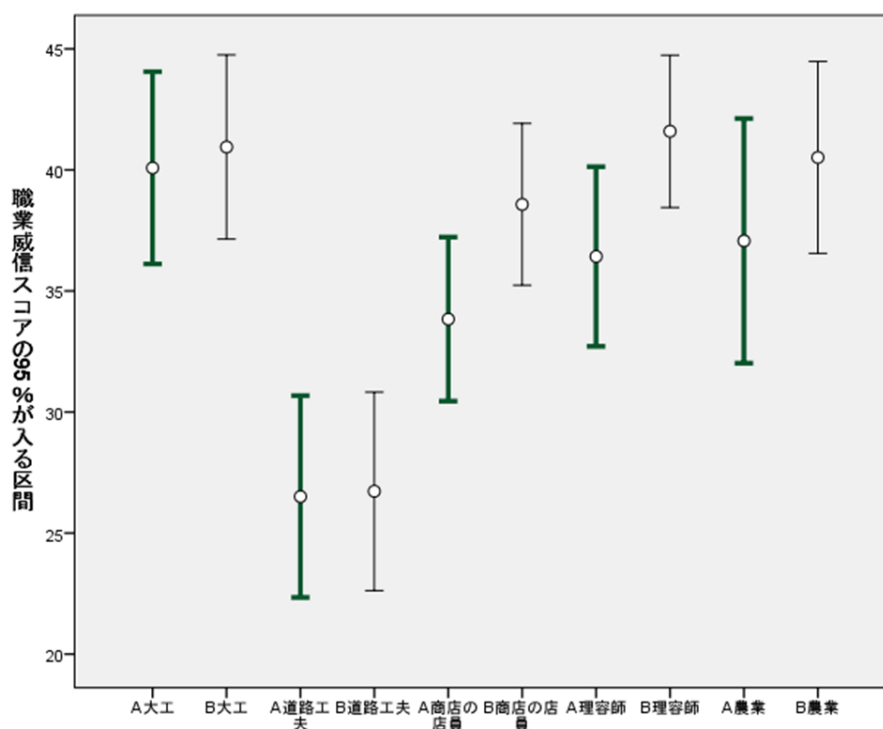
↑ 図5 職業威信スコアの平均値のA票とB票の比較 (1)



↑ 図6 職業威信スコアの平均値のA票とB票の比較 (2)



↑ 図7 職業威信スコアの平均値のA票とB票の比較 (3)



↑ 図8 職業威信スコアの平均値のA票とB票の比較 (4)

グラフから、パイロット、大会社の課長、一級建築士、コンビニ社員が特に年収表記の影響を受けているとわかる。これを確かめるためにt検定を行ったところ、太字で示したパイロット、大会社の課長、一級建築士、警察官、コンビニ社員、商店の店員、理容師に有意な差が出たことが分かった(表1)。私たちの仮説では年収が極端に高いあるいは低い職業よりも年収が中間層の方が、年収表記による差が大きく出ると考えていたが、その仮説とは異なり、むしろ年収の高いパイロットや年収の低い商店の店員や理容師においても差が大きく出た。

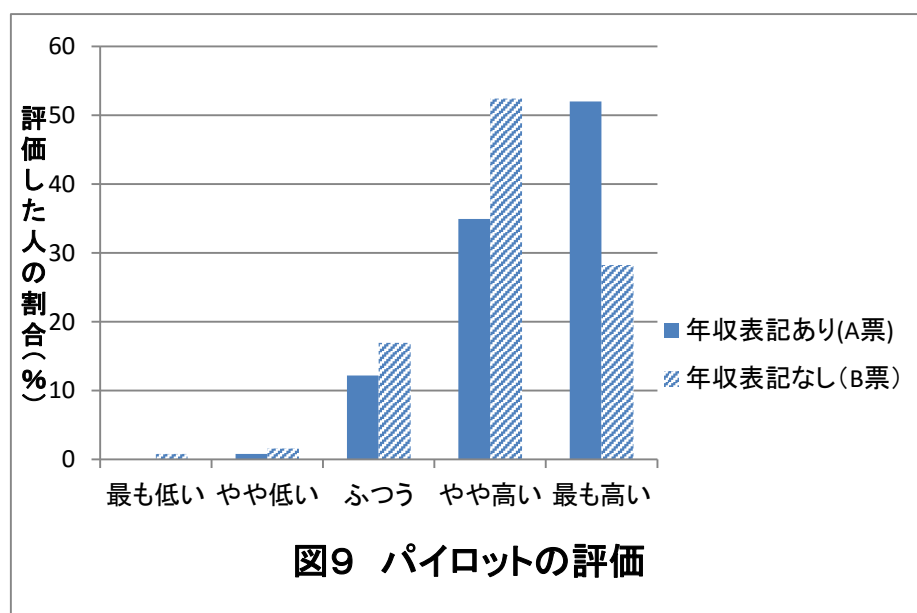
表1 t検定の結果

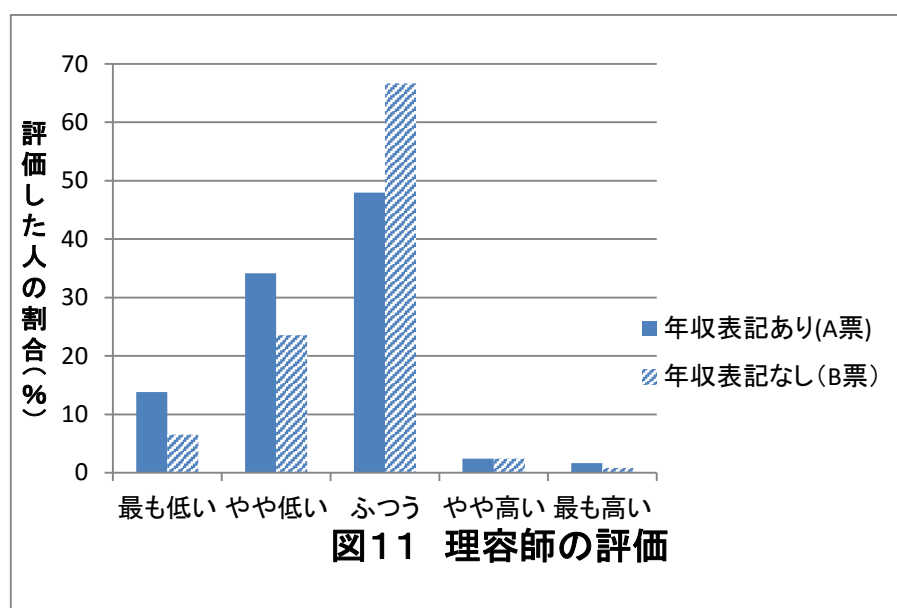
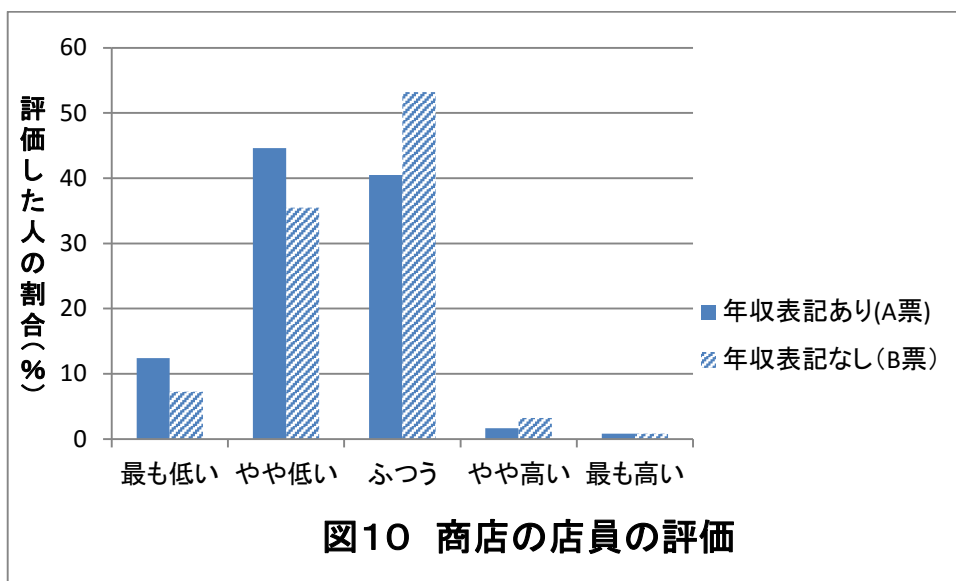
職業名	確率pの値
パイロット	0.00
医師	0.89
大学教授	0.34
弁護士	0.18
大会社の課長	0.01
新聞記者	0.12
警察官	0.04
消防士	0.27
公認会計士	0.31
一級建築士	0.03
コンビニ社員	0.01
薬剤師	0.10
看護師	0.94
大会社の営業担当	1.00
自動車整備工	0.18
大工	0.63
道路工夫	0.84
商店の店員	0.03
理容師	0.01
農業	0.25

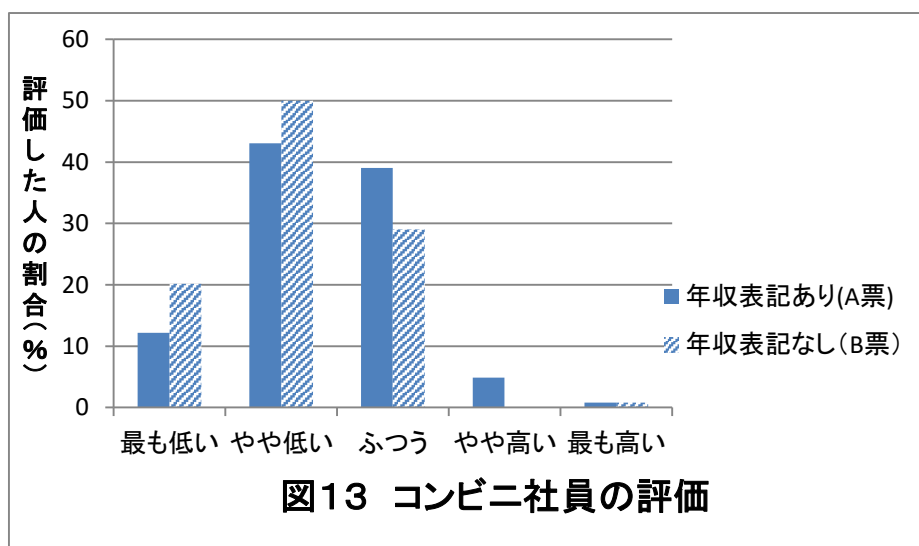
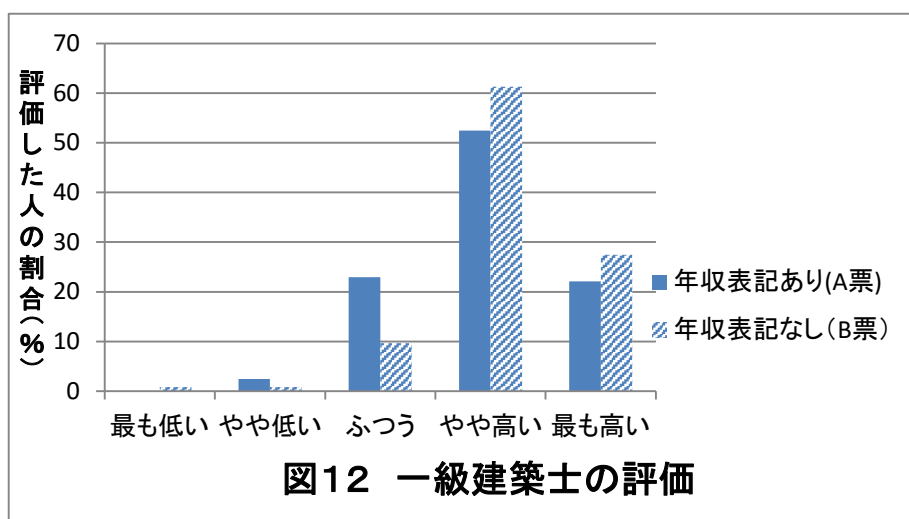
4-3 回答者のスコアの付け方の比較

補足ではあるが、有意な差が出たそれぞれの職業に関して、年収表記による回答者のスコアのつけ方にどのように差が出たかを詳しく見てみる（図 9,10,11,12,13）。パイロットや商店の店員や理容師に関しては、年収が記載された方が、より端の方の評価をつけやすくなっている。一方で、建築士やコンビニ社員はむしろ真ん中の方の評価をつけるよう働いている。

一概に年収表記の影響のでた職業について、回答者は端の方の評価をつけるのに自信がついたと言えるわけではないと思うが、年収表記によって、もともと回答者の想定していた年収とは予想外に異なった職業に関しては威信評価に変化が出たと考えられる。







5 考察

この調査からわかったことは二つある。一つは、年収情報が表示されていても、すべての職業において年収情報が優先されるわけではなく、一部の職業においてはそれを上回る影響力をもつ何らかの評価基準があるということである。もう一つは、回答者のもととあったそれぞれの職業に対するイメージとのくいちがいが生じて、年収表記が威

信評価に影響することもあるということである。その場合、回答者はその職業の年収を知らなかったか、あるいはアンケートで示したものとかけ離れた年収を想定していたということになる。また仮説とは異なり、年収表記による影響は年収の高さに関係がないということもわかった。年収表記による影響がでた原因が回答者の年収に関する正確な知識の有無だったと考えれば、人々の年収に関する知識は年収が高い低いにかかわらずまちまちであると考えられる。

年収情報が職業威信評価に影響を与えることは確かであるが、年収以外にもある強力な評価基準は何であるのか、また、年収表記の影響の原因が回答者の予備知識の有無や正確性にあるとしたら、どのようなタイプの職業にそれらの偏りがあるのかなどということも突き詰められたらよかったと思われる。

6 参考文献

- 稲田雅也,2005,「職業威信スコアの評価基準構造の関連要因に関する研究」人文・自然・人間科学研究 No. 14, pp 1-14 拓殖大学
- 高田洋, 2002,「職業イメージによる職業威信評定基準の分析」人文学報 No. 329, pp 65-87, 東京都立大学
- 都築一治, 1998,「職業評定のモデルと職業威信スコア」1995 年 SSM 調査シリーズ 5 『職業評価の構造と職業威信スコア』 pp 69-86, 1995 年 SSM 調査研究会科学研究費補助金特別推進研究 (1) 研究成果報告書

年収情報が職業威信評価に与える影響について

高濱 亮典

文学部社会学専修 3 回生

1. 問題設定

1.1 はじめに

社会的分業が進んだ現代社会において、マニュアル（肉体的）・ノンマニュアル（非肉体的）という枠だけにとどまらず様々な職業が存在している。

人々がある特定の職業に対して意識的あるいは無意識的に抱いているイメージを数値化したものを職業威信スコアと呼んでいる。また一部に反論、注釈があるが（安藤 1979）「職業威信の序列は、評定者の年齢、性別、学歴、職業といった属性からはほとんど影響を受けない」（太郎丸 2014）という考えが優勢である。

職業威信スコアとは代表的には以下の質問を通じて得られる。

「ここにいろいろの職業名をかいた用紙があります。世間では一般に、これらの職業を高いとか低いとかいうふうに区別 することもあるようですが、いまかりにこれらの職業を高いものから低いものへの順に五段階に分けるとしたら、これらの職業はどのように分類されるでしょう か。それぞれの職業について、「最も高い」「やや高い」「ふつう」「やや低い」「最も低い」のどれかひとつを選んで下さい。」（1995 年 SSM 調査研究会 1996）

現代において職業は、単に所得を得るための手段にとどまらず、教養や社会的地位のような文化的・社会的な資源とも深く結び付いている。そのため職業威信スコアに関して社会学者たちの間でも以下のように解釈されている。

職業威信は「職種や従業上の地位に現れる技能的水準、権限としての勢力水準、就業資格としての学歴水準そして職業の格付けという社会的評価を含む認知的指標と考え

られている」。(元治恵子 2005)『Featherman and Hauser によれば職業威信の値は、「職業の社会経済的属性の“誤差を含んだ”推定値 (“error prone” estimates)」に過ぎない。すなわち、職業威信は、職業の経済的地位と社会的地位を統合した「客観的な」地位の推定値と解釈される』(太郎丸 1995)

ゆえに、「権力があり、高い報酬を得られる職業ほど威信が高い。それゆえ、職業威信スコアは、各職業の在職者の平均年収および平均教育年数と強く相関する (Duncan 1961; Marsh 1971; Lin and Xie 1988)」(太郎丸 2014)ことはすでに示されている。

つまり年収記載のない職業評価の際、人々は自身の持つ各職業に関する年収イメージをある程度以上参考にしているのではないかと推測される。当然のことながら、年収の高いイメージの職業は威信も高く、低いイメージの職業は威信も低くなる傾向があると考えられる。

そこで、人々の持つ平均年収のイメージと実際の年収にギャップがあり、またそのギャップが大きいほど年収情報を記載した際に、職業威信スコアに有意な変動がみられるのではないかと考えた。

またそのことを検証することで年収が人々の職業評価にどれほどの程度で影響を与えているのかということを明らかにできるのではないかと推測される。

1.2 仮説

今回の調査において以下のような仮説が考えられる。

医師やパイロットのような先行研究において職業威信スコアが比較的高く（医師：90.1、パイロット：82.5）¹⁾、平均年収も高い職業（医師：1154万円、パイロット：1712万円）²⁾ というのは年収情報の記載の有無にかかわらずスコアの変化はないと推測される。なぜならそれらの職業は社会的にも名声を得ており、高年収であるという各人が持つイメージとほとんど相違ないためである。道路工夫や自動車整備工など威信ス

コア、平均年収ともに低い職業もまた同様に変動は見られないであろうと考えられる。

(威信スコア；道路工夫：39.0、理容師：49.7)¹⁾ (平均年収；道路工夫：349 万円、理容師：257 万円)²⁾

しかし、年収と威信スコアにギャップがある職業では年収情報の記載ある調査票での威信スコアと記載のない調査票での威信スコアに差がみられると推測される。具体的には、薬剤師や一級建築士のような先行研究における職業威信スコアでは比較的高い値を記録しているが、(薬剤師：65.7、一級建築士：72.0)¹⁾ 在職者の平均年収が比較的低い職業(薬剤師：523 万円、一級建築士：633 万円)²⁾ では年収の記載によってスコアが低くなり、逆に先行研究での威信スコアが比較的低いのも関わらず平均年収が高い職業(新聞記者；威信スコア：55.2、平均年収：814 万円、警察官；威信スコア：57.9、平均年収：813 万円)^{1) 2)} においては、年収情報が明記されるとスコアが高くなるのではないかというのがこの調査における仮説である。

上述したように威信スコアは評定者の属性によって左右されないとされているのでその性質を利用してここでは調査の便宜上、先行研究の威信スコアを参照して平均年収と威信スコアを加味して各職業を並べ替える。^{注1)}

その順序づけしたものが以下の表1である。

表 1 平均年収と先行研究の威信スコアを加味した順序づけ（降順）

パイロット
医師
弁護士
大学教授
大会社の課長
公認会計士
一級建築士
警察官
消防士
薬剤師
新聞記者
看護師
大会社の営業担当社員
大工
コンビニ社員
商店の店員
自動車整備工
理容師
農業従事者
道路工夫

表 1 は、パイロットや医師、弁護士など上位に位置する職業は先行研究における威信スコアが高く、平均年収も高いということを意味しており、理容師や農業従事者、道路工夫のような職業は威信スコア、平均年収ともに低いということを意味している。

対照的に黄色で色付けされた公認会計士から大工までの職業は威信スコアの順序と平均年収の順序との間にずれがあるものであり、それは人々の平均年収のイメージと実際の年収との間にギャップが存在していることを意味している。

つまり色づけされた職業の間だけで年収情報記載ありの調査用紙におけるスコアとなしの調査用紙におけるスコアとの間に変動が観察された場合、仮説が実証されたことになる。

2. 調査内容

今回の調査では年収情報を記載した用紙 A と年収情報の記載なしの用紙 B を以下の授業出席者にランダムに配布し回収した。

質問用紙の内容については報告書の最後に参照している。

アンケートを実施した授業と日時、回収数は以下のとおりである。

・運動科学	神崎素樹	水 4	10/7	回収数	A 票 : 46	B 票 : 43
・社会学 (講義)	伊藤公雄	水 2	10/14	回収数	A 票 : 22	B 票 : 22
・社会学Ⅳ	吉田純	月 3	10/12	回収数	A 票 : 27	B 票 : 29
・政治学Ⅱ	佐野亘	木 3	10/22	回収数	A 票 : 18	B 票 : 21
・社会統計学	金子治平	水 2	10/28	回収数	A 票 : 10	B 票 : 10
サンプルサイズ		合計	A 票 : 123	B 票 : 125		

3. 調査結果の分析

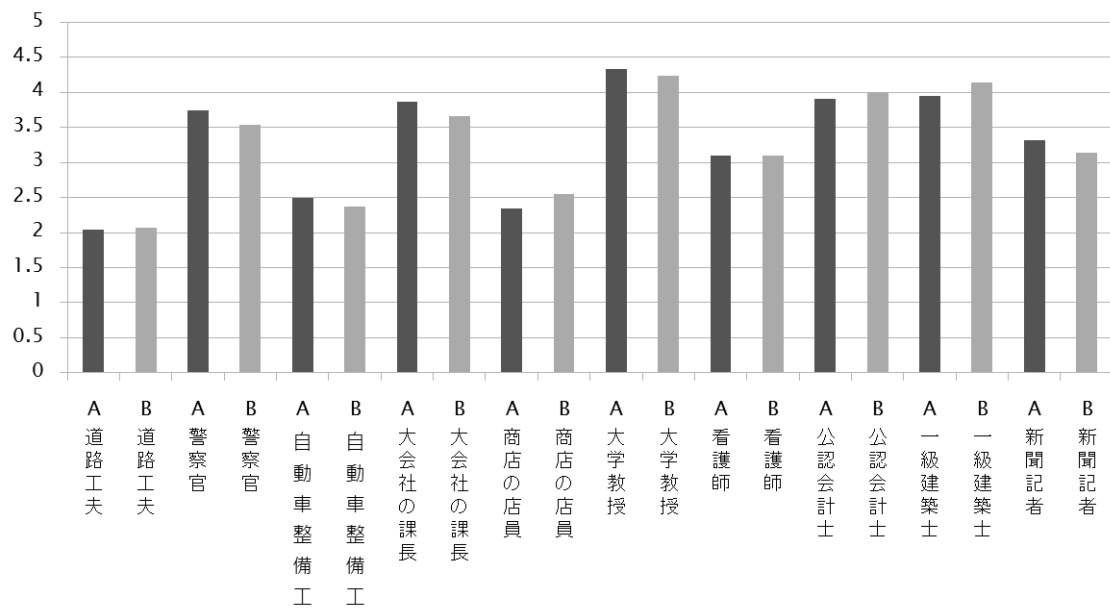
3.1 調査結果

年収情報を記載した票 A と記載していない票 B について各職業威信スコアは以下の表 2、図 1 のとおりである。

表2 年収情報記載の票Aと記載なしの票Bの威信スコア

職業名	A(年収記載あり)	B(年収記載なし)
道路工夫	2.04	2.06
警察官	3.75	3.54
自動車整備工	2.5	2.37
大会社の課長	3.87	3.66
商店の店員	2.34	2.55
大学教授	4.33	4.23
看護師	3.1	3.1
公認会計士	3.9	4
一級建築士	3.94	4.14
新聞記者	3.31	3.15
コンビニ社員	2.39	2.11
理容師	2.44	2.67
医師	4.68	4.69
弁護士	4.62	4.5
消防士	3.59	3.49
大工	2.6	2.65
大会社の営業社員	2.94	2.94
農業従事者	2.48	2.63
パイロット	4.38	4.06
薬剤師	3.61	3.77

威信スコア平均 票A:年収情報記載あり 票B:記載なし



威信スコア平均 票A:年収情報記載あり 票B:記載なし

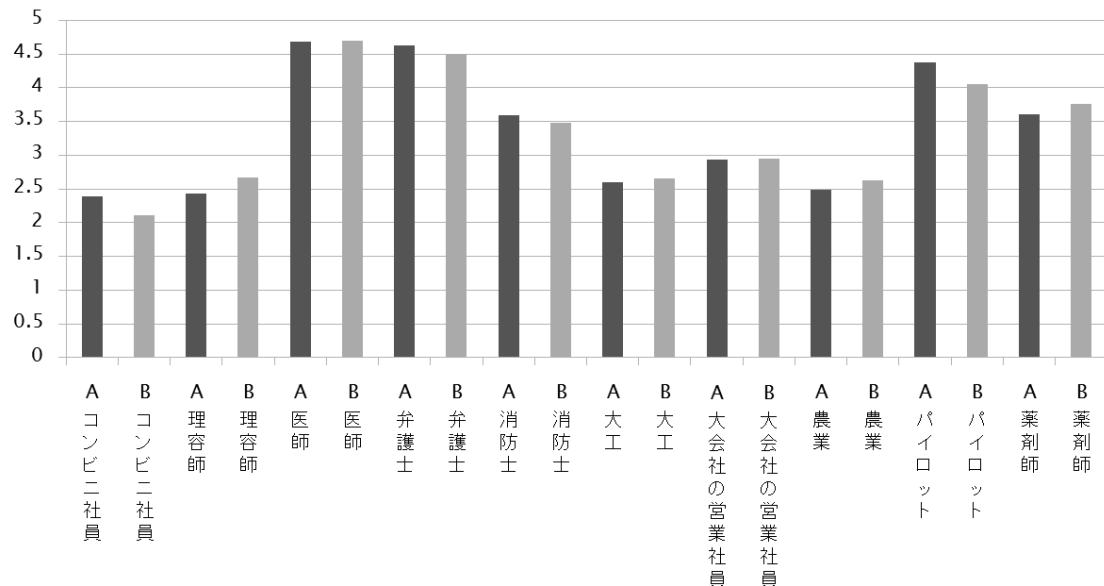


図1 年収情報記載の票Aと記載なしの票Bの威信スコア

表2や図1みると、年収情報の記載の有無によって威信スコアが変動する幅はやはり各職業ごとに異なっているのがわかる。看護師(3.1と3.1)や大工(2.6と2.65)などは票Aと票Bでの威信スコアはほとんど変わっていない一方で、パイロット(4.38と4.06)や警察官(3.75と3.54)は他の職業と比べると変動の幅が大きいように思われる。

3.2 母集団の推測(有意性検定)

サンプルの中では以上のような変化を観察することができたが、それが有意な差といえるのかどうか母集団での平均を推測し分析してみたいと思う。

サンプルにおいて観察された差が有意な差といえるかどうか検討するため、有意性検

定を行う。^{注2)}

「差がない」ことを帰無仮説にした場合 5%水準で検定した結果、確率 p は以下の表 3 のとおりである。($p=1$ のとき差はなく、 p の値が小さいほど有意な差が認められる。)

表 3 有意性検定の結果

職業名	確率 p の値
パイロット	0.00
医師	0.89
弁護士	0.18
大学教授	0.34
大会社の課長	0.01
公認会計士	0.31
一級建築士	0.03
警察官	0.04
消防士	0.27
薬剤師	0.10
新聞記者	0.12
看護師	0.94
大会社の営業担当社員	1.00
大工	0.63
コンビニ社員	0.01
商店の店員	0.03
自動車整備工	0.18
理容師	0.01
農業	0.25
道路工夫	0.84

検定の結果、表 3 において赤字で示した職業において有意な差が認められるといえる。その職業名を挙げていくと、パイロット、大会社の課長、一級建築士、警察官、薬剤師、コンビニ社員、商店の店員、理容師の 8 つである。そこでこの 8 つの職業についてそれぞれ次の節で分析をする。

3.3 仮説の検討

調査の結果、有意な差が観察されたのは上の節で挙げた 8 つの職業である。この 8 つの

職業について仮説の段階で分類したグループを考えると、以下のようにあらわすことができる。

- ・ 先行研究での威信スコアと年収ともに高い職業；パイロット、大会社の課長
- ・ 先行研究での威信スコアと年収にずれがある職業；一級建築士、警察官、薬剤師、コンビニ社員
- ・ 先行研究での威信スコアと年収ともに低い職業；商店の店員、理容師

我々の仮説では一級建築士や警察官などのような先行研究における威信スコアと年収にずれがみられる職業群においてのみ年収情報の記載の有無において威信スコアに変動がみられるとしていたが、パイロットのような威信スコア・年収ともに高い職業群やコンビニ社員のよう威信スコア・年収ともに低い職業群においても年収情報の記載の有無によって威信スコアに有意な変動が観察された。

そこでそれぞれの職業で年収情報が威信スコアにどのような影響を与えたのか見ていくこととする。

まずは仮説では変動がみられないであろうと予測した 4 つの職業から見ていくこととする。

- ・ パイロット、大会社の課長

年収威信スコアともに高い職業群であるこの 2 つは年収記載の有無によって威信スコアが以下のように変化した。

パイロット： A（記載あり） 4.38 B（記載なし） 4.06

大会社の課長： A（記載あり） 3.87 B（記載なし） 3.66

つまりどちらも年収情報を記載したことで威信スコアが有意に上昇した。その結果を分析するために 2 つの職業の各数値の度数の分布をみていくこととする。

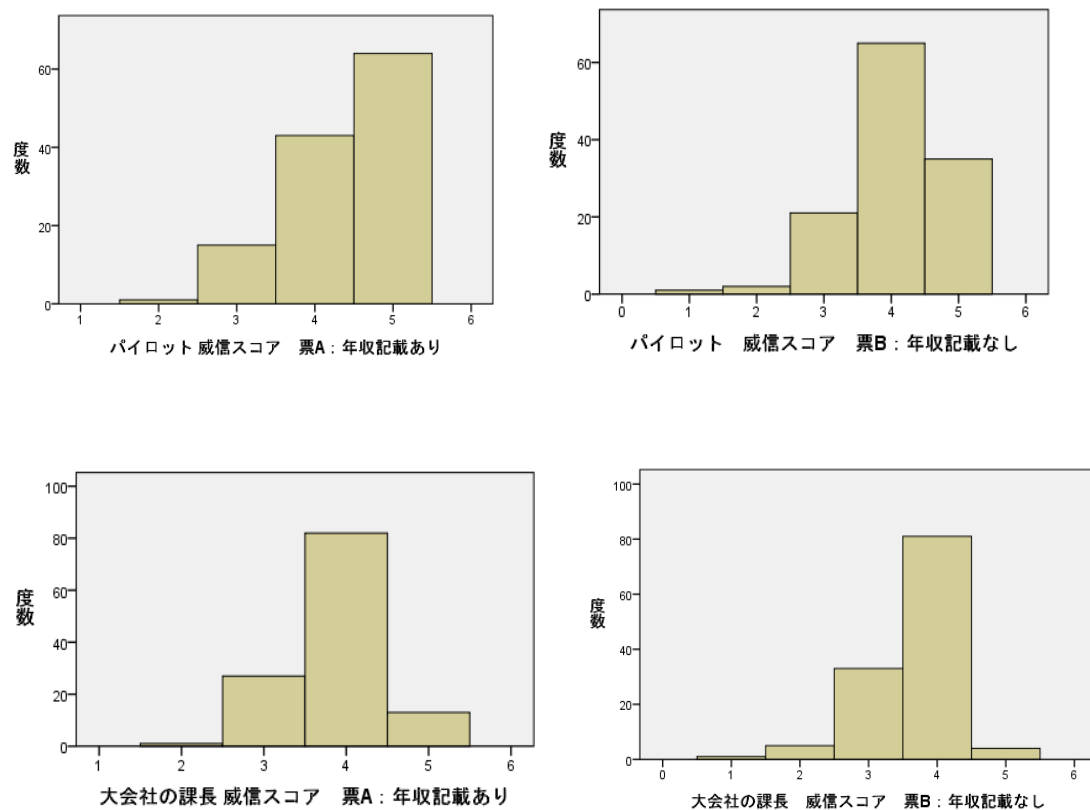


図 2 パイロット、大会社課長の威信スコアのヒストグラム（年収記載あり・なし）

図 2 をみると、パイロットのほうが顕著であるが、“3”や“4”の分布が年収記載ありの票 A のほうが少なく、その代わりとして最高数値である“5”が増加している。

今回のように 5 段階の奇数の段階を設定したアンケートでは普通の評価である“3”に近い評価に偏ることが多く、“1”や“5”のような極端な評価は比較的少なくなることが多い。(中心化傾向) このことはすでに多くのアンケート調査からも明らかであり、今回の調査でも年収記載なしの場合には記載ありの場合よりもその傾向が顕著である。

しかし、パイロット、大会社の課長ともに平均年収が高くなっていることから、年収情報という客観的情報を提供されることで最高評価である“5”の評価をすることに躊躇

躊がなくなったのではないかと推測される。

その結果としてパイロットや大会社の課長において年収記載ありの場合のほうが記載なしの場合よりも威信スコアの平均が高くなったのであろうと考えられる。

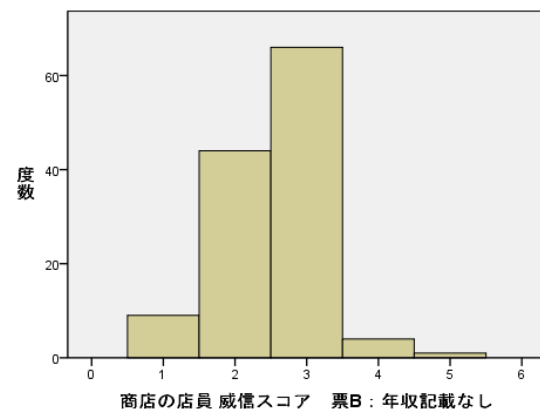
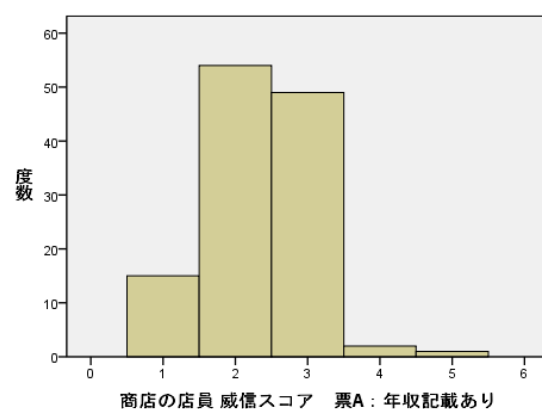
・商店の店員、理容師

年収、威信スコアともに低い職業群であるこの2つの職業について、年収情報記載の有無によって威信スコアは以下のように変化した。

商店の店員： A（記載あり） 2.34 B（記載なし） 2.55

理容師： A(記載あり)2.44 B（記載なし） 2.67

商店の店員、理容師の場合ともに記載ありの威信スコアの方がなしの時よりも低くなっていることがわかる。パイロット、大会社の課長の時と同様に評価の時の数値の度数分布の変化を見てみることにする。



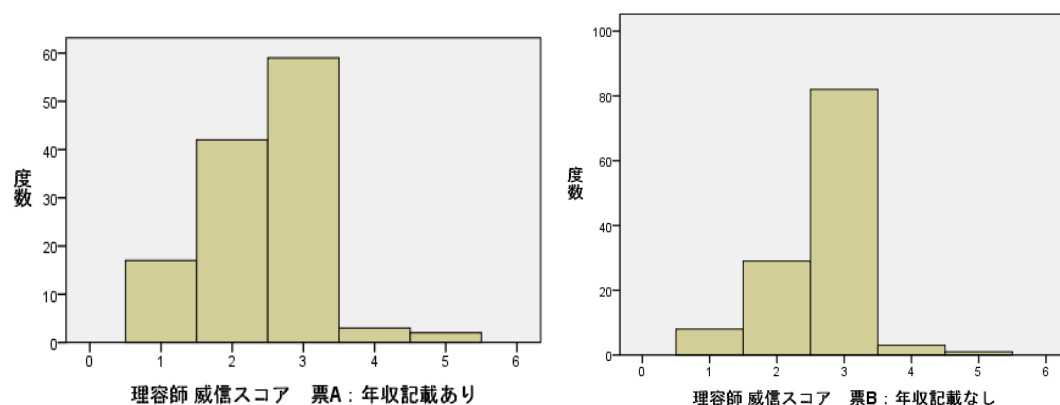


図 3 商店の店員、理容師の威信スコアのヒストグラム（年収記載あり・なし）

図 3 を見ると、商店の店員、理容師の場合ともに、年収記載ありの場合“3”の割合が記載なしの場合よりも減少し、“2”と“1”の占める割合が増加している。これはパイロットや大会社の課長の時と同様に年収という客観的な情報を与えられたことによって中心に偏ることなく“1”や“2”といった極端である最低評価をしやすくなったためであろうと推測される。

・コンビニ社員、一級建築士、警察官、薬剤師

最後に年収と威信スコアにずれがあり仮説において変動がみられるであろうと推測した職業群にあたる以上の 4 つの職業についてみていくこととする。

年収記載の記載によって威信スコアが増加したものはコンビニ社員と警察官の 2 つで、逆に年収の記載によって威信スコアが減少したのが一級建築士と薬剤師の 2 つである。

コンビニ社員：票 A（記載あり） 2.39 票 B（記載なし） 2.11

警察官： 票 A（記載あり） 3.75 票 B（記載なし） 3.54

一級建築士 票 A（記載あり） 3.94 票 B（記載なし） 4.14

薬剤師 票 A（記載あり） 3.61 票 B（記載なし） 3.77

威信スコア評価のヒストグラムは以下の図 4、図 5 のとおりである。

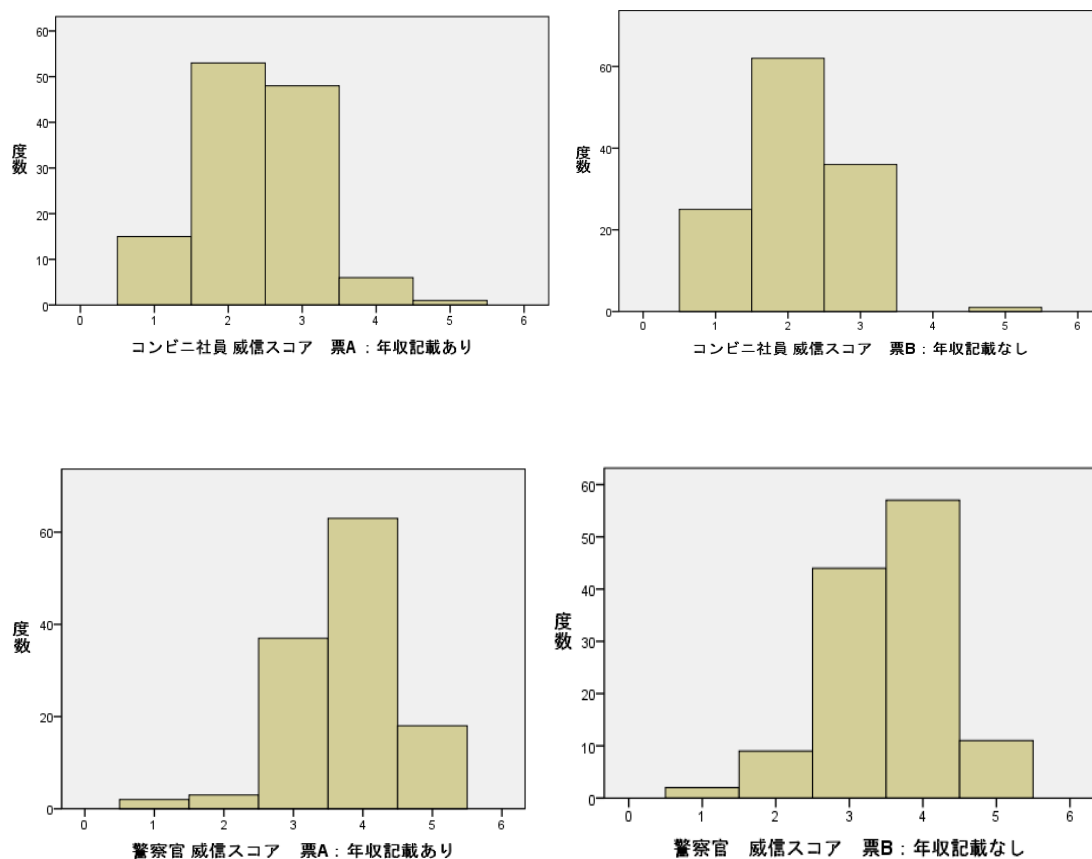


図 4 コンビニ社員、警察官の威信スコアのヒストグラム（年収記載あり・なし）

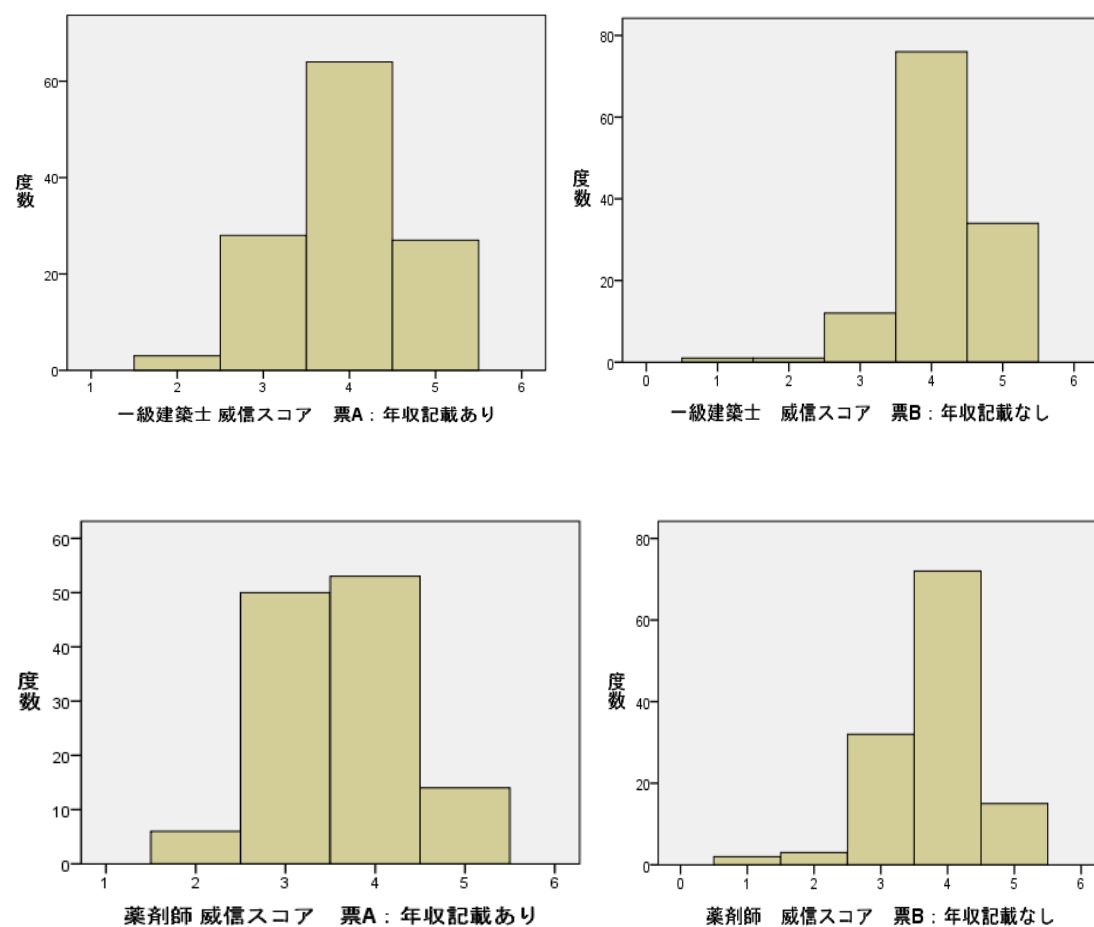


図5 一級建築士、薬剤師の威信スコアのヒストグラム（年収記載あり・なし）

図4を見ると、コンビニ社員では“1”と“2”の度数が減少し、“3”“4”の度数が増加しており、警察官の場合は“2”“3”の度数が減少し、“4”“5”の度数が増加している。

図5を見ると、一級建築士の場合では“4”“5”の度数が減少し、“3”の度数が増加しており、薬剤師の場合は“4”の度数が減少し、“3”が増加している。

その結果としてコンビニ社員、警察官の場合は年収記載のよって威信スコアが増加し、一級建築士、薬剤師の場合は威信スコアが減少した。

威信スコアが減少した2つの職業は先行研究での威信スコアが比較的高い値を記録

しており、(一級建築士：72.0、薬剤師：65.4)¹⁾、一方で増加した2つの職業は先行研究での威信スコアは低い値となっている。(コンビニ社員：42.4、警察官：57.9)¹⁾

何度か述べてきたように威信スコアは年収と相関があることがすでに知られており、そのため威信スコアが増加している職業と減少している職業との間には仮説で述べたように人々の持つ年収イメージとのギャップ、つまり「思ったより年収が高い」、逆に「思ったより年収が低い」といった印象が威信スコアの変化に影響されたのではないかと仮定しそのことを検証したいと思う。

繰り返しになるが、言い換えると、一定の威信スコアを記録する職業群には、ある程度人々が漠然と持っている年収のイメージないし期待値があり、その年収のイメージよりも記載された年収が高かった場合、「思ったよりも年収が高い」と感じて威信スコアを高くつける傾向があり、逆に記載された年収が予想よりも低かった場合、「思ったよりも低い」と感じて威信スコアを低くつけるのではないかとということである。

そこでコンビニ社員、警察官、一級建築士、薬剤師それぞれと同程度の威信スコアを記録している職業の平均年収の散布図が以下の図6から図9である。

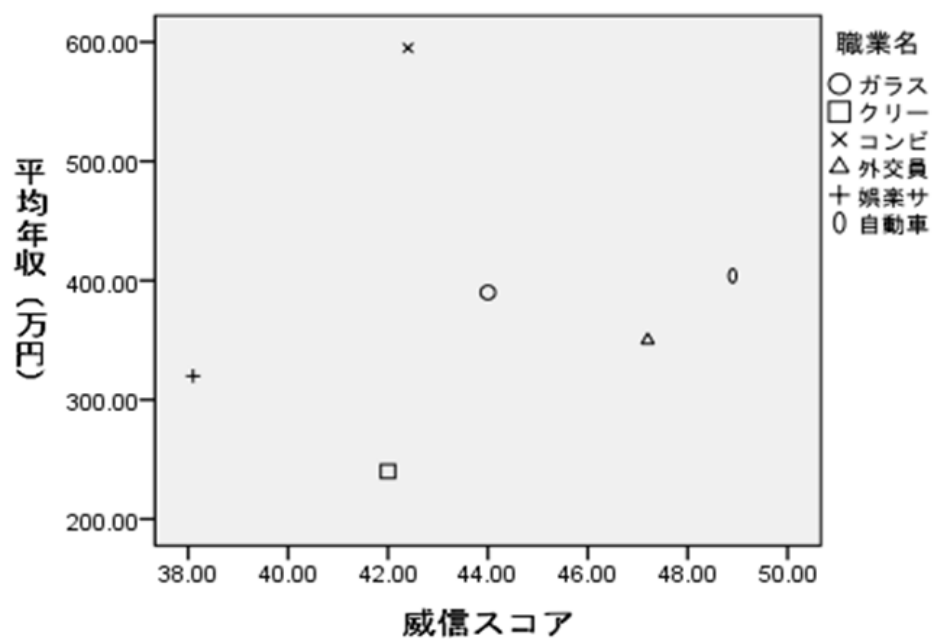


図6 コンビニ社員の場合

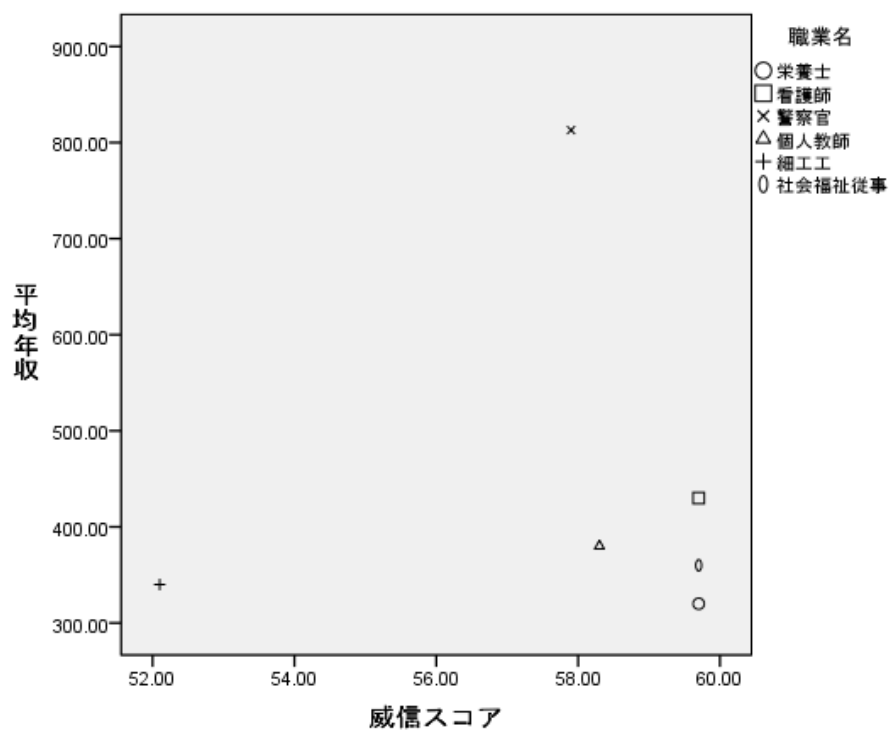


図7 警察官の場合

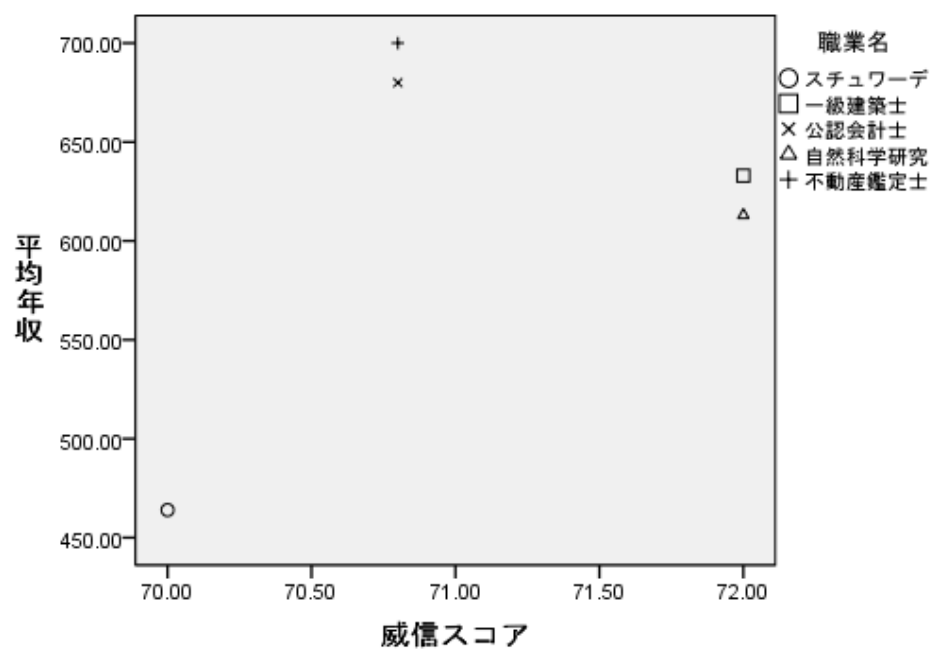


図 8 一級建築士の場合

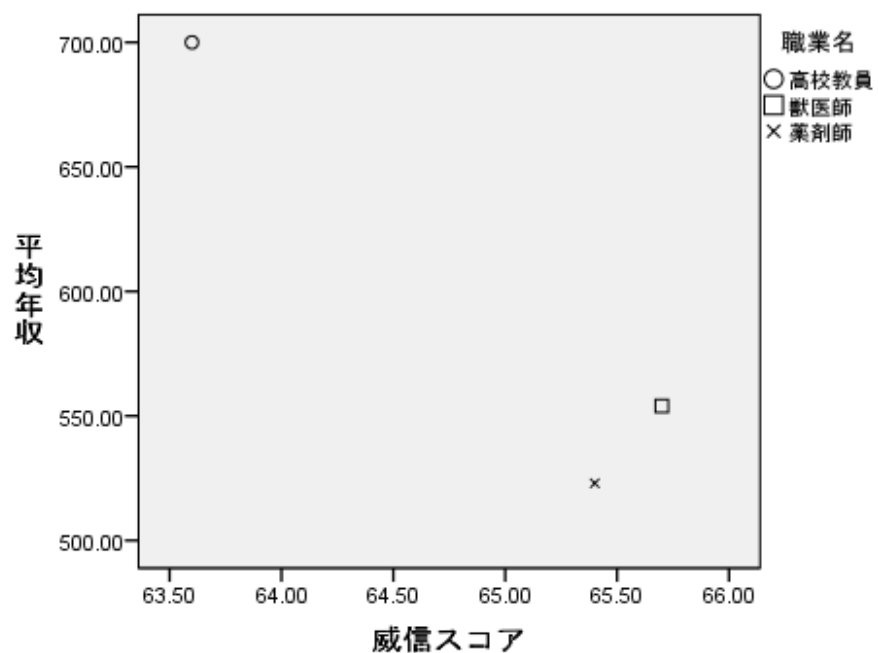


図 9 薬剤師の場合

図 6、図 7 を見ると、年収記載によって威信スコアが上がったコンビニ社員、警察官の場合は同程度の威信スコアの職業に比べて明らかに平均年収が高いといえるであろう。そのため評価をつける際、年収が記載されていた場合は、想像よりも年収が高かったことにより威信スコアを高くつける傾向にあったのではないかといえるであろう。

逆に年収記載によって威信スコアが下がった一級建築士、薬剤師の場合は、特別ほかの職業と比べて低い平均年収であるとは言えない。一級建築士や薬剤師といった比較的社会的评价の高い職業に対しては人々の期待値が高かったため、年収が思ったよりも低かったのではないかと考えたが、サンプル数も少なくそれ以上のことは分析できなかった。

4. まとめ

今回の調査では職業評価の際に年収が影響を与えるということを改めて確かめることができたと同時に、薬剤師や一級建築士の場合のように仮説通りに年収の記載によって威信スコアに有意な低下をもたらした一方で、パイロットや理容師など変化が見られないであろうと予測した職業群においても威信スコアに有意な変化が観察された。また、それらの職業が年収情報の記載によってなぜ威信スコアが増減したのかについて完全とは程遠い分析に終わってしまった。

サンプル数を増やし、また質問の仕方を工夫するなどして次回はさらに深い分析ができるようにしたいと思う。

注

- 1) SSM 調査 「職業評価の構造と職業威信スコア」（1995 年実施）

http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp/PDF/SMM1995_r5_sukoa.pdf

2) 総務庁統計局「賃金構造基本統計調査」

<http://www.e->

stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&tclassID=000001054146

[&cycleCode=0&requestSender=estat](http://stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&tclassID=000001054146&cycleCode=0&requestSender=estat)

なお、この調査で記載のなかった「大会社の営業担当社員」「農業従事者」について

は、前者はマイナビ職業別年収 (<http://tenshoku.mynavi.jp/knowhow/income/index>)

後者は「農林水産省生産農業所得構成」

(http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/nougyou_sansyutu/) を基に算出した。

参考文献

安藤文四郎 1979 「職業威信評定の画一性・安定性仮説に関する一考察」『小関藤一郎教授記念号』 77-90

http://www.kwansei.ac.jp/s_sociology/kiyou/39/39_ch06.pdf

http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp/PDF/SMM1995_r5_1.pdf

元治恵子 2005 「職業評定の日韓比較」『社会調査における測定と分析をめぐる諸問題』前田忠彦編 2005 年 SSM 調査研究会 95-112

http://socio-logic.jp/events/2013_bourdieu/2005_SSMreport-12.pdf

高田洋 2002 「職業イメージによる職業威信評定基準の分析」『人文学報 社会福祉学 (18)』 2002-03-25 65-87

<http://www.repository.lib.tmu.ac.jp/dspace/bitstream/10748/5836/1/20021-18-003.pdf>

太郎丸博 1995 「職業威信と社会階層：半順序関係としての社会階層」『1995 年 SSM 調査シリーズ 5 職業評価の構造と職業威信スコア』 都築一治編 1998

SSM 調査研究会 1-14

太郎丸博 2014 「先生」の職業威信」 日本労働研究雑誌 2014 年 4 月号 (No.645)

『「先生」の働き方』 2-5

<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2014/04/pdf/002-005.pdf>

注釈

注釈 1) 年収とスコアを加味したグループ分けの説明

各職業の年収情報と威信スコアをともに Z 得点（平均が 50、標準偏差が 10 になるように変換した標準得点のこと）に変換し、比較可能にした後、各職業の 2 つの Z 得点を足し合わせて順位化した。

Z 得点を足し合わせた順位における各職業の数値は次の表のとおりである。

表

パイロット	3.76
医師	3.06
弁護士	2.49
大学教授	2.23
大会社の課長	1.25
公認会計士	0.99
一級建築士	0.94
警察官	0.66
消防士	0.34
薬剤師	0.17
新聞記者	0.16
看護師	-0.81
大会社の営業担当社員	-1.17
大工	-1.6
コンビニ社員	-1.75
商店の店員	-1.93
自動車整備工	-1.94
理容師	-1.95
農業	-2.4
道路工夫	-2.48

注釈 2) 有意性検定について

先行研究における威信スコアと年収の数値を T 得点化し（平均が 50、標準偏差が 10 になるように変換した標準得点）、帰無仮説が正しいかどうか t 検定を行った。

京大生の職業威信評価

—評価基準における年収効果について—

成田 正也

京都大学文学部社会学専修3回生

1. 問題設定

職業威信とは、人々が職業に対して抱いているイメージを威信という観点から主観的に評価したものである。この評価の際、判断材料はいくつか存在するだろう（稲田2005）。その仕事に資格や技量はどの程度必要か（技能水準）やどれくらい多くの人がその仕事についているか（就業人数の規模）、平均的にどれくらいの時間労働するのか（平均労働時間）といった自身が持つ情報を参考にして、評価を下すのである。中でも頭に浮かびやすいものの一つに「年収」情報が挙げられる。仕事をする目的の一つに「生活の安定」というものを求めるのなら、その仕事の評価基準に年収情報が大きな割合を占めていたとしても不思議ではない。人々が主観的に評価する職業威信調査において、「年収」という客観的な数値情報が与えられた場合、どの程度結果に影響が出るのか。さらにどんな職業でその影響が大きくなるのか。今回はこうした関心のもと、京大生に対し職業威信調査を実施した。

2. 仮説

ある職業について「年収が高い」という情報が与えられた場合、（少なくとも多くの人にとっては）その職業に対してプラスの印象が付与され、威信スコアは高くなると予想できる。逆に年収が低いという情報の場合にはマイナスの印象をもち、威信スコアは低くなるということも容易に想像できるはずだ。このように単純に、「年収額によって

威信スコアが左右される」ということを仮説①とする。

さらに、年収情報を知っている状態と知らない状態のスコアの比較を考える。まず、年収情報を与えた調査での各職業のスコアは、年収情報を与えていない調査のスコアと多少なりとも差が生じるはずである。この変動はどのような職業で大きく出るのか、すなわち年収を併記した効果が大きく出るのはどのような職業なのか、ということを考えていきたい。

通常の調査で威信が高い職業の多く（医者や弁護士）は、高年収であることが多く、こうした職業の威信評価は、年収情報があってもなくてもスコアは高くなるだろう。一方、道路工夫や商店の店員のように通常調査で威信が低めになる職業の多くは、年収も相対的に低い。よって、年収情報の有無にかかわらずそのスコアは低くなるだろう。まとめると、今挙げたような職業は年収を併記した調査と併記しない調査を比較してもスコアにそれほど違いがない、と予想することができる。

この考え方に従えば、逆に2つの調査のスコアで変動が大きく出そうなのは、上記の二つの条件に当てはまらない、いわば「中間層にある職業」であるといえる。さらに詳しくいえば、「(想定していた) 威信と実年収から受ける印象とにギャップがある職業」では変動が大きくなると私は考えた。これを仮説②とする。

具体的に考えていきたい。例えば一級建築士や薬剤師といった職業は、通常の威信調査ではスコアは比較的高めに出る傾向がある。しかし、これらの職業と同程度のスコアにある他の職業群（国会議員、官僚など）に比べて実年収は低い。この場合人々はおそらく、「思っていたよりも年収が低い」という印象を抱き、現実とのギャップを感じることになるだろう。するとこうした職業では、年収を併記した調査をした場合、していないときに比べてスコアは大きく変動するはずだ。このように「想定していた印象と実年収の与える印象とにギャップがある場合、威信評価の際年収による効果がより大きくでる」ことが予想できる。この仮説②が今回の大きな関心事である。

3. データ

分析するデータは「職業に関する調査」データである。2015年10月7日から28日にかけて調査を行った。質問紙は、年収情報を記載した調査票 A と記載していない調査票 B の 2 種類を用意した。20 個の職業の威信評価と、回答者の学部・性別・アルバイト経験の有無を尋ねている。どちらの調査票でもそれぞれの職業について 5 段階（1：最も低い～5：最も高い）で威信評価する形式だ。なお、今回調査票に記載した職業 20 個は、過去の調査などをもとに年収や威信に偏りが出ないようにバランスよく選出している。また、ここに記載した平均年収は、総務庁統計局が行った「賃金構造基本統計調査」を参考にしており、この調査で記載のなかった「大会社の営業担当社員」と「農業」については、前者は「マイナビ職種別年収」、後者は「農林水産省生産農業所得統計」を参考に行っている。

今回は文系、理系からバランスよくサンプルをとるために、全学共通科目の授業を中心として以下の授業の前後に出席者に回答してもらう形で調査を行った。

・10 月 7 日 水曜 2 限 社会学講義(文学部)

水曜 4 限 運動科学(全学共通)

・10 月 12 日 月曜 3 限 社会学(全学共通)

・10 月 15 日 木曜 3 限 政治学(全学共通)

・10 月 28 日 水曜 2 限 社会統計学(全学共通)

なお、一つの授業につき A 票と B 票の 2 種類はランダムに配布し、受講者それぞれにどちらか一方のみ回答してもらっている。サンプルサイズは A 票 123、B 票 125 であった。

4. 調査結果

仮説①の検討に入る。年収情報を記載した A 票にて、各職業の平均威信スコアと年収の関係は以下の散布図に示すようになった。パイロットの年収が極端に高く、決定係数 R^2 は 0.7 以下となり相関が強いとは言えないが、少なくとも年収が高いほど威信が高く、年収が低いほど威信は低いという正の相関にはなっている。

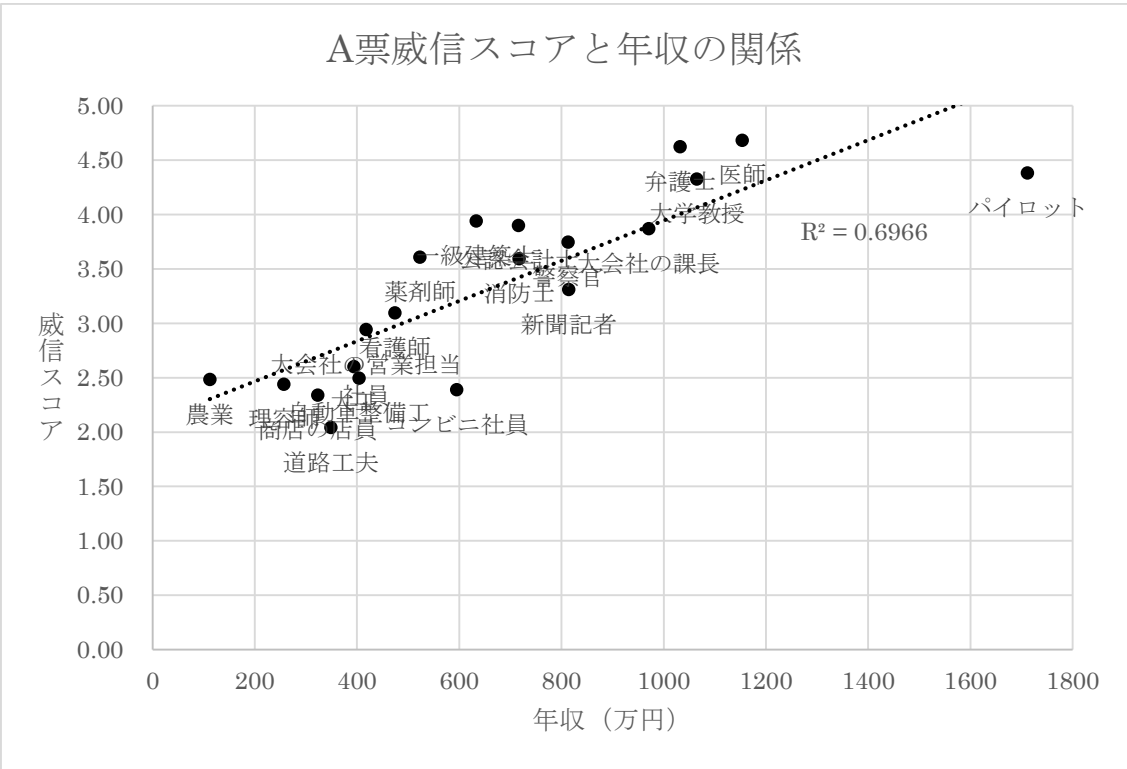


図1 A票の威信スコアと年収額の散布図

次の仮説②に沿った検証を行うためにいくつか分析データの整理を行った。まず「想定していた威信と実年収の印象にギャップがある職業」を特定する。「想定していた威信」は年収情報を与えていない B 票のスコアを参考にすることができる。しかし、このスコアと後者の年収金額を単純に比較することは難しい。

たとえば、パイロットと医師で、どちらのほうか「想定していた威信」と「年収の印象」とにギャップがあるかを考えてみる。両者の年収はそれぞれ 1712 万円と 1154 万円、今回調査の B 票における威信スコアの平均は 4.06 と 4.69 であった。単純な数値の引き算をすれば $1712 \text{ 万} - 4.06 \div 1712 \text{ 万}$ 、 $11540000 - 4.69 \div 1154 \text{ 万}$ となり、年収だけを比較していることと同じ意味にしかない。数万単位で考える年収のほうが数値としては大きく、1～5 で評価する威信スコアの影響がほとんどなくなってしまうのである。そのため、両スコアを統計的に「標準化」することで、比較しやすい形にしたい。

「標準化」とは、異なるスケールのデータを比較できるように、平均と標準偏差（データの分布の偏りを示す変数）が一定になる形へと各数値を変換することである。（注 1）

実年収の標準化スコア (X1) と B 票での威信の標準化スコア (X2) をもとに、差 (X1-X2) が大きかった職業から順に並べていくと次のようになった。

表 1 標準化スコアの差に基づいた職業の並べ替え

職業名	標準化スコアの差
パイロット	1.87
コンビニ社員	1.32
道路工夫	0.72
新聞記者	0.60
自動車整備工	0.48
大会社の課長	0.36
警察官	0.10
大工	0.09
商店の店員	0.03
消防士	-0.10
大学教授	-0.11
大会社の営業担当社員	-0.22

看護師	-0.27
理容師	-0.31
医師	-0.46
弁護士	-0.55
農業	-0.64
公認会計士	-0.76
薬剤師	-0.98
一級建築士	-1.16

値の絶対値が大きいもの、すなわち表の上下に位置する職業ほど、実年収と想定していた威信にギャップがある。逆に 0 に近づくほどそうしたギャップがない、ということになるだろう。仮説②に従えば、A と B のスコアを比較した際、有意な差が出るのは表 1 でいうと上下に位置する職業であり、中間に位置する職業は有意差が出ない、もしくは差が小さいということになるはずだ。

それではこれらの職業について、A 票・B 票のスコアにどれくらい変動があったのかを調べる。表 2 には威信スコアの平均値の差 (A-B) と有意性検定の結果を示している。有意性の検定には二つのデータに対応がない場合の t 検定を用いている。

表 2 A 票・B 票の威信スコアの比較および有意性の検定

職業名	A-B	検定結果(p)
パイロット	0.33	0.00 ***
コンビニ社員	0.28	0.01 **
道路工夫	-0.02	0.84
新聞記者	0.17	0.12
自動車整備工	0.12	0.18
大会社の課長	0.21	0.01 **
警察官	0.21	0.04 *

大工	-0.05	0.63
商店の店員	-0.21	0.03 *
消防士	0.11	0.27
大学教授	0.09	0.34
大会社の営業担当社員	-0.00	1.00
看護師	-0.01	0.94
理容師	-0.24	0.01 *
医師	-0.01	0.89
弁護士	0.12	0.18
農業	-0.15	0.25
公認会計士	-0.10	0.31
薬剤師	-0.16	0.10
一級建築士	-0.19	0.03 *

*p<.050 **p<.010 ***p<.001

95%信頼区間で見た場合、有意差が出たのはパイロット・コンビニ社員・大会社の課長・商店の店員・理容師・一級建築士であった。表2が示すように、表の上側に位置するパイロットやコンビニ店員、また表の下側に位置する一級建築士は仮説通り有意な差が出たわけであるが、それ以外にも表の中央に位置する商店の店員や理容師といった職業で有意な差が出ており、逆に有意差が出ると予測していた公認会計士や薬剤師は有意な差が見られなかった。

6. 考察

分析結果より、仮説①「年収額によって威信スコアが左右される」はおおむね支持されたといえるだろう。20個すべての職業の相関は決定係数 $R^2=0.6966<0.7$ で相関が強いとは言えないが、予想通り少なくとも年収が高いほど威信が高く、年収が低いほど威信は低いという正の相関は見られた。なお、年収が極端に高かったパイロットを外した19個の職業で相関を見た場合、決定係数 $R^2=0.7822$ でより相関が強くなった。

また、パイロットやコンビニ店員といった「年収が想定よりも高い印象を与える職業」では年収情報を記載した場合、記載していない時に比べてスコアが上昇し有意差が見られた。逆に一級建築士のように「年収が想定よりも低い印象を与える職業」では、スコアが減少し有意な差が見られた。

こうした職業では仮説②通りの結果が得られたわけであるが、一方「標準化スコアの差に基づいた並べ替え」を行った際に表 1 の中間に位置した職業、すなわち威信と年収とにギャップが感じられなかった職業でも、たとえば商店の店員や理容師といった職業で有意な差が見られた（どちらも年収表記をした場合威信スコアが減少）。また逆に有意な差が出ると予想していた薬剤師や公認会計士といった職業では有意差が見られなかった。

このように一部の職業について（パイロット・コンビニ店員・一級建築士）は仮説②でその有意差を説明することができるが、それ以外の職業については冒頭で述べたような他の判断材料が職業の評価基準で優位を占めていることが考えられる。たとえば薬剤士を例に挙げて考えると、われわれが日常的に服用し、時には命さえ守ってくれる「薬」を扱う医学系の職業として、その重要性や希少性が評価基準に大きく影響し、年収による効果が少なかったのかもしれない。冒頭で述べたように、年収以外にも職業の「威信」に影響を与える要因は数多く考えつく。

社会学実習という授業の一環であるという性質上、これ以上質問項目などを増やすことは難しかったため今回われわれが調べたのは年収という一情報だけである。先行研究でいくつか調べられているように、今後他の要因についても様々な角度から分析する必要があるだろう。

注

- 1 標準化スコア Z は以下の式で表される。

$$Z = (X_i - \bar{X}) / S_x$$

z は標準化した数値で-1～1 の値をとる。 X_i は各数値の値を代入し、 $\bar{X} \cdot S_x$ はそれぞれ年収もしくは威信スコアの平均値、標準偏差を示す。この操作を行うことで、年収も威信スコアも平均が0、標準偏差が1の分布となり、同じ水準での比較をすることが可能になる。

参考文献

- 稲田雅也、2005、「職業威信スコアの評価基準構造の関連要因に関する研究」拓殖大学
論集、人文・自然・人間科学研究 14, pp. 1-14
- 盛山和夫、2004、「社会調査法入門」有斐閣ブックス
- 太郎丸博、1998、「職業威信と社会階層」1995 年 SSM 調査シリーズ 5『職業評価の構造
と職業威信スコア』pp. 1-14 , 1995 年 SSM 調査研究会科学研究費補助金特別推進研
究(1)研究成果報告書
- 「賃金構造基本統計調査」(http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&tclassID=000001054146&cycleCode=0&requestSender=estat)(2015/07/12 最終アクセス)
- 「マイナビ職種別年収」(<http://tenshoku.mynavi.jp/knowhow/income/index>)
(2015/07/12 最終アクセス)
- 「農林水産省生産農業所得統計」
(http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/nougyou_sansyutu/) (2015/07/12 最終ア
クセス)

年収が職業観に与える影響

成田 明広

文学部 3 回

このレポートは、職業威信スコアと年収の関係を考察し、人々の職業観にとって年収がどれほど影響を及ぼしているかを考える。手順としては、職業名のみを記した調査票と、職業名の横に年収を記した調査票を用いてアンケート調査を行い、双方の間で何らかの差が見られるかを分析した。結論としては、年収は職業観に大きな影響を及ぼしていることが示された。年収を呈示した場合とそうでない場合では有意な差がみられ、かつ年収を呈示した場合は年収との相関係数、決定係数ともに上昇した。

目次

1. はじめに
2. 調査・分析方法と仮説
3. 調査・分析結果
4. 結論と課題

はじめに

年収を意識しない人はいないだろう。たとえば、就職活動を控えた大学生は仕事選びの基準として年収を意識する。マイナビ(2015)によれば、2016年に卒業する学生が仕事選びの際に重視する項目の中でも給料や安定といった年収にかかる事項がいずれも上位5位以内につけている。社会人ともなればいうまでもなく、日々の生活のためには嫌でも給料のことを考えざるを得ない。DODA(2015)によると、転職者の転職理由についても会社の安定性や給料がどちらも上位3位以内に挙げられている。同様に、年収は様々なことに影響を及ぼしており、たとえば

白石・白石(2006)によれば、人々の幸福度は一定の点までは所得とともに増加するという。もちろん、年収がすべてだというつもりは全くない。ただ、年収は人々の意識に一定の影響を及ぼしていると思われるから、本当に年収が人々の意識に影響を及ぼしているのか、数値を伴って検証してみたい。今回は、職業観を題に取り、年収がどれほどの影響をおよぼしているのかを調査する。人々の職業観を構成する要素は多岐にわたるだろうが、年収はその1つとしてどれほどの影響を及ぼしているのか。

調査・分析方法と仮説

この節では、年収が職業間に及ぼす影響について、具体的な調査方法とそこで得られたデータの分析方法について述べる。そのうえで本調査での仮説を記述する。

調査には、以下で示す方法で選択した20の職業を利用した。その各々について、職業観を表す数値としては1995年SSM調査時の職業威信スコアを、年収は民間給与実態調査をもとに割り出して使用した。これらをもとに、2種類の調査票を作成し、それを無作為に学内の学生に配布、回答していただく形で行った。調査票は、職業名の横に年収を記したA票と、職業名のみを記したB票を作成した。両者は年収が記載されているか否か以外では違いはない。年収を示した票と職業のみを示した票で結果を比較すれば、年収の及ぼす影響が浮かび上がる。ただし、例えば医師や弁護士などを想像すればわかるように、もともとある程度は年収と職業観は正比例の関係にあるかもしれない。今回の調査ではその点を踏まえ、調査の際に使用した職業は、威信スコアと年収を比較した際に、おおよそ年収の高さと威信スコアが正比例しているものと、年収の割には威信スコアが低い職業、ないしその逆の職業を選択し、あわせて20個の職業を用意した。(表1)¹

¹ 裁判官、建築士、小売店主、自動車修理工については、年収を調査した際に適当な数値が得られなかったため、弁護士、一級建築士、コンビニ社員、自動車整備工で代替した。同様に、威信スコアはないものの、イメージと年収に乖離があると思われる新聞記者と消防士を選択肢に入れてみた。

表 1:威信スコアと年収

職業名	威信スコア(1995)	年収(万)
医師	90.1	1154
弁護士	86.9	1032
大学教授	84.3	1065
パイロット	82.5	1712
一級建築士	72	633
公認会計士	70.8	716
薬剤師	65.7	523
大会社の課長	63.2	971
看護師	59.7	474
警察官	57.9	813
大会社の営業社員	57.4	418
大工	53.1	394
コンビニ社員	51.3	595
理容師	49.7	257
自動車整備工	46.8	404
農業	45.6	112
商店の店員	42.4	323
道路工夫	39	349
新聞記者	-	814
消防士	-	717

1995 年次の SSM 調査にもとづいた威信スコアを参考に、年収を付記した。見てみると、おむね威信スコアと年収は正比例の関係にあるが、いくつかその限りでない職業がある。パイロットや警察官などがそれにあたる。それらの職業のスコアが、A 票と B 票で有意な差がみられるか否かが本調査の肝になる。したがって、今回の調査は次の仮定に基づく。すなわち、人々

は今回使用した職業のうちで、年収と威信スコアに乖離がみられていたものについては正確な年収情報を有していないとする。もしこの前提が間違っているとすれば、人々は正確な年収情報を有していることになり、とすれば、威信スコアについても年収を呈示した場合とそうでない場合で差はみられなくなるはずだ。

調査は、京都大学内で実施されている全学共通科目と文学部開講科目の計 5 つの講義において、担当の先生の許可を得て 10 月 7～28 日の間で実施した。実施に際しては、担当の学生が A 票と B 票を無作為に配布し、回答していただいた。結果、A 票は 123 部、B 票は 125 部、計 248 部回収できた。

次に、分析について説明する。分析は主に 3 つ行う。はじめは単純集計表をもとに、A 票と B 票の結果の差について t 検定を行う。ある程度データの輪郭をつかむとともに、A 票と B 票の間に有意な差があるのかどうかを調べる。そのうえで、A 票と B 票各々の結果に対し、相関係数の確認と、職業威信スコアを従属変数、年収を独立変数とした回帰分析を行う。これにより、全体で見た場合に有意な差があるのか、さらには具体的な差の大きさがどれほどなのかを調べる。最後に、特に差が顕著にみられたいくつかの職業の視点からも結果を分析する。

ここで、仮説を述べておく。予想通りになるのであれば、A 票と B 票の間で職業威信スコアについて有意な差がみられるはずだ。ただし、すべての職業で有意な差がみられるのではなく、年収と職業威信スコアの間には乖離がある職業で差がみられると思われる。具体的には、パイロットや警察官、大会社の課長では有意な差がみられるはずだ。逆に、医師や弁護士のように乖離の少ない職業では有意な差がないと思われる。コンビニ社員や自動車整備工など、パイロットほどではないがある程度乖離がみられる職業については有意な差がみられるかどうかかわからない。このグレーゾーンでどれだけ有意な差がみられるかがによって、年収の影響がみられるか見られないかが決まるだろう。

調査・分析結果

得られた結果について記述する。具体的には、次の3つの手順を踏む。1つ目は差の検定で、A票とB票の結果を比較し、そもそも有意な差がみられるのかどうかを確認する。次いで、差があった場合には、呈示した場合のほうが年収の影響が大きいのかどうかを確かめる。すなわち、A票とB票各々で相関係数の確認と回帰分析を行い、全体で見た場合に双方間で年収と威信との関係に変化はみられるのかを検証する。最後に、有意な差がみられた職業を取り上げ、差がみられなかった職業との比較を行い、仮説の検証などの個別の分析を行う。

はじめに、A票とB票の結果を比較し、そこに有意な差がみられるかを確かめた。差の検定の結果および平均値・平均値間の差は次の通り。(表2)

表2:平均値の差の検定と基礎統計量

		平均値	標準偏差	平均値の差	有意確率
道路工夫	A	2.04	0.90	-0.02	0.84
	B	2.06	0.87		
警察官	A	3.75	0.80	0.21	0.04
	B	3.54	0.82		
自動車整備工	A	2.50	0.75	0.13	0.18
	B	2.37	0.72		
大会社の課長	A	3.87	0.59	0.21	0.01
	B	3.66	0.65		
商店の店員	A	2.34	0.75	-0.21	0.03
	B	2.55	0.71		
大学教授	A	4.33	0.72	0.09	0.34
	B	4.23	0.81		
看護師	A	3.10	0.85	-0.01	0.94
	B	3.10	0.76		
公認会計士	A	3.90	0.78	-0.10	0.31
	B	4.00	0.75		
一級建築士	A	3.94	0.74	-0.19	0.03
	B	4.14	0.68		

新聞記者	A	3.31	0.82	0.17	0.12
	B	3.15	0.86		
コンビニ社員	A	2.39	0.80	0.28	0.01
	B	2.11	0.75		
理容師	A	2.44	0.82	-0.24	0.01
	B	2.67	0.67		
医師	A	4.68	0.64	-0.01	0.89
	B	4.69	0.60		
弁護士	A	4.62	0.61	0.12	0.18
	B	4.50	0.77		
消防士	A	3.59	0.70	0.11	0.27
	B	3.49	0.79		
大工	A	2.60	0.85	-0.05	0.63
	B	2.65	0.85		
大会社の営業社員	A	2.94	0.67	0.00	1.00
	B	2.94	0.64		
農業	A	2.48	1.09	-0.15	0.25
	B	2.63	0.87		
パイロット	A	4.38	0.73	0.33	0.00
	B	4.06	0.77		
薬剤師	A	3.61	0.75	-0.16	0.11
	B	3.77	0.76		

20 個の職業のうち、5%水準で有意な差がみられたのは 7 つあった。具体的には、警察官、大会社の課長、商店の店員、一級建築士、コンビニ社員、理容師、パイロットの 7 つの職業である。仮説でも述べたように、すべてで差がみられるとは考えていなかったのも、この段階では十分差があるように思える。この節の残りで、全体・個別各々の側面からどの程度の差があるのかを調べてみる。

相関係数と回帰分析の結果をしてみる。ここでは、個別の職業に着目はせず、全体として職業威信スコアと年収の間の関係を調べ、年収を提示した場合としなかった場合の差を調べ、年

収の影響が提示した場合に強まっているかどうかを確かめる。相関係数および回帰分析の結果は次の通り。(図1・図2)

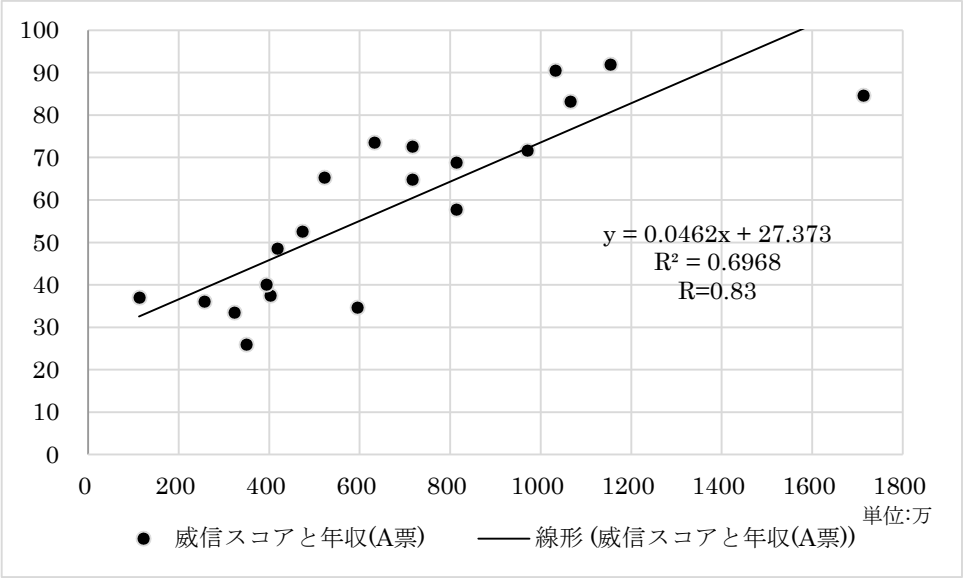


図1:職業威信スコアと年収(A票)

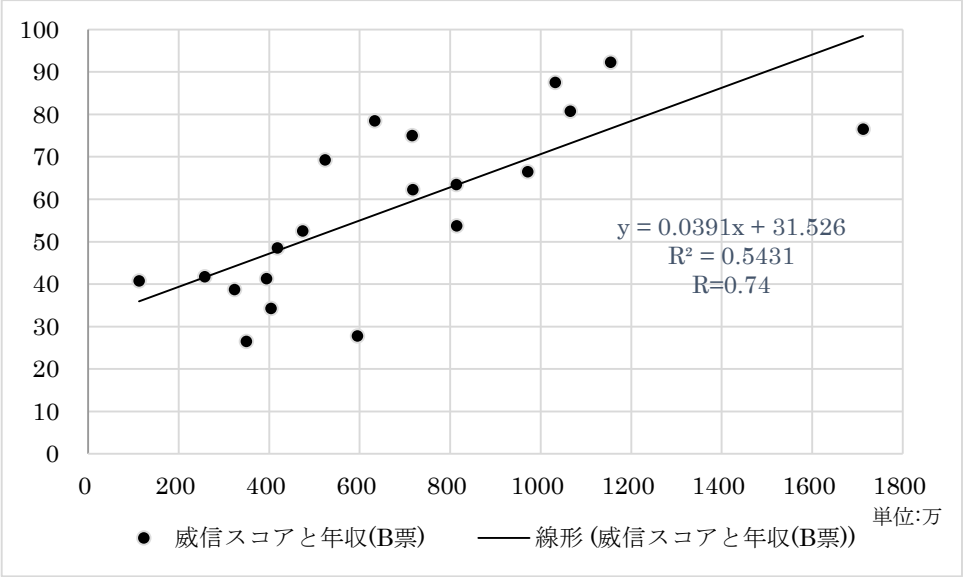


図2:職業威信スコアと年収(B票)

A 票の相関係数は 0.83 で、回帰直線によると年収がおよそ 20 万円上昇すると威信スコア 1 上昇するという。また、決定係数は 0.6968 となっている。一方、B 票の相関係数は 0.74 で、年収がおよそ 25 万円上昇すると威信スコアは 1 上昇する。決定係数は 0.5431 となっている。具体的な数値では、相関係数で見ると 0.9、決定係数でいうと 0.1537 の差がみられる。

この結果によれば、両者ともとても十分に高い値であるといえるから、もともと無意識のうちで年収は職業観とある程度一致していて、十分な説明力をもつようだ。そのうえで、相関係数、決定係数ともに年収を呈示した A 票のほうが B 票よりも高くなっている。とすれば、両者の違いは年収情報のうむしかないのだから、全体で見た場合職業威信スコアは年収情報の影響を受けているといえる。ただ、先にみたように、20 個の職業のうちで有意なレベルで差がみられたのは 7 つであったから、この 7 つの職業を中心に個別の職業にも注目してみたい。

この節の最後として、個別の職業を見てみる。次の図は有意確率の順に職業を並べたものだ。

(表 3)

表 3: 有意確率順の職業一覧

	有意確率 (両側)	平均値の差
大会社の営業社員	1.00	0.00
看護師	0.94	-0.01
医師	0.89	-0.01
道路工夫	0.84	-0.02
大工	0.63	-0.05
大学教授	0.34	0.09
公認会計士	0.31	-0.10
消防士	0.27	0.11
農業	0.25	-0.15
自動車整備工	0.18	0.13
弁護士	0.18	0.12

新聞記者	0.12	0.17
薬剤師	0.11	-0.16
警察官	0.04	0.21
一級建築士	0.03	-0.19
商店の店員	0.03	-0.21
理容師	0.01	-0.24
大会社の課長	0.01	0.21
コンビニ社員	0.01	0.28
パイロット	0.00	0.33

これによると、おおよそ仮説の通り、年収と威信スコアに乖離があったもののほど有意な差が大きくなっている。したがって、個別にみた場合でも、年収情報が職業威信スコアに影響を与えているといえそうだ。ここで、ひとつ気になるのは弁護士だ。医師や大学教授と比べると A 票と B 票の間に差が生まれた。有意ではないものの、年収が人々の想定よりも少なかったのかもしれない。もっとも、このことは本調査の対象外であるので、少し触れる程度にとどめておく。

結論と課題

今回の調査では、年収を記した A 票と、職業名のみを記した B 票を用いて職業威信を調査した。得られたデータを分析した結果、年収が職業威信に影響を及ぼすことは確認された。実際、年収を呈示した際としていない際には結果に差がみられた。その程度についても、相関係数や決定係数を見るに職業威信スコアのかかなりの程度を年収から説明可能なようだ。このような結果が得られた原因としては、すでに述べたように調査対象者の中で年収情報が職業観と一致する職業と一致しない職業があったからだと考えられる。

一方で、検討しなくてはならない事項も多く残っている。ここでは特に以下の 2 点について言及しておく。1 つ目は、年収以外の要因だ。職業威信において年収は重要な要素ではあると

思うものの、それだけではないのは確かだろう。それ以外の要素、たとえば勤務時間などの情報も含めて分析をした場合、年収の影響は減少するのだろうか。威信スコアに対する独立変数の量や質はより良いものにすることが求められるだろう。もう1つは、今回の調査の前提が本当に正しいのかどうかについてだ。2節でも述べたように、今回の調査では、人々は今回使用した職業のうちで、年収と威信スコアに乖離がみられていたものについては正確な年収情報を有していないとしていた。今回の結果を見ると、年収を呈示した場合とそうでない場合で差がみられているので、間接的にそのことが示されたことになるが、あくまで間接的に示されたに過ぎない。回答者が各職業について有する知識や接触量も合わせて調査しておく前提の正否がわかる。加えて、有意な差が見えた職業と見えなかった職業を分けた原因にも近づく。さらに、職業威信スコアに対する年収以外の独立変数として用いれば、分析をより精緻なものにできたはずで、今後より一層の精進を心掛けたい。

参考文献

DODA (2015) 「転職理由ランキング 2015 年 4 月～9 月」,

<http://doda.jp/guide/reason/2015second/>,

2015 年 12 月 15 日

国税庁「民間給与実態統計調査」,

<https://www.nta.go.jp/kohyo/tokei/kokuzeicho/minkan/top.htm>,

2015 年 12 月 15 日閲覧

マイナビ (2015) 「2016 年卒マイナビ大学生意識調査」,

http://saponet.mynavi.jp/enq_gakusei/ishiki/data/ishiki_2016.pdf,

2015 年 12 月 15 日閲覧

村瀬洋一 (1998) 「職業威信スコアの問題点と新スコアの提案ー従業員規模が職業評価に及ぼ

す影響を中心にー」, 都築一治編『職業評価の構造と職業威信スコア (1995 年 SSM 調査シ

リーズ 5) 』, pp125-151, 1995 年 SSM 調査研究会

塩谷芳也(2010)「職業的地位の構成イメージと地位志向—職業の社会的地位の全体像に関する

個人の認知に着目して—」,『理論と方法』第25巻第1号, pp65-80

白石賢・白石小百合(2006)「幸福度研究の現状と課題—少子化との関連において

『ESRI Discussion Paper Series』No. 165, 内閣府経済社会総合研究所

太郎丸博(2000)「階層制の神話」,高坂健次編『日本の階層システム 6 階層社会から新しい市

民社会へ』,東京大学出版会, pp. 161-180

太郎丸博(2014)「「先生」の職業威信」,『日本労働研究雑誌』No. 645 (4月号), pp2-5

都築一治編(1998)「1995年SSM調査シリーズ5—職業評価の構造と職業威信スコア」,1995年

SSM調査研究会

脇田彩(2012)「職業威信スコアのジェンダー中立性: 男女別職業評価調査に基づく一考察」,

『ソシオロジ』57 (2), 社会学研究会, pp3-18

京大生の職業威信評価

—評価基準における年収の効果について—

濱田 珠実

京都大学文学部社会学専修

1. はじめに

1.1 研究背景

職業威信とは、人々が職業に対して抱いているイメージを威信という観点から評価したものである。社会階層研究において重要視され、職業威信スコアの統計をとることは、職業をとりまく印象や評価といった曖昧な見方を数値化する根拠とされている（太郎丸 1998）。

職業の威信を決定づける要因はいくつか存在する（稲田 2005）。人の役に立つ職業（社会的影響の大きさ）、才能や資格が生かせる職業（技能水準）、希少価値が高い職業、日常生活に親しみのある職業などは、一般に威信が高くなると考えられる。しかしこの評価基準には、表立っては口にしづらいものもあるのではないか。その代表的なものが「年収」である。「年収が高い職業を高く評価する」などと言うと、まるで金のために働くと思われるようで口にしづらいが、実際にスコアをつけてみると、必ず年収の高い職業には高いだけの理由があると考え、それが高評価につながる、という推測ができる。

1.2 仮説の設定

以上より、「職業威信の評価にあたっては、年収が一つの基準となる」という仮説を設定する。さらに、その年収がどのように結果に影響を与えるのかについては、「年収情報が知らされていない場合での威信の高さ…①」「同程度の威信レベルの職業に比べての年収の高さ…②」という二つの観点から場合分けをして考える。

i) ①が高く、②は同程度 → 影響は小さい

ii) ①が高く、②は低い → 影響は大きい（年収情報により威信は下降）

iii) ①が低く、②は高い → 影響は大きい（年収情報により威信は上昇）

iv) ①が低く、②は同程度 → 影響は小さい

ii)、iii) の場合、職業名のみから受ける印象と年収を提示されたときの認識にギャップが大きいため、影響は大きくなると考えられる。反対に、i)、iv) はそのギャップが小さいため、あまり影響は大きくならないと考えられる。

以上、職業を4つのグループに分類し、上記のような仮説を検証することで、人々が職業を評価する際にどの程度年収を評価基準としているかを検討する。

2. 調査方法

調査は2015年10月7日から28日にかけて、京都大学での講義の受講者に対し、調査票を用いて行われた。この職業威信スコアは、回答者の属性による変化が少ないという性質をもつ（元治・都築 1998）。そのため、本稿では回答者を「京大生」に絞っても、一般平均と大差ない結果が得られると考え、テーマを「京大生の職業威信評価」と設定した。回答者が学部などで縛られない全学共通科目を中心に、授業の前後で調査票を配布・回収した。調査が行われた講義は、以下の5つである。

・10月7日 水曜2限 社会学講義（文学部）

水曜4限 運動科学（全学共通）

・10月12日 月曜3限 社会学（全学共通）

・10月15日 木曜3限 政治学（全学共通）

・10月28日 水曜2限 社会統計学（全学共通）

調査票では、20項目の職業についての5段階の威信評価と、回答者の学部・性別・アルバイト経験の有無を尋ねた。さらに各職業の横に年収を併記した「調査票 A」と、年収の

併記が無い「調査票 B」の二種類の調査票を作成し、調査を行った各授業でそれぞれ無作為に2種類の調査票を配布した。ここで調査票 A に記載した年収は、賃金構造基本統計調査を参考にした。

サンプルサイズは、A 票が 123、B 票が 125 であった。

3. 調査結果

まず、各職業の威信スコア平均値を算出する。調査票では、A・B ともに評価を 1（最も低い）～5（最も高い）の5段階に分け、回答してもらった。年収を併記した調査票 A における各職業威信スコアの平均値を(A)、年収を併記しなかった調査票 B における各職業威信スコアの平均値を(B)とする。その一覧は章末の単純集計表を参照。

仮説における ii)、iii) にあたる職業はどれなのかを調べるため、まずは年収を併記しない調査票 B で得られた職業威信スコア (B) と、年収を同じスケールで足し合わせ、新たなスコアを用意した。そこで用いたのが Z スコアである。Z スコアは、異なる二つの数値を同じスケールで比べるときに使用される。Z スコアの算出方法は、(個々の平均) - (全体の平均) を標準偏差で割るというものである。今回は、(B) の Z スコアと年収の Z スコアを足しあわせ、新スコアの降順に並べ替えた。

Z スコアを用いて職業の威信と年収を足し合わせた、職業の順列は(表 1)。

表 1 新スコアの降順と Z スコア

新スコアの降順		Z スコア
i	パイロット	3.76
	医師	3.06
	弁護士	2.49
	大学教授	2.23
	大会社の課長	1.25

三、 三	公認会計士	0.99
	一級建築士	0.94
	警察官	0.66
	消防士	0.34
	薬剤師	0.17
	新聞記者	0.16
	看護師	-0.81
iv	大会社の営業担当社員	-1.17
	大工	-1.60
	コンビニ社員	-1.75
	商店の店員	-1.93
	自動車整備工	-1.94
	理容師	-1.95
	農業	-2.40
	道路工夫	-2.48

Z スコアが±1 以下のもの（Z スコア中間層＝公認会計士、一級建築士、警察官、消防士、薬剤師、新聞記者、看護師）を ii）、iii）と設定し、続いて Z スコア上位層（パイロット、医師、弁護士、大学教授、大会社の社長）を i）、Z スコア下位層（大会社の営業担当社員、大工、コンビニ店員、商店の店員、自動車整備工、理容師、農業、道路工夫）を iv）と設定する。

さらに ii）と iii）を区別するため、職業を年収併記なしでの威信スコア降順と年収順に並べ、比較する。（表 2）

表 2 年収併記なしでの威信スコア降順と年収順

年収併記なしでの威信スコア降順		年収順	
医師	4.69	パイロット	1712
弁護士	4.50	医師	1154

大学教授	4.23	大学教授	1065
一級建築士	4.14	弁護士	1032
パイロット	4.06	大会社の課長	971
公認会計士	4.00	新聞記者	814
薬剤師	3.77	警察官	813
大会社の課長	3.66	消防士	717
警察官	3.54	公認会計士	716
消防士	3.49	一級建築士	633
新聞記者	3.15	コンビニ社員	595
看護師	3.10	薬剤師	523
大会社の営業担当社員	2.94	看護師	474
理容師	2.67	大会社の営業担当社員	418
大工	2.65	自動車整備工	404
農業	2.63	大工	394
商店の店員	2.55	道路工夫	349
自動車整備工	2.37	商店の店員	323
コンビニ店員	2.11	理容師	257
道路工夫	2.06	農業	112

網がけを施してあるのは、先ほど ii)、iii) と設定された Z スコア 中間層である。網がけには濃淡がつけられている。濃い方が、年収情報が知らされていない場合での威信の高さ…①に比べて、同程度の威信レベルの他の職業と比較すると年収が高いといえるものである。薄い方が、①に比べて、同程度の威信レベルの他の職業と比較すると年収が低いといえるものである。以上のデータを仮説にあてはめると、ii)、iii) のグループにはそれぞれ次の職業があてはまる。

ii) ……一級建築士、公認会計士、薬剤師、看護師

iii) ……警察官、消防士、新聞記者

次に、年収を併記した場合に、併記なしの場合に比べてどれほど変化があったかを調べるため、各職業について平均値の差を算出する (A-B) の計算を行う。

最後に、こうして算出された平均値の差に、有意性が認められるかの検定を行う。ここではT検定を使用した。

以上の手順をまとめたものが下の（表3）である。

表3 年収併記の有無による威信スコアの差と有意性検定

新スコアの降順		(A)	(B)	(A-B)	有意性検定
i	パイロット	4.38	4.06	0.33	0.00 ***
	医師	4.68	4.69	-0.01	0.89
	弁護士	4.62	4.50	0.12	0.18
	大学教授	4.33	4.23	0.09	0.34
	大会社の課長	3.87	3.66	0.21	0.01 **
ii、iii	公認会計士	3.90	4.00	-0.10	0.31
	一級建築士	3.94	4.14	-0.19	0.03 **
	警察官	3.75	3.54	0.21	0.04 **
	消防士	3.59	3.49	0.11	0.27
	薬剤師	3.61	3.77	-0.16	0.10
	新聞記者	3.31	3.15	0.17	0.12
	看護師	3.10	3.10	-0.01	0.94
iv	大会社の営業担当社員	2.94	2.94	0.00	1.00
	大工	2.60	2.65	-0.05	0.63
	コンビニ社員	2.39	2.11	0.28	0.01 **
	商店の店員	2.34	2.55	-0.21	0.03 **
	自動車整備工	2.50	2.37	0.12	0.18
	理容師	2.44	2.67	-0.24	0.01 **
	農業	2.48	2.63	-0.15	0.25
	道路工夫	2.04	2.06	-0.02	0.84

*p<0.1 **p<0.05 ***p<0.01

さらに、個々の事例をいくつか取り上げ、検証していく。まず、i) のグループで有意差

がみられたパイロットの威信スコアの度数分布のグラフを示す。(図1, 2)

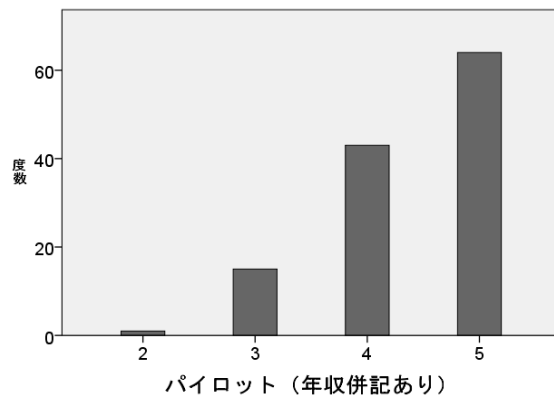


図1 パイロットの職業威信スコア (A)

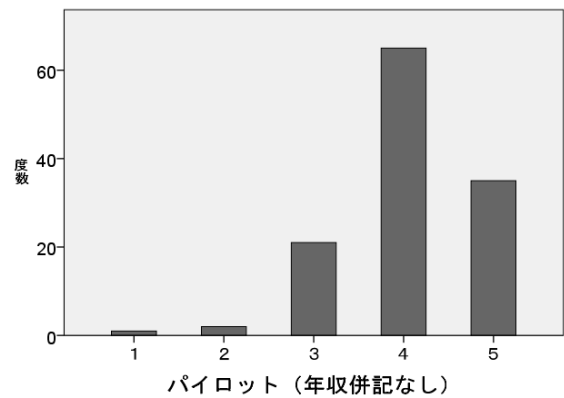


図2 パイロットの職業威信スコア (B)

平均値だけではわかりにくいですが、年収表記をすることでパイロットの威信評価を5 (最も高い)につける層が大幅に上昇していることがわかる。—— (I)

同様に、ii) のグループで有意差がみられた一級建築士 (図3, 4)、iii) のグループで有意差がみられた警察官 (図5, 6)、iv) のグループで有意差がみられた理容師 (図7, 8) の度数分布のグラフをそれぞれ示す。

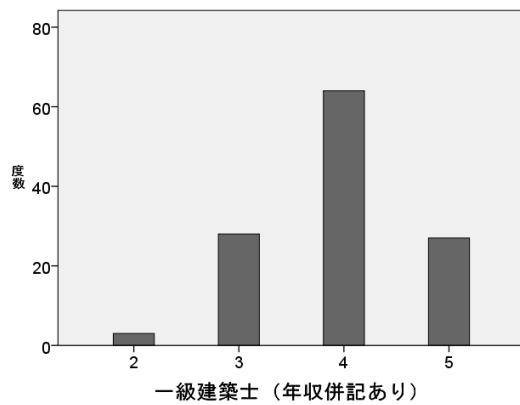


図3 一級建築士の職業威信スコア (A)

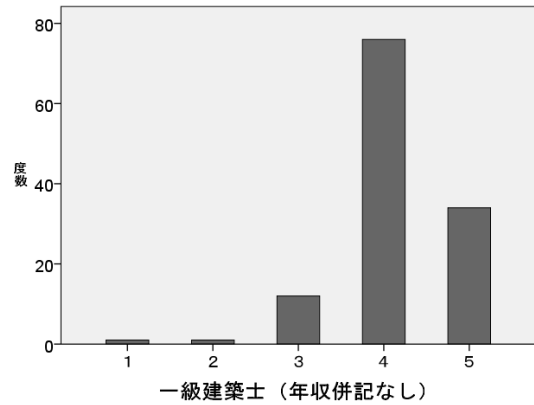


図4 一級建築士の職業威信スコア (B)

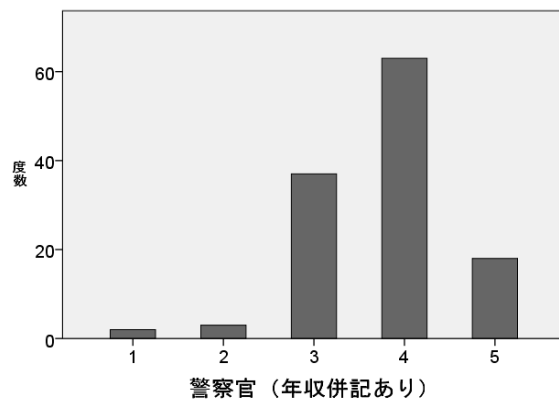


図5 警察官の職業威信スコア (A)

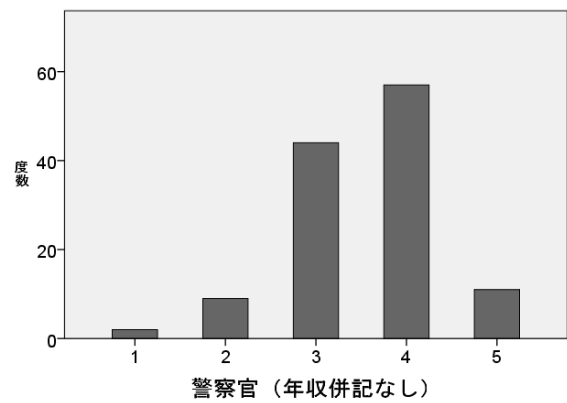


図6 警察官の職業威信スコア (B)

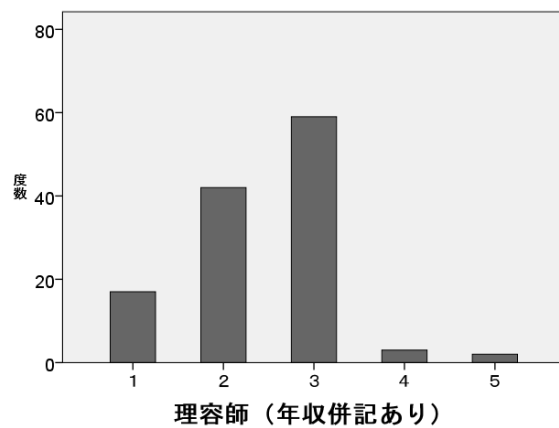


図7 理容師の職業威信スコア (A)

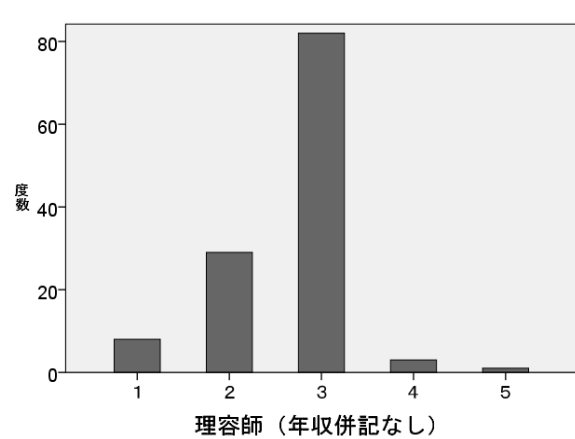


図8 理容師の職業威信スコア (B)

年収表記をすることで生じた変化は以下の通り。

ii) の一級建築士では、4 の回答数が減り、3 の回答数が増えた。(図 3、4) —— (II)

iii) の警察官では、3 の回答数が減り、4 の回答数が増えた。(図 5、6) —— (III)

iv) の理容師では、3 の回答数が減り、1・2 の回答数が増えた。(図 7、8) —— (IV)

最後に、i) から iv) において提唱されていた、

i)、iv) よりも ii)、iii) の方が年収による影響が大きい

という仮説を検討するために、(A-B) の絶対値をZスコアの上位・中間・下位層それぞれについて平均化し、比較する。結果は以下の通り (表 4)。

表 4 年収併記の有無による威信スコアの差の平均

新スコア上位層	0.152
新スコア中間層	0.136
新スコア下位層	0.134

4. 考察

以上の分析より、「職業威信の評価にあたっては、年収が一つの基準となる」という仮説は、20項目の職業のうち8項目において根拠となりうるデータに有意な結果が見られ、一部証明された。

さらに i) から iv) に分類した場合の結果をそれぞれ検討する。つまり、「年収情報が知らされていない場合での威信の高さ…①」「①の威信レベルに比べての年収が適当であるかどうか…②」の二つの要因によって、年収が職業威信の評価に与える影響の大小を検討する。

(II)、(III) より、Zスコア中間層、つまり②が不適当である職業について、年収が職業威信の評価に与える影響はかなり大きいといえる。具体的に見ると、

ii) ①が高く、②は低い → 影響は大きい (年収情報により威信は下降)

iii) ①が低く、②は高い → 影響は大きい（年収情報により威信は上昇）

という二つの仮説は検証されたことがわかる。

一方（I）、（IV）より、Zスコア上位層及び下位層においては、表3からわかるように影響は決して小さいとはいえず、むしろ中間層と同等かそれ以上の影響が現れた。よって仮説は検証されなかった。影響の現れ方としては、パイロットの度数分布（図1、2）が示すように、評価5という極端な評価をつけやすくなったのではないかと推測できるものである。この現象は上位層だけに限らず、下位層においても、例をあげると理容師の度数分布において評価3が減り、評価1、2に移ったことがわかる（図7、8）。この場合も、職業に評価1、2をつけるという、匿名でもやりづらい評価の根拠となったと考えられる。

この仮説とは反対の結果から言えることは、年収は、人々がなんとなく抱いている主観的な評価基準を裏付ける、客観的な数値的基準としての役割も果たしているということだ。ゆえに、医者や弁護士などの年収も評価も高い職業の威信スコアも、年収を併記することであがったと言えるのではないかと。

5. 今後の課題

本稿では、職業威信の評価では年収が一つの基準となり、年収情報が与えるイメージが高ければ評価もつられて上昇し、反対に年収情報が与えるイメージが低ければ評価も下降する、ということが明らかになった。

ただし、今回の調査では年収を併記しなかった調査票の回答でも、もともと各職業のおおまかな年収を知っていた回答者によるものがあつた可能性を考慮していない。つまり、年収情報の提示の有無だけで判断するのではなく、年収の知識の有無まで調査する必要がある。

また、職業威信を決定づける要因はほかにも複数存在する。そのため、先行研究（稲田 2005）のように他の要因との関わりの中から、年収という一要因がどの程度威信評価に影響を与えるのかを明らかにすることも出来るだろう。

参考文献

- 元治恵子・都築一治, 1998, 「職業評定の比較分析」 1995 年 SSM 調査シリーズ 5『職業評価の構造と職業威信スコア』 pp. 45-68, 1995 年 SSM 調査研究会 科学研究費補助金特別推進研究 (1)研究成果報告書
- 稲田雅也, 2005, 「職業威信スコアの評価基準構造の関連要因に関する研究」 拓殖大学論集. 人文・自然・人間科学研究 14, pp. 1-14
- 太郎丸博, 1998, 「職業威信と社会階層」 1995 年 SSM 調査シリーズ 5『職業評価の構造と職業威信スコア』 pp. 1-14 , 1995 年 SSM 調査研究会科学研究費補助金特別推進研究(1)研究成果報告書

4 班 単純集計表

A 票（年収表記あり）

道路工場の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	35	28.9
やや低い	55	45.5
ふつう	24	19.8
やや高い	5	4.1
最も高い	2	1.7
合計	121	100
欠損値	2	

警察官の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	2	1.6
やや低い	3	2.4
ふつう	37	30.1
やや高い	63	51.2
最も高い	18	14.6
合計	123	100

自動車整備工の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	4	3.3
やや低い	67	54.5
ふつう	41	33.3
やや高い	9	7.3
最も高い	2	1.6
合計	123	100

大会社の課長の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
やや低い	1	0.8
ふつう	27	22
やや高い	82	66.7
最も高い	13	10.6
合計	123	100

商店の店員の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	15	12.4
やや低い	54	44.6
ふつう	49	40.5
やや高い	2	1.7
最も高い	1	0.8
合計	121	100
欠損値	2	

大学教授の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
やや低い	2	1.6
ふつう	12	9.8
やや高い	52	42.6
最も高い	56	45.9
合計	122	100
欠損値	1	

看護師の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	2	1.6
やや低い	27	22
ふつう	57	46.3
やや高い	31	25.2
最も高い	6	4.9
合計	123	100

公認会計士の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
やや低い	5	4.1
ふつう	28	23
やや高い	63	51.6
最も高い	26	21.3
合計	122	100
欠損値	1	

一級建築士の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
やや低い	3	2.5
ふつう	28	23
やや高い	64	52.5
最も高い	27	22.1
合計	122	100
欠損値	1	

新聞記者の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	3	2.5
やや低い	13	10.7
ふつう	55	45.1
やや高い	45	36.9
最も高い	6	4.9
合計	122	100
欠損値	1	

コンビニ社員の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	15	12.2
やや低い	53	43.1
ふつう	48	39
やや高い	6	4.9
最も高い	1	0.8
合計	123	100

理容師の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	17	13.8
やや低い	42	34.1
ふつう	59	48
やや高い	3	2.4
最も高い	2	1.6
合計	123	100

医師の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
やや低い	2	1.6
ふつう	6	4.9
やや高い	21	17.1
最も高い	94	76.4
合計	123	100

弁護士の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
やや低い	1	0.8
ふつう	5	4.1
やや高い	33	27
最も高い	83	68
合計	122	100
欠損値	1	

消防士の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
やや低い	3	2.4
ふつう	56	45.5
やや高い	52	42.3
最も高い	12	9.8
合計	123	100

大工の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	9	7.3
やや低い	49	39.8
ふつう	49	39.8
やや高い	14	11.4
最も高い	2	1.6
合計	123	100

大会社の営業社員の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	2	1.6
やや低い	24	19.7
ふつう	76	62.3
やや高い	19	15.6
最も高い	1	0.8
合計	122	100
欠損値	1	

農業の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	27	22.1
やや低い	32	26.2
ふつう	47	38.5
やや高い	9	7.4
最も高い	7	5.7
合計	122	100
欠損値	1	

パイロットの威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
やや低い	1	0.8
ふつう	15	12.2
やや高い	43	35
最も高い	64	52
合計	123	100

薬剤師の威信評価(A票)		
	度数	有効パーセント
やや低い	6	4.9
ふつう	50	40.7
やや高い	53	43.1
最も高い	14	11.4
合計	123	100

学部(A票)		
	度数	有効パーセント
文学部	23	18.9
教育学部	5	4.1
法学部	5	4.1
経済学部	1	0.8
理学部	19	15.6
医学部人間	2	1.6
薬学部	5	4.1
工学部	41	33.6
農学部	9	7.4
総合人間学	12	9.8
合計	122	100
システム欠損	1	

性別(A票)		
	度数	有効パーセント
男	102	82.9
女	21	17.1
合計	123	100

バイトの有無(A票)		
	度数	有効パーセント
ある	96	78.7
なし	26	21.3
合計	122	100
システム欠損	1	

道路工場の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	33	26.6
やや低い	58	46.8
ふつう	27	21.8
やや高い	4	3.2
最も高い	2	1.6
合計	124	100
欠損値	1	

警察官の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	2	1.6
やや低い	9	7.3
ふつう	44	35.8
やや高い	57	46.3
最も高い	11	8.9
合計	123	100
欠損値	2	

自動車整備工の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	9	7.3
やや低い	66	53.2
ふつう	45	36.3
やや高い	2	1.6
最も高い	2	1.6
合計	124	100
欠損値	1	

大会社の課長の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	1	0.8
やや低い	5	4
ふつう	33	26.6
やや高い	81	65.3
最も高い	4	3.2
合計	124	100
欠損値	1	

B 票（年収表記なし）

商店の店員の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	9	7.3
やや低い	44	35.5
ふつう	66	53.2
やや高い	4	3.2
最も高い	1	0.8
合計	124	100
欠損値	1	

大学教授の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	1	0.8
やや低い	2	1.6
ふつう	17	13.7
やや高い	51	41.1
最も高い	53	42.7
合計	124	100
欠損値	1	

看護師の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	4	3.2
やや低い	14	11.3
ふつう	75	60.5
やや高い	27	21.8
最も高い	4	3.2
合計	124	100
欠損値	1	

公認会計士の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	1	0.8
ふつう	29	23.4
やや高い	62	50
最も高い	32	25.8
合計	124	100
欠損値	1	

一級建築士の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	1	0.8
やや低い	1	0.8
ふつう	12	9.7
やや高い	76	61.3
最も高い	34	27.4
合計	124	100
欠損値	1	

新聞記者の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	6	4.8
やや低い	15	12.1
ふつう	63	50.8
やや高い	35	28.2
最も高い	5	4
合計	124	100
欠損値	1	

コンビニ社員の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	25	20.2
やや低い	62	50
ふつう	36	29
最も高い	1	0.8
合計	124	100
欠損値	1	

理容師の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	8	6.5
やや低い	29	23.6
ふつう	82	66.7
やや高い	3	2.4
最も高い	1	0.8
合計	123	100
欠損値	2	

医師の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
やや低い	1	0.8
ふつう	6	4.8
やや高い	23	18.5
最も高い	94	75.8
合計	124	100
欠損値	1	

弁護士の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	2	1.6
ふつう	9	7.3
やや高い	35	28.5
最も高い	77	62.6
合計	123	100
欠損値	2	

消防士の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	1	0.8
やや低い	9	7.3
ふつう	53	43.1
やや高い	49	39.8
最も高い	11	8.9
合計	123	100
欠損値	2	

大工の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	10	8.1
やや低い	41	33.1
ふつう	57	46
やや高い	14	11.3
最も高い	2	1.6
合計	124	100
欠損値	1	

大会社の営業社員の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	4	3.3
やや低い	15	12.2
ふつう	90	73.2
やや高い	12	9.8
最も高い	2	1.6
合計	123	100
欠損値	2	

性別(B票)		
	度数	有効パーセント
男	100	80
女	25	20
合計	125	100

バイトの有無(B票)		
	度数	有効パーセント
ある	97	77.6
なし	28	22.4
合計	125	100

パイロットの威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	1	0.8
やや低い	2	1.6
ふつう	21	16.9
やや高い	65	52.4
最も高い	35	28.2
合計	124	100
欠損値	1	

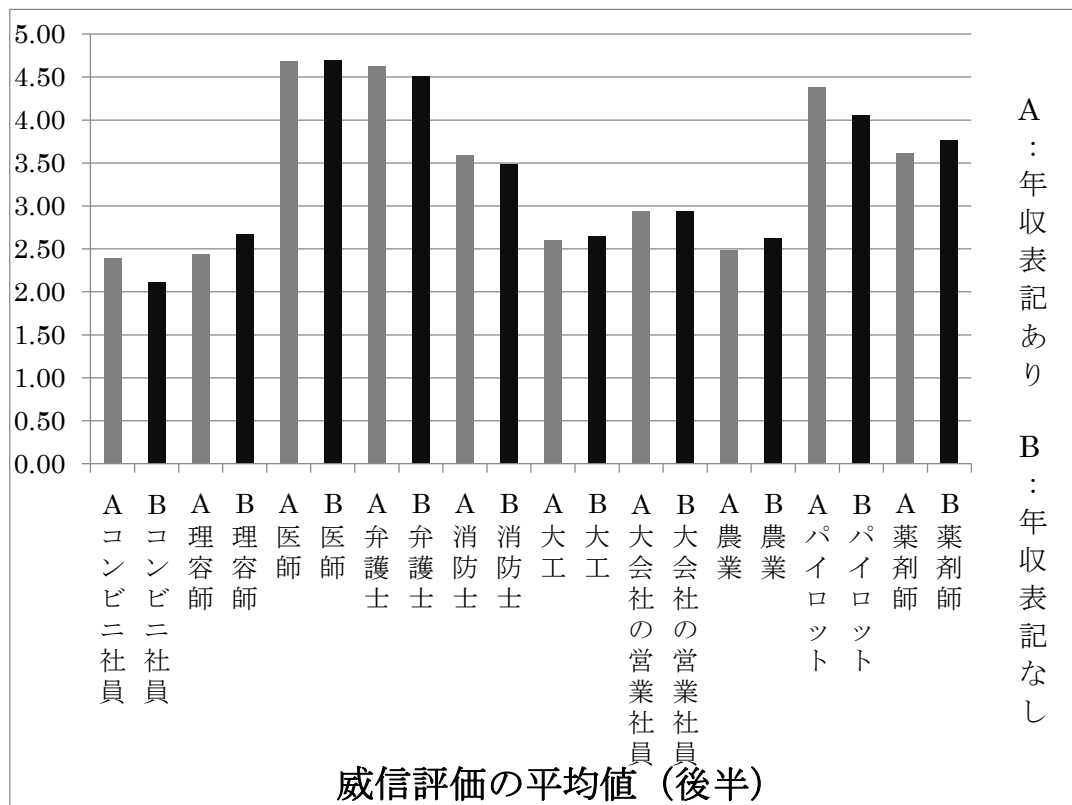
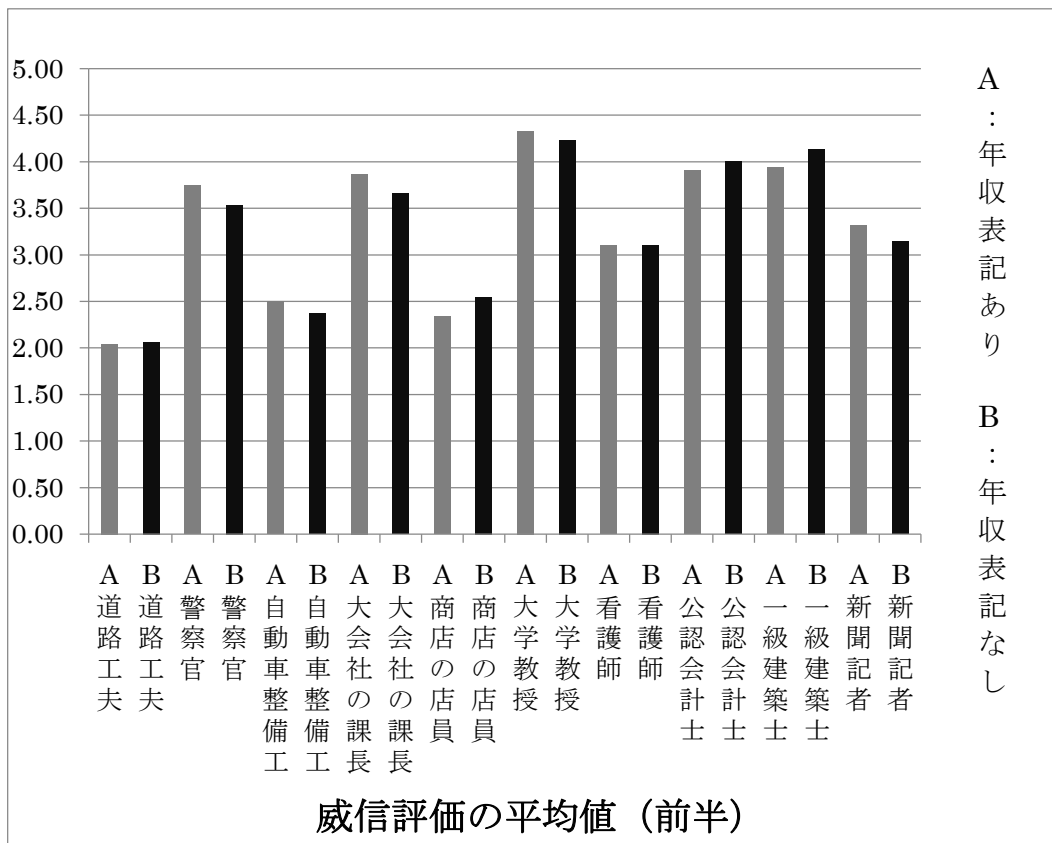
薬剤師の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	2	1.6
やや低い	3	2.4
ふつう	32	25.8
やや高い	72	58.1
最も高い	15	12.1
合計	124	100
欠損値	1	

農業の威信評価(B票)		
	度数	有効パーセント
最も低い	10	8.1
やや低い	44	35.5
ふつう	56	45.2
やや高い	10	8.1
最も高い	4	3.2
合計	124	100
欠損値	1	

学部(B票)		
	度数	有効パーセント
文学部	22	17.7
教育学部	5	4
法学部	6	4.8
経済学部	4	3.2
理学部	18	14.5
医学部医学	1	0.8
医学部人間	2	1.6
薬学部	9	7.3
工学部	42	33.9
農学部	8	6.5
総合人間学	7	5.6
合計	124	100
システム欠損	1	

威信スコアの平均値		
職業名	年収表記あり	年収表記なし
道路工夫	2.04	2.06
警察官	3.75	3.54
自動車整備	2.5	2.37
大会社の課	3.87	3.66
商店の店員	2.34	2.55
大学教授	4.33	4.23
看護師	3.1	3.1
公認会計士	3.9	4
一級建築士	3.94	4.14
新聞記者	3.31	3.15

職業名	年収表記あり	年収表記なし
コンビニ社	2.39	2.11
理容師	2.44	2.67
医師	4.68	4.69
弁護士	4.62	4.5
消防士	3.59	3.49
大工	2.6	2.65
大会社の営	2.94	2.94
農業	2.48	2.63
パイロット	4.38	4.06
薬剤師	3.61	3.77



「職業」に関するアンケート (A 票)

～調査へのご協力のお願い～

私たちは、文学部で社会学を専攻する学生で、このたび実習の一環として「人びとの職業に対する意識」を調べるためにアンケート調査を行うことになりました。つきましては、本調査の主旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、調査結果は統計的に処理し、上記の目的以外には使用いたしませんので、ご安心ください。

京都大学文学部 社会学実習 4 班

まず、職業についてお尋ねします。

Q1.以下にさまざまな職業(とその職業の平均年収)を挙げています。いまかりに、これらの職業を地位の高いものから低いものへの順で 5 段階にわけるとしたら、どのように分類されるでしょうか。それぞれについて、「最も高い」～「最も低い」に対応する数字のどれか一つに○を付けてください。

※深く考えず、直感でお答え下さい。

	職業名	平均年収(万円)	最も高い	やや高い	ふつう	やや低い	最も低い
(1)	道路工夫	349	5	4	3	2	1
(2)	警察官	813	5	4	3	2	1
(3)	自動車整備工	404	5	4	3	2	1
(4)	大会社の課長	971	5	4	3	2	1
(5)	商店の店員	323	5	4	3	2	1
(6)	大学教授	1065	5	4	3	2	1
(7)	看護師	474	5	4	3	2	1
(8)	公認会計士	716	5	4	3	2	1
(9)	一級建築士	633	5	4	3	2	1
(10)	新聞記者	814	5	4	3	2	1
(11)	コンビニ社員	595	5	4	3	2	1
(12)	理容師	257	5	4	3	2	1
(13)	医師	1154	5	4	3	2	1
(14)	弁護士	1032	5	4	3	2	1
(15)	消防士	717	5	4	3	2	1
(16)	大工	394	5	4	3	2	1
(17)	大会社の営業担当社員	418	5	4	3	2	1
(18)	農業	112	5	4	3	2	1
(19)	パイロット	1712	5	4	3	2	1
(20)	薬剤師	523	5	4	3	2	1

次に、あなた自身のことについてお尋ねします。

Q2.あなたの性別を教えてください。

①男 ②女

Q3.あなたの所属学部（大学院）を教えてください。

A. _____

Q4.あなたはこれまでにアルバイトを経験したことがありますか。

①ある ②ない

質問は以上になります。解答漏れがないかご確認ください。
ご協力ありがとうございました。

「職業」に関するアンケート (B 票)

～調査へのご協力のお願い～

私たちは、文学部で社会学を専攻する学生で、このたび実習の一環として「人びとの職業に対する意識」を調べるためにアンケート調査を行うことになりました。つきましては、本調査の主旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、調査結果は統計的に処理し、上記の目的以外には使用いたしませんので、ご安心ください。

京都大学文学部 社会学実習 4 班

まず、職業についてお尋ねします。

Q1.以下にさまざまな職業を挙げています。いまかりに、これらの職業を地位の高いものから低いものへの順で 5 段階にわけるとしたら、どのように分類されるでしょうか。それぞれについて、「最も高い」～「最も低い」に対応する数字のどれか一つに○を付けてください。

※深く考えず、直感でお答え下さい。

	職業名	最も高い	やや高い	ふつう	やや低い	最も低い
(1)	道路工	5	4	3	2	1
(2)	警察官	5	4	3	2	1
(3)	自動車整備工	5	4	3	2	1
(4)	大会社の課長	5	4	3	2	1
(5)	商店の店員	5	4	3	2	1
(6)	大学教授	5	4	3	2	1
(7)	看護師	5	4	3	2	1
(8)	公認会計士	5	4	3	2	1
(9)	一級建築士	5	4	3	2	1
(10)	新聞記者	5	4	3	2	1
(11)	コンビニ社員	5	4	3	2	1
(12)	理容師	5	4	3	2	1
(13)	医師	5	4	3	2	1
(14)	弁護士	5	4	3	2	1
(15)	消防士	5	4	3	2	1
(16)	大工	5	4	3	2	1
(17)	大会社の営業担当社員	5	4	3	2	1
(18)	農業	5	4	3	2	1
(19)	パイロット	5	4	3	2	1
(20)	薬剤師	5	4	3	2	1

次に、あなた自身のことについてお尋ねします。

Q2.あなたの性別を教えてください。

①男 ②女

Q3.あなたの所属学部（大学院）を教えてください。

A. _____

Q4.あなたはこれまでにアルバイトを経験したことがありますか。

①ある ②ない

質問は以上になります。解答漏れがないかご確認ください。
ご協力ありがとうございました。

京大生の職業威信評定

京都大学文学部社会学研究室 2015 年度社会学実習 報告書

2016 年 2 月発行

編集・発行： 太郎丸 博

京都大学文学部社会学研究室

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
